

- 甫(輔ほ・藤沢) → 東暎(とうがい・藤沢、儒学/詩/教育) C 3 1 0 2
- 甫(ほ・岡村) → 丈白(じょうはく・岡村おかむら、丈山/儒/詩) B 2 2 2 4
- 甫(ほ・中尾) → 斉政(なりまさ・中尾なかお、和算家) I 3 2 1 5
- 甫(ほ・三島) → 景雄(かげお・三島、商家/国学/歌人) 1 5 6 6
- 甫(ほ・新居) → 百梅(ひゃくばい・新居にい、藩医/詩人) E 3 7 7 6
- 甫(ほ・田山) → 親辰(ちかたつ・田山たやま、藩蘭方医) M 2 8 7 6
- 輔(ほ・坂元/坂本) → 玄岡(げんこう・坂元/坂本さかもと、儒者) I 1 8 8 2
- 輔(ほ・浜村) → 駒人(こまんど・駅亭、歌舞伎・合巻作者) F 1 9 8 7
- 歩(ほ・九里) → 令正(よしまさ・九里くのり、藩士/文筆家) H 4 7 1 1
- 保(ほ;一字名) → 通福(みちとみ・愛宕おたぎ/中院なかのいん/源/岩倉、権大納言) I 4 1 6 2
- 保(ほ)訓はすべて → 保(たもつ)
- 募(ぼ・山田) → 募(つる・山田/藤原、藩士/槍術家) E 2 9 8 4
- 3900 母阿(ほあ、法師) ? - ? 時宗僧、連歌作者:菟玖波集2句入、
[捨つる身や人に心をまかすらん](菟玖波;雑1590/前句;われと定むるかくれ家はなし)
- 3950 甫庵(ほあん・小瀬おせ、初姓;坂井/土肥) 1564-1640/30?77/67? 尾張春日井の医者、
豊臣秀次の侍医、1592-1615頃京住;書籍編刊、松江藩堀尾由晴/加賀藩前田利常に出仕、
儒/軍学/歴史研究、1614「信長記しんちょうき」(牛一「信長公記」を補筆)、
1625「太閤記」/「天正軍記」、「童蒙先習」/「制幕用大集」/「自汗集」/「老の慰」/「年代紀略」著、
「政要抄」/「明意宝鑑」/「甫庵雑記」著、
[義をうとんじ利を貴び安居を求むる宰相有司は天下を乱し上下を苦しめ
万物を傷ましむるの大本なり 噫ああ 国賊なり](1612童蒙先習)、
[甫庵(;号)の名/通称]名;道喜/道機/秀正、又四郎/長大夫/中務
- 3901 甫庵(ほあん・嵐山あらしやま、名;春育/初号;李庵、通詞判田三郎兵衛尉男) 1633-9361 肥前平戸の医者、
平戸藩主松浦鎮信の抱医師、1661長崎出島で蘭館医師にオランダ外科を修学/1672法橋、
1683「蕃国治方類聚」、「油取様書」/「鬚髯しゅじょう大全」著
- 3902 甫庵(ほあん;通称・穂積ほづみ、名;宗璵/宗与そよよ) ?-? 江前期常陸水戸藩医;徳川光圀の侍医、
藩命で領内産出薬用植物の処方をもとめ領民医療の一助にする、
1693「救民妙薬」94「妙薬単方」著
- 3903 保庵(ほあん・能条のうじょう、名;玄長/別号;湘江) ?-? 文化1804-18頃相模の医者;舌診法を整備、
1812「医聖方格」編/13「腹舌図解」/「経験禁方録」、「経験夜話」/「禁方録」/「治方佩玦」
- 3904 甫庵(ほあん・服部はっとり、名;政世) 1804-9289 下野阿蘇郡天明郷の代々医者;幕府医官奈須恒徳門、
13年後帰郷;医業/家蔵の古典医書を整理、篤学;彦根藩主井伊家により苗字帯刀を許可、
1837「奈須玄瑛子雑記」50「歴世兆域志」64「東里外集」編/「彭殖集」/「易説」/「食性一書」著、
「慶長書灸穴」/「造醸薬修治」/「蘇湖漫記」/「乗付詩文稿」/「服部漫筆」著、「甫庵叢書」編、外著多、
[甫庵(;号)の幼名/別号]幼名;豊太郎、別号;煉霞翁/乗付陳人、法号;服誉致世居士
- 3905 保庵(ほあん・広瀬ひろせ/岡おか、名;包章) 1808-6558 丹波篠山藩士岡家の生、詩歌を嗜む、
甲斐市川代官所寄合医師広瀬保安の養子、市川代官所医者/代官森田岡太郎の知遇を得、
1860遣米使節に勘定組頭森田が随行する時随伴典医として同行;1860「環海航路日記」著、
[保庵(;通称)の別通称/号]別通称;格蔵、号;半溪/清江/一谿、順庵の父
- 保庵(ほあん・馬屋原) → 芦道(ろどう・馬屋原まやはら、俳人) C 5 2 2 6
- 保安(ほあん・磯崎) → 種栄(たねひで・磯崎いそざき、本陣勤務/歌) V 2 6 6 4
- 蒲庵(ほあん;号) → 古溪(こけい;道号・宗陳;法諱、臨濟僧) M 1 9 2 4
- 浦安(ほあん) → 豊年(とよとし・太田、医/本草/国学) R 3 1 3 5
- 甫庵(ほあん) → 瑞信(ずいしん、俳人) E 2 3 7 1
- 甫庵(ほあん・望月) → 震(しん・望月もちづき、藩医/和学/歌) V 2 2 3 4
- 甫安(ほあん・桂川) → 甫周(ほしゅう・桂川かつらがわ/4世、蘭医) E 3 9 2 2

- 甫安(ほあん・桂川) → 国寧(くにやす・桂川/6世、蘭医) D 1 7 3 1
 甫安(ほあん・桂川) → 国興(くにおき・桂川かつらがわ/7世、幕府医官) B 1 7 4 7
 補庵(ほあん;号) → 景三(けいさん;法諱・横川、臨濟僧/五山文学) 1 8 0 4
 葆庵(ほあん・廬) → 草碩(そうせき・廬ろ、医者/本草家) I 2 5 1 9
 葆庵(ほあん/ほうあん・森田) → 月瀬(げつらい・森田もりた、医/漢学者) H 1 8 4 0
- 3906 慕庵(ほあん・後藤ごとう、名;敏、椿庵男) 1736-88⁵³ 京の医者:父門/家業の医を継ぎ懇切な治療、
 門人4百余、「椿庵先生遺稿」編/「傷寒論析義」「鍼灸燈下余録」「養生日抄」「病名通解」著、
 [慕庵(;)号)の字/通称/別号]字;求之、通称;香四郎、別号;衝陽
- 3907 暮庵(ほあん・藤井ふじい、名;惟明/公顕、秀介男)?-? 江後期備後安那郡神辺の大庄屋、
 詩人:菅茶山[1748-1827]門、茶山に随い諸方に遊歴し賦詩、「遊芸詩巻」著、
 [暮庵(;)号)の字/通称]字;士晦、通称;料介/料助
- 輔以(ほい・大中臣) → 輔以(すけもち・大中臣おوناかとみ、歌人/神職?) J 2 3 5 4
 輔尹(ほいん・藤原) → 輔尹(すけただ・藤原、廷臣/歌人) C 2 3 3 5
 保胤(ほいん・慶滋) → 保胤(やすたね・慶滋/慶/賀茂、廷臣/漢学/詩歌) 4 5 0 6
- F3988 玆(ほう・魏ぎ・鉅鹿おおが、字;子琰/双侯) 1617?-89⁷³? 明福建省福清の人/清初の戦乱を避け安南住、
 長崎と交易し財をなす/1637長崎崇福寺建立に支援/明楽みんがくの演奏家、1673内裏で演奏、
 1679帰化;故郷の地名に因み鉅鹿おおが姓を名乗る、以後明楽演奏家の家系となる;
 4代目魏皓(皓こう)が発展させる
- 芳(ほう・武者小路) → 実陰(さねかげ・武者小路/藤原/西郊、権大納言/歌人) 2 0 3 5
 芳(ほう・佐羽) → 淡斎(たんさい・佐羽さば、商家/詩人) I 2 6 1 6
 鳳(ほう・竹尾/今津) → 桐園(とうえん・今津、儒者) B 3 1 5 0
 鳳(ほう・佐々木) → 魯庵(ろあん・佐々木;/左、儒者/医者) 5 2 1 2
 鳳(ほう・勝原/永富) → 独嘯庵(どくしょうあん、永富ながとみ、医者/詩) L 3 1 0 5
 鳳(ほう・竹俣) → 当綱(まさつな・竹俣たけのまた、藩士/藩政) D 4 0 9 8
 鳳(ほう・曾根) → 魯庵(ろあん・曾根せね、藩士/教育) 5 2 1 4
 鵬(ほう・鎌田) → 柳泓(りゅうおう・鎌田、医/心学者) D 4 9 8 0
 鵬(ほう・山上/竹内) → 雲濤(うんとう・竹内たけうち、詩人) B 1 2 5 7
 鵬(ほう・荏戸) → 太華(たいか・荏戸のぞき、藩士/藩再建) B 2 6 0 7
 鵬(ほう・山内) → 豊資(とよすけ・山内やまのうち、藩主/歌) R 3 1 2 0
 鵬(ほう・百々) → 洋椿(ようちん・百々どど、医者) B 4 7 4 7
 宝(ほう・岡田) → 梅間(ばいかん・岡田おかだ、藩士/俳人) 3 6 8 9
 宝(ほう・児玉) → 金鱗(きんりん・児玉こだま、藩士/儒者/詩) J 1 6 0 9
 苞(ほう・吉井/貫名) → 海屋(かいおく・貫名ぬきな、書家/画人) 1 5 9 1
 苞(ほう・山崎) → 如山(じよざん・山崎やまさき、藩士/詩人) M 2 2 3 9
 房(ほう・河口) → 信任(のぶただ・河口かわぐち、蘭医) B 3 5 8 4
 方(ほう・水すい:修姓) → 博泉(はくせん・水足みずたり、儒者) D 3 6 5 1
 方(ほう・那波) → 活所(かつしよ・那波なば/祐、漢学者) 1 5 2 3
 方(ほう・小野) → 櫟翁(れきおう・小野おの、農業/歌人) 5 1 0 8
 方(ほう・恩田) → 石峰(せきほう・恩田おんだ、絵師) K 2 4 4 8
 方(ほう・太田) → 全斎(ぜんさい・太田、藩士/音韻研究) F 2 4 4 2
 舫(縫ほう・千種) → 縫(ぬい・千種ちぐさ、神職/国学/歌) 3 4 1 6
 豊(ほう・松永) → 花暹(かとん・松永まつなが、商家/詩人) O 1 5 2 3
 豊(ほう・樋口) → 義所(ぎしよ・樋口ひぐち、藩士/儒者) F 1 6 5 2
 豊(ほう/ゆたか・鈴木) → 玄道(げんどう・鈴木すずき、医/儒者) L 1 8 9 6
 豊(ほう・野津) → 基明(もとあき・野津のづ、藩士/軍学) B 4 4 9 9
 豊(ほう・渡辺) → 重豊(しげとよ・渡辺わたなべ、神職/歌人) R 2 1 7 6
 豊(ほう・久子) → 翠峰(すいほう・久子くす、儒者/詩人) E 2 3 9 8
 豊(ほう・小佐野) → 豊(ゆたか・小佐野おさの、商家/歌人) G 4 6 0 8
 豊(ほう・碓井) → 維徳(これのり・碓井うすい、医者/歌人) Q 1 9 3 9

- 邦(ほう・三宅) → 橘園(きつえん・三宅みやけ、儒者) B 1 6 5 0
 邦(ほう・東条) → 邦(くに・東条とうじょう、伝記作者) C 1 7 5 8
 邦(ほう・松居) → 安国(やすくに・松居/松井まつい/源、国学) E 4 5 8 5
 邦(ほう・熊坂) → 台洲(たいしゅう・熊坂くまさか、儒者/教育) 2 6 0 5
 菴(ほう/しとみ・神野) → 易興(やすおき・神野じんの/かんの、藩士/国学) B 4 5 0 7
 萌(ほう・伊達) → 藤子(ふじこ・伊達だて、藩主女/歌人) I 3 8 4 2
 彌(ほう→みつる・勝部) → 青魚(せいぎょ・勝部/勝、医者/儒/俳人) B 2 4 0 1
 鶯蒲(ほう・酒井) → 鶯蒲(おうほ・ほう・酒井さかい/香阪、絵師) B 1 4 3 6
 坊(ほう; 一字名) → 立孝(たつたか・細川ほそかわ、武将/歌人) R 2 6 6 5
 卯(ほう・稲津/梁川) → 星巖(せいがん・梁川やながわ、詩人) 2 4 0 5
 茅(ほう・百々) → 俊範(しゅんぱん・百々どと、医者) L 2 1 7 7
 望(ほう・東方) → 祖山(そざん・東方ひがしかた、藩士/儒者) D 2 5 7 7
 望(ほう・上田) → 陸舟(りくしゅう・上田うえだ、藩士/儒者) 4 9 7 5
 謀(ほう・溝口) → 謀(はかる・溝口みぞぐち、医者/国学) K 3 6 8 7
 楸(ほう/しげる・本多) → 思斎(しさい・本多ほんだ、藩儒官) T 2 1 4 9
 懋(ほう・井上/池尻) → 懋(つとむ・池尻/井上、藩士/勤王家) 2 9 9 9
 懋(ほう/つとむ・若林) → 嘉陵(かりょう・若林わかばやし、儒者) H 1 5 5 6
 髦(ほう・奈良) → 神門(しんもん・奈良なら、儒者) P 2 2 9 1
 宝阿(ほうあ・瑞蓮社) → 徹定(てつじょう; 法諱・瑞蓮社、浄土僧) C 3 0 4 4
 法阿(ほうあ; 法諱) → 蓮位(れんい/れんに; 法諱、下間しつ宗重、真宗僧) 5 1 8 9
 宝愛(ほうあい・唐崎) → 常陸介(ひたちのすけ・唐崎、神職/尊王) C 3 7 6 1
 飽靄楼(ほうあいろう) → 良祺(たかのり・山村、藩代官/儒/教育) M 2 6 7 8
- 3908 匏庵(ほうあん・村田むらた、名; 通信)?-? 江前期漢学者/詩人: 田淵三迪門、医学・和算に通ず、
 1669「楠木正成伝」/94「匏菴雑録」、「明君稽古略」「訳準笑話」著、
 1682宮川道達「眠窟集」・87「詩林良材」などの序文
- 3909 方庵(ほうあん; 号・柴田しばた、名; 海/字; 谷王、伝左衛門昌俊男) 1800-5657 常陸水戸の蘭医、
 儒; 朝川善庵門/1831長崎でシーボルト門の竹内玄同・青木周弼と交流; 蘭医術を修得、
 1849種痘法を学習; 長崎の小児に施術、帰国途次上方・名古屋で種痘実施、1850再び長崎に、
 1851検温器制作、「方菴雑話」「書式雑記」、「蘭医柴田方菴先生日記」著
- 3910 方庵(ほうあん・東条とうじょう、名; 哲/哲夫、一堂男) 1809-8072 江戸の儒者(家学); 父門、
 三河奥殿藩主松平乗謨の儒員; 1854江戸藩邸修行館督学・士頭席・用人席・中老を務める、
 1863藩主の信濃田野口移封に伴い同地移動; 竜岡藩儒員/1868藩校尚友館開設に尽力、
 「助字訣」著、「経伝釈詞」校、
 [方庵(;)号)の字/通称]字; 文明/大有、通称; 文蔵/主善、淡斎・永胤の父
- 3911 匏庵(ほうあん・栗本くりもと、名; 鯤、幕府医官喜多村安正[槐園]男) 1822-9776 江戸神田猿楽町の生、
 医; 養安院門/儒; 1838昌平覺入; 佐藤一斎門、1848幕府奥詰医師栗本瑞見を継嗣; 6世瑞見、
 1858上司に譴責され蝦夷地移住; 1862函館奉行所支配組頭; 北辺諸島巡視/63昌平覺頭取、
 1867外国奉行; 渡仏/68帰国、維新後小石川に隠棲、1874報知新聞社主筆/79学士会院会員、
 1846「登嶽日記」61「鉛筆記聞」、「蝦夷雑記」/在仏見聞「暁窓追録」「匏庵十種」「匏庵遺稿」著、
 [匏庵(;)号)の字/通称/別号]字; 化鵬、通称; 哲三/瀬兵衛/瑞見6世、別号; 鋤雲、法号; 顕理院
- 3912 放庵(ほうあん・安田やすだ、名; 燮しょう/鐸)?-? 江後期讃岐の儒者/詩人; 京・大阪に住、
 妻; の[尾崎壚]も詩人、「放庵詩集」著、
 [放庵(;)号)の字/通称/別号]字; 公和/適人、通称; 健蔵/謙蔵、別号; 靈巖
- 豊安(ほうあん) → 豊安(ぶあん; 法諱、律宗僧) 3 8 2 9
 豊安(ほうあん・山本) → 豊安(とよやす・山本やまもと、神道家) R 3 1 6 9
 峯庵(ほうあん・西村) → 次右衛門(じえもん・西村、家老/日記) P 2 1 6 7
 鳳庵(ほうあん・横井) → 不見(ふけん・横井よこい、商家/茶道) B 3 8 7 5
 蓬庵(ほうあん・関) → 五流(ごりゅう・関せき、俳人) N 1 9 9 5
 蓬庵(ほうあん・戸川) → 安清(やすすみ・戸川とがわ、幕臣/書/歌人) B 4 5 7 6
 蓬庵(ほうあん・久保田) → 有恒(ありつね・久保田くぼた、国学/歌人) H 1 0 4 4

葆庵(ほうあん・廬) → 草碩(そうせき・廬ろ、医者/本草家) I 2 5 1 9
 忘庵(ほうあん) → 大夢(だいむ・直山、俳人) C 2 6 2 3
 呆庵(ほうあん) → 澄彥(ちようい・天章;道号、臨濟僧) H 2 8 2 3
 豊安院(ほうあんいん) → 忠栄(ただな・松平/桜井、藩主/詩) Q 2 6 2 7
 邦維(ほうい・宮西) → 邦維(くにしげ・宮西みやにし、藤原/宇治部、神職/国学) E 1 7 5 6
 法位阿茶(ほういあちや) → 阿茶(あちや;通称、真宗僧/歌) E 1 0 5 2
 苞矣館(ほういかん) → 汝裕(じよゆう・岸きし/吉田、幕臣/詩文) M 2 2 8 6
 法育(ほういく;法号) → 持政(もちまさ・浜名、連歌作者) B 4 4 6 5
 法位上人(ほういしようにん) → 境空(きようくう;法諱、浄土僧/歌人) C 1 6 3 6

G3929 芳一(ほういち・戸沢とざわ、三戸雅楽助信徹長男) 1793-1853⁶¹ 陸奥盛岡南部家一族の角屋敷三戸家、幼時に失明;廢嫡、1805(文化2)梅富;藩主利敬より賜号、06姓;戸沢を賜う、箏曲;江戸の寺家村檢校門;1806(文化3)勾当/檢校/号;芳都よしのち、盛岡藩に出仕;禄120石、1826(文政9)隠居;桂園与一と称す、嫡子駿河濟彰が家督嗣(のち家老/着座高知家)姉照子(1792;寛政4の生)・妹満子(1795生)、[芳一(;名)の通称/号]通称;秀之助/蘆一/与一/戸沢檢校芳都/桂園与一、号;梅富/桂園鳳一(ほういち・細川) → 興文(おきのり・細川/源、藩主/詩歌人) 1 4 7 6
 豊一(ほういち・西山) → 宗因(そいういん・西山にしま、西、俳人/連歌) 2 5 0 3
 望一(ほういち・杉本) → 望一(望都/茂都もいち・杉本、勾当/俳人) 4 4 0 1

3913 抱一(ほういつ・酒井さかい、名;忠因ただな、姫路城主忠仰男) 1761-1828⁶⁸ 江戸神田の姫路藩別邸の生、出家;本願寺光暉(文如)門/仏門の掟を嫌い1809江戸帰郷;根岸に雨華庵を営む;諸芸一般、絵師;狩野高信/宋紫石/歌川豊春門、のち光琳画風に傾倒、書;中井敬義門、能楽/茶道、歌・俳諧;存義・晩得門、1790「軽挙館句藻」/96「江戸続八百韻」編/1809「俳諧百職人」画、1813「屠龍之技とりょうのぎ」/13「四季花鳥図巻」16「鶯邨画譜」17「万象即吾師」画、24「江戸鶯」、「抱一画譜」「青簾春の曙」「雨花の春興」「鶯村句藻」著、才蔵集(;尻焼猿人名)入;460/584、[石落つはぶきの日陰は寒し猫の鼻](自撰句集「屠龍之技とりょうのぎ」;冬)、[星一つ残して落る花火かな](「屠龍之技とりょうのぎ」)
 [抱一(;号)の字/通称/別号]字;暉眞、通称;善八/榮八、別号;濤花/白臈子/雨華庵屠龍/鶯邨(村)おうそん/軽挙道人/庭柏子/楓窓/杜綾/屠竜/狗禅、雨華庵うかあん/溟々居/軽挙館/白臈子はくふし/二尊庵/尻焼猿人しりやけのさるんど(狂名)法号;等覚院、姫路藩主忠以ただなねの弟

葆逸(ほういつ・戸田) → 葆堂(ほうどう・戸田とだ、藩士/詩人) F 3 9 9 1
 抱一山人(ほういつさんじん) → 右麦(友麦ゆうばく・桑原くわばら、俳人) D 4 6 5 8
 法音(ほういん;字) → 智興(ちこう;法諱・法音、真言僧) E 2 8 1 1
 芳隠(ほういん;号) → 江心(こうしん;道号・承董しょうとう;法諱、臨濟僧) J 1 9 8 9
 芳蔭(ほういん・藤木) → 芳蔭(よしかげ・藤木ふじき、商家/国学) O 4 7 8 9
 芳蔭(ほういん・小谷) → 芳蔭(よしかげ・小谷こたに、神職/国学者) M 4 7 7 4
 芳員(ほういん・歌川) → 芳員(よしかず・歌川うたがわ、絵師;横浜絵) C 4 7 5 6
 豊蔭(ほういん・上月) → 豊蔭(とよかげ・上月こうつき、神職/国学) V 3 1 1 9
 棒印(ぼういん・久隅) → 守景(もりかげ・久隅くすみ、絵師) F 4 4 2 4
 芒蔭庵(ほういんあん) → 老狐(ろうこ・生、俳人) C 5 2 5 8

3914 蓬雨(ほうう) ? - ? 美濃岐阜俳人;1689「あら野」入、[とりつきてやまぶきのぞくいはね哉](あら野;二暮春/岸頭款冬の俳諧化)

3915 蓬宇(ほうう・佐野さの、名;深寧ふかやす、古董男) 1809-95⁸⁷ 三河吉田本町の饅頭屋(万屋)、俳人;鶴田卓池門、吉田俳壇の中心人物、国学;羽田野敬雄門;羽田野文庫設立に尽力、平田篤胤門;勤王思想、晩年は庵原郡関屋の百花園隠棲、1811「炭ひさこ集」32「孝子美のりとし」34「豆の葉集」35「あきかせ集」36「桐生紀行」編、1837「しまわたり」38「うしくほ集」40「俳諧酒餅集」41「俳諧金色集」56「あさらみ」編、1857「孝子さくら鯛」58「めでのたまもの」編外多数、[蓬宇(;号)の幼名/通称/別号]幼名;英之助、通称;権三郎/権右衛門、別号;呉井園/百花園、屋号;万屋

- 3916 **鳳羽**(ほうう・大竹おたけ、名;住護)1819-9678 越後南蒲原郡中之島の儒者;今井玄中・北沢仲益門、1835新発田藩主溝口直諒の命で郷正試補;38正職;1860郷校済美堂を創建、戊辰役に官軍支持を提唱/維新後は里正・戸長、1862「大竹氏家乗」、「風月皆宜楼集」著、[鳳羽(;号)の別号]風月皆宜楼主人
- 蓬雨(ほうう) → 磨三(まさみ・来鷗亭、尾張俳人) I 4 0 8 6
蓬雨(ほうう・今井/長岡) → 懐山(かいざん・長岡ながおか、医者) I 1 5 6 6
蓬雨(ほうう・聴松庵) → 十右衛門(じゅうえもん・荒川、藩士/俳人) W 2 1 7 0
芳雨(ほうう・室谷) → 賀世(よしつぐ・室谷むろたに、商家/国学者) E 4 7 6 9
芳雨(ほうう・宮沢) → 敬宗(たかむね・宮沢みやざわ、国学者/歌) Z 2 6 8 3
匏宇(ほうう・芳野) → 金陵(きんりょう・芳野よしの、儒者) E 1 6 9 3
鳳雨(ほうう・成三楼) → 酒盛(さかもり・成三楼、戯作者) H 2 0 1 3
法雨庵(ほううあん;号) → 順崇(じゅんしゅう;法諱、真宗大谷派僧) K 2 1 9 7
法雨庵(ほううあん;号) → 靈秀(れいしゅう;法諱、真宗大谷派僧) B 5 1 4 0
鳳羽亭(ほううてい) → 梅輦(ばいれん・鳳羽亭、俳人) C 3 6 3 4
- D3984 **法雲**(ほううん;法諱・明洞みょうどう;法諱、山路正次男)1638-170669 豊前小倉の生/1645(8歳)父没、1646小倉の周巖宗穆の紹介で京大徳寺塔頭天瑞寺の随倫宗宜門;出家(宗烈名)、1664黄檗僧の即非如一に参禅;65黄檗宗に改宗/68小倉藩主小笠原忠真建立の福聚寺2世、多くの寺院を開山、1672「即非禅師行業記」「即非和尚後録」、「即非禅師全録」「北礪紀談」、「法雲禅師仮名法語」「法雲禅師語録」「法雲禅師寿山外集」「法雲禅師寿山続外集」外著多数、[法雲明洞の別法諱]宗烈(;初法諱)/宗洞
- 3917 **宝雲**(ほううん;号・烏水うすい;法諱)1791-184757 筑前嘉穂郡臼井真宗本願寺派長源寺住職、朝倉郡秋月西念寺の生/幼児に長源寺の養子、諸国遊学;華嚴・天台・性相学を修学、真宗学;光円寺大乘門/筑前学派;同門の詢道と能行説を主唱、1843司教/44勸学、「宝雲師説集」「往生要集筆記」「梅洞由筆」/1845「具舎論記」外著多数、諡号;宝性院
- 3951 **法雲**(ほううん;法諱) 1794 - 186774 若狭遠敷郡挙野の真宗大谷派光徳寺住職、真宗学/国学:東条義門門、音義説に立脚し音韻義研究、「鑿説音韻証」「韻学功証」、師義門の口述書「真宗聖教和語説」筆録/義門「於乎軽重義」助筆、「韻鏡試料」、「韻学策」1865「音韻義」、1867「タノムタスケタマへ活語辨」、「法雲著述集」外著多数
- 3918 **鵬雲**(ほううん・三千房) ? - ? 江後期京の俳人・1845「流行発句華楓一調」編/1848「竜蛇考」著
- 芳雲(ほううん・林) → 正謙(まさかた・林はやし、藩士/国学) R 4 0 9 2
鳳雲(ほううん;字) → 智璋(ちしやう;法諱・鳳雲、真宗大谷派僧) E 2 8 4 2
蓬雲(ほううん・茂呂) → 金朝(かねとも・茂呂もろ、絵師/歌) O 1 5 7 4
鵬雲(ほううん・松平) → 頼恭(よりたか・松平まつだいら、藩主/詩歌) I 4 7 9 0
卯雲(ほううん・木室きむろ) → 白鯉館卯雲(はくりかんほううん、幕臣/狂歌) 3 6 1 2
房雲(ほううん) → 照源(しょうげん;法諱、天台学僧) I 2 2 5 3
法雲庵(ほううんあん;号) → 了願(りょうがん;法諱・法雲庵、真宗僧) G 4 9 9 8
法雲院(ほううんいん) → 家輔(いえすけ・花山院かざんいん、廷臣) E 1 1 8 3
法雲院(ほううんいん;諡号) → 服膺(ふくよう;法諱、真宗大谷派僧) B 3 8 6 7
法雲院(ほううんいん;法号) → 光広(みつひろ・烏丸/藤原、廷臣/歌学) 4 1 3 1
法雲院法印(ほううんいんほういん) → 覚誉(かくよ;法諱、法相僧/歌) B 1 5 7 6
芳雲軒(ほううんけん) → 春愛(はるちか・平瀬ひらせ、国学/歌/実業) K 3 6 7 1
望雲散人(ほううんさんじん) → 松軒(しょうけん・木村きむら、医者/儒者) I 2 2 4 4
望雲亭(ほううんてい) → 曉雨(2世ぎょうう・伊勢屋、札差/俳人) C 1 6 2 0
望雲亭(ほううんてい) → 高明(たかあき・町田まちだ、国学/歌人) Z 2 6 5 2
法雲普濟禅師(ほううんふさいぜんじ) → 無隠(むいん;道号・元晦;法諱、臨濟僧) 4 2 0 1
法穎(ほうえい・中山;道号) → 中山(ちゅうざん・法穎;法諱、臨濟僧) G 2 8 1 1
芳英(ほうえい・字) → 芳樹(ほうじゅ;法諱、真宗僧) B 3 9 3 0
芳英(ほうえい・桑原) → 元淑(げんしゅく・桑原くわばら、藩士/医者) J 1 8 6 5
芳英(ほうえい・牛山) → 芳英(よしひで・牛山うしやま、藩士) G 4 7 4 0

- 方英(ほうえい・羽鳥) → 寥和(5世りょうわ・羽鳥、俳人) J 4 9 6 8
 豊穎(ほうえい・本居) → 豊穎(とよかい・本居、藩士/国学) R 3 1 0 8
 豊栄(ほうえい・山内) → 豊栄(とよよし・山内やまのうち、藩士/歌人) R 3 1 7 0
 泡影(ほうえい;字・牧野) → 大周(だいしゅう;法諱・牧野まきの、真宗僧) K 2 6 2 4
 邦永親王(ほうえいしんのう) → 邦永親王(くにながしんのう、伏見宮14代、歌/楽曲) 1 7 8 3
 豊栄日軒(ほうえいにっけん) → 鶴夫(たづお・長田おさだ、国学/歌) B 2 6 4 4
 鳳恵忠階(ほうえいちゅうかい) → 羅城(らじょう;号・恵階;法諱、真宗僧/俳人) B 4 8 3 9
 方右衛門(ほうえもん・田中) → 盛令(もりのり・田中たなか/丸山、藩士/歌) K 4 4 3 2
- 3919 **法円**(ほうえん;法諱、阿闍梨) 960-1010 51 平安前中期真言僧;974出家/興福寺住僧、
 1005山城法琳寺15世別当、道命と交流、歌人/勅撰2首:後拾遺161・新古今1924、
 [われひとり聞くものならば呼子鳥ふた声までは鳴かせざらまし](後拾遺集;二春161)、
 (嵐山宝輪の道命法師を訪問の夜呼子鳥の鳴声に詠む/私だけと呼ぶなら即答するから)
- G3908 **方円**(ほうえん・日向ひなた) ? - ? 江後期;歌人、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [夕まぐれはしみがてらに紐ときてみぬ夜の書をほし合の空]、
 (大江戸倭歌;秋726/星夕曝書)
 [いたづらに年月ひさになりひさごならぬ思ひの種をまきつつ](同;恋1466/久恋)
- 法延(ほうえん;法諱) → 大年(だいにん;道号・法延、臨濟僧) K 2 6 9 4
 法円(ほうえん;号) → 澄豪(ちようこう;法諱、天台学僧) I 2 8 3 1
 方圓(ほうえん/かたまど・田付) → 景利(かげとし・田付、砲術家/歌人) L 1 5 0 6
 方円(ほうえん) → 梅室(ばいつ・桜井、俳人) 3 6 0 4
 蓬園(ほうえん・仲田) → 顕忠(あきただ・仲田なかだ、幕臣/歌人) 1 0 4 4
 蓬園(ほうえん→よもぎえん・井手) → 真棹(まさお・井手いで/西村、藩士、歌) N 4 0 3 6
 蓬園(ほうえん・佐々木) → 蘆臣(あしおみ・佐々木ささき、藩士/歌人) H 1 0 6 3
 蓬園(ほうえん・清水) → 汲元(くみもと・清水しみず、神職/国学) E 1 7 2 3
 蓬園(ほうえん・田中) → 俊民(としたみ・田中たなか、歌人) V 3 1 5 2
 蓬園(ほうえん・羽田) → 眞足(またり・羽田はねだ、藩士/歌人) R 4 0 8 5
 蓬園(ほうえん・松浦) → 詮(あきら・松浦まつら、藩主/書/茶人) I 1 0 4 4
 芳園(ほうえん・徳永) → 芳園(よしぞの・徳永とくなが、商家/国学) O 4 7 0 3
 芳園(ほうえん・前沢) → 喜平(よしひら・前沢まえさわ、国学者/歌人) P 4 7 0 4
 芳艶(初世ほうえん・歌川/一英齋) → 芳艶(初世よしつや・歌川/甲胡、絵師) E 4 7 7 5
 幕末期絵師:1858春馬2世著の劇書「御狂言楽屋本説」初編画
- 3920 **房演**(ほうえん;法諱、金剛輪院大僧正) 1667-1736 70 真言宗醍醐寺83世座主、
 1716三宝院門跡として大峰山峰入、当山派修験道教義の体系化に尽力;
 三宝院を法頭の位置に確立、1702「修験秘記略解」、「開土僧諡号表」著
- 芒園(ほうえん) → 富春(とみはる・小神おがみ、神道歌人) O 3 1 9 3
 棒園(ほうえん・杉原/御巫) → 清直(きよなお・御巫みかんなぎ、神職/歌) D 1 6 4 3
 茅淵(ほうえん・土屋) → 斐子(あやこ・三枝さいぐさ/土屋、歌人) C 1 0 7 6
 方円庵(ほうえんあん) → 得器(とくき・方円庵、俳人) K 3 1 5 5
 芳円院(ほうえんいん) → 憲之(のりゆき・石川いしかわ、藩主/儒者) G 3 5 1 0
 方円居(ほうえんきよ) → 卷阿(かんあ・加藤、俳人) D 1 5 3 8
 方円軒(ほうえんけん) → 眞清(ますみ・石川いしかわ/源、商家/国学) J 4 0 2 8
 方円齋(口○斎ほうえんさい) → 保考(やすたか・賀茂/岡本、神職/書家) B 4 5 8 5
 方円齋(ほうえんさい) → 梅室(ばいつ・桜井、俳人) 3 6 0 4
 方円齋(ほうえんさい) → 立栄(2世りゅうえい・野村/野、医者) C 4 9 8 7
 宝円齋(ほうえんさい) → 有隣(ゆうりん・大久保、藩家老/俳人) E 4 6 1 2
 法苑寺道将(ほうえんじどうしょう) → 義将(よしまさ・斯波しば、武将/歌人) G 4 7 9 6
 方円堂(ほうえんどう) → 羅院(らいん・中井なかい、俳人) B 4 8 0 0
 方円堂(ほうえんどう) → 千村(ちむら・田中たなか、藩士/国学者) M 2 8 7 4
- 3922 **峰翁**(ほうおう;道号・祖一そいち;法諱、正宗しょうしゅう大暁禅師、北条高時男?) 1274-1357 84 相模臨濟僧、

1297出家/臨濟僧;下野の高峰頭日・筑前崇福寺の南浦紹明門/南浦の嗣法、崇福寺住持、尾張位置宮妙興寺開山・美濃遠山の大円寺開山、「峰翁和尚語録」著

3923 芳翁(ほうおう・福島ふくしま) ? - ?1801-4頃没 大和吉野の医者:李朱派の医学を修得、のち古医方;松原慶輔門、諸国遊歴後郷里で医を開業、「芳翁医談」著、中川壺山の師、[芳翁(;通称)の別通称/号]別通称;喜、号;慎独齋

3921 ほうわう(ほうおう;組連) ? - ? 江戸四谷の川柳の組連、取次;1779「川柳評万句合」入;取次例;[国風こくふうでおたふくまでが顔にしわ](79万句合/前句;こわい事々々)、(呉の国風;越の美女西施の「鬢ひそみに倣らう」)

法皇(ほうおう;新後撰) → 龜山天皇(かめやまてんのう) 1 5 7 8
法皇(ほうおう;玉葉集) → 後宇多天皇(ごうだてんのう) B 1 9 6 5
法皇(ほうおう;続千載) → 後宇多天皇(ごうだてんのう) B 1 9 6 5
法皇(ほうおう;新千載) → 光厳天皇(こうごんてんのう) B 1 9 0 9
法皇(ほうおう;新拾遺) → 光厳天皇(こうごんてんのう) B 1 9 0 9
宝奥(ほうおう) → 風光(ふうこう・和知、俳人) 3 8 5 8
方翁(ほうおう・河田) → 東岡(とうこう・河田/竹中、藩士/漢学) D 3 1 7 6
放翁(ほうおう・沢田) → 名垂(なたり・なたる・沢田、藩士/国学) 3 2 2 3
泡翁(ほうおう・井上) → 不鳴(ふめい・井上のうえ、医者/詩歌) E 3 8 1 3
蓬翁(ほうおう・羽倉) → 簡堂(かんどう・羽倉はくら、幕臣/儒者) E 1 5 1 3
蓬翁(ほうおう・三条西) → 季知(すえとも・三条西/西三条・藤原、廷臣/尊攘) B 2 3 2 9
芒翁(ほうおう) → 其残(きざん・山田/岩波、俳人/画) K 1 6 6 8
茅翁(ほうおう・織田) → 貞置(さだおき・織田/平、幕臣/茶人) H 2 0 8 4
鳳凰軒正二(ほうおうけんしょうじ) → 金治(きんぢ・初世きんぢ・篠田しのだ、歌舞伎作者/戯作) E 1 6 0 8
抱甕齋(ほうおうさい) → 元隣(げんりん・山岡、俳人/仮名草子) D 1 8 2 7
芳桜書院(ほうおうしゅいん) → 蘭軒(らんせん・伊沢いさわ、藩医/詩人) B 4 8 9 3
鳳凰潭(ほうおうたん・前田) → 東溪(とうけい・前田/一色、菊叢、藩儒) D 3 1 0 4
豊屋(ほうおう・石田) → 素陽(そよう・石田いだ、農業、俳人) K 2 5 5 1
茅屋(ほうおう・荒井) → 典見(のりみ・荒井、藩士/歌人) F 3 5 8 1
茅屋(ほうおう・贅川) → 良以(よしもち・贅川にえかわ、儒/地誌家) O 4 7 3 2
茅屋子(ほうおうくし) → 市郎右衛門(いちろうえもん・西村未達、書肆/浮草子/俳) B 1 1 3 3
法音(ほうおん;字) → 智興(ちこう;法諱、真言僧) E 2 8 1 1
報恩院(ほうおんいん;号) → 忠教(ただのり・九条くじょう、廷臣/歌人) F 2 6 6 0
報恩院(ほうおんいん;号) → 房実(ふさざね・九条、左大臣/歌人) C 3 8 0 7

C3913 匏瓜(ほうこ) ? - ? 江戸前期俳人、1694不角「へらざ口」入、[うひ産に夫半分うむこゝろ](へらざ口/居ても立ってもいられない夫)

3924 放過(ほうか・即吟舎そくぎんしゃ、姓;高松たかまつ) ?-? 大阪の狂歌作者:如雲舎紫笛門、1778「狂歌こと葉の道」「狂歌無心抄」編、「狂歌続こと葉の道」「狂歌続無心抄」編

3925 鳳河(ほうか;号・中根なかね、名;之紀/紀、字;伯綱) 1735-9763 近江の儒者:徂徠学修学、1752膳所藩に出仕/1781頃までに中老、讒譏にあい禁固16年、1762「論語徴渙」、「論語徴約辨解」著

方嘉(ほうか・大橋) → 広能(ひろよし・大橋/高井、神道家) H 3 7 7 0
包嘉(ほうか・夏目) → 成美(せいび・夏目なつめ、札差/俳人) 2 4 1 2
包佳(ほうか・かねよし?・長沢) → 正緒(まさお・長沢ながさわ、名主/歌人) R 4 0 2 7
蜂窩(ほうわ・峰窩ほうか・円山) → 学古(がくこ・円山/丸山まるやま、医/儒者) J 1 5 7 7
邦雅(ほうが・木藤) → 邦雅(くにまさ・木藤きとう、南望亭、歌人) D 1 7 1 8
卯花(ぼうか・高野) → 重方(しげかた・高野たかの、名主/歌人) Z 2 1 2 9

3926 法海(ほうかい;法諱、日田長福寺の普明男) 1768-183467 豊後日田の真宗大谷派僧;父普明門、東本願寺高倉寮で修学;寮司・擬講・嗣講、肥後八代郡光徳寺住職、文政1818-30頃加賀の諍論解決に尽力/越後竜山の異義取調に当る、1810「六字釈聞記」、1810「易行品いぎょうほん筌蹄」、「易行品法海録」「家内示談法話」「易行院法海師御法話」外著多、

[法海(；法諱)の字/号]字；月蔵、号；日南/橘州、諡号；易行院いぎょういん
 抱海(ほうかい・山路) → 重恒(しげつね・山路やまち、商家/国学) V 2 1 4 1
 豊海(ほうかい・奥平) → 昌高(まさたか・奥平/島津、藩主/蘭学) D 4 0 2 3
 蓬海(ほうかい・寺田) → 古江(ここう・寺田、俳人) M 1 9 4 0
 芳介(ほうかい・近藤) → 芳介(よしすけ・近藤こんどう/佐甲、国学/歌) L 4 7 7 2
 方外(ほうがい・由利) → 公正(きみまさ・由利ゆり/三岡、藩士/財政/政治) I 1 0 7 5

3927 **房海**(ほうかい；法諱、左近権中将源有房男)?-? 鎌倉中期京の真言僧；
 19歳の時醍醐寺無量寿院で松橋流伝法灌頂を受、高野山智恵門院を創建、松橋流4天王、
 「松橋重口伝」「灌頂印明口決」著、

[房海(；法諱)の字/号]字；観想/観烈、号；中将学士
 望海(ほうかい・浜崎) → 景斎(けいさい・浜崎はまさき、医者/歌人) N 1 8 6 7
 方外閑人(ほうがいかんじん) → 空洞(くうどう・桑原くわばら、漢学/書家) C 1 7 0 3
 望海斎(ほうかいさい) → 無岸(むがん・望海斎、俳人) 4 2 3 6

3952 **豊芥子**(ほうかいし・石塚いしづか、屋号；鎌倉屋)1799-186163 江戸神田豊島町の芥子屋からしや業、
 読書家；珍書・稀書(特に軍書・地理書・劇書・遊郭関係書)を収集、1813-14「豊芥子日記」著、
 1830「歌舞伎由緒考」編/35「吉原大鑑」52「商人尽狂歌合」、60「街談文々集要」編、
 「岡場所大全及追加」「岡場所考」「岡場所遊郭考」「操芝居座考」「歌舞伎十八番考」外多数、
 [豊芥子(；号)の通称/別号]通称；重兵衛/十兵衛、別号；豊亭/集古堂/からし屋、法号；积豊芥

防海史(ほうかいし) → 淑人(しゆじん/祥人よしと・福永、儒者) E 4 7 8 2
 法界寺道円(ほうかいじどうえん) → 道円(どうえん；法名、鎌倉幕臣/歌人) B 3 1 5 5
 法界心印(ほうかいしんいん；号) → 道恕(どうじよ；法諱、真言僧/画) F 3 1 2 6
 法界心院宮(ほうかいしんいんのみや) → 深守法親王(しんしゆほつしんのう、真言僧/門跡/歌人) E 2 2 4 9
 方外仙史(ほうがいせんし) → 五岳(ごがく・平野ひらの、真宗僧/儒/詩) C 1 9 2 5
 法海禅師(ほうかいぜんじ) → 無象(むぞう；道号・静照；法諱、臨濟僧) 4 2 8 3
 芳海草舎(ほうかいそうしゃ) → 孝幹(たかもと・里井、廻船問屋/国学) N 2 6 4 2
 方外道人(ほうがいどうじん) → 梅庵(ばいあん・木下きのした、医/狂詩) 3 6 5 0
 方外道人(ほうがいどうじん) → 豊信(とよしげ・山内、容堂、藩主/詩歌) R 3 1 1 8
 放懷楼(ほうかいろう) → 益子(ますこ・芝山しばやま、歌人) Q 4 0 1 3

F3966 **包角**(ほうかく) ? - ? 江前期江戸俳人；1691不角「二葉之松」入
 [短か夜も唯は寐させぬ夢の魂たま(前句；一生我に使はれて居る、我は我欲、二葉之松232)

方角(ほうかく・橘) → 性空(しょうくう；法諱、天台僧/書写上人) S 2 2 0 4
 方穫(ほうかく・武知) → 方穫(まさかり・武知たけち、藩儒/詩歌人) P 4 0 1 6
 萌角(ほうかく・石原) → 善兵衛(ぜんべえ・石原、商家/歌/俳人) N 2 4 0 9
 法覚(ほうかく；法名) → 師実(もろさね・藤原ふじむら、摂政関白/歌) H 4 4 2 4
 芳鶴(初世ほうかく・歌川) → 芳鶴(初世よしつる・歌川うたがわ、絵師) E 4 7 7 8
 方岳(ほうかく・藤浪) → 万徳(万得まんとく・藤浪ふじなみみ、医者) K 4 0 7 5
 豊岳(ほうかく・中尾) → 豊岳(とよおか・中尾なかお/三木/田原、国学) V 3 1 8 9
 鳳嶽(ほうかく・田中) → 政徳(まさのり・田中、名主/文学/暦算) G 4 0 0 9
 懋岳(ほうかく・小林) → 繁樹(しげき・小林こばやし、国学者) E 2 1 6 5
 方学居士(ほうがくこじ) → 東門(とうもん・山脇、医者/俳人) H 3 1 4 3
 宝覚真空禅師(ほうかくしんくうぜんじ) → 雪村(せつそん；道号・友梅；法諱、臨濟僧/文学) 2 4 2 0
 宝覚禅師(ほうかくぜんじ) → 湛照(たんしょう；法諱・東山；道号、臨濟僧) I 2 6 3 7
 法覚仏慧禅師(ほうかくぶつえぜんじ) → 慧濟(えさい；法諱・川僧、曹洞僧) D 1 3 9 2
 望岳楼(ぼうがくろう) → 精溪(せいけい・昌谷さかや/原田、藩儒) B 2 4 1 4
 芳花舎(ほうかしや) → 忠寛(ただひろ・石尾いしお/荒木、藩士/歌) V 2 6 5 9
 傍花随柳堂(ぼうかざいりゅうどう) → 春勝(はるかつ・林、鷲峰、羅山男/儒者) 3 6 3 0

3928 **宝嘉僧**(ほうかそう、姓；中出)?-? 江中期江戸神田花房町の彫工(彫師)、俳人、
 洒落本作家、1785「誰が袖日記」著、

[宝嘉僧(；号)の通称/別号]通称；長左衛門、別号；元日堂
 放下叟(ほうかそう) → 精一(せいいち・深田ふかだ、儒者/茶道) H 2 4 3 5

- 卯花窓(ぼうかそう) → 尺菴(せきりゅう・吉沢、国学/俳人) D 2 4 9 6
- 3929 宝月(ほうがつ;法諱・円珠房;号、俗姓;嶋) 1814-6451 豊後竹田の真宗本願寺派明安寺の生、
漢学;帆足万里・毛利格門/真宗学;肥後養泉寺戒定門、学僧;南都・叡山を歴参;
具舎・唯識・律の研究、紀州海草郡中之島西覚寺住職、講席を開き教化活動、
晩年は紀州北嶋の浄源寺住/没後司教を追贈、「具舎論講述」「成唯識論講述」著
豊果亭漁産(ほうかていぎょさん)→ 漁産(ぎょさん・豊果亭、狂歌作者) H 1 6 3 9
- 鳳下堂(ほうかどう) → 言水(ごんすい・池西、俳人) 1 9 5 4
- 法花房(ほうかぼう) → 最珍(さいちん;法諱、天台園城寺権律師) G 2 0 9 5
- 峰霞楼(ほうかろう) → 政礼(まさのり・横山/山、藩士/文筆家) G 4 0 0 3
- 3930 邦諫(ほうかん;法諱・暁堂;字)?- ? 1504までに没 播磨三井野の浄土僧;西山西谷流召運の嗣法、
京の仏陀寺住持/後土御門天皇の帰依;1476仏陀寺が勅願所/77宮中で阿弥陀経を講ず、
同じく宮中で1478・79往生礼賛を/81三心釈を/82観念法門を/84往生要集を講ず、
連歌:新菟玖波集1句入
- F3981 鳳冠(ほうかん;法諱、号;五明院) 1795-186773 越後小吉村の真宗大谷派円明寺の生、
蒲原郡西崎の大谷派蓮徳寺住職、高倉学寮で講義/1867擬講、1857「成唯識論聴記」
- 3931 宝観(ほうかん;法諱・大秀;字、俗姓;楠) 1812-8170 河内南河内郡三日月市真宗本願寺派真教寺の生、
真宗学;筑前博多万行寺の曇竜門/漢学;和田大雄門/大和長谷寺智幢・誠伝門;余乗を修学、
1847真教寺を継承;11世住職、1864学林参事/81司教、1841「因明入正理論略量議」著、
「因明入正理論本義鈔」「八轉声略頌記」「聡明論肝心」「六合釈講義」「挫僻打磨編踏踏」外多
- G3910 方簡(ほうかん・大津おつ、名;かたあき?・かたひろ?・かたふみ?)?-? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[戸ざしても今宵はうつか小夜きぬた聞きなれしよりにかすかなりけり]、
(大江戸倭歌;秋939/擣衣幽)
[松風の音に寝覚めて月見れば梢をかへて澄みわたりけり](同;雑1765/月前松風)
- 宝鑑(ほうかん;法諱・大円)→ 大円(だいえん:道号・宝鑑、曹洞僧) J 2 6 2 6
- 邦観(ほうかん) → 義敬(ぎけい;法諱、天台僧/歌人) U 1 6 0 8
- 鳳観(ほうかん;字) → 祐巖(ゆうがん;法諱・鳳観、真言僧) B 4 6 6 7
- 豊幹(ほうかん・松田) → 豊幹(とよもと・松田まつだ、国学者) W 3 1 4 9
- 豊貫(ほうかん・沼沢) → 豊貫(とよつら・沼沢ぬまざわ/藤原、広太/藩士/詩) W 3 1 0 4
- 豊魁(ほうかん・竹村) → 悔斎(かいさい・竹村たけむら、藩士/儒者) E 1 5 3 8
- 3932 芳巖(ほうがん;道号・祖聯それん;法諱)?-1730 加賀金沢の曹洞僧;徳翁良高門/金沢天徳院4世、
「芳巖祖聯和尚語録」著
- 3933 宝巖(ほうがん;道号・興隆こうりゅう;法諱、越後弥彦山禰宜の高橋光宣男) 1691-176979 母;お喜多、
越後の曹洞僧;1704出家、比叡山・園城寺・南都諸寺遊歴;台密の疏章・儀軌を修学、
さらに法相・三論・戒律・悉曇を修学、武州加須全久院6世/磐城三春州伝寺12世、州伝寺没、
古典に精通、「阿弥陀経梵語釈」「悉曇秘略釈」「三蔵梵語集」「神道問辨」「法華話鈔」、
「万葉集義訣」「徒然草秘訣」「古今集至要」「源氏物語探海鈔」「和歌八十玉籤」外著多数、
[宝巖興隆の初道号/初法諱]初道号;具海/初法諱;慈海、通称;谷伴蔵
- 3934 法岸(ほうがん;法諱、俗姓;藤田) 1744-181572 周防吉敷郡下津領の浄土僧:
1753(10歳)西念寺の運昇門;得度/1761江戸増上寺の徹応門/遁世念仏を発願;
日課称名一万遍を誓約/1765関通と交流;関通の風儀継承、長門大日比西円寺住職、
念仏を宣揚;大日比流の祖、弟子106人・日課誓約者21万人、
「専修要文集」「専修念仏要語」著、
[法岸(:法諱)の初法諱/法名]初法諱;運察、法名;円蓮社光誉性如法岸、光誉/性如
- 3935 方巖(ほうがん;道号・祖永そえい;法諱、笠原勝富男) 1752-182877 筑前の臨濟僧:
1771上京し妙心寺大法然の介然維石門;出家/月船禅慧門;嗣法、三河八橋無量寿寺住持、
博学多技;詩歌/書画/煎茶道、売茶翁(黄檗の月海元昭の称)を名告り諸所を遍歴;江戸没、
「八橋縁起書」「月濃扉」「独健帖」著、「方巖禅師遺稿」、
[方巖祖永の号]別道号;曇熙、号;売茶翁/通僊/梅谷/自在庵
- 3936 法願(ほうがん;法諱・智仙ちせん;字、号;蘭薫斎/松寿堂、俗姓;高埜) 1805-5854 武蔵埼玉郡麦塚村僧、

1816(12歳)江戸霊雲寺の真言律僧智明門;出家、智定(宝巖)門、智空(等空)と同門、
武蔵最法寺4世住職、1831「諸儀軌伝授録」著

鳳巖(ほうがん;字) → 法住(ほうじゅう;法諱・榛間はりま、僧/歌) G 3 9 3 4

3937 房観(ほうかん;法諱、阿闍梨章弁男?)?-? 鎌倉期園城寺の僧/法印、
歌人:続現葉集入集、勅撰3首;続千載1276/新千載1717/新拾遺1457、
[なほざりに頼めし事を命にていけるばかりのかひやなからん](続千載集;恋1276)

房寛(ほうかん・渡辺雪信)→ 智角(知角ちかく・興柳堂、俳人/絵師) 2 8 8 4

宝鑑院(ほうかんいん;法号)→ 綱条(つなえだ・朽木くつき、藩主/儒/詩) B 2 9 0 3

宝鑑円明禅師(ほうかんえんめいぜんじ・諡号)→ 天境(てんきやう:道号・靈致、臨濟僧) D 3 0 3 3

宝岩覺竜(ほうがんかくりゅう;初称)→ 宝巖(ほうごん;法諱・光竜;字、真言律僧) 3 9 7 7

宝鑑国師(ほうかんこくし・大円)→ 愚堂(ぐどう:道号・東寔しよく、臨濟僧) C 1 7 5 2

G3945 放鷗子(ほうかんし) ? - ? 江前期;歌人/浅井忠能家の人、

忠能[難波捨草]に10数首入集、

[和歌の道に深く思ひよりて住吉に日比祈り歩みを運び侍りて押し侍る後読み侍る、
めぐみあれや思ひ立ちぬる敷島のみちくらからぬ神の心に]([難波捨草]神祇414)

卯観子(ほうかんし) → 破笠(はりゆづ・小川、蒔絵象眼/俳人) F 3 6 8 4

法鑑禅師(ほうかんぜんじ) → 天倫(てんりん・宗忽そうこつ、臨濟僧)

判官入道薬珠(ほうがんにゅうどうざいしゆ)→ 是村(これむら・坂上さかのうえ、廷臣/明法家) O 1 9 9 0

3938 伯耆(ほうき・内裏だいの) ? - ? 鎌倉前期内裏の女房/歌;1200石清水若宮歌合参加;5首入;
この歌合の判者は源通親、作者は俊成(釈阿)・定家・寂蓮・家隆・長明・小侍従・讃岐等66人、
[聞きてしも寝られざりけり郭公ほととぎす待つ夜の数は初音のみかは](若宮歌合;五右76)

G3927 抱季(ほうき・玉井たまい、政次郎) 1828-1900 73 伊予大洲の歌人

伯耆(ほうき・志水) → 清久(きよひさ・志水しみず、藩士/歌人) U 1 6 4 5

伯耆(ほうき・野中) → 兼山(けんざん・野中のなか、藩家老/儒者) 1 8 1 4

伯耆(ほうき・鎌原) → 桐山(とうざん・鎌原かんばら、藩士/儒者) E 3 1 6 2

伯耆(ほうき・山田) → 明遠(あきとお・山田やまだ、家老/詩歌) I 1 0 6 8

伯耆(ほうき・井面) → 守和(もりかず・井面いのも/荒木田、神職) F 4 4 2 9

伯耆(ほうき・龍/荒木田)→ 嗣興(つぐおき・中西/荒木田/幸福、神職/本草) 2 9 6 8

伯耆(ほうき・藺田) → 守拙(もりみ・藺田/荒木田/中川、神職/国学) G 4 4 5 4

伯耆(ほうき・藺田) → 守約(もりかね・藺田そのだ/中川、神職) K 4 4 2 0

方基(ほうき・今大路/奈須)→ 方基(まさもと・今大路/奈須/橘、医者) H 4 0 9 1

方暉(ほうき・大坪) → 方暉(まさてる・大坪おおつば、藩士/国学者) O 4 0 3 5

芳幾(ほうき・落合/歌川)→ 芳幾(よしひこ・落合/歌川うたがわ、絵師) C 4 7 1 8

芳輝(ほうき・歌川/一椿斎)→ 芳輝(よしてる・一椿斎いちんさい・歌川、絵師) E 4 7 8 1

豊記(ほうき・桜井) → 政重(まさしげ・桜井さくらい、神道家) C 4 0 7 8

豊熙(ほうき・山内) → 豊熙(とよてる・山内、藩主) R 3 1 3 3

豊季(ほうき・小倉) → 豊季(とよすえ・小倉おぐら/藤原、廷臣) R 3 1 1 9

宝器(ほうき;字) → 海量(かいりやう;法諱、真宗僧/歌人) 1 5 0 2

邦基(ほうき・藤原) → 邦基(くにもと・藤原、廷臣/歌人) 1 7 6 1

邦基(ほうき・紀) → 邦基(くにもと・紀き、江戸期文筆家) D 1 7 2 6

3939 抱儀(ほうぎ・守村[邨]もりむら、名;約) 1805-1862 58 江戸蔵前の札差、俳人;蒼虬門/詩文;中村仏庵門、
画;酒井抱一門、茶・香・花を嗜む、蔵書家/晩年家傾き一時越後新津に逗留、1825「俳画林」、
1835「伐木集」36「うみみぬ旅」37「稲目集」59「寰中百人集」、「黒林奇標」「抱儀句集」外著多数、
[抱儀(;号)の字/通称/別号]字;希曾、通称;次郎兵衛、

別号;鷗嶋おうしよ(;初号)/経解/松篁/交翠/山房、法号;真実庵隆然抱義法子

妹も俳人 → 鶯卿女(おうけいじよ、春葩しゅんぱ、俳人) 1 4 4 7

抱義(ほうぎ・新井) → 抱義(かねよし・新井/小原、幕臣/白石著書目録) P 1 5 0 8

方義(ほうぎ・井口) → 方義(かたよし・井口いぐち、官吏、連歌) T 1 5 5 3

方義(ほうぎ・千野) → 方義(まさよし・千野ちの/源、藩士/神職/歌) Q 4 0 8 8

方義(ほうぎ・室) → 方義(まさよし・室むろ、国学/勤王/政治家) T 4 0 1 4
 邦義(ほうぎ・中西) → 邦義(くによし・中西、博学/書画収集) B 1 7 6 8
 邦儀(ほうぎ・津田) → 梧岡(梧岡ごこう・津田つだ、漢学/史学) G 1 9 4 7
 芳宜(ほうぎ・陸) → 可彦(よしひこ・陸くが、医者) G 4 7 2 3
 房規(ぼうぎ・滝口) → 房規(ふさのり・滝口たきぐち、国学/教官) I 3 8 4 6
 房輝(ぼうぎ・臼井) → 房輝(ふさてる・臼井うすい、幕臣/歌人) C 3 8 1 9
 房熙(ぼうぎ・鷹司) → 房熙(ふさひろ・鷹司/藤原、廷臣/記録) C 3 8 2 2
 宝机庵(ほうきあん) → 素丸(2世そまる・溝口、其日庵3世、俳) E 2 5 3 6
 芳宜園(ほうぎえん) → 千蔭(ちかげ・加藤、国学/歌人) 2 8 0 3

F3982 芳菊軒某母満(ほうきくけんぼうぼまん) ?-? 京の仮名草子作者;「賢女物語」著

浅井了意の戯名説あり → 了意(りょうい・浅井、唱導/仮名草子) 4 9 1 6

逢麴亭(ほうきくてい) → 子治(しこう・長尾ながお、俳人) T 2 1 3 1
 伯耆公(ほうきこう) → 隆縁(りゅうえん;法諱、天台僧/歌人) C 4 9 8 9
 蓬岐行斎(ほうきこうさい) → 中蔵(ちゅうぞう・小石こいし、医者) G 2 8 5 9
 伯耆七郎(ほうきしちろう) → 頼遠(よりとお・土岐とき、武将/歌人) J 4 7 1 2
 伯耆十郎(ほうきじゅうろう) → 道喜(どうき;法名、土岐、武人/歌人) C 3 1 5 4
 逢吉(ほうきち・栃内) → 与兵衛(よへえ・栃内とちない、藩士/兵法) I 4 7 2 7
 鳳吉(ほうきち・丁野) → 遠影(とおかげ・丁野ちやうの、藩士/官吏/歌) V 3 1 7 5
 法吉翁(ほうきちおう・佐瀬) → 主計(かずえ・佐瀬させ/させ、藩家老/狂歌) M 1 5 0 9
 法吉舎大道(ほうきちしやだいどう) → 主計(かずえ・佐瀬させ/させ、家老/狂歌) M 1 5 0 9
 房橘(ぼうきつ・布喜川) → 親英(ちかひで・布喜川ふきがわ/永井、庄屋/歌) D 2 8 5 3
 奉橘堂(ほうきつどう) → 尚翼(なおすけ・中島なかじま、和算家) B 3 2 3 5
 宝義堂主人(ほうぎどうしゅじん) → 親義(ちかよし・高崎、藩士/国学/歌) C 2 8 2 3
 伯耆入道(ほうきにゅうどう) → 頼貞(よりさだ・土岐とき/源、武将/城主/歌人) I 4 7 6 2
 伯耆阿闍梨(ほうきのあじり、伯耆房) → 日道(にちどう;法諱、日蓮僧) C 3 3 9 7
 伯耆守(ほうきのかみ・波々伯部) → 盛郷(もりさと・波々伯部ほおかべ、武将/連歌) F 4 4 4 3
 伯耆守(ほうきのかみ・寺井) → 宗巧(そうこう・寺井/橘、武将/城主/連歌) H 2 5 2 9
 伯耆守(ほうきのかみ・戸次) → 道雪(どうせつ・戸次べつき/立花、武将) G 3 1 0 3
 伯耆守(ほうきのかみ・氷室) → 種長(たねなが・氷室ひむろ/紀、神職) R 2 6 9 0
 伯耆守(ほうきのかみ・荻野) → 光陶(みつたえ・荻野/紀/藤原、神職) D 4 1 6 1
 伯耆守(ほうきのかみ・荷田) → 信資(のぶもと・荷田かだ/羽倉、神職) D 3 5 5 2
 伯耆守(ほうきのかみ・青山) → 忠朝(ただとも・青山あおやま、藩主) V 2 6 0 8
 伯耆守(ほうきのかみ・早雲) → 高宝(たかとみ・早雲はやくも、藩士/神職) Z 2 6 0 2
 伯耆守(ほうきのかみ・池永) → 公祉(きんよし・池永いけなが、神職/儒/歌) T 1 6 4 4
 伯耆守(ほうきのかみ・稲川) → 理秀(まさひで・稲川いながわ/藤原、神職) N 4 0 7 2
 掃部助(ほうきのかみ・井伊) → 直弼(なおすけ・井伊い、大老/国学) B 3 2 3 9
 掃部助(ほうきのすけ・賀茂) → 教久(のりひさ・賀茂、神職/歌人) F 3 5 4 7
 伯耆房(ほうきぼう) → 日興(にっこう・常在院、日蓮僧) D 3 3 8 7

3940 方救(ほうきゅう・平山ひらやま、通称;孫兵衛) ?-? 撰津大坂俳人;重頼門、1647重頼「手吹草追加」入、
 狂歌;1666行風「古今夷曲集」3首入、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、
 [調子よき所望なればとくれ竹のあなあなうれし秘蔵せうよの](古今夷曲集:九)

(笙を所望して貰った喜び/秘蔵云々は秘蔵しようの意、調子・呉竹・穴はせう[笙]の縁語)

3941 豊久(ほうきゅう) ? - ? 江戸雑俳;1767丸窓「眞先天満宮奉納句」入(「豆鉄炮」所収)

方旧(ほうきゅう/まさひさ・堀田) → 六林(ろくりん・堀田、藩士/詩/俳人) B 5 2 1 8
 方久(ほうきゅう・橋野) → 方久(まさひさ・橋野はしの、商家/儒者/歌) G 4 0 7 9
 方久(ほうきゅう・芝原) → 千郷(千里ちさと・芝原しばら、国学者) M 2 8 6 6
 方鳩(ほうきゅう) → 斑象(3世はんぞう/はんしょう・中山、俳人) I 3 6 3 4
 芳久(ほうきゅう・富永) → 芳久(よしひさ・富永とみなが、神職/国学者) G 4 7 3 2
 豊久(ほうきゅう・井上) → 豊久(とよひさ・井上いのうえ、歌人) X 3 1 1 5
 豊久(ほうきゅう・一定) → 豊久(とよひさ・一定いちさだ、国学/勤王) U 3 1 2 3

- 豊久(ほうきゅう・畑) → 豊久(とよひさ・畑はた、歌人) W 3 1 0 9
放牛(ほうぎゅう・井手) → 伊房(これふさ・井手いで、藩士/歌人) Q 1 9 2 7
放牛散人(ほうぎゅうさんじん) → 正勝(まさかつ・越智おち/山下/津田/久保、神職) C 4 0 1 0
豊久臧(ほうきゅうざう) → 由誓(ゆうせい・豊嶋/豊島、俳人) 4 6 1 7
飽休亭(ほうきゅうてい) → 正積(まさかず・曾我部そがべ、国学/歌人) Q 4 0 4 2
傍丘里人(ごうきゅうりじん) → 鞠足(ともたり・岡本、左官業/郷土史家) P 3 1 7 3
3942 鵬居(ほうきよ・吉原よしわら、光仲[黄山]男)?-? 尾張名古屋藩士の生/俳人:父門/南天道町住、
1857「尾張名所尽し」著、「たななしふくへ」編、「尾張新大根」著
[鵬居(;号)の通称]五百三におぞう
苞居(ほうきよ・高山) → 慶孝(よしとか・高山たかやま、商家/行政/歌) N 4 7 7 6
3943 宝篋(ほうきょう:法諱・蓮道;字、号;応仁道円/三輪上人) 1189?-1233?45? 真言僧;醍醐寺の実賢門、
伝法灌頂を受/大和三輪山住;三輪流両部神道の祖、「覚源抄」「駄都口伝」「菩提心論秘聞」、
「一滴抄等」「陀訖極深奥集」「宝篋抄」「瑜祇口決」「蓮道房上人記」外著多数
3945 邦教(ほうきょう:法諱) 1702 - 176160 武蔵埼玉上中条の天台宗常光院23世住職:
悉曇研究、1714下総飯沼安楽寺入/常陸月山寺・下野宗光寺・上野長楽寺・上総長福寺住職、
のち常光院住職、1752常陸月山寺住;没、1756「悉曇囉窠觀古曆編」60「山家大律接杖論」、
「背面録」「悉曇字母表」「般若心経還元録」「般若心経梵華集註」外著多数、
[邦教の別法諱/法号]別法諱;拓真/法号;深定院法印邦教大和尚
邦教(ほうきょう・笹屋) → 邦教(くにのり・笹屋ささや、縫箔/絵画研究) B 1 7 5 9
邦教(ほうきょう/くにのり・片山) → 寸長(すんちよう・片山/菅原、藩士/俳人) D 2 3 5 5
邦教(ほうきょう・市川) → 邦教(くにのり・市川いちかわ/藤原、神職/歌) E 1 7 0 4
芳郷(芳卿ほうきょう:道号) → 光隣(こうりん:法諱・芳郷[卿]、臨濟僧) C 1 9 0 7
芳郷(ほうきょう/よしさと・海保) → 帆平(はんぺい・海保かいぼ、藩士/剣術) I 3 6 4 7
法鏡(ほうきょう;字) → 日意(にちい;法諱、日蓮僧) 3 3 4 0
方教(ほうきょう・柳沢) → 里之(さとゆき・柳沢やなぎさわ、藩主/俳人) K 2 0 5 7
方教(ほうきょう・石川) → 依平(よりひら・石川いしかわ、国学/歌人) 4 7 3 5
方教(ほうきょう・原川) → 方教(よりのり・原川はらかわ、歌人) O 4 7 6 6
方竟(ほうきょう) → 千梅(せんばい・田中、俳人) G 2 4 5 0
包教(ほうきょう・横井) → 包教(かねのり・横井よこい、幕臣/茶/和算) O 1 5 8 4
包教(ほうきょう・宇井) → 包教(かねのり・宇井うい/穂積、神職/国学) T 1 5 7 2
豊享(ほうきょう・山野辺) → 弘軒(こうけん・山野辺やまのべ、藩儒) G 1 9 2 9
豊郷(ほうきょう・とよさと・吉岡) → 怨翁(じょうおう・吉岡よしおか、藩医) M 2 2 1 8
鳳郷(ほうきょう・土沢) → 沙山(しゃざん・土沢つちざわ、藩士/俳人) W 2 1 2 9
法行(ほうきょう;法名) → 行基(ぎょうき;法名、行基菩薩、歌人) C 1 6 3 4
方業(ほうきょう・鈴木) → 方業(かたなり・鈴木すずき、歌人) T 1 5 0 1
房郷(ほうきょう・源/北畠) → 房郷(ふささと・源/北畠、廷臣/歌人) C 3 8 0 6
房郷(ほうきょう/ふささと・横田) → 勘左衛門(かんだえもん・横田、藩士/軍学) Q 1 5 7 3
宝篋院(ほうきょういん:諡) → 義詮(よしあきら・足利、將軍/歌人) C 4 7 0 3
法鏡院(ほうきょういん) → 三津子(みつこ・毛利もうり/池田、歌人) D 4 1 3 7
方鏡閣(ほうきょうかく) → 千梅(せんばい・田中、俳人) G 2 4 5 0
法鏡行者(ほうきょうぎょうじゃ) → 円澄(えんちよう;法諱、天台僧) B 1 3 2 3
望橋舎(ほうきょうしゃ) → 巴笑(はしやう、俳人) E 3 6 4 9
方竟叟(ほうきょうそう) → 千梅(せんばい・田中、俳人) G 2 4 5 0
方竟楼(ほうきょうろう) → 千梅(せんばい・田中、鑄物師/俳人) G 2 4 5 0
3946 豊玉(ほうぎよく;法諱・雪潭せつたん;道号、別法諱;風砭ふうぎよく)?-? 江前期臨濟僧:愚堂東寔とうしよく門、
愚堂の法嗣、1687妙心寺256世、「大円宝鑑国師年譜」1662「宝鑑録」編/1711「宗統八祖伝」著
3947 彭旭(ほうぎよく・三浦みづら、別号;梅園堂)?-? 江中期大阪炭屋町の儒者、1747刊「長嘯啓蒙策」著
3948 宝玉(ほうぎよく・象工廠しょうこうあん)?-? 茶番;1849口上茶番集「茶番初音草」著(;国盛画)
抱玉(ほうぎよく;字) → 恵琳(えりん;法諱、真宗大谷派僧) E 1 3 3 6
抱玉(ほうぎよく・田原/抱玉軒) → 相常(すけつね・田原たから、書肆) G 2 3 5 2

- 芳玉(ほうぎょく・歌川) → 芳玉(よしたま・歌川うたがわ/清水、絵師) E 4 7 4 1
 豊玉(ほうぎょく・歌川) → 芳滝(よしたき・歌川うたがわ/中井、絵師) E 4 7 1 5
 宝玉菴(ほうぎょくあん) → 三箱(さんばこ・宝玉菴、川柳作者) G 2 0 2 7
 芳玉女(ほうぎょくじよ) → 芳玉(よしたま・歌川うたがわ/清水、絵師) E 4 7 4 1
 方均(ほうきん・渋谷) → 幽軒(ゆうけん・渋谷しぶや、藩士/和漢学) B 4 6 4 2
 3949 忙巾(ぼうきん) ? - ? 俳人、1695土芳蓑虫庵五歌仙参;「雪の五歌仙」入
 抱琴園(ほうきんえん) → 為実(ためざね・安藤、国学/歌人) G 2 6 8 6
 抱琴園(ほうきんえん) → 惟実(これざね・安藤あんど、詩歌人) O 1 9 3 6
 抱琴園(ほうきんえん) → 為実(ためざね・安藤、国学/歌人) G 2 6 8 6
 方巾斎(ほうきんさい・速水) → 房常(ふさつね・速水/藤原、官人/故実家) C 3 8 1 8
 豊矩(ほうく・山内) → 豊矩(とよね・山内やまのうち、藩士) R 3 1 3 1
 豊矩(ほうく・田村) → 豊矩(とよのり・田村、和算家) R 3 1 4 6
 豊矩(ほうく・竹内) → 豊矩(とよのり・竹内/矢田、和算家) R 3 1 4 7
 豊矩(ほうく・出淵) → 豊矩(とよのり・出淵でぶら、歌人) V 3 1 7 9
 邦矩(ほうく・川喜田) → 邦矩(くにのり・川喜田かわきた/長谷川、商家/国学) E 1 7 1 1
 邦矩(ほうく・齋藤) → 眞指(まさし・齋藤さいとう、国学/歌人) P 4 0 9 4
 反古庵(ほうくあん) → 天来(てんらい・牧岡/反古庵、俳人) E 3 0 5 3
 反古庵(ほうくあん・俳名) → 団十郎(5世だんじゅうろう・市川、歌舞伎役者) I 2 6 3 1
 F3900 法空(ほうくう;法諱) ? - ? 1314存 鎌倉期大和橋寺の学僧;聖徳太子の研究、
 「上宮太子拾遺記」/1314「聖徳太子平氏伝雑勘文」著
 反故斎(ほうぐさい) → 果然(かぜん、俳人) C 1 5 2 7
 反古長者(ほうぐちやうじや) → 貞逸(ごいっ・津田/四極田、俳人) 1 9 5 9
 反古亭(ほうぐてい) → 高潔(たかきよ・小野、幕臣/国学者) C 2 6 6 9
 抱愚老人(ほうぐろうじん) → 一具(いちぐ・高梨、浄土僧/俳人) B 1 1 1 8
 G3931 芳薫(ほうくん;号・並木なみき、名;周子、旧姓;磯野) 1784-1866⁸³ 信濃佐久郡の歌人、
 佐久郡野沢の豪商並木信粹のぶきよ(1785-1852)の妻
 芳訓亭(ほうくんでい) → 春鶯(しゅんおう・為永ためなが、戯作者) J 2 1 2 6
 F3901 鳳溪(ほうけい;法諱、号;覚天/积円)?-? 越後の真宗僧、1771「釈注老子」「宗評」著
 F3902 宝景(ほうけい;法諱) 1746 - 1828⁸³ 羽後秋田の真宗大谷派僧;恵琳門/江戸光円寺住職、
 1788大旭らと浄土真宗の宗名公称を幕府に直訴/東本願寺より蟄居処分、上京;1803擬講、
 1806嗣講/07講師;大谷派教学興隆に尽力、1813「阿弥陀経貫練記」19「浄土真要鈔己卯録」、
 1824「愚禿鈔甲申録」、「宗名話」「観経講義」「往生礼讚甲戌記」「唯信鈔文意録」外著多数、
 秋田専念寺の了因の弟、
 [宝景(;法諱)の別法諱/号]別法諱;鳳景/順芸/順了、号;鳳溪/東海、諡号;五乘院
 G3907 豊啓(ほうけい・とよあき?・斎藤さいとう)?-? 江後期;国学者、「古鑑彩説」著、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [紅葉のあらしに散りて桂川水に織りなす唐錦かな](大江戸倭歌;冬1102)
 G3911 方啓(ほうけい・かたあき?・まさあき?・須藤すどう)?-? 江後期;歌人、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [このごろはしぐれしぐれて神無月山てふ山のもみぢぬはなし]、
 (大江戸倭歌;秋989/山皆紅葉)
 F3970 鳳吟(ほうけい・桐原きりばら、別号;翼鳳)?-? 江後期漢学者/詩人、
 1870「三雲絶句」共編(久米子行・木内子陽と編/宮沢雲山・遠山雲如・竹内雲濤の遺作集)
 包径(ほうけい・齋藤) → 包径(かねみち・齋藤、和算家) O 1 5 9 5
 芳溪(ほうけい) → 清誉(せいよ;法諱、浄土僧/連歌作者) D 2 4 0 4
 芳溪(ほうけい・中条) → 良蔵(りょうぞう・中条ちゅうじょう、幕臣/山陵補修) I 4 9 6 7
 芳溪(ほうけい・鉄) → 復堂(ふくどう・鉄てつ、儒者/教育者) B 3 8 6 0
 芳卿(ほうけい・武藤) → 知足斎(ちそくさい・武藤むとう、儒/国学者) E 2 8 6 7
 邦敬(ほうけい/くにたか?・万代/梁田) → 天柱(てんちゅう・梁田やなだ、藩儒) E 3 0 0 6
 邦経(ほうけい・後藤) → 邦経(くにつね・後藤ごとう、藩士/国学者) E 1 7 1 7

方卿(ほうけい・細川) → 頼直(よりなお・細川ほそかわ、郷士/暦算家) J 4 7 2 5
方卿(ほうけい・小林) → 退結(たいけつ・小林、兵法家/兵器改良) J 2 6 8 0
奉卿(ほうけい・鈴木) → 金谷(きんこく・鈴木すずき、藩士/蘭学者) Q 1 6 9 4
苞卿(ほうけい・山崎) → 如山(じよざん・山崎やまさき、藩士/詩人) M 2 2 3 9
苞卿(ほうけい・曾我部) → 容所(ようしょ・曾我部そがべ/源、儒/律令) B 4 7 2 2
鳳卿(ほうけい・野沢) → 岐山(きざん・野沢、儒者/詩) K 1 6 6 5
鳳卿(ほうけい・田宮) → 橘庵(きつあん・田宮たみや、戯作者/隨筆) I 1 6 6 4
鳳卿(ほうけい・菅原/平田/八島) → 丘山(きゅうざん・岳亭がくてい、絵師/戯作/狂歌) C 1 6 0 3
鳳卿(ほうけい・小林) → 西岳(せいごく・小林こばやし、藩儒) 2 4 9 0
鳳卿(ほうけい・平井/成島) → 錦江(きんこう・成島なるしま、幕臣/儒/歌) 1 6 6 1
鳳卿(ほうけい・津田) → 梧岡(梧崗ごこう・津田つた、漢学/史学) G 1 9 4 7
鳳卿(ほうけい・池田) → 東籬亭菊人(とうりていきくひと、池田、官人/読本) 3 1 2 7
鳳景(鳳溪ほうけい) → 宝景(ほうけい;法諱・東海、真宗僧) F 3 9 0 2
鳳兮(ほうけい・大石) → 眞麿(まさまろ・大石/魚住、藩士/史家) H 4 0 3 2
鳳兮(ほうけい・大内) → 余庵(よあん・大内/多々良、医者/地誌) 4 7 5 0
豊敬(ほうけい・奈古屋) → 豊敬(とよたか・奈古屋なごや、藩士/藩学振興) R 3 1 2 2
鵬卿(ほうけい・帆足) → 万里(ぼんり・帆足ほあし、藩士/儒者) I 3 6 6 4
豊継(ほうけい・阿倍) → 豊継(とよつぐ・阿倍朝臣、万葉歌人) R 3 1 2 7
豊経(ほうけい・水無瀬) → 豊経(とよつね・水無瀬みなせ、神職/国学) W 3 1 5 7
豊珪(ほうけい・高橋) → 豊珪(とよあき・高橋たかはし、劍術/書家) V 3 1 6 5
豊敬(ほうけい・山内) → 豊敬(とよゆき・山内やまのうち、国学/歌人) W 3 1 8 1
彭卿(ほうけい・辻) → 玄通(げんつう・辻つじ、医者) L 1 8 4 9
望卿(ほうけい・三輪) → 東朔(とうさく・三輪みわ、医者) E 3 1 4 8
房経(ほうけい・一条) → 房経(ふさつね・一条いちじょう、廷臣/歌) C 3 8 1 6
房継(ほうけい・荒木田) → 房継(ふさつぐ・荒木田、神職/歌人) C 3 8 1 4
匏形庵(ほうけいあん→瓠形こけい庵2世) → 雄淵(ゆうえん・大場、俳人) 4 6 8 0
芳桂院(ほうけいいん) → 繁子(しげこ・遠藤えんどう/堀、藩主室/歌) N 2 1 5 5
芳契子(ほうけいし) → 壽庵(じゅあん・竹内たけうち、医者/真宗僧) W 2 1 4 3
望鯨環水(ほうけいかんすい) → 良文(好文よしふみ・藤井ふじい松林、藩絵師) O 4 7 8 6
鳳恵忠階(ほうけいちゅうかい) → 羅城(らじょう;号・恵階;法諱、真宗僧/俳人) B 4 8 3 9
邦傑(ほうけつ・長谷川) → 宗右衛門(そうえもん・長谷川/松崎、藩士/勤王) G 2 5 3 0

F3983 **宝月**(ほうげつ;道号・元光げんこう;法諱、俗姓:東条)?-1743 河内の黄檗僧;法源道印門;侍者、1705法源道印の嗣法、1715撰津東成郡の邦福寺住持、遠州引佐郡瀬戸村の宝林寺8世、「載道集」「宝月光和尚語録」著、柏庭元意の弟

宝月(ほうげつ→ほうがつ) → 宝月(ほうがつ;法諱・円珠房、真宗学僧) 3 9 2 9
宝月(ほうげつ;号) → 雲堂(うんどう;法諱・乗音、真言僧) E 1 2 0 1
宝月(ほうげつ;字) → 普明(ふめい/ふみょう;法諱・宝月、真宗僧) E 3 8 1 2
法月(ほうげつ) → 文晔(ぶんげつ;法諱・藁井、真宗僧/俳人) F 3 8 0 4
蓬月(ほうげつ・竹腰) → 正美(まさよし・竹腰たけのこし、藩主/詩歌) I 4 0 6 8
抱月(ほうげつ;号) → 晃溪(こうけい;法諱、僧/国学/歌人) Q 1 9 7 9
抱月[館](ほうげつ[かん]) → 長秋(ながあき・帆足ほあし、神道/歌学) D 3 2 1 0
茅月園守丸(ほうげつえんもりまる) → 凌雲亭和海(りょううんていわかい・佐羽さば重久、狂歌) G 4 9 4 1
峰月居(ほうげつきよ) → 心非(しんび;号・東儀、幕臣/俳人) 2 2 7 0
望月齋(ほうげつさい) → 好之(よしゆき・桑山くわやま、製造業/郷土史) H 4 7 9 9
望月亭(ほうげつてい) → 幽軒(ゆうけん・溝口みぞぐち、藩士/詩歌) B 4 6 4 4
芳月堂(ほうげつどう・文角) → 流宣(とものおぶ・石川、絵/浮草子/俳人) Q 3 1 1 9
芳月堂(ほうげつどう) → 政信(まさのぶ・奥村、絵師/俳人) F 4 0 6 4

F3904 **法賢**(ほうげん;法諱・乗相院;号)1770-184980 越中新川郡浜黒崎法蔵寺の生;金沢慶覚寺で養育、加賀石川郡宮腰の真宗妙覚寺住僧:1842擬講/49嗣講、1814「教行信証大意」、「御文玉全」、1816「一枚起請法賢録」、「建法鈔」「往生礼讃法賢記」「持名鈔法賢録」「唯識諸部玄談」外著多

- F3905 **鳳健**(ほうけん;法諱・光隆こうりゅう;字)?-1854 大和長谷寺の真言学僧、
1848「因明入正理論科註照量記」、「因明入正理論科註玄談」「西谷名目玄談」、
「唯識三類境科文」「略撰八転義講義余散」「西谷名目有体無体辨」「具舎函記」外著多数
方軒(ほうけん・丹羽) → 思亭(してい・丹羽)にわ、儒者/家塾教育) V 2 1 1 8
芳軒(ほうけん・木内) → 子陽(しやう・木内きうち、漢学/詩人) Q 2 2 6 6
邦頭(ほうけん・田村) → 邦頭(くにあき・田村たむら、藩主) E 1 7 2 8
蓬軒(ほうけん・戸田) → 忠敏(ただたか・戸田、藩政改革/歌人) F 2 6 2 4
法賢(ほうけん/ほっけん) → 道章(どうしょう;法諱・悦峰、渡来黄檗僧) F 3 1 4 6
- F3907 **法源**(ほうげん;法諱、禪師)? - ? 鎌倉後期-南北期僧、歌人:京極為兼と交流、風雅集2095、
[降りにける雪のみ山はあともなしたれ踏み分けて道をしるらん](風雅;釈教2095)、
(為兼の返歌;しるべする雪のみ山のけふにあひてふるきあはれの色をそへぬる)
- F3908 **法源**(ほうげん;道号・道印どういん;法諱、後水尾天皇皇子)1651-1730⁸⁰ 初め真言僧/のち黄檗僧、
1660(10歳)京泉涌寺で出家:天圭照周門/黄檗僧;木庵性瑠門/万福寺独湛性瑩門;嗣法、
1711遠州実性寺開/14宗円寺中興、「法源和尚兼弘録」「法源和尚和歌」「法源禪師初山録」著
- F3909 **鳳原**(ほうげん・杉本) 1712 - 1784⁷³ 江中期京の俳人:俳諧作法書編纂、
1777「那舞登屋羅」編/83「梅勸進帳」編、
[鳳原(;号)の別号]春雄房/青々庵/空華山人くうげさんじん
- F3910 **逢原**(ほうげん・岡野おかの、名;行従)1775-1820⁴⁶ 常陸の儒者:水戸藩儒立原翠軒門/水戸藩出仕、
1797彰考館入/1801郡奉行、「逢原文集」「逢原詩集」「逢原雜彙」「逢原堂蔵書目録」外著多数、
[逢原(;号)の字/通称/別号]字;子言、通称;庄五郎、別号;逢原堂
逢源(ほうげん;初法諱) → 宗源(そうげん;法諱・雙峰;道号、臨濟僧) B 2 5 2 8
邦彦(ほうげん) すべて → 邦彦(くにひこ)
方玄(ほうげん・浅野) → 鹿古(しかふる・浅野あさの、藩士/俳人) P 2 1 8 4
房頭(ほうげん・野坂) → 房頭(ふさあき・野坂、神職;棚守、連歌) B 3 8 9 6
房愆(ほうげん・樋口) → 泉(いずみ・樋口ひぐち/岩佐、和算家/歌) K 1 1 5 8
- F3911 **房玄**(ほうげん;法諱、通称;中納言法印)?-1351 真言僧:1307醍醐地蔵院親玄より灌頂を受、
唯一奥秘を授与;深賢伝受の聖教・道教相承の秘軌密蔵を譲与される、醍醐地蔵院流の祖、
醍醐山清浄光院住;大僧都/のち鎌倉遺身院門跡、「醍醐地蔵院日記」「灌頂印明口決」著、
「灌頂雜事」「五色糸事」「御前加持香水作法説々ノ事」著
芳言院(ほうげんいん) → 頼寧(よりやす/よりさと・内藤ないとう、藩主/詩) J 4 7 9 1
宝源院(ほうげんいん) → 藤子(ふじこ・池田いけだ/黒田、藩主室/歌) H 3 8 9 7
鳳源院(ほうげんいん) → 長治(ながはる・浅野あさの、藩主/紀行) F 3 2 3 6
逢源斎(ほうげんさい) → 宗左(初世そうさ・千せん、江岑宗左/茶人) B 2 5 5 4
亡元子(ほうげんし) → 良保(りょうほ・片桐、俳人) J 4 9 4 2
逢原叟(ほうげんそう・沼尻) → 修平(しゅうへい・沼尻ぬまじり、書家) Y 2 1 3 0
忘言亭(ほうげんてい) → 休明(保明やすあきら・鷺見すみ、藩士/歌人) 4 5 8 8
逢原堂(ほうげんどう) → 逢原(ほうげん・岡野おかの、儒者/藩士) F 3 9 1 0
逢原堂(ほうげんどう) → 尚準(ひさのり・数江かずえ/脇坂、国学/歌) J 3 7 0 3
- F3912 **方壺**(ほうこ・大沢おおさわ) ? - ? 江戸中期江戸の俳人:蓼太門、1768「百韻」著、
[方壺(;号)の通称/別号]通称;藤九郎、別号;徐庵
- F3913 **方湖**(ほうこ) ? - ? 近江八幡の俳人;1777江涯こうがい「仮日記」2句入、
[雉子きじ雲雀日は静かなり野路のぢの里](仮日記;115/前書;野路の篠原にて)
(近江草津の歌枕/野路の玉川の萩が有名)
- F3964 **蓬壺**(ほうこ・高島たかしま、別号;清月楼蘆舟、医者古尋ことく[柳梨翁蘆舟]男)1747-1815⁶⁹歳
安藝御手洗みたらいの俳人、句集「枕の塵」著、1799志隆「還曆祝賀帳」入
- F3914 **方壺**(ほうこ・竹村たけむら、通称;又右衛門、別号;三山亭)1762-96³⁵ 遠江入野の農業;富農/俳人、
蝶夢のパトロン;蝶夢「遠江の記」刊行の費用を負担、1786「遠江の記」3句入/跋文、
[橋かけてそのあと見せよ帰るかり](遠江の記;6/消失した浜名の橋の面影を見たい)
- F3915 **方壺**(ほうこ・佐々木ささき、名;礼、六郎男)?-1833 70歳没 播磨明石の儒者:幼児期に父没、

筑前の亀井南冥門、身延山で仏法を修得/津軽藩士内田家に養育/母方の渡辺氏を称す、各地遍歴/木曾福島代官山村蘇門に招聘され郷校を修す、詩・書を嗜む、榊原滄洲と親交、1813「忘形集」、「方壺集」著、

[方壺(；号)の字/通称]字；伯高/伯厚、通称；槍之助/渡辺礼司・渡辺辺司

F3965 **方平**(ほうへい・坪屋つばや、通称；弥三郎、別号；一水) ?-? 安藝広島商家/俳人；篤老と親交、1818「四国日記」著、[拜殿を料理場にする花見かな](江左「うるふくさ」入/一水号)

蓬壺(ほうこ・伊東) → 華山(かざん・伊東いとう、儒/医者) L 1 5 7 1
蓬壺(ほうこ) → 久米満(くめまる・大友、歌人) D 1 7 4 7
蓬壺(ほうこ) → 団斎(だんさい・麦笠庵、俳人) I 2 6 7 4
蓬壺(ほうこ・橘) → 守部(もりべ・橘、国学者/歌人) 4 4 2 8
蓬壺(ほうこ・大友) → 久米満(くめまる・大友おおとも、歌人) D 1 7 4 7
蓬壺(ほうこ) → 磐主(いわぬし・船曳ふなびき、神職/国学) B 1 1 8 4
蓬壺(ほうこ・中島) → 竜橋(りゅうきょう・中島なかじま、藩士/儒者) D 4 9 3 6
方壺(ほうこ・平栗) → 徳馨(とくけい・平栗ひらぐり、歌・俳人) K 3 1 6 0
方壺(ほうこ・円山) → 応立(おうりゅう・円山まるやま/源、絵師) C 1 4 7 2
方壺(ほうこ・菊池/関口) → 衡岳(こうがく・菊池、藩儒/詩人) 1 9 8 5
方壺(ほうこ・三島) → 景雄(かげお・三島、商家/国学/歌人) 1 5 6 6
法古(ほうこ・高田) → 法古(のりひさ・高田たかた、藩士/国学/歌) F 3 5 5 2
抱古(ほうこ・中里) → 千族(ちえだ・中里なかざと、神職/歌人) N 2 8 1 5
邦古(ほうこ・樋口) → 邦古(くにひさ・樋口ひぐち、国学/文筆家) D 1 7 1 2
芳虎(ほうこ・歌川) → 芳虎(よしとら・歌川うたがわ/永島、絵師) F 4 7 1 1
芳澣(ほうこ・青地) → 林宗(りんそう・青地あおち、医者/翻訳) K 4 9 6 2

F3916 **鳳梧**(ほうご・一井いちのい、名；光宣、一色いっしき久徳男) 1615-1731長寿117歳 出雲松江の儒者；林羅山門、諸侯に出仕したが辞去し摂津・大和に隠棲/大阪両替町で開塾；門弟千人以上、著述を好まず；門人が筆録；「鳳梧論説」、[鳳梧(；号)の字/別号]字；桐助、別号；桐梧/攸斎ゆうさい

F3917 **保悟**(ほうご；字・奥野おくの、名；良弘) ?-1758 摂津平野の歌人；烏丸家で修学、法橋、「紀の路のつと」「瑞森拾葉」「初瀬登詣記」「法橋奥野保悟記」著

F3918 **鳳五**(ほうご) ? - ? 山城伏見の俳人；1776樗良「月の夜」/77江涯「仮日記」入、[呵しかる気の母も穂に出て踊かな](俳諧月の夜；180/穂に出るは秘めた本性が出る)

F3919 **法護**(ほうご；法諱・豊峰じょうほう；字、俗姓；井上) 1736-180166 河内若江郡森河内の生、真言僧；河内長栄寺の飲光[慈雲尊者]門；出家、師を補佐し河内高貴寺を正法律一派の総本山とする/のち京の阿弥陀寺住、「梵学津梁」、「人となる道随行記」「梵文般若心経釈」「略攝八転義法護録」/1795「梵文阿弥陀経義釈」著

保悟(ほうご・田中) → 保悟(ほご・ほうご・田中たなか、歌人) G 3 9 1 2
豊吾(ほうご・山瀬) → 遊圃(ゆうほ・山瀬やませ、藩士/文筆家) D 4 6 7 6
鳳梧(ほうご・向井) → 元成(げんせい・向井むかい、儒者/医/俳) E 1 8 2 7

F3967 **望湖**(ぼうこ) ? - ? 京俳人；淡々門、1728柳岡「万国燕」2句入

反古庵(ほうごあん) → 天来(てんらい・牧岡まさおか、俳人) E 3 0 5 3
反古庵(ほうごあん) → 左逸(さいつ・浅見あさみ、医者/俳人) G 2 0 9 6
反古庵(ほうごあん；俳名) → 団十郎(5世だんじゅうろう・市川、歌舞伎役者) I 2 6 3 1
法悟院僧正(鳳梧院-ほうごいんのそうじょう) → 頼我(らいが；法諱、真言僧) 4 8 2 5

F3920 **方孝**(ほうこう・川崎かわさき) ? - ? 江前期大阪の俳人；立圃門、

1661立以「烏帽子箱」入、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、

[下は上につきしたがふや冢餅いのこもち](手鑑/十月冢の日の餅は邪気を払う)

妻；方女も俳人 → 方女(ほうじょ・川崎) B 3 9 6 9

3953 **鳳岡**(ほうこう・林はやし、鸞とう/信篤、鸞峰男) 1644-173289 母；羽田庄兵衛至政女、儒者；父・兄梅洞門、幕府儒官/1664將軍家綱に拝謁/父・兄を助け「本朝通鑑」編、1680兄没；林家りんげ3代家督、1687大蔵卿法印；弘文学士の号を受/昌平坂聖堂造営に尽力；聖堂預/祭酒/諸太夫、小姓組番頭格歴任/大学頭を称す；従五下、以後林家は祭酒職・大学頭を世襲、1724致仕、

1668「梅洞林先生全集」69「赤石八景詩」70「本朝通鑑提要」86「武徳大成記」88「春風馬頌」、
 1689「鷲峰全集」編、97「源忠房宅新築壽詩」1705「市兵衛記」11「韓客贈答別集」、
 1719「韓客贈答」、「駿河草」「鳳岡日記」「鳳岡林学士集」「學問筆記」「見禰山賦」「袖中東海」、
 「武家諸法度審査定」「三河記」「玉音集」「儒家詩卷」、「鳳岡林先生全集」(息榴岡編)外著多、
 1690南部家桜田邸詩歌會參加、

[南凱吹き晴らして新月孤なり 四檐しんの余滴有りて無きが如し、

梅霖霈あめを収めて紅暑を洗ふ 雲掛かかつて涼を招く 一顆いつくわの珠たま]

(桜田邸詩歌;雨後夏月/南凱;爽かな南の夏風/四檐;屋根の四方の軒/花露を珠と喩、
 対する歌は主催者南部重信)、

[鳳岡(;)号)の字/通称/別号]字;直民、通称;又四郎、

別号;整宇/拙々斎/鷄窓居/徐于子/橋隱亭主人、諡号;正猷、榴岡・確軒の父

F3921 鳳岡(ほうこう・中村なかむら、独有男)1680-175677 豊後日田豆田町の町年寄/俳人:孟遠・淡々門、
 日田俳壇の有力者、斗梁・巴江と親流、1717「許去論評解」36「俳諧及第集」、「正風和讃」著
 [鳳岡(;)号)の通称/別号]通称;平太夫、別号;太山夫/後松軒/自在庵/樸花人、法号;釈法香

- | | | | |
|-----------------|---|-----------------------------|-----------|
| 法興(ほうこう・荒木田) | → | 法興(のりおき・荒木田、神職) | E 3 5 3 1 |
| 法興(ほうこう→ほっこう) | → | 法興(ほっこう;法諱、浄土宗山派西谷流祖) | E 3 9 6 3 |
| 法高(ほうこう;字) | → | 闡揚(せんよう;法諱・法高;字、真宗僧) | N 2 4 1 9 |
| 鳳岡(ほうこう・関) | → | 思恭(しきょう・関せき/伊藤、書家/藩士) | B 2 1 6 2 |
| 鳳岡(ほうこう・高宮) | → | 環中(かんちゅう・高宮たかみや、医者/国学) | G 1 5 5 3 |
| 鳳岡(ほうこう・松平) | → | 頼胤(よりたね・松平まつだいら、藩主/幕政) | P 4 7 2 4 |
| 宝鬘(ほうこう;法諱) | → | 晦翁(まいおう;道号・宝鬘、黄檗僧) | 4 0 4 2 |
| 包高(ほうこう・立花) | → | 包高(かねたか・立花、藩家老/家譜) | O 1 5 5 8 |
| 包高(ほうこう・宇井) | → | 包高(かねたか・宇井うい、神職) | T 1 5 7 3 |
| 包鬘(ほうこう・神尾) | → | 包鬘(かねたか・神尾かみお、幕臣/記録) | O 1 5 5 7 |
| 包広(ほうこう・前野) | → | 包広(かねひろ・前野まえの、国学者/歌) | O 1 5 8 9 |
| 包弘(ほうこう・野々山) | → | 包弘(かねひろ・野々山のやま、家令/歌人) | S 1 5 9 1 |
| 包好(ほうこう・夏目) | → | 包壽(ほうじゅ・夏目なつめ、商家/俳人) | B 3 9 3 1 |
| 包荒(ほうこう・寺本) | → | 湖萍(こひょう・寺本てらもと、郷土史家) | N 1 9 5 3 |
| 方広(ほうこう・爾時庵) | → | 沂風(きふう・塩路、真宗僧/俳人) | B 1 6 7 3 |
| 方弘(ほうこう・城崎) | → | 方弘(まさひろ・城崎しろさき、和算家) | G 4 0 9 6 |
| 方皓(ほうこう・鹿田) | → | 正明(まさあき・鹿田しかた、洋式兵学/藩士) | B 4 0 0 9 |
| 峯行(ほうこう・青木) | → | 峯行(みねゆき・青木あおき、藩医/国学) | H 4 1 9 9 |
| 邦孝(ほうこう・新井) | → | 邦孝(くにたか・新井あらい、幕臣/故実家) | C 1 7 8 2 |
| 邦孝(邦考ほうこう・池上) | → | 邦孝(邦考くにたか・池上いけがみ、商家/国学) | E 1 7 0 0 |
| 邦孝(ほうこう・和田) | → | 邦孝(くにたか・和田わだ、酒造業/歌人) | E 1 7 6 1 |
| 邦光(ほうこう・新田) | → | 邦光(くにてる・新田にった、神道家) | C 1 7 9 5 |
| 邦光(ほうこう・但馬/田結荘) | → | 千里(ちさと・田結荘たゆいのしょう/但馬、蘭学/砲術) | B 2 8 9 6 |
| 邦光(ほうこう・奥村) | → | 邦光(くにみつ・奥村おくむら/橋、神職/歌人) | E 1 7 0 9 |
| 邦行(ほうこう・田村) | → | 邦行(くにみち・田村たむら、藩主/藩政改革/歌) | D 1 7 8 1 |
| 逢侯(ほうこう・渡辺) | → | 松塙(しょう・渡辺わたなべ、和漢学/詩人) | G 2 2 9 4 |
| 彭康(ほうこう) | → | 胤康(いんこう、曹洞僧/勤王討幕) | I 1 1 5 4 |
| 芳公(ほうこう) | → | 清誉(せいよ;法諱、浄土僧/連歌作者) | D 2 4 0 4 |
| 芳香(ほうこう・片岡) | → | 芳香(よしか・片岡かたおか、藩士/歌人) | M 4 7 2 0 |
| 芳綱(ほうこう・歌川) | → | 芳綱(よしつな・歌川うたがわ/田辺、絵師) | E 4 7 7 2 |
| 芳衡(ほうこう・木村) | → | 芳衡(よしひら・木村きむら/堀江、藩士/歌) | M 4 7 4 1 |
| 豊光(ほうこう) すべて | → | 豊光(とよみつ) | |
| 豊厚(ほうこう・稲葉) | → | 豊厚(とよあつ・稲葉いなば、藩士/歌人) | U 3 1 2 6 |
| 豊綱(ほうこう) すべて | → | 豊綱(とよつな) | |
| 芳郷(ほうこう・光隣) | → | 光隣(こうりん・芳卿、臨濟僧) | C 1 9 0 7 |

- F3922 **忘光**(ほうこう;法諱・慧亮えりょう;道号) ?-? 江後期曹洞僧;慧倫玄亮門、江戸駒込吉祥寺梅檀林寮司、武州万福寺住持、1835「正法眼蔵玄談科釈」著
- 望行(ほうこう・紀) → 茂行(もちゆき・紀き、廷臣/歌人) B 4 4 7 6
 房光(ほうこう・桜井) → 房光(ふさみつ・桜井さくらい、国学/勤王/) I 3 8 3 0
 暮雨巷(初世ほうこう) → 暁台(きょうたい・加藤、俳人) 1 6 3 6
 暮雨巷(2世ほうこう) → 臥央(がおう・桜田、医者/俳人) B 1 5 1 5
 暮雨巷(3世ほうこう) → 帯梅(たいばい・村瀬、商家/俳人) C 2 6 0 6
 暮雨巷(4世ほうこう) → 曾洛(そらく・照井、俳人) E 2 5 4 5
 法光院(ほうこういん;諡号) → 智教(ちきょう;法諱、真宗仏光寺派僧) C 2 8 4 1
 豊功院(ほうこういん) → 静山(せいざん・松浦まつら、藩主/儒/詩歌) B 2 4 7 6
 法興院撰政(ほうこういんのせつしょう) → 兼家(かねいえ・藤原、撰関、歌) 1 5 5 9
 蓬蒿園(ほうこうえん) → 蘋亭(ひんてい・宇佐美うさみ、藩士/儒/詩) 3 7 3 8
 法光円融禪師(ほうこうえんゆうぜんじ) → 峻翁(しゅんおう;道号・令山;法諱、臨濟僧) L 2 1 7 1
 芳蒿軒(ほうこうけん) → 兼行(かねゆき・英保あぼ、歌人) P 1 5 0 2
 放曠子(ほうこうし) → 貞柳(ていりゅう・鯛屋/油煙斎、狂歌) 3 0 0 9
 忘巷子(ほうこうし・河野) → 春察(しゅんさつ・河野こうの、儒者) K 2 1 7 8
 法光大師(ほうこうだいし) → 真雅(しんが;法諱、空海の弟/真言僧) D 2 2 6 1
 宝光知証禪師(ほうこうちしょうぜんじ) → 曇英(どんえい;道号・慧応えおう、曹洞僧) S 3 1 0 2
 蓬香亭(ほうこうてい) → 道考(どうこう・芦屋、陰陽家) E 3 1 0 2
 豊興堂(ほうこうどう・堂号) → 小左衛門(初世こざえもん、中野、書肆) F 1 9 6 3
 浅鴻道人(ほうこうどうじん) → 教遵(きょうじゆん;法諱・桂巖;字、真宗僧) N 1 6 9 9
 法興房(ほうこうぼう;号) → 惟首(ゆいしゅ;法諱・法興房、天台座主) 4 6 3 5
 法光明院(ほうこうみょういん) → 然空(ねんくう;法諱、浄土僧) 3 4 6 2
 暴虎鬼(ぼうこき) → 重胤(しげたね・鈴木/穂積/源、国学/歌) 2 1 1 2
- F3923 **方毅**(ほうこく・牧田まきた) ? - ? 江中期大和郡山藩士、1768刊「四声国字通」著
- F3924 **方谷**(ほうこく・山田やまだ、名;球きゅう、重英男/本姓;源) 1805-7773 備中阿賀郡西方の農業/製油業、母;西谷信敏女の梶、5歳で儒学;新見藩儒丸川松隠塾に入門/1818母と19父と死別;家督嗣、篤学者;1825備中松山藩主板倉勝職かつねに召出され仕官/27上洛し寺島白鹿門、帰藩;藩校有終館会頭/1832江戸の佐藤一斎門;塾頭、36有終館学頭/37私塾牛麓社を開塾、1849藩の会計元締兼吟味役;財政改革に尽力/士風刷新、名声を慕う者多数/61致仕、1862藩主板倉勝静の老中就任に随い江戸で顧問;難局に対処/閑谷学校再興に尽力、「古本大学講義」「詩経講義」「中庸講義」「詩門問辨録」「方谷翁詩文鈔」、「方谷遺稿」外著多、その学は王陽明学より出て子弟には程朱を以ってし実学経綸に帰す、[方谷(;号)の幼名/字/通称/法号]幼名;阿隣、字;琳卿りんけい、通称;安五郎、法号;方谷院
- F3925 **鳳谷**(ほうこく・林はやし、名;信武/信言、榴岡りゅうこう男) 1721-7353 幕府儒官;1738中奥小姓次席、1747従五下図書頭/53大学頭/57家督;林家5代、鳳池の兄、竜潭の父、1742「越後孝婦伝」、1756「和州孝子伝」60「宝暦庚辰慶賀章」62「近代撰関略譜」、「鳳谷夜話」「酒徳解」、「松風亭随筆」「聖堂御成記集録」「東武列朝婦女系譜」「本朝事物権輿考」外著多数、[鳳谷(;号)の字/通称/別号]字;士恭/子恭/士雅、通称;泰助、別号;松風亭、諡号;正貞
- 3976 **鳳谷**(ほうこく・小野寺おのでら、名;篤謙) 1810-6657 儒者/陸前松山邑主茂庭家家臣/石巻で子弟教育、仙台藩に招聘され養賢堂漢学指南役/海防殖産に尽力;各地視察、鑄砲造艦に当る、詩・書画を嗜む、「鳳谷詩文集」/1832「北遊余興」33「遊奥紀程」53「北遊日記」「北遊日箋」著、1855「蝦夷海陸路程全図」「松前蝦夷道中細見記」/58「開成丸航海日誌」、「石港雑詠」外多数、[鳳谷(;号)の字/通称] 字;君鳴、通称;謙治/謙吾/謙
- 方毅(ほうこく・平野) → 広臣(ひろおみ・平野ひらの、医者/国学) I 3 7 3 3
 法国(ほうこく;号) → 浄空(じょうくう;法諱・慈潭、真言僧) G 2 2 2 7
 逢谷(ほうこく・箕作) → 阮甫(げんぼ・箕作みつくり、蘭学者/幕臣) D 1 8 0 3
 報国恩舎(ほうこくおんしゃ) → 与清(ともきよ・小山田/高田、国学) 3 1 6 0
 奉国史翁(ほうこくしおう) → 眞龍(まこと・内山うちやま、国学者) 4 0 3 0
 豊国大明神(ほうこくだいみょうじん) → 秀吉(ひでよし・豊臣/羽柴、武将/天下統一) 3 7 1 0

- 方五斎(ほうごさい) → 美信(よしのぶ・三坂/三阪みさか、心学者) F 4 7 6 4
 鳳梧斎(ほうごさい) → 元成(げんせい・向井むかい、儒者/医/俳) E 1 8 2 7
 反古斎(ほうごさい) → 果然(かぜん・尾雨亭、俳人) C 1 5 2 7
 忘吾斎(ほうごさい) → 宗因(そういん・西山、連歌/俳人) 2 5 0 3
 望呉山撫(ぼうごさんしゅう) → 礼之(のりゆき・何[か]、洋学者) G 3 5 1 7
 方壺山人(ほうこさんじん) → 武然(ぶねん・望月もちづき、書家/俳人) D 3 8 6 0
 方壺子(ほうこし) → 応震(おうしん・円山まるやま/源、絵師) C 1 4 5 5
 忘吾子(ほうこし) → 宗因(そういん・西山/西、俳人/連歌) 2 5 0 3
 忘居士(ほうこじ) → 青人(あおんど・上島うえじま、俳人) 1 0 5 4
 蓬戸亭(ほうこてい) → 壺仙(こせん・森もり/山村、商家/俳人) M 1 9 9 7
 蓬壺堂(ほうこどう) → 直見(なおみ・須賀すが、国学/歌人) C 3 2 5 3
 方五郎(ほうごろう・小林) → 正永(まさなが・小林、幕臣/紀行文) F 4 0 2 8
- G3949 宝巖(ほうごん;法諱) ? - ? 南北期;僧/沙弥、
 歌人;1375頃細川家(頼之)奉納[大山祇神社百首和歌]出詠、
 [吹く風に乱るる露の玉やなぎいとくれがたき春雨の空](大山祇百首;7/春雨)、
 [荻の葉に吹く風のみか置く露の袂をかけて秋は来にけり](同;32/早秋)
- 3977 宝巖(ほうごん;法諱・光竜;字、初称;宝岩覚竜) 1703-5351 真言律僧:武蔵川越福智庵寂法門;出家、
 1727江戸霊雲寺入;慧曦門/衣鉢戒を・1739進具戒を受、下総海上郡荒野村の松林庵3世、
 武州福智庵2世、「福智開基寂法和上傳」/1742「深信信解遇裁」43「因明大意」外著多数
- 3978 宝巖(ほうごん;法諱・智定;字、横田安右衛門男) 1793-186371 武蔵足立郡伊興村の真言律僧:
 1802(10歳)江戸の蔵春庵大雲門;出家/1813大雲の示寂により蔵春庵住職、
 1815円海より衣鉢戒を・28常照より大苾芻戒を受、29江戸霊雲寺蓮光院住/33霊雲寺11世、
 「淵魚堂日記」/1810「大日経疏伝授目録」21「秘密儀軌伝授録」著、
 1843「安流普通伝授聞書」外著多数、
 [宝巖の号]淵魚/円居堂
- 3979 宝巖(ほうごん;法諱・善永;号)?-? 江後期讃岐の真宗大谷派僧:西法寺住/美濃西円寺転住、
 1784高倉学寮司/1803異義を指摘され鳳嶺に教誡されて回心状提出、
 1781「興復記」90「抉膜編」、「帰命本願訣」「浄土真宗本尊義記」「浄土真宗来迎義」外著多数
- 宝巖(ほうごん;字・鏗啓) → 鏗啓(げんけい;法諱・宝巖、真言僧) H 3 6 5 0
 法巖(ほうごん) → 的門(てきもん;法諱、浄土僧) C 3 0 0 8
- 3980 房巖(ほうごん;法諱) ? - ? 京の真言宗広隆寺僧:権少僧都、
 歌人:新後撰670・1156
 [秋深く時雨るる西の山風にみなさそはれてゆく木の葉かな](新後撰;釈教670)
 法金剛院御室(ほうこんごういんのむろ) → 承道法親王(しょうどうほっしんのう、真言仁和寺僧) R 2 2 6 5
 豊魂霊神(ほうこんれいしん;神号) → 知直(ともなお・藤塚ふじつか、神道家) Q 3 1 0 0
 鳳佐(ほうさ・北原) → 信維(のぶこれ・北原きたはら、国学・歌人) I 3 5 2 0
- 3981 方斎(ほうさい・安原やすはら、名;希曾/寛、善平男) 1736-180166 近江高島郡南市村の儒者;兄霖寰門、
 江戸に遊学/兄の命で近江大溝藩儒中村鸞溪の養子;学統合わず1年で辞退/1771昌平鸞入、
 1787啓事役/1791伊勢久居藩儒、「煙草録」「兵学須知」「新雜纂」「紀効新書撮解」著、
 [方斎(;号)の字/通称]字;三吾/三平、通称;富次郎、安原霖寰(りんかんの)の弟
- 3982 抱臍(ほうさい・含笑舎がんしゅうしゃ、桑田くわた、字:貞一/通称猪兵衛)?-1807 備後沼隈山南富裕農家、
 文筆家/謡曲/狂歌、1787「阿伏兔土産」、1798「狂歌すまひ草」編/1804「西都紀行」
- 3954 鵬斎(ほうさい・亀田かめだ、名;翼/長興、万右衛門男/母;秀) 1754-182673 江戸神田の商人の家の生、
 儒/折衷学;井上金峨門、駿河台に楽群堂を開塾;徂徠学を批判、寛政異学の禁に反論;
 異学の五鬼の1、1797楽群堂閉鎖;下谷に移住、信越に長期遍歴;多くの書画を残す、
 1779「論語撮解」徂徠批判、1807「孝経楼詩話」18「国字孝経」22「鵬斎先生詩鈔」、
 1822「鵬斎先生文鈔」、「善身堂詩鈔」「善身堂文鈔」「鵬斎日誌」「鵬斎日誌」外著多数、
 [鵬斎(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;弥吉、字;凶南/公竜/穉竜、通称;文左衛門、
 別号;善身堂、
 門流;井上金峨→亀田鵬斎 一 日尾荊山

- 3983 **方齋** (芳齋ほうさい・林はやし、名; 隆久/字; 道甫) 1795-1846⁵² 羽後角館儒者/1835秋田藩校詰役支配、1845藩校明德館助教、詩/画、「方齋先生遺説」、白土恵堂の師、
[方齋(芳齋)の通称/別号]通称; 久平、別号; 旭川きよくせん
- 3984 **芳齋** (ほうさい・長野ながの、名; 誠、月形つきがた鷗窠しょうか男) 1808-91⁸⁴ 筑前福岡藩士/儒者; 藩儒の父門、朱子学、長野金十郎の養子/1836学問所指南加勢見習/藩主家譜編輯手伝/学問所指南役、国学・皇典・兵法も修得、藩校修猷館の文学教授、のち維新後; 香椎宮権宮司、「五卿迎送始末記」「福岡啓藩誌」著、岡部謙ことの師、
[芳齋(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名; 牧之助、字; 叔達、通称; 和平、別号; 矯堂/佩絃/短齋
- 3985 **芳齋** (ほうさい・青木あおき、名; 馨、湯浅弥平男) 1832-1905⁷⁴ 武州多摩の農家の次男、武州相原の医者青木得庵の養嗣子、医; 秋山義方門/蘭学; 緒方洪庵の適塾入門、1858徳庵の娘と結婚; 医を開業、養父と牛痘種法普及に尽力、自らの鑄造活字で蘭書出版、「和蘭文法書」「扶氏濟生三方附医戒」「砲術書」著、
[芳齋(;号)の字/通称/別号]字; 君徳、通称; 弥十/弥平、別号; 晚香園/自然窟、法号; 鶴翁院
- 3986 **哀齋** (ほうさい・長戸ながと、名; 謙、得齋男) 1834-63³⁰ 江戸築地の儒者; 林壮軒門、1859-61「清川孫詩文稿」校訂(清川孫は清川きよかわ玄道げんどう)、
[哀齋(;号)の字/別号]字; 子謙、別号; 桂里
- 3987 **方齋** (ほうさい・田子たご、別号; 方升) ?-? 江後期儒者; 朝川善庵門、「小泉襍話ざつわ」編
- | | | | |
|----------------|---|-------------------------|-----------|
| 舩齋 (ほうさい・逸見) | → | 在綱(ありつな・逸見へんみ、医者/勤王派) | F 1 0 4 4 |
| 芳齋 (ほうさい・江左) | → | 尚白(しょうはく・江左/塩川、医者/俳人) | 2 2 0 3 |
| 芳齋 (ほうさい・植田) | → | 方隣(みちか・植田うえだ、商家/国学者) | I 4 1 1 8 |
| 芳齋 (ほうさい・橘) | → | 母理美(母理躬もりみ・橘たちばな、歌人) | K 4 4 4 9 |
| 豊齋 (ほうさい) | → | 稲坡(とうは・松岡、藩士/俳人) | G 3 1 9 0 |
| 豊齋 (ほうさい) | → | 鷹鷹(たかまる・古田、庄屋/絵師/脚本) | R 2 6 4 3 |
| 豊西 (ほうさい・毛利) | → | 広漢(ひろくに・毛利もうり、藩士/儒家) | F 3 7 7 9 |
| 方齋 (ほうさい) | → | 鶯宿(おうしゆく・八木、俳人) | 1 4 4 9 |
| 方齋 (苞齋ほうさい・佐瀬) | → | 主計(かづえ・佐瀬させ/させ、藩家老/狂歌) | M 1 5 0 9 |
| 方齋 (ほうさい・太田) | → | 熊山(ゆうざん・太田おた、藩儒/詩人) | C 4 6 0 0 |
| 方齋 (ほうさい・宮原) | → | 義直(よしなお・宮原みやはら、旗本/高家/歌) | K 4 7 5 8 |
| 方齋 (ほうさい・木村) | → | 雄直(たけなお・木村きむら、国学者) | W 2 6 6 8 |
| 邦齋 (ほうさい・木村) | → | 弦雄(つるお・木村きむら、藩士/国学者) | F 2 9 6 0 |
| 法齋 (ほうさい・岩本) | → | 五一(ごいち・達摩屋初世・岩本、書肆) | E 1 9 8 2 |
| 泡齋 (ほうさい・前川) | → | 五嶺(ごれい・前川まにかわ、絵師/国事) | O 1 9 1 4 |
| 泡齋 (ほうさい・奈良) | → | 松荘(しょうそう・奈良なら、詩歌人) | K 2 2 5 6 |
| 葆齋 (蓬齋ほうさい・青根) | → | 文臣(ふみおみ・青根あおね、医者/歌人) | H 3 8 9 3 |
| 彭齋 (ほうさい・岡崎) | → | 廬門(ろもん・岡崎おかざき/平、詩人) | C 5 2 4 4 |
| 鳳齋 (ほうさい・蒔田) | → | 雁門(がんもん・蒔田まきた、儒者) | R 1 5 6 8 |
| 芳在 (ほうさい・西村) | → | 茂樹(しげき・西村にしむら、藩士/洋学者) | C 2 1 1 6 |
| 芳材 (ほうさい・森) | → | 芳材(よしき・森もり、藩士/記録) | D 4 7 0 5 |
- 3988 **忘齋** (ほうさい・堀ほり、名; 貞邦/貞高、杏庵男/本姓; 菅原) 1624-95⁷² 母; 原田貞正女、尾張名古屋藩士、父を継嗣(兄立庵が広島藩出仕のため)、1638側小姓/のち歩行頭、五十人頭/側足軽頭、藩主の側近となる、85右筆頭/93役解任; 側寄合/隠居、儒者; 父杏庵門、「厚覧草」「黄耆雜録」「三河故事」「朝林」著、立庵(安藝広島藩士)の弟/孤山の兄、貞儀の父、
[忘齋(;号)の幼名/通称/別号]幼名; 源五郎、通称; 右京/外記/勘兵衛、別号; 寒扇子/勘入、法号; 忍節院
- 3989 **懋齋** (ほうさい・人見ひとみ/本姓; 小野/修姓; 野、名; 伝、藤田清友男) 1638-96⁵⁹ 京の儒者、1658頃江戸へ、叔父の常陸水戸藩儒人見ト幽軒門; 養嗣子/さらに林鷲峰・朱舜水門、1661養父致仕; 家督継嗣、水戸藩儒3百石、1668彰考館で修史事業従事/83彰考館初代総裁、1888小姓頭; 寺社奉行兼務、「井々堂集」「春秋備考」編、1673「井詫制法」/82「名字鈔」著、

1886ト幽軒「林塘集」編、

[懋齋(；号)の字/通称/別号]字；子伝/士伝. 道設、通称；又左衛門、別号；井々堂/竹墩、

- 3990 **傍齋**(ほうさい・萱場かやば/初姓；菱沼、名；**氏章**うじあき/木工)1717-1805⁸⁹ 萱場重章しげあきの養嗣子、陸奥(陸前)仙台藩士；在職40余年；若年寄に至る、出入司の時；官倉火災で粟が焼失、隠田から歳入；財政を再建、歌・詩文・書に長ず、「伊藤節翁古談」編/1796「萱場氏上書」/97「古伝密要」「萱場氏秘録」、1798「五々の伊達絹」、「金華山祭文」「塩竈社縁起」「萱場翁思慮」外著多数、「傍齋遺文」、[傍齋(；号)の通称] 養之進/多聞/輪太夫/勘解由
- 3991 **忘齋**(ほうさい・須藤すどう、名；元衡、松本佐苗男)1775-1851⁷⁷ 羽後角館北家の家臣須藤三平の養子、秋田藩士；1795出仕；郷校弘道書院教授/1809藩校明德館教授、「烏帽子於也」著、[忘齋(；号)の字/通称/法号]字；子輿、通称；伝六/半五郎、法号；順心不越信士
- 3992 **懋齋**(ほうさい・羽生はにゅう、名；遠業)?-? 江後期和歌山藩の儒者/のち士籍を脱す、江戸住、儒；井上四明門/兵学；平山兵原門、「海防六論」「船舶考」「制度通考」「問答十案」「嫠不恤緯」著、[懋齋(；号)の通称/別号]通称；熊五郎、別号；応期
- 卯齋(ほうさい・谷川) → 士淳(ことすが・谷川、医者/神道/語学) 1 9 3 6
茅齋(ほうさい) → 白鶴(はっこう・大矢、俳人)
忘齋(ほうさい・田能村) → 直入(ちよくにゅう・田能村たのむら、絵師) K 2 8 3 2
忘齋(ほうさい・日高) → 涼台(りょうだい・日高ひだか、蘭医者/詩) I 4 9 8 0
望齋(ほうさい・村上) → 忠明(ただあき・村上、歌人/勤王家) P 2 6 1 3
懋哉(ほうさい・細野) → 亙(わたる・細野ほその、藩士、国学者) 5 3 8 7
法濟大師(ほうさいたいし) → 齋然(ちようねん；法諱、三論・真言僧/入宋) J 2 8 6 0
望西楼(ほうさいろう) → 道光(どうこう；法諱・了恵；字、浄土僧) D 3 1 9 9
- 3994 **法策**(ほうさく・仲上なかがみ/馬田江)1657-1725⁶⁹ 江前中期大阪の俳人；祇空(敬雨)門、「俳諧朽葉」「俳諧時雨塚」「俳諧神仙」著、[法策(；名)の号] 蟻麻呂/慶五庵
- F3980 **法策**(ほうさく・仲上なかがみ/馬田江；2世?か)?-? 江中期大阪の俳人；祇空(敬雨)門、1745「神と仏」、1748「敬雨十三回忌」編(；敬雨1663-1733)、1754潘山(百子)「しぐれの碑」(；貞因25回忌・貞峨[紀海音]13回忌追善集)入、[古き名はなづとも尽きじ桐火桶](しぐれの碑/発句)
- 3993 **方策**(ほうさく・斎藤さいとう、名；淳/順)1771-1849⁷⁹ 周防佐波郡一本松の医者；能美由庵門、蘭学；大阪で小石元俊門/京・江戸に游学/大槻玄沢門；蘭方を専修、大阪で医を開業、1822全国のコレラ禍に治療効果/長州藩に招聘；年米25俵、「天行病説」「孤松軒随筆」、「痘瘡治紀聞」「痘瘡治療秘伝」「漫遊諸名家問答録」著、1822「把而翁湮解剖図譜下編」訳、[方策(；通称)の字/号]字；素行/堯文、号；九和/半山/孤松軒/看松齋
- 3995 **豊作**(ほうさく・槌井つちい、別号；増山金八3世)?-? 江後期歌舞伎作者；5世鶴屋南北門、1848-50大阪中の芝居で活動/その後増山金八3世を継嗣、1848「けいせい曾我鎌倉鏝」/49「桜舞台近江八景」
- 3996 **豊作**(ほうさく；通称・坂井さかい)?-? 江末期加賀の鍼医業；横刺法を主唱、石坂宗哲と並称、1865刊「鍼術秘策要」編
- 3997 **方策**(ほうさく・杉生すぎう、別名；鼎、浅野謹齋男/杉生革齋養子)1831-92⁶² 備中船穂村医；父門、杉生革齋を継嗣、蘭医；石坂空洞門、産婦人科/外科、開塾、囚人屍体解剖、1860「内服同功」編、[方策の号] 揮齋かくさい、法号；宝樹院
- 3998 **豊策**(ほうさく・福島ふくしま)1838-? 肥前の医者；長崎医学校で修学/浜松病院院長、「舎密薬剤試験書」訳
- 方作(ほうさく・二川) → 友古(ともひさ・二川ふたがわ/鶴原、書/歌) W 3 1 2 7
豊策(ほうさく・山内) → 豊策(とよかず・山内やまのうち、藩主/歌人) R 3 1 0 9
豊作(ほうさく・勝野) → 台山(たいざん・勝野かつの、勤王家) K 2 6 0 9
宝作(ほうさく・松川) → 寿助(じゆすけ・宝田、歌舞伎作者) I 2 1 7 6

- 3999 鳳山(ほうざん:道号・元瑞げんずい:法諱、俗姓;多治見)1648-1720⁷³ 美濃黄檗僧;潮音道海門;
1677潮音の嗣法、陸前宮城郡竜蔵住持;仙台臨濟院を開山、
肥前小城藩主の菩提寺星巖寺住持、1718江戸白金の瑞聖寺10世;藩主伊達綱村の帰依;
印可を受、「信心銘注解」著、1676「潮音禪師語録」編、
「鳳山禪師語録」「鳳山禪師開堂録」「鳳山禪師五会語録」著
- B3900 方山(峯山/芳山ほうざん・滝たき、貞右衛門/主水)1651-1730⁸⁰ 京の東本願寺門主の家士、
俳人:重頼門・貞門系、のち似船門;談林系、1696「枕屏風」、99「暁山集」「北の笥きたのはこ」編、
1681正村せいそん「堺絹さかいざぬ」入/90可休「物見車」入/序、1729隆志「俳諧草結」入/序、
[志賀や花牛に着せたる緋ひぢりめん](俳諧草結;201/牛の角に金箔塗った肖柏に真似る)、
[方山(;号)の別号]峰山(初号)/林雀、招鳩軒/応々翁/和鍾道、匿名;歩雲子(「物見車」序)
- B3901 峯山(ほうざん:道号・光雪こうせつ:法諱)?-1733 陸奥の曹洞僧;軽米の徳楽寺僧、
1691三戸郡の法光寺13世:八戸藩主南部直政より寺領加増;光竜寺を建立し直政を開基、
兼帯住職を務める;功績により法光寺中興の称を得る、1706「白華山法光禪寺諸来歴記」著
- B3902 鳳山(ほうざん) ? - ? 江前中期江戸の江戸雑俳点者;
1720(享保5)撰集「俳諧ちゑぶくろ」点入(蝶々子・紫川・文考らと)
- G3952 宝山(ほうざん:法諱) ? - ? 江前中期江戸諏訪台の浄光寺住職、
1721(享保6)頃[諏訪浄光寺八景]歌会を企画;1728(享保13)[諏訪浄光寺詩歌]を板行;
(井上通熙みちひろ[蘭台]の序あり)/浄光寺八景とは;
筑波茂陰・黒髪晴雪・前畦落雁・後岳こうがく夜鹿・隅田秋月・利根遠帆・暮荘烟雨・神祠老杉
- B3903 鳳山(ほうざん・国富くにとみ、名;彦敬、忠亮男)1707-62⁵⁶ 周防徳山藩士/儒者;服部南郭門、帰郷;侍講、
家塾で講説、音韻に精通/詩文を嗜む、「両韻弁」「仮名遣指要」「鳳山詩集」著、
[鳳山(;号)の字/通称]字;子礼、通称;熊之助/惣左衛門
- B3904 鳳山(ほうざん・加治かじ、名;光輔)1707-77⁷¹ 遠江浜松半松平家に出仕、儒者:三浦竹溪門、
松平久貞の豊後岡藩主中川久慶の養嗣となり従って岡藩士となる;近習頭、
藩主継嗣問題で罷免/致仕後江戸で文学に従事/中川久徳らに文武を教授、詩・書を嗜む、
「逸楽論」「十二律三分損益法」著、
[鳳山(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;善之丞、字;左極、通称;善右衛門、別号;嘯翁
- C3910 鳳山(ほうざん・原はら、名;諭、正武男)1717-87^{71?} 土佐藩士;兵学者;1736江戸で広瀬円通門、
二刀流を使う、帰藩後藩士を指導、延享1744-48頃馬廻末子格/扈從格、
藩主山内豊雍に兵学を説く、「鳳山詩文集」「伝書注解」「武功口訣」「兵器図説」著、
[鳳山(;号)の字/通称/別号]字;太矩/大矩、通称;琢左衛門、別号;蕩々斎
- B3905 芳山(ほうざん) ? - ? 江後期寛政1789-1801頃上州の俳人:松露庵系、
「よつのともし」著
- B3906 蓬山(ほうざん・花菜庵) ? - ? 越中富山の俳人:芭蕉句に註釈、
1802「蕉句双説」、1818「いつまで暦」著、
[蓬山(;号)の別号]花来・花菜(初号)/花菜庵
- B3907 豊山(ほうざん・服部はっとり、義政[隼人]男)1765-1833⁶⁹ 羽前米沢藩士/1797家督、藩校興讓館に修学、
儒;細井平洲・神保蘭室門、1799(寛政11)藩校主事;藩学の振興に尽力、
1804町奉行/中之間年寄;藩政参与、1806青苧問屋事件に連座;閉門、開塾し子弟教育、
文政(1818-30)頃羽前上山藩に招聘;藩校天輔館で教授、「米沢春秋」「豊山文集」「承統譜」、
1820「野叟忠告」/31「餐霞館遺事」「餐霞館遺事後録」、「愛日吟社稿」「愛日漫録」外著多数、
[豊山(;号)の名/字/通称/別号]名;正相まさかけ/世経、字;子綸、通称;吉弥/与右衛門、
別号;愛日舎
- B3908 鳳山(ほうざん・辻つじ) ? - ? 江後期讃岐の絵師、1815「備中名勝考」画
- B3909 鳳山(ほうざん) ? - ? 江後期安藝広島 of 俳人:多賀庵系、
1815「梅仏うめぼけ」素外らと共編、[さはさはと馬追ひかける薄かな](1812「やまかつら」)
- B3910 豊山(ほうざん・長野ながの、名;確、祐清男)1783-1837⁵⁵ 伊予川之江の儒者;南海宇翁門、
1801大阪の中井竹山門/1804京の岡本遜斎らと「新唐書」を読む、1805昌平齋入、
柴野栗山・尾藤二洲・古賀精里門、1813伊勢神戸藩に招聘;教学を掌る/17歩兵隊長/19致仕、
1829武蔵川越藩に招聘/上州前橋藩校博諭堂教授/致仕;江戸で開塾、1811「武乗」、

1820「松陰快談」25「治国要法」28「三名士伝」編、「嘉声軒詩話」「豊山先生文集」外著多数、
[豊山(；号)の字/通称]字；孟確、通称；友太郎

- B3910 鳳山(ほうざん・小尾おび、名；保教/通称；兵之進) 1792-1844⁵³ 甲斐五町田の戸主(代々)、
1842刊「人道俗説辯義」著
- B3912 鳳山(ほうざん・法諱、山本幸輔男) 1796-1834³⁹ 河内の融通念仏僧；極楽寺の通関門；出家、
融通念仏の宗学を修得/1813極楽寺住職、文政1818-30年間撰津大念仏寺の講主、
「融通還源章」「融通春鶯弁」「護法弁」著、
[鳳山(；法諱)の字/号/通称]字；靈督、号；常説、通称；富楼那
- B3913 宝山(ほうざん・道号・黙招もくしょう；法諱、号；独露庵) ?-? 1840頃没 曹洞宗僧、
「独露菴黙招和尚夜話」「五位図象頑解」「天童古仏頌古百則頑解」「碧巖集頑解」
- B3914 鳳山(ほうざん・伊藤いとう、名；馨、維恭男) 1806-70⁶⁵ 羽後酒田の儒者；江戸の朝川善庵門、
1834善庵の養子；2年後に離縁、1838渡辺崋山の推挙で三河田原藩出仕/崋山捕縛で致仕、
諸国遊歴/天童藩儒、三河田原藩に招聘され藩校成章館の講師、1842-4「学半楼十幹集」、
1850「扁鵲伝問難」56「詰屈贅牙集」57「難経文字攷」62「孫子詳解」、「論語詳解」「孟子詳解」、
「老聃考」「正気歌解」「論語八十一難」「漢蘭酒話」「呉子略説」「出鶴詩稿」「鳳山存稿」外著多、
[鳳山(；号)の字/通称/別号]字；子徳、通称；郷太郎/大三郎、別号；学半楼
- G3937 宝山(ほうざん；法諱・成田、) ? - 1859 越中富山の僧；上野高崎の浄土宗大信寺22世住職、
国学/歌；橋守部(1781-1849)門
- B3915 豊山(ほうざん・横井よこい、名；忠規、儒医横井湧泉男) 1814-55⁴² 豊前下毛郡永添村の儒者；本白巖門、
1827(14歳)丹後の野田笛浦門/豊後日出藩儒帆足万里門、諸国遊歴後越後三島郡片貝村住、
塾舎耕読堂の塾主として子弟教育、1852江戸住/54箱館奉行堀利熙に従い蝦夷樺太探索、
1855片貝村に帰る；門人宅で没、1854「探蝦録」、「蝦夷録」「北門私議」著、米良東嶠らと交流、
[豊山(；号)の字/通称]字；正則、通称；伊織/所右衛門
- B3916 豊山(ほうざん・佐原さわら、名；盛純もりずみ) 1825-1908⁸⁴ 会津若松の儒者；1852江戸の桜井虎門門、
1863池田長頭の出州視察に随行、開港論を主唱/上州吉井藩に文学として出仕、
維新後会津に帰郷；子弟教育、「航海日録」/「白虎隊の詩」(七言古詩)著、
[豊山(；号)の字/通称/別号]字；/業夫、通称；佐輔/貞一、別号；蘇棟そばい
- B3917 抱山(ほうざん・鈴木すずき、名；恭、正儀男) 1833-98⁶⁶ 安房館山の生/江戸の商家に奉公；病で帰郷、
蘭医・蘭語；江戸の伊東玄晁門、種痘法を修得/帰郷後開業/兄東海没後に家督嗣、
1861「唾棄残草」「克齋詩稿」著、
[抱山(；号)の字/通称/別号]字；思道、通称；森二郎/克齋/正立、
別号；研北/天真道人/天真観迂人/奚疑庵奚疑、法号；正誉恭黙至道克齋居士
- B3918 豊山(ほうざん；号・山口やまぐち) ?-1902 江戸の東都掃墓会幹事、雑誌[見ぬ夜の友]に寄稿；
掃苔録を編む、「苔の石ふみ狂歌の部」編、「夢跡集」「墓形笑覧」「掃墓史料」「墳墓図説」著
- 法山(ほうざん；字) → 智好(ちこう；法諱・法山、真言僧) E 2 8 1 3
鳳山(ほうざん・徳川、光圀養子) → 綱条(つなえだ・徳川、藩主/歌人) B 2 9 0 2
鳳山(ほうざん・飯盛) → 嘉満(よしみつ・飯盛いもり、藩陪臣/教育) L 4 7 4 9
豊山(ほうざん・羽鳥) → 寥和(りょうわ・5世りょうわ・羽鳥、俳人) J 4 9 6 8
方山(ほうざん・河田) → 東岡(とうこう・河田/竹中、藩士/儒者) D 3 1 7 6
奉山(ほうざん・松井) → 乗運(じょううん・松井/牧野、仏師/歌) V 2 2 2 3
宝山(ほうざん) → 京伝(きょうでん・山東、戯作者) 1 6 3 7
芳山(ほうざん；字) → 善意(ぜんい；法諱、真宗本願寺派僧) L 2 4 6 5
芳山(ほうざん；号) → 保好(やすよし・近藤こんどう/藤原、幕臣/歌) E 4 5 8 4
芳山(ほうざん・山中) → 明海(あきみ・山中、酒造業/本草家) D 1 0 9 2
芳山(ほうざん・小川) → 定澄(さだすみ・小川おがわ、和算家) I 2 0 3 1
芳山(ほうざん・松平) → 容保(かたもり・松平まつだいら、藩主/朝政) V 1 5 7 7
邦山(ほうざん・玉置) → 万齡(ばんれい・玉置たまき、造酢業/文筆) I 3 6 7 1
蓬山(ほうざん・太田) → 白(はく・太田おた、蓬山/国学者) J 3 6 8 6
烽山(ほうざん) → 重春(しげはる・柳斎・梅丸斎・滝川・烽山/山口、絵師) C 2 1 8 6
蓐山(ほうざん・淡輪) → 元潜(げんせん・淡輪たんなわ/たんのわ、医者) K 1 8 6 5

- B3919 **茅山** (ほうざん・牧園まさぞの、名; 瀧ちよ/瀧実、半七男) 1767-1836 70 筑前志摩郡師古村の儒者;
1784福岡藩儒竹田梅廬・亀井南冥門、医; 村上左沖門、諸所歴遊、1798招聘され柳川藩儒臣、
徂徠学を朱子学に変更、1801講堂助教/19江戸遊学/24新設の藩校伝習館の助教、
1809「岩谷義戦録」27「行宮便覧」28「行在或問」、「茅山詩稿」「恬菴雜記」著、兜嶺の父、
[茅山(;)号)の字/通称/別号]字; 大野、通称; 進士、別号; 恬菴てんあん
- B3920 **帽山** (ほうざん・安部井あべい、名; 髻けい、安田厚伯範光男) 1778-1845 68 江戸の生、
安部井澹園たんえんの養嗣子、儒者(程朱); 林述斎・古賀精里門/会津藩儒/奏者番、
「近思録輯疏」「近思録訓蒙輯疏」「安氏雜書」「四書劄記」/1843「四書訓蒙輯疏」著、
[帽山(;)号)の字/通称/別号]字; 章卿、通称; 辨之助、別号; 芝浦
- 茅山 (ほうざん・萱生) → 玄順(玄淳げんじゅん・萱生かよう、医/儒者) E 1 8 9 5
茅山 (ほうざん・新見) → 正路(まさみち・新見しんみ/源、幕臣/歌) H 4 0 5 4
昉山 (ほうざん; 号) → 善意(ぜんい; 法諱、真宗本願寺派僧) L 2 4 6 5
抱山宇 (ほうざんう) → 柳居(りゅうきよ・佐久間、俳人) D 4 9 3 3
抱山宇 (ほうざんう) → 門瑟(もんしつ・小宮山、柳居門俳人) I 4 4 2 4
望三益堂 (ほうざんえきどう) → 眞守(まもり・後藤/枚岡、国学/神職) K 4 0 1 3
法三宮 (ほうさんぐう) → 齊世親王(ときよしのう、真言仁和寺僧) K 3 1 3 3
法三宮 (ほうさんぐう) → 致平親王(むねひらしんのう、天台僧/歌人) C 4 2 3 6
宝山高智 (ほうざんこうち; 入道号) → 七郎左衛門(しちろうざえもん・杉山、浄瑠璃太夫) E 2 1 6 9
豊山子 (ほうざんし) → 長翁(ながとし・氷室ひむろ、神職/歌人) E 3 2 8 7
宝山人 (ほうざんじん) → 黄金升成(こがねますなり、商家/狂歌) L 1 9 9 3
忘三堂 (ほうざんどう) → 勘解由(かげゆ・大蔵おおくら、神職/書家) L 1 5 4 1
芳山文清 (ほうざんぶんせい) → 為範(ためり・五条/菅原、廷臣/漢学) S 2 6 6 5
房山楼 (ほうざんろう) → 松塘(しょうとう・鈴木、儒者/詩人) R 2 2 5 6
- F3968 **鳳髻** (ほうし) ? - ? 江前期江戸俳人; 1691不角「二葉之松」12句入
[網の目にとまらぬ鳥は日の鳥](前句; 左右とやく思ふうちによる年)
(三本足の日の鳥は捕らえる前に年が過ぎる)
- B3921 **鳳髻** (ほうし) ? - ? 江中期甘地俳人; 1773几董「明鳥」入;
[若竹や暗がり走る水の音]
- B3922 **芳之** (ほうし・寺村てらむら、通称; 与左衛門) ?-? 近江八幡仲屋丁の俳人:
1802「十府の菅こも」編/09「はなむしろ」編
- B3923 **泡子** (ほうし; 法諱・甘露かんろ/大畔たいこう; 道号、俗名; 下瀬十郎) ?-? 周防防府曹洞僧; 安養院住、
金山和尚門、詩/塑像作成/のち僧籍離脱、1836「防府一覽集」40「打塚吟竝塚」著、
[泡子の号] 売塚翁ばいそおう
- 方之 (ほうし・斎藤) → 方之(まさゆき・斎藤さいとう、和算家) I 4 0 3 4
方之 (ほうし・稲垣) → 方之(まさゆき・稲垣いながき、歌人) N 4 0 7 1
方子 (ほうし・黒瀬) → 方子(まさこ・黒瀬くろせ、国学/歌人) P 4 0 5 3
芳子 (ほうし/よしこ・藤原) → 宣耀殿女御(せんようでんのによご、師尹女/歌人) G 2 4 7 4
芳子 (ほうし/よしこ・藤原) → 少将内侍(しょうしょうのないし・後一条院、女房歌人) T 2 2 4 5
縫子 (ほうし) すべて → 縫子(ぬいこ)
法士 (ほうし・稲葉) → 蔦蹊(ちようけい・稲葉いなば、儒者) H 2 8 9 8
褒子 (ほうし/よしこ・藤原、時平女) → 京極御息所(きやうごくのみやすどころ) C 1 6 4 7
邦子 (ほうし・安嘉門院) → 安嘉門院邦子(あつかもんいんほうし・内親王) C 1 0 3 6
朋之 (ほうし) → 朋之(ともゆき・団野、俳人) Q 3 1 7 8
邦之 (ほうし/くにゆき?・成島) → 東岳(とうがく・成島、儒者/歌) C 3 1 2 0
邦之 (ほうし・前島) → 邦之(くにゆき・前島まえじま、藩士/歌人) E 1 7 4 9
包子 (ほうし・伊達) → 包子(かねこ・伊達だて/岩間、藩主側室/歌) U 1 5 9 0
苞子 (ほうし・品川) → 弥二郎(やじろう・品川しながわ、藩士/尊攘) F 4 5 1 0
豊子 (ほうし・藤原) → 美作三位(みまさかのさんみ、女房/歌人) F 4 1 8 4
豊子 (ほうし) → 豊子女王(とよこじよおう、有馬頼僮妻/歌) R 3 1 1 5
豊子 (ほうし・水沢) → 豊子(ゆたかこ・水沢みずさわ、歌人) H 4 6 3 1

豊之(ほうし・渡辺) → 豊之(とよゆき・渡辺わたなべ、神職/歌人) X 3 1 0 0
 豊氏(ほうし・有馬) → 豊氏(とよじ・有馬ありま、武将/藩主) R 3 1 0 6
 豊資(ほうし・山内) → 豊資(とよすけ・山内やまのうち、藩主/歌) R 3 1 2 0
 豊嗣(ほうし・岡本) → 豊嗣(とよつぐ・岡本わかもと、商家/歌人) U 3 1 6 0
 豊次(ほうじ)すべて → 豊次(とよつぐ)
 豊持(ほうじ・木村) → 豊持(とよもち・木村きむら、藩家老/歌人) U 3 1 9 2
 奉時(ほうじ・池内) → 奉時(まさとき・池内いけうち、医/漢学/尊攘) E 4 0 4 0
 邦治(ほうじ/くにはる) → 後二条天皇(ごにじょうてんのう、持明院統/歌) D 1 9 4 8
 方滋(ほうじ・梅谷) → 眞滋(まじげ・梅谷うめや、本陣/国学) O 4 0 0 2
 鳳字(ほうじ;号) → 靈潭(れいたん;道号・魯竜;法諱、曹洞僧) 5 1 5 1

B3924 房子(ほうし・中院なかのいん、通称;従三位房子じゅさんみのほうし、中院通成女) ?-? 鎌倉中期の歌人/従三位、玉葉集1504/2501、

[身のうさをうれへあはする友あらば月にはさのみかこたざらまし](玉葉;十八雑2501)

房子(ほうし・鷹司) → 新上西門院(しんじょうさいもんいん、靈元天皇中宮) O 2 2 9 4
 卯枝(ほうし・神林) → 卯枝(しげえ・神林かんばやし/平、神職/歌) O 2 1 1 6
 望志(ほうし) → 立志(初世りゅうし・高井、俳人) E 4 9 2 7
 望之(ほうし/もちゆき・狩谷) → 椋斎(えきさい・狩谷かりや、国学/漢学者) 1 3 0 7
 望之(ほうし/もちゆき・井口) → 築山(築三らくざん・井口いぐち、藩医/本草) B 4 8 1 7
 望之(ほうし/もちゆき・小田村) → 廓山(ろくざん/ふざん・小田村/山本、儒者) 5 2 8 4
 房嗣(ほうし・近衛) → 房嗣(ふさつぐ・近衛、関白/太政大臣/歌) C 3 8 1 5
 房滋(ほうじ/ふさしげ・杉野) → 配力(はいりき・杉野、藩士/俳人) C 3 6 1 8
 卯時庵(ほうじあん) → 珪林(けいりん・松木、俳人) 1 8 9 4
 望止庵貞丸(ほうしあんさだまる) → 額祐(がくすけ・2世絵馬屋、狂歌) E 1 5 7 5
 法舂(ほうじく・中根) → 彦循(げんじゅん・中根、暦算家) J 1 8 7 9
 茅子舎(ほうししゃ) → 信海(のぶみ・林、名主/国学/歌人) D 3 5 3 5
 茅子舎(ほうししゃ) → 義郷(よしさと・石井いひ、藩士/歌人) D 4 7 4 5
 芳士女(ほうしじょ) → 野坡(やほ・志太しだ/斎藤、俳人) 4 5 1 2

B3925 芳室(ほうしつ・稲津いなづ/坂上/椎本) 1664-1747⁸⁴ 和泉堺の俳人:惟中門;「天水称」を伝受、椎本才麿門;椎本家継承/椎門の重鎮、禅;悦山和尚門、正徳1711-16頃朝鮮の東郭らと唱和、1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、1719「雨の集」30「続千葉集」33「石霜菴追善集」編、1738「白玉棋」39「卯の花月」43「著めどきの花」編、「俳諧難波鶴」「秘要記」外著多数、追善集「清逸集」矩州編、祇空の弟/芳州の兄、[鳩にほの息春のかけ橋かけてけり](伊丹発句合;春)、[芳室(;号)の別号] 甘泉/甘千/寒泉/八一山人/旧室/石霜庵(;兄祇空の庵号)

B3926 蓬室(ほうしつ・飯田いだ、名;武郷たけさと) 1827-1900⁷⁴ 信濃高島藩士/国学者:平田鉄胤・海野遊翁門、諏訪神社宮司、「日本書紀通釈」著、

[蓬室(;号)の通称]彦介/守人

蓬室(ほうしつ・岡野) → 伊平(維平いへい・岡野、国学/狂歌) I 1 1 2 3
 抱質(ほうしつ;字) → 僧樸(そうぼく:法諱、真宗本願寺派僧) I 2 5 9 2
 宝瑟(ほうしつ) → 浮流(ふりゅう・青山あおやま、念仏僧/俳人) E 3 8 6 0
 鳳質(ほうしつ・根岸/岸) → 典則(つねのり・根岸/中原/岸、商家/歌/禅) D 2 9 1 7
 邦実(ほうじつ・進藤) → 邦実(くにざね・進藤しんどう、神職/国学) E 1 7 2 6
 房実(ほうじつ・九条) → 房実(ふさざね・九条、左大臣/歌人) C 3 8 0 7
 抱膝庵(ほうしつあん) → 嶠南(きょうなん・平部ひらべ、藩士/儒者) O 1 6 4 0
 芳室軒(ほうしつけん) → 定直(さだなお・木幡/木畑、医/俳人) C 2 0 1 3
 抱膝斎(ほうしつさい・伊藤) → 蘭岬(らんがう・伊藤いとう、藩儒) B 4 8 7 7
 宝市亭(ほうしつてい) → 黄金升成(こがねますなり、商家/狂歌) L 1 9 9 3
 茆茨亭(ほうしつてい) → 賀世(よしつぐ・室谷むろたに、商家/国学者) E 4 7 6 9
 豊二堂(ほうじどう) → 信誠(のぶまさ・小林こばやし、庄屋/国学) I 3 5 4 2
 乏志堂(ほうしどう) → 貞義(ていぎ・乏志堂、俳人) 3 0 5 6

- 邦子内親王(ほうしなないしんのう) → 安嘉門院邦子(あんかもんいんほうし) C 1 0 3 6
 法自然庵(ほうじねんあん) → 生々(せいせい・上田/檜林、儒/医者) J 2 4 0 0
 鳳子房(ほうしぼう) → 天姥(てんぼ・宮本みやもと、農業/俳人) E 3 0 2 5
 茅舎(ぼうしや・松居) → 安国(やすくに・松居/松井まつい/源、国学) E 4 5 8 5
 B3928 蓬迹(ほうしやく) ? - ? 播磨姫路の俳人;1692才麿「椎の葉」入、
 [月は浮く影は沈みし鶴(かいづり)](椎の葉;138)
 法寂(ほうじやく;法号) → 実長(さねなが・波木井はきい、日円、武将/日蓮僧) L 2 0 1 2
 放雀庵[園](ほうじやくあん[えん]) → 長斎(ちようさい・七五三しめ、国学/俳人) I 2 8 3 8
 宝積院僧正(ほうしやくいんそうじよう) → 覚憲(かくけん;法諱、法相僧) J 1 5 7 0
 豊主(ほうしゆ・滋賀) → 豊主(とよぬし・滋賀/藤原、廷臣/歌人) R 3 1 4 0
 蓬首(ほうしゆ・川村) → 碩布(せきふ・川村、商家/名主/俳人) 2 4 1 1
 方主(ほうしゆ・猪熊) → 方主(かたぬし・猪熊いのくま/卜部、神職) N 1 5 0 4
 峰守(ほうしゆ・小野) → 岑守(峰守みねもり・小野おの、廷臣/詩人) 4 1 3 5
 G3947 宝珠(ほうじゆ・東光院) ? - ? 鎌倉期;興福寺東光院の童/歌人、
 1237刊[檜葉集]入、
 [春のはじめの心、
 うぐひすもけふ谷のとやいでぬらむいはまの水はおとたてつなり](檜葉;雑童687)
 B3929 保寿(ほうじゆ・河原かわはら/河原井/小河原/小河、修姓;河) 1714-1783? 江戸麹町の薬種業、
 書家:松下烏石門、画も嗜む、晩年渋谷村住;服部南郭と親交、1755「書法発揮」著、
 1768「大悲堂碑記」著、万載狂歌集入(;中台翁の名)、
 [保寿(;名)の字/通称/号]字;子昌、通称;大坂屋茂助/茂兵衛/七郎兵衛/平兵衛、
 号;中台/中台翁/鵲巢山人(じやくそうざんじん)
 B3930 芳樹(ほうじゆ;法諱) 1764 - 1828 65歳 紀伊有田郡箕島村の真宗本願寺派僧/正念寺住職、
 華厳学;智幢・経歴門、真宗学;京浄教寺の智洞門;三業派に属す/のち転向、
 近江野洲郡小田に円覚社を開き子弟教育、晩年は摂津喜福寺に隠棲、「芳英廻心状」、
 「華厳五教章考」「華厳経深玄記録」「華厳法界縁起」「一枚起請文丙子録」外著多数、
 [芳樹(;法諱)の字/号]字;芳英、号;木隠/円覚房
 B3931 包壽(ほうじゆ・夏目なつめ、名;包好/包壽、成美男) 1775-? 江戸蔵前の札差;1800父隠居で7代目相続、
 俳人:父門、1816「成美家集」編、21成美文集「四山藁」(;弟包徳/包昌らと共編)、
 [包壽(;号)の通称/別号]通称;八太郎/井筒屋八郎右衛門、別号;卷斎
 B3932 法樹(ほうじゆ;法諱・智幢ちどう;字) 1776-1854? 豊前の真言僧:豊前日出城蓮花院で出家、
 戒律;飲光(慈雲尊者)門;河内高貴寺で具足戒を受/河内長栄寺6世/高貴寺僧坊寺務4世、
 「摩多体文」著、「金剛般若波羅密経諸訳互証」校訂、
 [法樹(;法諱)の号] 訥庵/大年万年
 芳樹(ほうじゆ・大橋) → 芳樹(よしき・大橋おほし/秋元、教育/神職) L 4 7 9 9
 豊樹(ほうじゆ・片山) → 豊樹(とよき・片山かたやま、神職/国学) U 3 1 7 5
 鳳樹(ほうじゆ;法諱・大賢) → 大賢(だいけん;道号・鳳樹、曹洞僧) J 2 6 8 9
 豊樹(ほうじゆ・山名) → 豊樹(とよき・山名やまな、藩士/神職/国学) T 3 1 3 5
 宝寿(ほうじゆ・島津) → 忠広(ただひろ・島津しまつ、家老/国学者) X 2 6 5 4
 宝寿(ほうじゆ・前田) → 延子(のぶこ・前田まえだ/浅野、藩主室/歌) J 3 5 9 7
 房種(ほうしゆ・河北) → 房種(ふさたね・河北かわきた、囲碁棋士) C 3 8 1 2
 房種(ほうしゆ・村井/歌川) → 房種(ふさたね・歌川うたがわ/村井、絵師) C 3 8 1 3
 望樹(ほうじゆ・満藤) → 望樹(もちき・満藤まんと、歌人) L 4 4 4 3
 奉珠庵(ほうしゆあん) → 素玩(そがん;号、俳人) D 2 5 4 5
 峰寿院(ほうじゆいん) → 斉脩室(なりのぶのしつ・徳川、文筆) H 3 2 9 7
 報寿院(ほうじゆいん) → 日藻(にっそう・玄静、日蓮僧/俳人) E 3 3 9 1
 法樹院(ほうじゆいん) → 富(登美とみ・林はやし/服部、国学/歌) W 3 1 1 3
 保壽院(ほうじゆいん;号) → 覚成(かくじよう;法諱・保壽院、真言僧) K 1 5 0 4
 保壽院(ほうじゆいん・山科) → 道庵(どうあん・山科やましの、医者) 3 1 9 2

- 芳樹院(ほうじゅいん) → 多勢子(たせこ・村田/渡辺、国学/歌) E 2 6 7 2
- 3955 方秀(ほうしゅう;法諱・岐陽ぎやう;道号、佐伯清泰男) 1361-1424⁶⁴ 讃岐熊岡荘臨濟僧;
1372靈源性浚門、1418天竜寺/南禅寺住持、詩文:義堂門、儒仏不二を主唱、
東福寺不二軒を創建;隠棲、五山文学者、
「琴川録」「岐陽藁」「中峰広録不二鈔」「日本僧宝伝」、「不二に遺稿」「岐陽和尚語録」著、
[岐陽方秀の初道号法諱/号]初道号;道秀どうしゅう・初法諱;岐山どうしゅうざん、
号;不二道人ふにとうじん/怡雲いいうん/鳳栖ほうせい/琴川きんせん
- B3933 方舟(ほうしゅう・田中) ? - ? 近江膳所の俳人;仏幻庵に出入、
丈草(1694元禄7頃)著「寝ころび草」を所持;1716(享保元)丈草13回忌法要の席上発表、
丈草門の魯九が喜び共編し刊行(京橋屋治兵衛版)
- B3934 宝洲(ほうしゅう;道号・道聡/道聰どうそう;法諱) 1644-1719⁷⁶ 豊後黄檗僧;撰津瑞竜寺の鉄眼道光門、
大蔵経板行事業を助ける/鉄眼没後に瑞竜寺2世/木庵性瑠もくあんしやうとう門;嗣法、
1700江戸瑞聖寺住持/06退隠/撰津に金粟精舎創建;閑居、宝潭と鉄眼の二神足と称される、
紫雲派宝蔵下の祖;門弟多、1690「鉄眼禅師行実」「鉄眼禅師遺録」編、1708「宝洲禅師語録」著、
[宝洲道聡の号] 闡提せんだい道人
- F3994 鳳州(ほうしゅう) ? - ? 江中期大阪の俳人、
1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、
[夜の雪水をのそくや花の壺](伊丹発句合;冬)
- B3935 宝洲(ほうしゅう;法諱) ? - 1738 伊勢の浄土僧;京鹿ヶ谷法然院の忍激門、
伊勢白子悟真寺住/1717磐城相馬興仁寺住、著述活動、1721「無能和尚行業記」、
1730「麗北両蔵相違補闕録」校訂/34「浄業課誦附録」、「称名念仏追薦説」外著多数、
[宝洲の法名] 佔蓮社ちやうれんしゃ好誉鶴阿/鶴阿
- B3936 鳳洲(ほうしゅう;法諱/別法諱;僧禎/号;金峯)?-? 江中期撰津の真宗僧、1750「三帖和讃披雲録」著
- 3956 芳洲(ほうしゅう・雨森あめのもり、名;俊良/誠清のぶきよ、医者清納男/本姓橋) 1668-1755⁸⁸ 近江雨森の儒者、
1684木下順庵門、89師の推挙で対馬藩仕官;朝鮮語中国語に習熟;93対馬藩で朝鮮外交、
晩年は歌に関心、「朝鮮略記」「朝鮮事情」「朝鮮国風俗之事」、「芳洲詩鈔」「芳洲詠草」、
「雨森芳洲文鈔」「雨森芳洲筆記」「芳洲詩文和歌集」「多波礼草たはれくさ」「橘窓茶話」外著多数、
[芳洲の字/通称/別号]字;伯陽、通称;東五郎/東、別号;綱尚斎(堂)/聚化軒
- B3937 芳洲(ほうしゅう・稲津いなづ) ? - ? 大阪の俳人;祇空[1663-1733]・芳室[1664-1747]の弟、
1774美角「ゑぼし桶」入;[捨て舟の左右さうに横たふや秋の暮](ゑぼし桶;82)
- B3938 鳳湫(ほうしゅう・久野くの/本姓;藤原/修姓;膝とう、名;俊明、小谷こたに円法男) 1696-1765 江戸の儒者:
林榴岡門/のち徂徠学、1716尾張藩に出仕;諸侯に寵遇される、詩・書を嗜む、「鳳湫詩集」、
「悦情集」「鹿荘随筆」「病間筆記」「春秋釈例図」「史漢異同考」「説文亥豕」著、「鳳湫先生遺稿」、
雨森芳洲・祇園南海・梁田蛻巖せいがんらと交流、
[鳳湫(;号)の字/通称/別号]字;醉中/彦遠、通称;彦三郎、
別号;鳳洲(;初号)/老饕生らうとうせい、法号;智光院、
- B3939 芳洲(ほうしゅう・松村まつむら、名;栄/清栄/安) 1700-57⁵⁸ 常陸水戸藩士/儒者;安積澹泊門、
1721彰考館入、「燕石窩文集」「燕石窩唱和集」「芳洲詩草」「松村譜系」著、
[芳洲(;号)の字/通称/別号]字;信卿、通称;辰右衛門、別号;、燕石窩
- B3940 鳳洲(ほうしゅう・福山ふくやま/修姓;福、名;貞儀、藩医杉山元瑞男) 1724-85⁶² 福山家を継嗣、
儒;寺田臨川門(朱子学)/古文辞派に転向、安藝広島藩家老上田家の儒臣、
郷校講学所設立に尽力し教授;上田家の家臣教育、家塾を開く;門弟教育、詩文に長ず、
書を嗜む、1771「賀嶋記」75「花窓亭記」、「万象園二十四勝題名記」著、「雨亭遺稿」、
[鳳洲(;号)の字/別号]字;羽卿、別号;雨亭/松門
- B3941 芳洲(ほうしゅう・田中たなか、名;善正、中島なかじま慈玄男) 1728-97⁷⁰ 和泉堺の医者/和算家/漢学、
医者田中仙庵の女婿、1779「勾股沂原」校訂、「左伝系譜」「建安率原」著、岩本梧友の師、
[芳洲(;号)の字/別号]字;子直、別号;弄叟、法号;成美斎復圭居士
- B3942 芳洲(芳州ほうしゅう・高木たかぎ、名;固/景福) 1732-99⁶⁸ 三河挙母藩の家老/儒者;鷹見星臯門、
大田南畝と交流、1767「牛門四友集」/72「四溟陳人詩集」編、
[芳洲(;号)の字/通称/法号]字;仲幹/子剛/子邦、通称;金二郎、法号;功聚院

参考 → 牛門四友(ぎゅうもんしゆう)

- B3943 **豊洲**(ほうしゅう・豊島としま、名;幹、中岡半十郎男)1737-181478 江戸の儒者;宇佐美瀧水門;徂徠学、兄中岡半九郎芳範の嗣/1764罪を得て改易;豊島に改姓、1791赦免、沢田東江に師事、漢宋を折衷し学を成し江戸で講義;由己堂版を刊行、寛政異学の禁に反論;五鬼の1、1781「豊子仁説」「豊子筆談」/87「文学正路」89「論語新註」97「孝経余論」1812「文学広談」、「論語筆談」「豊氏詩草」「豊氏文草」「豊氏随筆」「豊氏日筆」「豊氏逍遥草」「豊洲文集」外多数、[豊洲(;号)の字/通称/別号]字;子卿、通称;勘七郎/終吉/修吉/周吉、別号;考亭/由己/由己亭、
- G3928 **芳州**(ほうしゅう・津野つゆ、滄州[1718-90]の長男)?-? 江中期;飛騨高山の蚕糸問屋;福島屋、儒学・経史;赤田臥牛門、父滄州の遺命で「臥牛集」を上梓、文卿の父、[芳州(;号)の名/字/通称]名;延賢、字;子客、通称;清右衛門、屋号;福島屋 ☆津野家;滄州一芳州一文卿一千萱ちがや一五三二(悟窓)
- B3945 **豊洲**(ほうしゅう・陰山かげやま、名;雍、常弘男)1750-1808 江戸の阿波藩邸の生/儒者;丘清輝門/詩人、江戸麻布に開塾/河内狭山藩北条侯に出仕;文学/大坂藩邸に住、古文辞学徂徠学風を継承、1792壺邸「壹邱稿二編」序と目録、1807「松桂園詩集」著、山梨稲川の古文辞学の師、[豊洲(;号)の字/通称/別号]字;文熙、通称;忠右衛門、別号;松桂園
- B3944 **豊洲**(ほうしゅう・泉いづみ、名;長達、智高男)1758-180952 江戸;幕府与力/儒・南宮大湫門、のち細井平洲門;平洲の女婿、寛政1789-1801頃日向延岡藩江戸藩邸学問所で講説、「遊文館文集」著、[豊洲(;号)の字/通称/別号]字;伯盈、通称;斧太郎、別号;遊文館、
- B3947 **豊洲**(ほうしゅう・石井いし、源七男)1776-186287 安藝豊島の素封家/竹原の儒者;頼春風・頼春水門、京の尾藤二洲門/詩人、1825安藝三原藩儒臣;学問所明善堂教授;文教を司る/44致仕、帰郷し頼春風と郷校竹原書院を設立し教頭、「中隠堂詩鈔」「豊洲詩集」、1807「丁卯游志」著、「豊洲遺稿」、[豊洲(;号)の名/字/通称]名;威臣、字;儀卿、通称;儀右衛門
- B3948 **蓬洲**(ほうしゅう・神屋かみや、号;姓;青木)1776-1832?57? 江戸の戯作者/1818頃京に移住、絵師;春川栄山門?、戯作すべて自画作、1807滑稽本「口八丁」、08読本「竜孫憂玉たけのともずり」、1812半紙本「天縁奇遇」、1816「狂歌絵入春興集」19「拾葉百人一首宝箱」21「鳥歌話」画、1822「教草情奥義」25「伊楚の万都」編、32「当見席眼鬢」、「愛多凶久誌めでたづくし」外著多数、[神屋蓬洲(;号)の通称/別号]通称;亀助、別号;蓬萊亭/春川五七(;画名) 黄表紙の亀遊とは別人だが関係不詳→ 亀遊(きゆう・蓬萊山人) M1618
- B3949 **豊洲**(ほうしゅう・竹内たけうち、名;直彦、東門男)1795-186571 豊後府内藩儒(家学)/儒:大城壺梁門、勘定奉行;財政再建/1844頃藩校采芹堂教授/祭酒、1930-44頃「芳栄文稿」著、[豊洲(;号)の字/通称]字;子良、通称;寿平/徹応先生、安眞(東門2世)の弟
父 → 東門(とうもん・竹内、儒者/医者) H3146
- B3950 **豊洲**(ほうしゅう・武藤とう、名;吉得/宗英)?-? 江後期豊後臼杵の医者;村井琴山[1815没]門、古医道、江戸で講義、家蔵「大同類聚方」校訂上梓、「大同類聚方病名解」「古医権量攷」、「大同類聚方薬品解」「大同類聚方薬品解拾遺」「大同類聚方々義解」1842「和漢種痘秘要」著、[豊洲(;号)の字/通称/別号]字;純甫、通称;直記、別号;豊州
- B3951 **方舟**(ほうしゅう・不言堂、通称;新右衛門)?-? 江後期下総源田河岸の里正/俳人、1835「遠筑波集」編
- G3906 **峯秋**(ほうしゅう・竹田たけだ)?-? 江後期;長門豊浦郡神田村の酒造業/庄屋、俳人、菊舎尼と交流;1808正月に滞在、[峯秋(;号)の通称/別号]通称;九兵衛、別号;琴松舎
- B3952 **宝洲**(ほうしゅう;号・実如;法諱、俗姓;重枝)1801-6464 周防吉敷郡秋穂の真言僧、長門萩秀岳寺入、出家/弘法寺三摩地院住職/江戸麻布円明院17世、譚とがめを受け萩に帰る;松本に隠居、吉田松陰邸に近く共に国事を談ず、「扶桑繁栄鑑」「皇国理解抄」著
- B3953 **蓬洲**(ほうしゅう;道号・禅苗ぜんみょう;法諱、俗姓;木田)1802-7271 豊後海辺郡佐賀関の臨濟僧;1809(8歳)同地地藏院で出家/備中井山宝福寺の妙蓬門/尾張総見寺の卓洲胡僊門;嗣法、1848京妙心寺住持/讃岐丸亀で没、「蓬洲和尚語録」著、

[蓬洲禅苗の諡号] 大円正覚禅師

- B3954 **芳洲**(ほうしゅう・高妻たかつま、名;友) 1811-6151 代々豊後佐伯藩士、儒;日出藩儒帆足万里門、のち佐伯藩儒中島米華門/1834米華の跡を嗣;藩校四教堂教授、秋月橋門を教官に推挙、「米華遺稿」編/「芳洲詩集」「芳洲文集」著、
[芳洲(;号)の字/通称]字;/士直、通称;庸平
- B3955 **鳳洲**(ほうしゅう・村井むらい) 1814-187461 磐城棚倉藩士/江戸深川六間堀住、俳人:雪中庵6世椎陰門、1857嵐雪150回忌を深川要津寺で催/維新後静岡に移住、1857「雪竿集」編/59「四時混題十万句集拔萃」著/70「六葉集」編、
[鳳洲(;号)の通称/別号]通称;圭蔵、別号;雪中庵7世
- B3956 **芳州**(ほうしゅう・坪井つばい/初姓;大木、名;訥/忠益/通称;為春) 1824-8663 羽前米沢の医者;坪井信道門/坪井信道の女婿;信道の嗣、鹿児島藩医兼幕府医学所教授;薬物学を講義、1869大学少博士、文部省出仕/東大御用掛、1866「医療新書」訳、「礼氏胡列刺これら病治準」著
- B3957 **芳州**(ほうしゅう・柴田しばた、名;弘) 1840-189051 尾張愛知郡柴田新田の絵師、初め岸派;喜田華堂門、のち南画;村田香谷門、名古屋長者町住/維新後東京住、奇行の人;自ら一生伝を画卷にす、1867「大東閩語」画、妻年人のぶも画を嗜む、
[芳州(;号)の字/通称/法号]字;子道、通称;栄三郎、法号;仙遊院
- B3958 **芳州**(ほうしゅう・歌川) ? - ? 1861-64頃絵師:国芳門、「天緑奇遇」「観音守護宝剣」
- B3959 **鳳洲**(ほうしゅう・土屋つちや、名;弘/字;伯毅、楽遊[半吾]男) 1841-192686 和泉岸和田の儒者、1852(12歳)藩校講習館入/相馬九万・池田草庵・森田節斎門、岸和田藩軍事奉行、講習館教授兼世子侍読、家塾[晚晴書院(晚晴塾)]を経営/維新後は教育に尽力、1864「馬関日記」、「晚晴楼詩鈔」「晚晴楼文鈔」著
- G3939 **鳳洲**(ほうしゅう・松岡まつおか、号;裁松/松蔭) 1842-191069 美濃大野郡の国学者/歌人;海上胤平門、信濃伊那郡市岡村の臨濟宗松源寺住職/維新後;権少講義

法洲(ほうしゅう/承誉)	→	法洲(ほうしゅう/承誉、浄土僧)	B 3 9 4 6
芳洲(ほうしゅう;号)	→	永雄(えいゆう;法諱・英甫、臨濟僧、近世狂歌祖)	1 3 0 5
芳洲(ほうしゅう・小堀)	→	定明(さだあき・小堀、藩士/詩歌)	H 2 0 6 4
芳洲(ほうしゅう・山内)	→	豊熙(とよてる・山内、藩主)	R 3 1 3 3
芳洲(ほうしゅう・木梨)	→	玄宅(げんたく・木梨きなし、藩士/医者)	K 1 8 9 7
芳洲(ほうしゅう・岸畑)	→	季英(すえひで・岸畑きしはた、詩人)	F 2 3 5 9
芳洲(ほうしゅう・号)	→	秀啓(しゅうけい;法諱、真宗大谷派僧)	W 2 1 9 7
芳洲(ほうしゅう・号)	→	至善(しぜん;法諱、真宗大谷派僧)	U 2 1 1 7
芳洲(ほうしゅう・号)	→	眞滋(ましげ・梅谷うめや、本陣/国学)	O 4 0 0 2
芳秀(ほうしゅう・岸本)	→	芳秀(よしひで・岸本きしもと、雅楽家/神職)	M 4 7 4 6
芳秋(ほうしゅう・山内)	→	芳秋(よしあき・山内やまうち、官吏/歌人)	P 4 7 8 0
宝洲(ほうしゅう;字)	→	円澄(演澄えんちよう;法諱、真宗大谷派僧)	F 1 3 2 2
宝洲(ほうしゅう・号)	→	速満(そくまん;法諱、真宗本願寺派僧)	J 2 5 5 3
方秀(ほうしゅう・友部)	→	方秀(まさひで・友部ともべ、藩士/国学者)	G 4 0 7 7
方舟(ほうしゅう・逸見)	→	在綱(ありつな・逸見へんみ、医者/勤王派)	F 1 0 4 4
方秀(ほうしゅう・杉本)	→	瑞源(ずいげん・杉本、藩医者)	E 2 3 4 5
邦秋(ほうしゅう・片山)	→	周東(しゅうとう・片山かたやま、藩士/俳人)	Y 2 1 0 8
邦秀(ほうしゅう・奥村)	→	邦秀(くにひで・奥村おくむら/橘、国学/茶人)	E 1 7 0 8
包秀(ほうしゅう/かねひで・岡野)	→	放水(ほうすい・岡野、藩士/討入/俳)	B 3 9 8 9
豊秋(ほうしゅう・有賀)	→	豊秋(とよあき・有賀ありが/菅原、国学/歌/俳)	U 3 1 0 2
豊秋(ほうしゅう・織田)	→	豊秋(とよあき・織田がおだ、神職/歌人)	U 3 1 4 6
豊秀(ほうしゅう/とよひで?・日置)	→	正次(まさつぐ・日置へき、弓術家)	D 4 0 8 4
豊秋(ほうしゅう・米原)	→	豊秋(とよあき・米原よねはら、藩士/国学者)	V 3 1 3 7
豊秀(ほうしゅう・歌川)	→	豊秀(とよひで・歌川うたがわ、絵師)	R 3 1 5 0
豊秀(ほうしゅう・森)	→	厚給(あつとも・森もり、医者/国学/歌)	I 1 0 5 5
豊脩(ほうしゅう・関)	→	文麿(ふみまる・狂蝶子きやうちようし、狂歌/戯作)	E 3 8 0 5
豊洲(ほうしゅう・岡本)	→	花亭(かてい・岡本おかもと、幕臣/詩人)	C 1 5 5 7

- 豊洲(ほうしゅう・榊原) → 芳野(よしひ・榊原さかきばら、国学者) F 4 7 5 2
 豊洲(ほうしゅう・金野) → 博昌(ひろまさ・金野きんの/横前、国学) J 3 7 3 2
 蓬洲(ほうしゅう・小山) → 肆成(しせい・小山こやま、医者/牛痘接種) U 2 1 1 0
 蓬洲(ほうしゅう・榊原) → 百川(ひやくせん・榊原さかきばら、絵師/俳人) E 3 7 6 4
 鳳洲(ほうしゅう・末吉) → 捨介(すてすけ・末吉すえよし、儒者/教育者) D 2 3 8 2
 鵬洲(ほうしゅう・山内) → 豊資(とよすけ・山内やまのうち、藩主/歌) R 3 1 2 0
 髣洲(ほうしゅう・塩谷) → 定得(さだり・塩谷しおたに、医者/国学) O 2 0 6 4
- F3984 方充(ほうじゅう:道号・紹佗じょうだ:法諱)1605-8884 山城の臨濟僧;璧英宗趙門;嗣法、大徳寺191世、
 下総久米川永春庵で没、1671「六祖法宝壇経考」著、
 [方充紹佗の号] 野雲子/躡牛きぎゅう
- B3960 芳重(ほうじゅう) ? - ? 俳人;1686仙化「蛙合かわずあわせ」入
- B3962 芳充(ほうじゅう:道号・祖俊そしゆん:法諱、俗姓;古川)?-1783 越前曹洞僧;永建寺の大機行休門;出家、
 1739大暁高鈞の嗣法、陸奥竜源寺10世/同長泉寺・越後大栄寺住持/1762加賀大乘寺41世、
 1769退隠;山城山科梅本寺住持、「祖俊和尚開堂語録」著
- G3901 法住(ほうじゅう:法諱) ? - ? 真宗大谷派僧;権律師、歌;冷泉家門、
 江戸赤坂道教寺に隠居;隨身庵住、1798刊石野広通「霞関集」入、
 [もらさじな教のあみの綱手繩くるしき海に浮き沈む身も](霞関;釈教1168、
 往生要集十楽のうち引接結縁楽)
- B3961 法住(ほうじゅう:法諱・智幢:字、中村四郎右衛門男)1723-180078 大和石上郡櫛本の真言僧;快範門、
 1741長谷寺の無等門、智積院・南都諸寺遊学/1773一乗院法親王より岡寺を賜、86権僧正、
 1791長谷寺32世、「秘密安心略抄」「六合釈名句」「華嚴宗撮要」、1763「金七十論疏」、
 1769「撰八転義論」79「輔撰八轉義」86「論場旗鼓」1800「秘密安心往生法話」外著多数
- B3946 法洲(ほうじゅう:法諱、中井源右衛門昌直男)1765-183975 長門の浄土僧;西円寺法岸門;出家、
 江戸芝増上寺に修学/宗戒両脈;幡随院露閑門/諸寺で研鑽/1812法岸の命で西円寺住職、
 大日比一流の教泉の拡張に尽力;大日比三師の1、1817「法岸和尚行業記」39「三法語講説」、
 1839「一枚起請講説」、「阿弥陀経講説」「二河白道講説」「大原談義聞書鈔講説」外著多数、
 [法洲の法名]法名;稟蓮社承誉/託阿/還源
- F3906 法住(ほうじゅう:法諱、佐渡蓮正寺の義秀男)1806-7469 佐渡真宗大谷派僧;東本願寺高倉寮に修学、
 江戸伝久寺住/1858名古屋守綱寺転住、擬講/嗣講/1871講師、異議取調・護法場開設に功、
 1851「安津満乃操言」53「一心専念事」、「浄土論辛丑記」「開華法話」「半閑随筆」外著多数、
 [法住の別法諱/号]別法諱;了昭/嚴昭、号;東水/半閑/開華院
- G3934 法住(ほうじゅう:法諱、姓;榛間はりま、字;鳳巖ほうがん)1815-9177 榛間家は播磨赤穂出身、
 河内河内郡の真宗大谷派敬正寺住職、歌人;稲室足穂門、
 法海の父(法海は父を継嗣;1879敬正寺と立法寺住職を兼任)、
 法住は法海の弟法救を伴い立法寺に隠居(法救はのち兄から立法寺住職を継嗣)、
 [法住の号]灌仏/迂庵
- 豊充(ほうじゅう・間瀬) → 豊充(とよみつ・間瀬ませ/内山、歌人) R 3 1 6 7
 豊充(ほうじゅう・藤野) → 専斎(せんさい・藤野ふじの、香道家) M 2 4 3 1
 峰重(ほうじゅう・飯島/都筑) → 峰重(みねしげ・都筑/都築、幕臣/記録) F 4 1 4 7
 芳重(ほうじゅう・歌川) → 芳重(よししげ・歌川うたがわ、絵師) D 4 7 6 6
 芳重(ほうじゅう・福武) → 芳重(よししげ・福武ふたけ、歌人) O 4 7 8 3
 芳充(ほうじゅう・吉田) → 芳充(よしみつ・吉田よしだ、庄屋/尊攘家) Q 4 7 0 6
 茅州(ほうしゅう・尾形) → 貞斎(ていさい・尾形、漢学/和訳) 3 0 8 4
 尨秀(ほうしゅう・神河) → 眉山(びざん・神河かみかわ、医者/詩) C 3 7 2 7
 寶聚院(ほうしゅういん) → 日伝(にちでん;法諱・乗海、日蓮僧) C 3 3 9 3
 寶聚院(ほうしゅういん) → 日朝(にっちょう;法諱・行学院、日蓮僧) F 3 3 1 4
 宝秀軒(ほうしゅうけん) → 尚氏(ひさうじ・大館おだち/源、武将/故実) E 3 7 4 2
 方舟斎(ほうしゅうさい;号) → 普巖(ふごん;法諱、真宗本願寺派僧;大瀛門) B 3 8 9 4
 芳充斎(ほうじゅうさい) → 金毛(きんもう・芳沢、俳人) I 1 6 2 8

逢州山人(ほうしゅうさんじん)→ 曰人(わつじん・遠藤/木村、藩士/俳人) 5 3 5 1
 法住寺太政大臣(ほうじゅうじだいじょうだいじん)→ 為光(ためみつ・藤原、歌) H 2 6 5 0
 芳秋庵(ほうしゅうあん) → 壮山(そうざん・道山みちやま、俳人) H 2 5 5 1
 宝洲房(ほうしゅうぼう) → 英範(えいはん;法諱、真言僧) D 1 3 3 2
 彭叔(ほうしゆく;道号) → 守仙(しゅせん;法諱・彭叔;道号、臨濟僧) I 2 1 8 4
 方祝(ほうしゆく・尾形) → 光琳(こうりん・尾形おがた、絵師) C 1 9 0 8
 方淑(芳淑ほうしゆく・中村)→ 方淑(まさよし・中村なかむら、本草家) J 4 0 1 7
 方淑(ほうしゆく・茨城) → 多左衛門(初世たざえもん・小川、書肆小河屋) E 2 6 5 7
 方叔(ほうしゆく・国枝) → 守義(もりよし・国枝くにえだ、詩人) G 4 4 8 6
 邦淑(ほうしゆく・長谷川) → 邦淑(くによし・長谷川はせがわ、商家/国学) E 1 7 4 2
 方塾(ほうしゆく・柳瀬) → 方塾(みちいへ・柳瀬やなせ、商家/国学/歌) B 4 1 1 8
 宝叔子(ほうしゆくし) → 天叔(てんしゆく;道号・宗眼、臨濟僧) D 3 0 7 8
 芳淑房(ほうしゆくぼう) → 履善(りぜん;法諱・信修;字、本願寺派僧) B 4 9 4 2
 芳樹軒(ほうしゅけん) → 兎水(じすい・瀬山、俳人) E 2 1 2 4
 宝珠護国禪師(ほうじゅこくぜんじ)→ 太原(たいげん・崇孚そうふ、臨濟僧) J 2 6 8 7
 法寿金剛院(ほうじゅこんごういん)→ 治孝(はるとか・二条、廷臣/記録) G 3 6 4 8

- B3963 **法守親王**(ほうしゅしんのう、後伏見天皇3皇子)1308-9184 母;高階邦経女の堀河局、
 1314真言宗仁和寺大聖院入、1320親王宣下/21出家/27寺務/二品/法勝寺円同寺務、
 1326灌頂を受/37僧綱所賜る、六勝寺檢校、仁和寺門跡/1379一品、光厳・光明天皇の異母弟
 1342「禅河院御室日記」63「法則勘例」83「禅河院御室御置文」著、1391(明德2)、
 歌人;「法守親王百首」、貞和百首・延文百首入集、1354花園院七回忌法華經要文和歌参加、
 勅撰27首;風雅(8首229/450/497以下)新千(7首)新拾(7首)新後拾(3首)新続古(2首)、
 [春風のやや吹きよはるこずゑより散りおくれたる花ぞのどけき](風雅集;三春229)
 [法守(;法諱)の俗名/号]俗名;寧永、号;禅河院御室、通称;法守入道親王
 宝樹堂(ほうじゅどう) → 樹徳(じゅとく・小山、農/商家/俳人) 2 1 7 6
- G3902 **宝樹尼**(ほうじゅに、俗名;矢部雅子まさこ、桑田弥五衛門房株女)?-? 江中期歌人、
 幕臣矢部(藤原)定衡[1719-82]の妻、能書家;二十一代集・岷江入楚など書写多数、
 歌;1798刊石野広通「霞関集」入、
 [おもふ事何かつつまんへだてなく朝夕なるる中の衣に](霞関;恋751/馴恋)、
 [はるけしな知らぬ野山を分け来てもまだ末遠きひなの長路は](同;初撰/羈旅)
 宝寿夫人(ほうじゅふじん) → 延子(のぶこ・前田まへだ/浅野、藩主室/歌) J 3 5 9 7
 宝樹房(ほうじゅぼう) → 頼増(らいぞう;法諱・宝樹房、天台僧) 4 8 7 7
 坊主墨海(ほうしゅぼっかい) → 詮海(せんかい;法諱、融通念仏僧) I 2 4 7 0
- B3964 **芳春**(ほうしゅん・富永とみなが、名;徳通、宗仲男)1684-173754 大阪北浜尼ヶ崎醬油醸造業道明寺屋主人、
 儒;五井持軒・三宅石庵門、和漢学精通;上代仮名研究、1724中井齋庵の懐徳堂創立に尽力、
 懐徳堂[五同志]の1、「中村良斎先生行状」著、富永謙斎(仲基)・荒木蘭皐の父、
 [芳春(;号)の通称/屋号]通称;道明寺屋吉左衛門、屋号;道明寺屋
 芳春(ほうしゅん;字) → 専戒((せんかい;法諱、芳春、真言僧) E 2 4 8 7
 芳春(ほうしゅん・古川) → 氏一(うじかず・古川ふるかわ、和算家) B 1 2 8 2
 芳春(ほうしゅん・上田) → 亮章(すけあき・上田うへだ、藩士/洋学者) F 2 3 9 8
 芳春(ほうしゅん・歌川)→ 芳春(よしはる・歌川うたがわ/生田、絵師) G 4 7 1 5
 豊春(ほうしゅん;字) → 謙順(けんじゅん;法諱・豊春、真言僧) D 1 8 9 0
 豊春(ほうしゅん/とよはる・岩橋)→ 豊流(ほうりゅう;号・岩橋いわはし、俳人) C 3 9 6 9
- B3965 **芳純**(芳順ほうじゅん;法名・木布庵;号、姓;横手/新田、本姓;源)?-? 室町後期上州新田の連歌作者、
 :兼載門、兼載と新田尚純の企画した作者別連歌句集編纂作業を継承、1521上京;
 三条西実隆より「新編抄」の書名と序を得る/1521実隆邸で連歌会を催、1533下野鹿沼に住、
 1521(大永元)尚純・兼載「新編抄」刊、「天文鈔本新古今倭詞集」著?、横手繁世と同一説あり、
 繁世(しげよ)と同一? → 繁世(しげよ・横手、武将) T 2 1 0 7
- F3985 **芳順**(ほうじゅん;法諱) ? - ? 江中期摂津の天台宗四天王寺東光院の住持、
 円悟院覚同門、1724「山家灌頂支度」著

- 方純(ほうじゆん・森脇) → 方純(まさずみ・森脇もりわき、藩士/歌人) T 4 0 2 7
望春(ほうしゆん・平田) → 胤富(たねとみ・平田ひらた、藩士/随筆) R 2 6 8 6
芳俊院(ほうしゆんいん;法号)→ 勝貞(かつさだ・板倉いたくら、藩主/狂歌) N 1 5 3 3
芳潤院(ほうしゆんいん;法号)→ 義建(よしたつ・松平/高須、藩主/歌) K 4 7 5 0
逢春軒(ほうしゆんけん) → 燕説(えんせつ・其日庵、俳人) B 1 3 1 8
報春亭(ほうしゆんてい) → 久春(ひさはる・吉田よしだ、藩士/国学者) M 3 7 3 4
望春亭(ほうしゆんてい) → 素郷(そきょう・小野、商家/俳人/謡曲) D 2 5 4 8
芳春堂(ほうしゆんどう) → 友信(とものお・三宅、蘭学者) Q 3 1 2 2
豊春楼(ほうしゆんろう) → 国周(くにちか・豊原、荒川/大島、絵師) B 1 7 5 5
- B3966 芳所(ほうしよ・浅岡あさおか/浅井あさい、名;菴之/冥之/之菴) ?-? 1764-72頃没 武蔵の儒者;河口静斎門、のち室鳩巢門/程朱学を宗とす、武蔵川越藩儒、「芳所文章」「芳所経説」著、
[芳所(;号)の字/通称]字;子喜、通称;喜蔵
- B3967 豊嶼(ほうしよ・片山かたやま、名;介、伝九郎男) 1815-7258 代々熊本藩江戸邸勤務/江戸生;本国に戻る、儒者;辛島塩井門、藩校時習館で経史を修学/1861時習館6代教授/62高瀬町奉行、詩文に長ず、「含和園詩集」著、
[豊嶼(;号)の字/通称/別号]字;介夫、通称;喜三郎/八十、別号;春梦庵しゆんむあん主人
- 豊所(ほうしよ・小国) → 嵩陽(すうよう・小国おくに、儒者/国事) B 2 3 0 4
宝所(ほうしよ・村山) → 素行(そこう・村山むらやま/藤原、歌人) D 2 5 7 3
- B3968 法助(ほうじよ;法諱、関白久条道家男) 1227-8458 鎌倉期;1238道深親王に従い真言仁和寺で出家、1239一身阿闍梨、准三后、43道深より伝法灌頂を受/1249仁和寺門跡/58山城開田院に退隱、「護摩私注」「金剛界私註」「四度次第私注」「十八道私註」「胎蔵界私註」著、
[法助(;法諱)の通称]開田准后/開田御室
- B3969 方女(ほうじよ/ほうによ・川崎かわさき、川崎方孝ほうこうの妻) ?-? 江前期大阪の俳人;野々口立圃門、女六俳仙の1、1673「哥仙大坂俳諧師」「古今俳諧師手鑑」82春林「俳諧百人一句難波色紙」入、1682風黒「高名集こうみょうしゅう」/1684西鶴「俳諧女哥仙によかせん」入、
[軒の妻も晴帷子はれかたびらか花あやめ](高名集/俳諧女哥仙;17/端午の節句の軒菖蒲)
- B3970 方絮(ほうじよ・櫛原いちばら、別号;南尔庵なんじあん) ?-? 大阪俳人、1738「有馬之日記」(布門・秋司と旅)、1740「亀の友」編/65「俳諧ことしのすず」編、布門編「来山三十回忌追善集」跋文
- 方助(ほうじよ・河合) → 良温(よしほる・河合かわい、医者/儒者) G 4 7 1 1
法序(ほうじよ;法諱・不遷)→ 不遷(ふせん;道号・法序、臨濟僧) H 3 8 2 8
包助(ほうじよ・多田) → 包輔(かねすけ・多田ただ、占卜家) O 1 5 5 4
朋如(ほうじよ・田中) → 朋如(ともゆき・田中/田、藩士/国学者) Q 3 1 8 0
邦恕(ほうじよ・梁田/拝村)→ 葦洲(いしゅう・梁田やなだ、藩士/儒者) E 1 1 2 7
宝所庵(ほうしよあん) → 素行(そこう・村山むらやま/藤原、歌人) D 2 5 7 3
- B3971 包昌(ほうしゅう・夏目、成美男) ?- ? 江戸俳:父門、1721成美文集「四山藁」兄の包寿/包徳(諫圃かんぼ)らと共編
- B3972 鳳翔(ほうしゅう・長尾ながお、名;毅/通称;進九郎、遁翁の孫or男) ?-?天逝 江後期肥前佐賀の儒者;幼少時より家学修得、「一国史」、「行余吟草」著
- B3973 鳳蕉(ほうしゅう・大石おおい、名;貞和) 1812-7867 紀伊新宮の儒者;宇井愷翁[鬱翠園]に修学、新宮藩儒官の門/1830上方に遊学、和算;1841肥前の小松純斎門、帰郷後1831[大石塾]開設、漢学・算数・儒教・道徳・礼儀作法を教授、門弟常時300余、「とはず語り」「鳳蕉斎詩稿」「為身抄」「自翫抄」「文会抄」「謔話」「金三遺稿」「敬修文章」、「消暑録しゅうきらく」「独語」「文稿」著、
[鳳蕉(;号)の幼名/字/通称]幼名;穰次郎、字;叔穰、通称;純蔵
- C3905 芳勝(ほうしゅう;法諱・俗姓;高頭/船岡ふなおか、高頭治右衛門男) 1840-9657 越後深沢村の真言僧、1851小千谷慈光字芳順門/57上京;智積院映澄門;両部灌頂を受、大学林教師、1896智積院能化、「阿毘達磨俱舍論広私記」「異部宗輪論述記分科」著、
[芳勝の字] 純賢
- 宝生(ほうしゅう・白崖) → 白崖(はくがい;道号・宝生;法諱、臨濟僧) C 3 6 8 4
方升(ほうしゅう・友部) → 方升(まさのり・友部、藩士・国学/修史) G 4 0 1 7

方升(ほうしょう・田子) → 方斎(ほうさい・田子たご、儒者) 3987
 方勝(ほうしょう・伊沢) → 方勝(まさかつ・伊沢いざわ、藩陪臣/国学) N4038
 方勝(ほうしょう・菱沢) → 方勝(まさかつ・菱沢ひしざわ、商家/歌人) S4009
 方昭(ほうしょう・森脇) → 方純(まさずみ・森脇もりわき、藩士/歌人) T4027
 邦昌(ほうしょう・有馬) → 邦昌(くにまさ・有馬ありま、国学者) D1797
 邦照(ほうしょう・服部) → 邦照(邦輝くにてる・服部はつとり、藩士) E1744
 邦勝(ほうしょう・平岡) → 邦勝(くにかつ・平岡ひらおか/源、藩士/国学) E1746
 法性(ほうしょう→ほっしょう) → 法性(ほっしょう;法諱・覚円;字、真言僧) E3968
 芳章(ほうしょう・吉田) → 芳章(よしあき・吉田よしだ、神職/歌人) B4797
 芳勝(ほうしょう・歌川) → 芳勝(よしかつ・歌川うたがわ/石渡、絵師) C4789
 豊尚(ほうしょう・日野西) → 資興(すけおき・日野西/藤原/石井、廷臣/記録) G2312
 豊章(ほうしょう・久保田/小林) → 東鴻(とうこう・小林/坂、幕医/本草) D3187
 豊章(ほうしょう・高田) → 武泰(たけやす・高田/荒木田/亀田、神職) N2655
 豊章(ほうしょう・村上) → 石田(せきでん・村上むらかみ、篆刻家) K2443
 豊章(ほうしょう・山内) → 豊章(とよあき・山内やまのうち/やまうち、藩士/神職) W3180
 豊勝(ほうしょう・蜂須賀) → 至鎮(よししげ・蜂須賀/源、藩主/連歌) D4758
 豊紹(ほうしょう・内藤) → 景文(かげふみ・内藤ないとう、藩士/儒者) L1530
 豊昌(ほうしょう・山内) → 豊昌(とよまさ・山内やまのうち、藩主/兵学) R3158
 鳳翔(ほうしょう・内藤) → 政陽(まさあき・内藤、藩主/詩人) 4096
 鳳翔(ほうしょう・松平) → 忠和(ただとも・松平、藩主/天文暦学) Q2616
 宝蕉(ほうしょう) → 一蝶(初世いちちょう・英はなぶさ、絵師) C1108
 包章(ほうしょう・大河原) → 亀文(きぶん・大河原おおがわら、商家/和漢学/戯作) G1621
 包章(ほうしょう・岡/広瀬) → 保庵(ほあん・広瀬/岡、医者) 3905
 包照(ほうしょう・佐久間) → 太華(大華たいか・佐久間、藩士/儒者) B2606

- B3974 **宝城**(ほうじょう;法諱、通称;安富安藝入道/俗姓;安富) **?-? 1428存** 室町期幕府管領細川家の被官、1408-28備中新見荘代官職;不正多く圧政を施いたという、僧(法師)、歌人: 1414細川満元催「頓証寺法楽一日千首」・兄宝密の勸進「頓証寺法楽百首」「当座三十首」参、1414「竹生嶋縁起」の助縁衆、15「詠法華経和歌」出詠;嘱累品担当、1421「細川満元家月次始歌会」参加(慕風愚吟集所収)、新続古今1376、宝密の弟 [人心こなたかなたによるいとのだひとすぢに頼むはかなさ](新続古今;恋1376)
- B3975 **方净**(ほうじょう;法諱・喝浪;道号) **1663-170644** 福建;安平県の黄檗僧:1694渡来/95長崎福濟寺4世、1705光明庵に退隱/画、「光明喝浪禅師語録」著
- B3976 **豊城**(ほうじょう・莊田しょうだ、名;允益、藩儒莊田立允男) **1697-175458** 豊後臼杵の生/幼時父母を失う、伯父の臼杵藩医莊田宗仙に養育/儒;1713京の伊藤東涯門/程朱学修学、帰国後臼杵藩儒、詩文;服部南郭門/古文辞学に転、1737侍中に列す;1750三百石、1742「芙蓉記」「芙蓉之図」、1743「禹稷碑図」、「禹稷合社説」「春秋世系図」「豊城集」「莊田豊文稿」著、[豊城(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;立本/仁静、字;子謙けん、通称;平五郎、別号;豊城先生(臼杵城に居住のため)・新橋先生と称される
- F3976 **峰城**(ほうじょう・古屋ふるや/本姓;伴、名;希眞、志村勝之進男) **1765-185288** 甲斐一宮村の生、古屋眞章の養子、儒者;加賀美光章門/書;長尾派のち狭山派修得、家塾で子弟教育、1813「四書字引捷徑」27「伴希眞篆書」著
- B3977 **法定**(ほうじょう;法諱) **1773 - 184068** 伊勢の真宗高田派専照寺住職、諸寺の学匠を歴訪、具舎・華厳・天台教学を修得/真宗学;伊勢智慧光院の眞淳門、1803勸学堂の都講/23講師、宗主の侍講;直綴・院家職を受、「高僧和讃講録」「下野伝戒記講録」「文類聚鈔聞記」外著多数、[法定の字/号]字;海懐、号;玄黙、諡号;明静院
- B3978 **豊城**(ほうじょう・猪瀬いのせ、名;愿) **1781-186282** 下総三坂新田の庄屋/儒:立原翠軒・亀田鵬斎門、1838下総結城藩主水野家に招聘;講師/12年後帰郷、詩人、「結城集」「大宝八幡神社碑記」著、[豊城(;号)の字/通称/法号]字;子温、通称;周輔/周助、法号;大光軒
- B3979 **宝成**(ほうじょう;法諱) **? - ?** 江戸後期筑後柳川の真宗僧、

1845「法華經科註講義」著

方城(ほうじょう)	→ 麦水(ばくすい・堀、俳人/実録作者)	3 6 0 9
鳳城(ほうじょう;号)	→ 周璽(しゅうがく;法諱・巖中、臨濟僧)	H 2 1 0 0
法饒(ほうじょう;字)	→ 恵海(えかい;法諱・法饒、真宗高田派僧)	D 1 3 5 1
宝乗(ほうじょう;字)	→ 円識(えんしき;法諱、本願寺派僧)	E 1 3 8 2
豊常(ほうじょう・戸田/岡部)	→ 豊常(とよつね・岡部/戸田、幕臣)	R 3 1 3 2
豊城(ほうじょう;号)	→ 物外(ものがい;道号・可什;法諱、臨濟僧)	B 4 4 8 3
豊城(ほうじょう・山内)	→ 豊城(とよき・山内やまうち、書家/歌人)	R 3 1 1 2
豊城(ほうじょう・武田)	→ 豊城(とよき・武田たけだ、藩士/歌人)	T 3 1 5 2
豊城(ほうじょう・景山)	→ 豊城(とよき・景山かげやま/河村、神職/歌)	U 3 1 7 1
豊城(ほうじょう・繁沢)	→ 規世(のりよ・繁沢はんざわ/上領、藩儒者)	J 3 5 7 4
豊城(ほうじょう・星野)	→ 恒(ひさし・星野ほしの、儒者/史家)	K 3 7 9 4
房勝(ぼうしょう・津田)	→ 房勝(ふさかつ・津田つだ、藩士/随筆家)	C 3 8 0 1
坊城(ほうじょう;称)	→ 家隆(いえたか・藤原、廷臣/歌人)	1 1 0 2
坊城(ほうじょう;号)	→ 実宗(さねむね・藤原/西園寺、廷臣/歌)	D 2 0 6 6
房常(ぼうじょう・橘川)	→ 房常(ふさつね・橘川/大江、藩士/料理)	C 3 8 1 7
房常(ぼうじょう・速水)	→ 房常(ふさつね・速水/藤原、官人/故実)	C 3 8 1 8
望城(ぼうじょう・坂上)	→ 望城(もちき・坂上さかのうえ、廷臣/歌)	B 4 4 3 6
望城(ぼうじょう・橘)	→ 望城(もちき・橘たちばな、廷臣/歌)	B 4 4 3 7
蓬松庵(ほうしょうあん・贅川)	→ 勝己(かつみ・贅川にえかわ、宿場本陣/歌)	C 1 5 5 3
鳳翔院(ほうしやういん)	→ 政経(まさつね・保科ほしな、藩主/能書家)	E 4 0 0 7
法性院(ほうじやういん)	→ 日勇(にちゆう;法諱・天慧、日蓮僧)	D 3 3 3 0
法性院(ほうじやういん)	→ 信玄(しんげん・武田、武将/戦国大名)	D 2 2 9 8
宝性院(ほうじやういん;諡)	→ 恵雲(えうん;法諱、真宗高田派僧)	D 1 3 4 6
宝性院(ほうじやういん)	→ 暢道(ちやうどう;法諱、真宗本願寺派僧)	J 2 8 5 4
法浄院僧正(ほうじやういんのそうじやう)	→ 信証(しんしやう;法諱、真言僧)	O 2 2 8 6
坊城右大臣(ほうじやううだいじん)	→ 師輔(もろすけ・藤原、故実/歌人)	4 4 3 3
抱笙窠(ほうしやうか)	→ 青亜(せうあ・僧/俳人)	H 2 4 1 2
法性覚(ほうしやうかく;法名)	→ 経宗(つねむね・藤原ふじわら、廷臣/歌人)	D 2 9 9 5
鳳翔閣主人(ほうしやうかくしゅじん)	→ 忠和(ただとも・松平、藩主/暦学)	Q 2 6 1 6
峯松軒(ほうしやうけん)	→ 篤好(あつよし・井上いのうえ、神道家)	E 1 0 9 5
方生齋(ほうじやうさい)	→ 宗二(そうじ・林りん・饅頭屋、商家/和漢学)	2 5 0 9
貌肖齋(ほうしやうさい)	→ 昌築(しやうちく・里村[南家]、幕府連歌師)	U 2 2 1 7
坊城左大弁(ほうじやうさだいべん)	→ 為隆(ためたか・藤原、日記)	G 2 6 9 3
法性寺(ほうしやうじ)	→ 法性寺(ほっしやうじ)	
法成寺殿(ほうじやうじどの)	→ 道長(みちなが・藤原、御堂関白)	4 1 1 3
法成寺殿(ほうじやうじどの)	→ 忠道(ただみち・藤原、円観)	2 6 3 3
法成寺入道前太政大臣(ほうじやうじのにゆうどうさきのだいじやうだいじん)	→ 道長(みちなが・藤原)	4 1 1 3
法成就院(ほうじやうじゆいん)	→ 行阿(ぎやうあ;法諱、賢存修、験学僧)	N 1 6 1 4
豊城先生(ほうじやうせんせい)	→ 豊城(ほうじやう・荘田しやうだ、藩士/儒者)	B 3 9 7 6
北条の門(ほうじやうてきもん)	→ 的門(てきもん;法諱・法巖、浄土僧)	C 3 0 0 8
豊笑堂(ほうしやうどう)	→ 彦八(ひこはち・米沢、落語家)	3 7 6 8
豊笑堂(ほうしやうどう)	→ 彦八(2世ひこはち・米沢、落語家)	3 7 6 9
坊城右大臣(ほうじやうのうだいじん)	→ 師輔(もろすけ・藤原、故実/歌人)	4 4 3 3
坊城大蔵卿(ほうじやうのおおくらきやう)	→ 為房(ためふさ・藤原、廷臣/博学/歌)	H 2 6 3 9
坊城大臣(ほうじやうのおとど)	→ 師輔(もろすけ・藤原、故実/歌人)	4 4 3 3
坊城左大弁(ほうじやうのさだいべん)	→ 為隆(ためたか・藤原、廷臣/日記)	G 2 6 9 3
坊城中納言(ほうじやうのちゆうなごん)	→ 国信(くにざね・源、廷臣/歌人)	1 7 1 9
坊城内大臣(ほうじやうのないだいじん)	→ 実宗(さねむね・藤原、廷臣/歌)	D 2 0 6 6
宝生坊(ほうじやうぼう;通称)	→ 教尋(きやうじん;法諱、真言僧)	O 1 6 0 9

- 法性房(ほうしょうぼう) → 尊意(そんい;法諱、天台座主) B 2 5 4 6
 方丈丸(ほうじょうまる) → 理交(りこう・橋爪はしづめ、俳人) 4 9 9 8
 望松楼(ぼうしょうろう) → 池水(ちずい・柿崎/小池、医者/教育) E 2 8 5 0
 B3980 方蜀(ほうしよく) ? - ? 俳人;春夜楼(几董)連、1776道立「写経社集」4句入
 [尼にする子に示す夜や時鳥](写経社集;36/時鳥は一名に無常鳥)
 方次郎(ほうじろう・柳) → 檐悦(ならよし・柳やなぎ、藩士/測量術) G 3 2 9
 彭次郎(ほうじろう・宮竹屋/亀田) → 商斎(しょうさい・亀田/林、商家/詩歌) J 2 2 0 0
 包次郎(ほうじろう・竹内) → 信英(のぶひで・竹内たけうち、藩家老/歌) I 3 5 1 2
 鳳二郎(ほうじろう・萩原) → 緑野(りよくや・萩原はぎわら、儒/講説/詩) J 4 9 8 2
 B3981 宝心(ほうしん;法諱・浄蓮房) 1092-117483 真言僧;醍醐寺理性院の賢覚門、密教に精通、
 金剛院の覚源と対立;官途に進めず高野山に隠退、「青表子」「尊法」「尊法抄」、
 [宝心(;法諱)の号/通称]号;浄蓮房じようれんぼう、通称;上野阿闍梨、玄親・観宝・覚尋の師
 B3982 芳心(ほうしん・前坊) ? - ? 堺俳人、1660顕成あきなり「境海草さかいぐさ」入、
 1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、
 [華は根に鳥は古巢に玉子哉](手鑑、
 謡曲[東北];今は是までぞ 花は根に鳥は古巢に帰るぞとて)
 B3983 邦新(ほうしん・朝岡) ? - ? 儒者/昌平坂学問所記録資料編纂;
 1826-8「記録解題」編纂参加
 法進(ほうしん) → 法進(はっしん、渡来律宗僧/鑑真門) F 3 6 2 4
 法身(法心ほうしん) → 法身(法心はっしん、臨濟僧) C 3 9 6 7
 法深(ほうしん;法諱) → 静覚法親王(じょうかくほうしんのう、真言仁和寺僧) H 2 2 7 8
 方信(ほうしん・狩野) → 伯田(はくえん・狩野かのう、絵師) C 3 6 6 5
 方信(ほうしん・寺井) → 方信(まさのぶ・寺井、心学者) F 4 0 7 0
 方親(ほうしん・諏訪) → 方親(まさちか・諏訪すわ、神職) D 4 0 7 8
 芳信(ほうしん・歌川) → 芳信(よしのぶ・歌川うたがわ、絵師) F 4 7 7 3
 邦親(ほうしん・近藤) → 邦親(くにちか・近藤こんどう、歌人) D 1 7 8 7
 邦信(ほうしん・大内) → 邦信(くにのぶ・大内おおうち、神職/歌人) D 1 7 9 8
 葆真(ほうしん) → 大瀛(だいえい;法諱・子容、真宗僧) J 2 6 1 8
 豊信(ほうしん・八木) → 豊信(とよのぶ・八木やぎ、武将/藩士/歌) W 3 1 7 4
 豊信(ほうしん・山内やまのうち) → 豊信(とよしげ・山内容堂、藩主/詩歌) R 3 1 1 8
 豊信(ほうしん・石川) → 豊信(とよのぶ・石川、旅宿業/絵師/絵本) R 3 1 4 2
 豊辰(ほうしん・吉田) → 豊辰(とよとき・吉田よしだ/新居、藩家老/神職) W 3 1 9 4
 朋信(ほうしん/ともふ・秋山) → 景山(けいざん・秋山あきやま、藩士/儒者) E 1 8 7 1
 鳳夙(ほうじん) → 野明(やめい・坂井、俳人) E 4 5 2 6
 房信(ほうしん・暁鷄堂/正本屋/丸屋) → 吟雪(ぎんせつ・富川とみかわ、書肆/草双紙) E 1 6 2 1
 B3984 贅人(ほうじん・鹿柴ろくさい、字;懐玉、魚籃先生) ?-? 岩代伊達郡無何郷の豪農、漢文・狂文、
 熊阪台洲の白雲館社中客員、1761台洲と近畿・関東・日光を行脚(台洲「西遊紀行」、
 人々に1779.3月15日間の行動を詰問され土湯嶽温泉と帰途の旗亭妓楼での遊蕩を口述;
 1781「魚籃先生春遊記ぎょらんせんせいしゅんゆうき」(東奥陳奮翰[台洲の変名]が筆記/刊行)
 贅人(ほうじん・長坂/長阪) → 円陵(えんりょう・長坂、儒者) C 1 3 3 5
 房甚(ほうじん/ふさただ・河口) → 信任(のぶただ・河口かわぐち、蘭医) B 3 5 8 4
 宝晋斎(ほうしんさい) → 其角(きかく・榎本、俳人) 1 6 0 5
 宝晋斎(2世ほうしんさい) → 湖十(6世こじゅう・深川、俳人) C 1 9 8 7
 宝晋斎(3世ほうしんさい) → 螺窓(らそう・穂積ほづみ/深川、俳人) B 4 8 4 4
 抱真斎(ほうしんさい・森田) → 直政(なおまさ・森田、商家/古書画鑑定) C 3 2 4 3
 豊臣亭(ほうしんてい) → 義季(よしすえ・近藤こんどう、藩士/歌人) M 4 7 9 3
 葆真堂(ほうしんどう) → 葆堂(ほうどう・戸田とだ、藩士/詩人) F 3 9 9 1
 抱神堂主人(ほうしんどうしゅじん) → 壺山(こざん・中川なかがわ、医者) M 1 9 6 1
 法深房智西(ほうしんぼうちさい) → 孝時(たかとき・藤原ふじわら、楽人/琵琶) D 2 6 1 6
 豊神霊神(ほうしんれいしん) → 兼見(かねみ・吉田/卜部、神職) 1 5 3 5

- B3985 **芳水**(ほうすい;号・永井ながい、紅雪の弟)?-? 江前期讃岐高松の俳人、1702頃一時大阪に住、才麿・寸木と交流、1691「あやの松」編、93兄紅雪「佐郎山」補填/編刊、1690三千風「日本行脚文集」入、1700寸木と上方の旅「金比羅会」入
兄 → 紅雪(こうせつ・虚白庵、永井、俳人) B 1 9 5 5
- B3986 **朋水**(ほうすい・香田こうだ、名;正宣/正宜)1661-171858 京の俳人・歌人:宮川松堅門、言水・幸佐と交流、1689「俳諧仮橋かはし」編、「麻木合」「松戸集」編、1690言水「新撰都曲」4句入、幸佐「俳諧大湊」入、「俳諧前後園」「俳諧破曉集」「遠眼鏡」入、「俳諧新始」入集、没後;1722松堅[和謔五十人一首]入、
[なほ憂きは一度に桐の二葉哉](都曲;91/淮南子「桐一葉落ちて天下の秋を知る」)、
[盛りなる花の色香を雁がねのひととせしらばいかでかへらむ]、
(和謔五十人一首;19/帰雁/正宜名)、
[朋水(;号)の別号] 松戸/堪忍軒/衰翁/無底廬/正宜せいぎ
- B3987 **豊水**(ほうすい;号) ? - ? 俳人、1692轍士「俳諧白眼はいかいはくがん」入
- B3988 **鳳水**(ほうすい;号) ? - ? 江戸雑俳点者;1709書肆「つづら笠」前句冠付入
- B3989 **放水**(ほうすい;号・岡野おかの、名;包秀かぬひで/通称;金右衛門、包住男)1680-1703切腹24 赤穂浪士、討入に参加、俳人、1702子葉「二ツ乃竹」入;[追はぎに宗祇は哥を夏衣](二ツ乃竹)
- B3990 **峰水**(ほうすい;号) ? - ? 俳人;雑俳、1728亀岡「峯の嵐」4吟歌仙入
- B3991 **豊水**(ほうすい・宮崎みやざき、名;豊重/通称;喜六)?-? 江中期武州浦和玉蔵院の坊官(役人)、1766「玉要記」著(玉蔵院の行事記録)
- G3923 **澧水**(ほうすい・沢さわ、) 1741 - 179858 三河吉田の和学者
- B3992 **澧水**(ほうすい・八木、中出本救男)1744-182178 相模戸塚の人/八木家を継嗣/津久井に転住、俳人:白雄門、相模俳壇発展に寄与;葛三を助け重鎮、[つくみ県の澧水]と称される、「奥羽紀行」「津久井鑑」「四方庵澧水句集」、
[澧水(;号)の通称/別号]通称;太郎左衛門、別号;秋笛(;初号)/四方庵、法号;慈照院
- B3993 **宝水**(ほうすい;号・鈴木すずき、屋号;灰吹屋)1757-183781 武蔵橋樹郡溝ノ口の菓種商、俳人:田川鳳朗門、1829矢倉沢往還筋に芭蕉句碑建立、1815-35「両吟集」編、17「詠草」、1823「こがね井記行」26「老人亭記」、「円座松之賦」、
[宝水(;号)の通称/別号]通称;仁兵衛、別号;麗山亭/、老人亭、法号;性信院
- B3994 **鳳水**(ほうすい・岡村おかむら、名;徹房/徹芳、岩佐いわさ忠兵衛男)1770-184576 丹波亀山の絵師、京の円山応挙門:十哲の1、同門笠井末清の縁で伊勢山田に遊び岡村又太夫の養嗣子、門人多数、「応挙先生事蹟」著、
[鳳水(;号)の通称/別号]通称;左膳/左全/左金、別号;肅叟
- G3905 **法水**(ほうすい・若泉わかづみ)?-? 江後期;幕臣/江戸の町与力、出家剃髪、歌;1852蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[もえいつる雪まもとめてくたかけ(鶏)のひなにはぐくむ垣の若草]、
(大江戸倭歌;春165/垣若草)
[剃りすててうき世の夢をさませとや枕の山に松風ぞ吹く]、
(同;雑1955/剃髪せんと思ふ暁に)
- 鳳水(ほうすい・菅原) → 源右衛門(げんえもん・菅原すがら、和算家) H 1 8 9 3
 彭水(ほうすい・津島) → 恒之進(つねのしん・津島、本草学) C 2 9 9 7
 方睡(豊睡ほうすい;法名) → 重勝(しげかつ・吉田よしだ、弓術家) Q 2 1 8 0
 芳吹(ほうすい・山地) → 介寿(すけとし・山地やまじ、藩士/国学者) G 2 3 6 3
 豊水(ほうすい;号) → 道振(どうしん;法諱、真宗本願寺派僧) F 3 1 6 3
 豊水(ほうすい・有馬) → 泰賢(やすかた・有馬ありま、藩家老/歌人) F 4 5 2 0
 豊水(ほうすい・佐々) → 豊水(とよみ・佐々ささ/源、藩士/国学) V 3 1 2 7
 豊水(ほうすい・服部) → 保常(やすつね・服部はっとり、国学者/歌) G 4 5 4 1
- B3995 **法瑞**(ほうずい;法諱・覚如かくによ;字)1708-8982 南都眉間寺の真言律僧/1716-36頃河内延命寺6世、1745江戸靈雲寺で恵曦より印信・大巻を伝受、1760延命寺に猗蘭台を建造・本堂を修理、1775備後尾道の西国寺に転住、1766「啓函篇」、「般若寺教主通解」「宝幢如来法」著
望翠(ほうすい・片野) → 望翠(もうすい・片野かたの、商人/俳人) 4 4 5 7

- 豊水院(ほうすいゐん; 諡号) → 道振(どうしん; 法諱・嵩山・真宗僧) F 3 1 6 3
方水軒(ほうすいけん・神田) → 良近(よしちか・神田かんだ、藩士/兵学) E 4 7 4 9
方穂平兵衛尉(ほうすいたいらのひょうえのじょう) → 章棟(あきむね・平、武士/連歌) C 1 0 6 0
抱翠房(ほうすいぼう) → 稲坡(とうは・松岡、藩士/俳人) G 3 1 9 0
鵬雛猶児(ほうすうかいじ) → 鶯谷(おうこく・亀田かめだ/鈴木、儒者) C 1 4 1 3
- B3996 蓬輔(ほうすけ; 通称・池内いけうち、名; 知遠/号; 松濤) 1801-5656 伊予松山の医者: 種痘の啓蒙に尽力、
1819「散花養生訓」、「種痘小言」著
鳳助(鳳介ほうすけ・永富) → 独嘯庵(どくしょうあん、永富ながとみ/勝原、医者/詩) L 3 1 0 5
鳳助(ほうすけ・糸井) → 一九(いっく・十返舎、滑稽本) 1 1 2 0
方寸庵(ほうすんあん) → 八兵衛(はちべえ・初代中村宗哲、千家塗師) J 3 6 4 3
方寸庵(ほうすんあん) → 漆翁(しつおう・3代中村宗哲、千家塗師/俳人) F 2 1 1 1
方寸庵(ほうすんあん) → 卓堂(たくどう・貫洞ぬきどう、俳人) O 2 6 1 5
方寸庵(ほうすんあん・良丈) → 命堯(のぶたか・北村きたむら、里正/歌人) I 3 5 2 2
方寸翁(ほうすんおう) → 静里(せいり・山田やまだ、商家/儒/歌) J 2 4 7 6
方寸斎(ほうすんさい) → 宗瓦(そうが・武野/武田、紹鷗男/茶人) G 2 5 4 3
方寸斎(ほうすんさい) → 漆翁(しつおう・中村なかむら、塗師/俳人) F 2 1 1 1
- B3997 方生(ほうせい) ? - ? 尾張津島の俳人; 1689「あら野」入、
[かやびらのちづむや秋の夕ゆげしき](あら野; 四/夏用着物を肌寒く感じる秋の夕暮)
- G3953 方正(ほうせい・まさただ?・姓不詳) ?- ? 江前中期江戸の武士/歌人; 京極高門門?、
1728宝山板「諏訪浄光寺八景詩歌」参加(; 前畦落雁ぜんけいらくがん)、
[秋風になびく稲葉いなばの雲わけて田面たのむはるかに落つるかりがね](八景歌)
- B3998 宝井(ほうせい、五竹庵/六籤せん庵) ?-? 江戸の俳人、
1773馬卵「双猿路談そうえんろだん」入; 3世湖十中心
[山蟹も清水尋ぬる暑さ哉](双猿路談)
- D3942 宝井(ほうせい・深川、朗窓) ? - ? 江戸四番丁の俳人; 五竹庵宝井門、其角座点者、
1848沾山せんざん7世「俳諧觸はいかいけい」に点句入
- B3999 鳳声(ほうせい・川瀬かわせ、名; 信周、別号; 大平庵/太平庵) ?-1818? 尾張名古屋藩士/名古屋滝の口住、
俳人、1794雨明3回忌追善「名月集」編
- C3900 鳳棲(ほうせい・稲田いなだ、名; 長方) ?-? 江後期1844-60頃阿波徳島藩士; 中老/御年寄役、
俳人: 鳳朗門、「撥集」、息子の勘解由長鎮[文笠]も俳人、
[鳳棲(; 号)の通称/別号]通称; 筑後、別号; 翠松亭
- C3901 方静(ほうせい・市川いちかわ、藩士市川多兵衛男) 1834-190370 磐城白河藩士/和算家: 最上流を修学、
天文学も修得/易学・歌・俳諧・茶・謡を嗜む、藩命で京阪の動静を探る、維新後は学校勤務、
調方儀・捷測器しょうそくきを考案、1862「算法量地捷解前編」校訂、
[方静(; 字)の通称/号]通称; 運八郎、号; 不求庵/律襲斎/風流軒/一夢斎、法号; 徳潤院
- 方成(ほうせい・林) → 方成(まさなり・林はやし、儒者) F 4 0 4 2
方正(ほうせい・鶴飼) → 石斎(せきさい・鶴飼/鶴、儒者/史学) D 2 4 4 7
方正(ほうせい・城崎) → 方弘(まさひろ・城崎しろさき、和算家) G 4 0 9 6
方清(ほうせい・植田) → 方清(みちきよ・植田うえだ、庄屋/国学/歌) I 4 1 1 7
包清(ほうせい・立石) → 包清(かねきよ・立石たていし、藩士・文筆) O 1 5 4 5
奉政(ほうせい・下田/浅井) → 奉政(ともまさ・浅井/下田、幕臣/故実) Q 3 1 5 4
包政(ほうせい・浅井) → 東軒(とうけん・浅井、医者) D 3 1 3 1
芳性(ほうせい・山内) → 豊房(とよふさ・山内やまのうち、藩主/儒/歌) R 3 1 5 5
芳政(ほうせい・歌川) → 芳政(よしまさ・歌川うたがわ/三浦、絵師) H 4 7 1 5
芳盛(初世ほうせい・歌川) → 芳盛(初世よしもり・歌川/三木、絵師) H 4 7 7 2
法正(ほうせい・長尾) → 景範(かげのり・長尾ながお、軍学/詩文) L 1 5 1 7
鳳栖(ほうせい; 号) → 方秀(ほうしゅう; 法諱・岐陽ぎよう、臨濟僧) 3 9 5 5
鳳成(ほうせい・松平) → 世軌(つぐのり・松平まつだいら、幕臣) G 2 9 3 8
邦正(ほうせい・源) → 邦正(くにまさ・源みなもと、廷臣/歌人) B 1 7 6 2
邦正(ほうせい・深町) → 十蔵(じゅうぞう・深町ふかまち、藩士/槍術) X 2 1 9 2

- 邦成(ほうせい・伊達) → 邦成(くにしげ・伊達、領主/北海道開拓) C 1 7 7 9
 豊清(ほうせい・歌川) → 豊清(とよきよ・歌川うたがわ/岡島、絵師) R 3 1 1 3
 豊正(ほうせい・中山) → 豊正(とよまさ・中山/丹治部、歌人) R 3 1 6 0
 豊成(ほうせい/とよなり・中井) → 梅成(うめなり・中井なかい、商家/歌人) E 1 2 3 9
 豊成(ほうせい・侍従) → 豊信(とよしげ・山内容堂、藩主/詩歌) R 3 1 1 8
 豊盛(ほうせい・宮部) → 林平(りんぺい;通称・宮部、藩士/砲術) K 4 9 7 7
 宝成(ほうせい;法諱) → 宝成(ほうじょう;法諱、真宗僧) B 3 9 7 9
 保世(ほうせい・松尾) → 雪庵(せつあん・松尾まつお、藩医/詩人) K 2 4 6 6
 方税(ほうせい・片山) → 助叟(じょそう・片山かたやま、俳人) C 2 2 7 6
 房政(ほうせい)すべて → 房政(ふさまさ)
 茅生(ほうせい・田原) → 亮昌(すけまさ・田原たわら、神職/歌人) I 2 3 7 3
 蓬生庵(ほうせいあん) → 春筋(はるとき・立野たつの、儒者/和学) G 3 6 5 5
 鳳栖院入道太政大臣(ほうせいいんにゅうどうだいじょうだいじん) → 政長(まさなが・花山院、左大臣) L 4 0 5 5
 鳳棲園(ほうせいえん) → 琴台(きんだい・諸葛もろくず、儒者/度量学) I 1 6 1 3
 方正居(ほうせいきよ) → 誉重(たかしげ・桂かつら、大庄屋/農政/国学) C 2 6 8 2
 鳳声居(ほうせいきよ) → 白圭(はつけい・日比野ひびの/間瀬、絵師) F 3 6 1 8
 方正斎(ほうせいさい・梁田) → 天柱(てんちゅう・梁田やなだ/万代、藩儒) E 3 0 0 6
 方生斎(ほうせいさい) → 宗二(そうじ・林、歌人/和漢学者) 2 5 0 9
 鳳棲舎(ほうせいしゃ) → 鼎左(ていさ・藤井、俳人) 3 0 7 9
 邦省親王(ほうせいしんのう) → 邦省親王(くにみしんのう・花町宮、歌人) 1 7 9 4
 邦世親王(ほうせいしんのう) → 邦世親王(くによしんのう、歌人) B 1 7 6 9
 鳳声亭(ほうせいてい) → 蝶夢(ちょうむ・五升庵、浄土僧/俳人) 2 8 2 6
 朋誠堂喜三二(ほうせいどうきさんじ、黄表紙) → 岡持(おかもち・手柄、狂歌) 1 4 0 9
 蓬生廬(ほうせいろう) → 政運(まさかず・宮川/松岡/志賀、随筆家) B 4 0 7 8
 宝清老人(ほうせいろうじん) → 一慶(いっけい;法諱・雲章、臨濟僧) B 1 1 3 9
 C3902 方碩(ほうせき) ? - ? 摂津の狂歌作者;1679行風「銀葉夷歌集」71首入
 C3903 鳳石(ほうせき、通称;海老屋金右衛門、別号;合歓堂)?-? 江後期上州の俳人;
 1831「雨の月」編(:合歓堂川二の一周忌追善)
 懋績(ほうせき・浅野) → 懋績(としつぐ・浅野あさの、歌人/絵師) T 3 1 9 8
 宝石斎(ほうせきさい) → 子琴(しきん・葛かつ/橋本/葛城、医/詩) B 2 1 6 9
 C3904 峯雪(ほうせつ・岩田いわた、別号;岑雪しんせつ)?-? 江前期上方の俳人;
 1673西鶴「生玉万句」第十煤払発句/女郎花第三句/第二椿第三句(岑雪名)等入、
 1699荷兮「青葛葉あおくずのは」表六句合入、
 [障子骨や紙の間まに間に煤払すはらひ](生玉万句;煤払発句;神のまにまにの振り)
 方設(ほうせつ) → 金毛(きんもう・芳沢、俳人) I 1 6 2 8
 抱拙(ほうせつ;号) → 覚眼(かくげん;法諱・空覚、真言僧) J 1 5 7 4
 抱節(ほうせつ・難波) → 立愿(りゅうげん・難波なんば/篠野、医者) D 4 9 6 7
 宝雪(ほうせつ) → 落丈(ろじょう、俳人) B 5 2 8 4
 芳雪(ほうせつ・柳原/柳) → 紫峰(しほう・柳原/小西/柳、国学者) V 2 1 6 9
 芳雪(ほうせつ・戸田) → 忠友(ただとも・戸田とだ、藩主/国学) Y 2 6 3 6
 蓬雪(ほうせつ・茂呂) → 金朝(かねとも・茂呂もろ、絵師/歌) O 1 5 7 4
 蓬雪(蓬雪ほうせつ・小堀) → 政尹(まさただ・小堀/浅井、幕臣/茶人) D 4 0 4 8
 宝雪庵(ほうせつあん) → 寥和(3世りょうわ・浅井あさい、俳人) J 4 9 6 7
 宝雪庵(ほうせつあん) → 蘭山(らんざん・高井たかい、与力/戯作者) 4 8 0 4
 宝雪庵(3世or6世ほうせつあん) → 草宇(そうう・宝雪庵可尊、俳人;蘭山門) G 2 5 0 5
 宝雪庵(ほうせつあん) → 春三(しゅんさん・柳河/西村/栗本、洋学者) K 2 1 2 1
 芳雪軒(ほうせつけん) → 幽竹(ゆうちく・徳山とくやま、藩士/俳人) D 4 6 4 1
 宝雪斎(ほうせつさい) → 可尊(かそん・宝雪斎、俳人) M 1 5 8 3
 C3906 芳川(ほうせん) ? - ? 俳人;1689「あら野」2句入、
 [舟かけていくかふれども海の雪](あら野;一/停泊し天候を待つ/経れと降れの掛詞)

- C3907 蓬箭(ほうせん) ? - ? 1858子葉「丁丑(ていしゅう)紀行」編/序(子葉の1697赤穂帰国紀行)
- G3950 豊宣(ほうせん・水谷みづたに、) ? - ? 江中期/歌人;宮川松堅門、
1722松堅[倭譚五十人一首]入、
[残りなく染ての後のちは時雨をもいとふ御笠の森の紅葉ば]、
(倭譚五十人一首;48/杜紅葉)
- C3908 芳泉(ほうせん・永良ながら/本姓;赤松、別号;一雲軒) ?-? 播磨永良の故実家:神社故事に通ず・歌人、
「神社追考記」著
- C3909 鳳千(鳳泉ほうせん;法諱、俗姓:四辻) ?-1840 飛騨高山の真宗大谷派僧:高山の不遠寺住、
高倉学寮寮司/天台学を講義/1832擬講、
「法華玄義記」「摩訶止観試賛」「七十五法名目講義」著、
[鳳千の別法諱/号]別法諱;教明、号;皆乘院
- D3911 法泉(ほうせん;法諱・奇巖きがん;道号) ?-1829 肥後曹洞僧;玉名広福寺20世、「広福寺棟梁銘」著
- C3911 法宣(ほうせん;法諱) 1790 - 186778 大阪の真宗大谷派善覚寺10世:1849高倉学寮寮司、
1854擬講/65嗣講、「改悔文記」「改悔文随聞記」「二種深信義」/1852「具舎論講義」外著多数、
[法宣の別法諱/号]別法諱;祐玄、号;蘆州/広説院
- F3935 鳳泉(ほうせん・作並さくなみ、名;清亮、職時男) 1841-191575 仙台の儒者;藩校養賢堂入;大槻習斎門、
1864養賢堂指南見習/権指南/塾長/仙台藩儒として教授、維新後は東京;1871伊達家家扶、
「夷匪入港録」「東藩史稿」著、
[鳳泉(;号)の字/通称/別号]字;采卿、通称;亮之進、別号;雲世
- 鳳泉(ほうせん・田中) → 岫嶽(こうろう・田中たなか、藩士/詩人) L 1 9 6 5
- 鳳泉(ほうせん・津野) → 文卿(ぶんけい・津野まつ、商家/儒者/詩) I 3 8 4 9
- 鳳扇(ほうせん・南部) → 利謹(としのり・南部なんぶ、有職故実/歌) N 3 1 3 2
- 方円(ほうせん;号) → 宣澄(せんちよう;法諱、大谷派僧/俳人) M 2 4 9 6
- 芳川(ほうせん・斎藤) → 中立(ちゅうりつ・斎藤さいとう、商家/和算) G 2 8 9 5
- 彭僊(ほうせん;法諱) → 大珍(だいちん;道号・彭僊、曹洞僧) K 2 6 6 7
- 豊宣(ほうせん・斎藤) → 豊宣(とよぶ・斎藤、藩士/巡視記録) R 3 1 4 1
- 法環(ほうせん・圭立けいりつ;道号) → 大梅(たいばい・号、曹洞僧) C 2 6 0 8
- C3912 防川(ほうせん・ほうせん) ? - ? 俳人;1689「あら野」2句入、
[一本ひともの芦の穂ほ瘦せし井堰ぬせき哉](あら野;四/堰の水も涸れた秋の景)
- 邦全(ほうぜん・大村) → 邦全(くにあき・大村おおむら/矢田部、歌人) E 1 7 0 6
- 奉膳(ほうぜん・栗野) → 経麻(つねあさ・栗野/度会、神職/国学) B 2 9 6 1
- 奉膳(ほうぜん・岩井田) → 尚徳(ひさのり・岩井田いわいだ、神職/国学) I 3 7 5 5
- 峯善(ほうぜん・山内) → 豊雍(とよちか・山内やまのうち、藩主/藩改革) R 3 1 2 6
- 懋遷(ほうぜん;字) → 直方(なおかた・今枝、家老/国学/詩) 3 2 8 8
- 忘筌(ほうぜん・西山) → 宗因(そういん・西山/西、俳人/連歌) 2 5 0 3
- 房前(ほうぜん・藤原) → 房前(ふささき・藤原、廷臣/詩人) 3 8 0 6
- 豊善(ほうぜん・脇) → 豊善(とよよし・脇わき/源、家老/歌人) W 3 1 9 7
- 宝泉院(ほうせんいん) → 花子(はなこ・猪飼いかい阿薫、歌人) F 3 6 4 3
- 宝前院(ほうぜんいん) → 天宥(てんゆう;法諱、羽黒天台僧) E 3 0 4 2
- 忘筌窠(ほうせんか;居号) → 仙山(せんざん・平岩/平巖/平、儒/詩人) F 2 4 4 6
- 鳳仙居(ほうせんきょ) → 竹母(ちくぼ・清水、俳人) D 2 8 7 7
- 抛筌斎(ほうせんさい) → 利休(りきゅう・千せん宗易/田中、茶人) 4 9 2 3
- 抛筌斎(ほうせんさい) → 不白(ふはく・川上、茶人/俳人) D 3 8 6 3
- 忘筌斎(ほうせんさい) → 香山(こうざん・榊原さかきばら、故実家) J 1 9 2 5
- 宝善斎主人(ほうぜんさいしゅじん) → 栗野(りつや・小野おの、商家/漢学/詩歌) C 4 9 1 6
- 芳仙舎(ほうせんしゃ) → 有年(ありとし・西村にしむら/藤原、藩士/歌) I 1 0 2 2
- 芳川亭(ほうせんてい) → 希言(まれこと・安斎あんざい、町年寄/歌) N 4 0 2 6
- 望僊亭(ほうせんてい) → 清憲(きよのり・上杉うえずぎ、商家/歌人) T 1 6 5 9
- 芳泉堂(ほうせんどう) → 素娥(そが・瓊舎たまのや、狂歌作者) J 2 5 3 4

- 宝善堂(ほうぜんどう) → 松齋(しょうさい・山田、儒者;農事改善) J 2 2 0 1
 宝善堂(ほうぜんどう) → 宗愷(そうがい・平田ひらた、儒者/教育) G 2 5 5 0
 法専坊(ほうせんぼう) → 空善(くうぜん;法諱・法専坊、真宗僧) C 1 7 2 7
 報専坊(ほうせんぼう) → 慧雲(えいん;法諱・字:子潤、真宗僧) D 1 3 4 7
 宝素(ほうそ・小島) → 尚質(なおかた・小島/小嶋、幕府医官) 3 2 9 5
 方祖(ほうそ・野口) → 西里(せいり・野口のぐち、医者/詩) J 2 4 7 5
- F3977 **峰相**(ほうそう) ? - ? 薩摩の俳人;1703不角「広原海わたつみ」入、
 [業平のなみだに和ほび喰ひのこし](広原海/東下り三河八橋;かれいひは倍増し食残す)
- C3915 **芳草**(ほうそう・三戒堂;号)? - 1885 江戸住吉町裏川岸の俳人:
 1859「奈曾羅雜集」63「研玉類題発句集」/63「文久千三百題」編
- 包早(ほうそう・舟木) → 伝内(初世でない・舟木、料理人) C 3 0 1 4
 芳宗(初世ほうそう・歌川) → 芳宗(初世よしむね・歌川/林/鹿島、絵師) H 4 7 6 2
 峰宗(ほうそう・伊達) → 峰宗(みねむね・伊達だて、藩士/詩文) F 4 1 5 6
 鵬巢(ほうそう・柳田) → 凌雲(りょううん・柳田やなぎだ、医者/藩士) G 4 9 3 8
 蓬窓(ほうそう・古川) → 史千(しせん・古川ふるかわ、俳人) E 2 1 3 8
 蓬窗(ほうそう) → 浦十(ほじゅう、俳人) E 3 9 2 3
- C3916 **法蔵**(ほうぞう;法諱、俗姓;藤原) 905-969 65 京の法相僧、法相・唯識;東大寺の寛救門、
 三論;延愷(えんしん)門/密灌;醍醐寺の定助門、960興福寺維摩会講師/963清涼殿で良源と論争、
 965東大寺別当;4年間在任、968少僧都/密教・宿曜道に精通;賀茂保憲と本命供で論争、
 「因明疏」「正理疏」「大慧度玄文」「般若理趣分経私蹟」「般若理趣分私記」「理趣分秘頤」著
- G3942 **鳳造**(ほうぞう・市江いちえ、) 1768-1852 85 尾張名古屋藩士/陶工;平沢九朗門;[梨棗(りそう)]印を受領、
 [鳳造焼]と称される、娘婿の藩士村瀬美香よしかの陶芸の師、一江利右衛門と同一人か?、
 [鳳造(;号)の名/通称]名;成房、通称;鯉右衛門りえもん
- 茅窓(ほうそう・茅原) → 虚齋(きよさい・茅原ちはら、医者/本草学) P 1 6 5 0
 包宗(ほうそう・太田) → 包宗(かねむね・太田おた/甲斐、神職/国学) T 1 5 9 8
 房藏(ほうぞう・吉沢) → 房藏(ふさぞう・吉沢よしざわ、文筆家) C 3 8 1 1
 房蔵(ほうぞう・寺山) → 吾鬢(あずら・寺山、藩士/歌人) E 1 0 4 8
 暮雨叟(ほうそう) → 暁台(きょうたい・加藤/岸上、俳人) 1 6 3 6
 蓬草庵(ほうそうあん) → 麻中(まちゅう・高橋たかはし、俳人) J 4 0 6 5
 宝蔵院(ほうぞういん) → 日叙(にちじよ;法諱、日蓮僧) C 3 3 3 0
 宝蔵院(ほうぞういん) → 栄信(えいしん・小松こまつ、僧職/国学) U 1 3 0 8
- C3917 **宝蔵院胤栄**(ほうぞういんいんえい、中御門なみかど胤永男) 1521-1607 87 代々興福寺衆徒、法相学僧:
 興福寺宝蔵院で修学/初め六法衆徒として寺院警備に当る/のち学徒の道に進む、
 宝蔵院院主/法印、武術家/剣術;上泉信綱門/槍術;成田盛忠門・香取新当流大西木春見門、
 工夫研鑽し十文字鎌槍の一流を創始;宝蔵院流槍術の祖、「宝蔵院鎌鎧伝書」著、
 [胤栄(;法諱)の号/通称]号;覚禅房、通称;宝蔵院胤栄
- C3918 **宝蔵院胤瞬**(ほうぞういんいんしゅん、号;禅栄房、中御門永加[胤栄の甥]男) 1589-1648 60 満田家の養子、
 法相僧;興福寺宝蔵院で修学/大叔父胤栄の跡を継ぎ宝蔵院院主/権律師に至る、
 宝蔵院流槍術を修得し伝授文書を整理;宝蔵院流槍術2世、「鎌宝蔵院流行巻」著、
 [胤瞬(;法諱)の号/通称]号;禅栄房、通称;宝蔵院胤瞬
- C3919 **宝蔵院胤風**(ほうぞういんいんふう、号;覚山房、満田胤成男) 1686-1731 46 興福寺宝蔵院の法相僧/権律師、
 宝蔵院流槍術4世;3世覚瞬房胤清門、1726將軍吉宗御前試合で竹内流飯田半之丞に勝つ、
 1726「縦横鎌槍仮名序之巻」著、
 [胤風(;法諱)の号/通称]号;覚山房、通称;宝蔵院胤風
- 鳳巢下(ほうそうか) → 山隣(さんりん、金沢俳人) E 2 0 8 2
 法宗軒(ほうそうけん) → 玄作(げんさく・法宗軒、連歌師) J 1 8 1 2
 宝蔵国師(ほうぞうこくし) → 鉄眼(てつがん;徹玄てつげん;道号・道光、黄檗僧/大蔵経板行) 3 0 2 8
 芳草舎(ほうそうしゃ) → 鷺白(ろはく・黒岩くろいわ、宿経營/俳人) C 5 2 3 4
 豊蔵坊信海(ほうぞうぼうしんかい) → 信海(しんかい・豊蔵坊、社僧/狂歌/書) 2 2 1 8
 芳草林(ほうそうりん) → 金羅(きんら・東とう/内田、俳人) J 1 6 4 0

- C3920 **鳳足**(ほうそく) ? - ? 1773「俳諧天狗問答」編/序;小説的俳書
 邦則(ほうそく・池村) → 邦則(くにのり・池村いけむら、染物業/国学) E 1 7 0 1
 房則(ほうそく・清原) → 房則(ふさのり・清原きよはら、廷臣) C 3 8 2 1
 抱素齋(ほうそさい) → 只青(しせい・為田ためだ/小林、書/俳人) Z 2 1 0 3
 宝素堂(ほうそどう) → 尚質(なおかた・小島/小嶋、幕府医官) 3 2 9 5
 蓬袖之屋(ほうそまのや) → 紹完(しょうかん・木山きやま/源、社僧/連歌作者) H 2 2 8 2
 豊村(ほうそん・中山) → 豊村(とよむら・中山なかやま/多治比、国学) T 3 1 3 0
 芳孫(ほうそん・高松) → 貝陵(ばいりょう・高松たかまつ、儒/易学) C 3 6 2 4
 茅村(ほうそん・浅野) → 夏道(なつみち・浅野あさの、歌人) K 3 2 8 1
 蓬邨(ほうそん・大竹) → 言近(のぶちか・大竹おおたけ/中臣、国学者) H 3 5 6 8
 邦泰(ほうたい・高階) → 邦泰(くにやす・高階たかしな、廷臣/歌人) D 1 7 2 9
 縫太(ほうたい・新渡戸) → 伝(つとう・新渡戸にとべ、藩士/開拓事業) 2 9 9 6
- C3921 **鳳台**(ほうだい・平賀ひらが、名;義憲/字;文成) ?-? 江中後期1750-1800頃伊勢桑名藩に出仕/儒者、
 1751「鳳台小稿」著、「鳳台遺稿」
- C3922 **鳳台**(ほうだい・越智おち/藍原、名;通貞/字;君章、越智通顧男) 1746-78³³ 代々弘前藩士、江戸生、
 山鹿流兵法家(家学);父門、門人多数、「洪武陳和考」「弘前旌旗考」「吳子倭軍府」著
- E4555 **鳳台**(ほうだい・金井かない、弥平治保救男) 1766-1829⁶⁴ 佐渡小木の代々商家、独学で学問、
 養子に家業を譲渡;上京し眼科医術を習得/儒;諸師に修学、帰郷後;医業を開設、
 読書指南所で子弟教育、荻生徂徠・太宰春台の学説を尊重/字義・音韻に精通、
 「発字四声便蒙解読集」著、
 [鳳台(;)号]の幼名/名/字/通称]幼名;篤平/名;直方、字;文思、通称;弥平治
- C3923 **鳳台**(ほうだい・石川いしかわ、名;広隆、大椿男) 1767-1838⁷² 秋田藩士;1782大番組/のち右筆、
 書家;和様の書に通ず、詩人;「鳳台詩集」、「鳳台随筆」著、
 [鳳台(;)号]の字/通称]字;文華、通称;直蔵/兵蔵/直右衛門/九右衛門
 豊大(ほうだい・鈴木) → 榎林(えいりん・鈴木すざき、儒者) C 3 6 2 8
 豊台(ほうだい・中野) → 源蔵(げんざう・中野、庄屋/真宗僧/儒者) K 1 8 8 2
 邦肅(ほうだい・梁田) → 象水(しょうすい・梁田やなだ、藩儒/詩人) T 2 2 6 6
 房泰(ほうたい・石田) → 房泰(ふさやす・石田いしだ、神職/国学) I 3 8 0 0
 房泰(ほうたい・末松) → 房泰(ふさやす・末松すえまつ、国学者) I 3 8 3 6
 法台院(ほうだいいん;法号) → 久盛(ひさもり・中川なかがわ、藩主/連歌) C 3 7 0 4
 苺苔園(ほうたいえん) → 亀洞(きどう・千代倉/下郷しもと、詩/俳人) B 1 6 5 7
 樽袋子(ほうたいし) → 江月(こうげつ;道号・宗玩、臨濟僧/連歌) I 1 9 4 8
- C3924 **芳沢**(ほうたく・下田しもだ/本姓;藤原、名;武卿) 1750-1820⁷¹ 盛岡の儒者;江戸の井上金峨門、
 江戸御徒町住;講説業/長崎遊学/1806南部藩校教授に招聘、「周易説」著、
 [芳沢(;)号]の字/通称]字;一甫、通称;三蔵
 蓬たく(ほうたく) → 竜玉(りゅうぎょく・金沢、歌舞伎作者) D 4 9 3 9
- E3957 **夢沢**(ほうたく・千村ちむら/井出/修正;井、千村弥兵衛武明男) 1694-1773⁸⁰ 井出兵右衛門重治の養子、
 尾張藩士;1713馬廻/27伏見屋敷奉行/30京都買物奉行、1739致仕;旧姓千村に復す、
 儒者;小出侗齋門;闇齋学修学/詩人、「崑玉集」編、1721「防丘詩選」22「蓬左詩帰」編、
 1727「熙朝文苑」編/38「伏陽客中稿」著、
 [芳沢(;)号]の名/字/通称]名;良重/義武、字;鼎臣/興臣、通称;七之丞/勘平/潜夫
 方達(ほうたつ・佐藤) → 方達(まさみち・佐藤さとう、藩士/歌人) P 4 0 8 5
 法達(ほうたつ;法諱) → 通玄(つうげん;道号・法達;法諱、臨濟僧) 2 9 2 9
 邦達(ほうたつ・伊藤/伊東) → 好義齋(こうぎさい・伊藤/伊東、儒者) I 1 9 2 4
 望汰欄(ぼうたら) → 行成(ゆきなり・一気、料亭主人/狂歌) F 4 6 1 6
- C3925 **鳳潭**(ほうたん;芳潭ほうたん;字・僧濬そうしゅん;法諱、喜多きた宗伯男) 1659?-1738^{80?} 摂津池田の僧、
 華嚴中興の祖、河内今井村法雲寺の慧極道明門/黄檗;鉄眼道光門/1678長崎で外典修学、
 印度渡航を企画、国禁のため挫折;鉄眼の許で修業/1684南都で諸宗に教理を修学、
 1693泉涌寺雲竜院恵応門、1695叡山で天台教学を修学、
 1723山城松尾の華嚴寺建立;華嚴の道場とす、

1701「起信論義記幻虎録」13「円宗鳳髓」24「観音纂玄紀」32「浄土顕正訣索印」、「鉄壁雲片」、
「華嚴五教章匡眞鈔」扶桑蔵外現存目録「布鼓集」外著多、「狂歌戎の鯛」の海音肖像の賛
[鳳潭(；字)の号] 幻虎道人/華嶺道人

飽煖(ほうだん・那珂) → 通博(みちひろ・那珂なか、儒/詩歌) C 4 1 3 9

C3926 鳳池(ほうち・林はやし、名;愈/信寛、榴岡ちゅうこう男/鳳谷の弟)1731-44夭逝14歳 儒者:父門、
1732(2歳)で母と死別、早慧そうけいで将来を期待されたが病没、「鳳池文集」「韻礎」「韻筌」著、
[鳳池(；号)の字/通称]字;之進、通称;助次郎/主馬

法智(ほうち:号) → 重成(しげなり・大高/高階、武将/歌/連歌) C 2 1 6 2

方致(ほうち・堀田) → 六林(ろくりん・堀田、恒山、藩士/詩/俳人) B 5 2 1 8

包知(ほうち・浅田/坂野) → 包知(かねとも・浅田あさだ/坂野、歌人) H 1 5 6 6

房知(ほうち・福井) → 房知(ふさとも・福井ふくい、歌人) H 3 8 9 0

報智院(ほうちいん) → 日心(にっしん;法諱・泰山、日蓮僧) E 3 3 5 7

宝池院(ほうちいん;法号) → 利勝(としかつ・土井どい、藩主/大老) M 3 1 2 5

宝池院僧正(ほうちいんのそうじょう) → 定任(じょうにん;法諱、真言醍醐寺僧) L 2 2 3 0

宝池院大僧正(ほうちいんのだいそうじょう) → 高賢(こうけん;法諱、真言・修験僧) I 1 9 5 5

C3927 法竹(ほうちく・式燕堂しきえんどう)?-? 江中期京の俳人:淡々門/沾徳より式燕堂の堂号を受、
言水・晩山と交流、1716「この馬」編/1717「舟便」著

C3928 報竹(ほうちく・竹村たけむら、名;又七、方壺の一族)?-? 江中期俳人;1786蝶夢「遠江の記」入

C3929 芳竹(ほうちく・太田おた)1767- 181953 日向江平の俳人:瓦全門、
1810日向舟塚山に芭蕉猿蓑塚を建立;自ら書写した「猿蓑」を埋める;師の協力で記念集編、
1810「俳諧さるみのつか」編、一周忌期追善「けしのなごり」(息;竹之編)

苞竹(ほうちく・水野) → 重孟(しげたけ・水野みずの、藩士) R 2 1 2 7

方竹庵(ほうちくあん) → 景周(かげちか・富田とだ、儒者) E 1 5 9 6

方竹園(ほうちくえん、方竹山人) → 海屋(かいおく・貫名ぬきな、書家/画人) 1 5 9 1

宝竹堂(ほうちくどう) → 善庵(ぜんあん・国友くにとも、藩士/儒者) E 2 4 8 1

傍池亭(ほうちてい) → 露沾(ろせん・内藤、俳人) 5 2 0 6

法智普光禅師(ほうちふこうぜんじ) → 独秀(どくしゅう;道号・乾才、臨濟僧) K 3 1 9 0

宝地房(ほうちぼう;号) → 良聖(りょうしょう;法諱、天台僧正/歌人) I 4 9 1 0

宝池坊(ほうちぼう;号) → 証真(しょうしん;法諱、天台学僧) T 2 2 5 7

C3930 宝冢(ほうちゅう;法諱) ?-? 江中期真言僧:武蔵埼玉郡長野村の長久寺住、
1762「長野邨長久寺記」編

C3931 抱中(ほうちゅう・山本やまと、名;丹)1783-185270 加賀の医者/古医方:京の吉益南涯門、
外科;紀伊の華岡青洲門、長崎と江戸を往来/帰郷し開業、1827「傷寒論要解」著、
[抱中(；通称)の字/号]字;黄中、号;南溟/文玄斎

C3932 芳中(方中/方冲/鳳中/宝中ほうちゅう・中村なかむら)?-1819 京の琳派絵師:大阪・江戸住、
江戸で1802「光琳画譜」刊/1902頃帰阪、俳友多く木村兼葭堂異斎そんさいと交流

抱冲(ほうちゅう・小島/小嶋) → 尚真(なおざね・小島/小嶋、医者/儒) B 3 2 2 5

豊忠(ほうちゅう) すべて → 豊忠(とよただ)

弼中(ほうちゅう・林) → 復斎(ふくさい・林はやし、幕臣/儒者) B 3 8 5 4

弼中(ほうちゅう・高宮) → 三中(さんちゅう・高宮たかみや、儒者) M 2 0 5 8

方中(ほうちゅう・柴野) → 美啓(よしひろ・柴野しばの/梅沢、地誌/和算) G 4 7 6 7

方忠(ほうちゅう・岸本) → 方忠(まさただ・岸本さしもと、歌人) P 4 0 2 6

房忠(ほうちゅう・丹羽) → 房忠(ふさただ・丹羽にわ/平尾、藩士/神職) I 3 8 5 7

G3936 芳澄(ほうちよう;法諱・姓;古海)1697-176973 筑前遠賀郡若松村の真宗本願寺派西念寺住職、
国学・歌人

方長(ほうちよう・甘露寺) → 方長(まさなが・甘露寺/藤原、廷臣/日記) F 4 0 2 3

邦長(ほうちよう・源) → 邦長(くになが・源みなもと、廷臣/歌人) 1 7 8 1

芳長(ほうちよう・滋岡) → 芳長(よしなが・滋岡しげおか、神職/連歌) F 4 7 3 4

芳長(ほうちよう・和田) → 芳長(よしなが・和田わだ、国学者/歌人) Q 4 7 1 1

奉張(ほうちよう:字) → 海量(かいりよう;法諱、真宗僧/歌人) 1 5 0 2

- 豊長(ほうちよう)すべて → 豊長(とよなが)
- 豊澄(ほうちよう・熊谷) → 豊澄(とよすみ・熊谷くまがい、藩士/国学) V 3 1 0 6
- 房澄(ほうちよう・末松) → 房澄(ふさすみ・末松すえまつ、庄屋/国学者) I 3 8 3 5
- 忘菴子(ほうちようし;号) → 蘭溪(らんけい;道号・宗瑛;法諱、臨濟僧) B 4 8 7 9
- 芳鳥女(ほうちようじよ・歌川) → 芳鳥女(よしとりじよ・歌川うたがわ、絵師) F 4 7 1 2
- G3951 方直(ほうちよく・若山わかやま、)?- ? 江中期;阿波の歌人、伝不詳、
1722頃内海頭糺[倭譚五十人一首追加]入、
[ありて世にかひなくふりし老の身は空より先に袖ぞしぐるゝ]、
(追加;時雨/ふり;旧りと降りるを掛る)
- 邦直(ほうちよく・加藤) → 邦直(くになお・加藤かとう、歌人) D 1 7 0 0
- 邦直(ほうちよく/くになお・黒田) → 東園(とうえん・黒田くろだ、儒者/詩人) B 3 1 5 1
- 邦直(ほうちよく・枝窪) → 邦直(くになお・枝窪えだくぼ/藤原、神職/国学) D 1 7 8 6
- 邦直(ほうちよく・橋本) → 邦直(くになお・橋本はしもと、歌人) E 1 7 4 3
- 芳直(ほうちよく・歌川) → 芳直(よしなお・歌川うたがわ、絵師) F 4 7 2 0
- 豊直(ほうちよく・菅原) → 豊直(とよなお・菅原すがわら、神職) R 3 1 3 6
- 豊直(ほうちよく・森) → 僊斎(せんさい・森もり、医者/国学/歌) M 2 4 3 3
- G3900 法珍(ほうちん;法諱) ?- ? 下冷泉大納言宗家(1792-69)の猶子、天台宗比叡山僧;
叡山廻峰千日満行者、上野等持覚院住/のち春性院に転住、大僧都、
歌;1768石野広通「霞関集」初撰・98再撰本入、
[千度ちたびまでめぐる誓ひの雨露に朽ちなば朽ちよ墨染の袖](霞関;釈教1148、
比叡廻峰千日満の行者つとめる時の詠)
- 宝陳(ほうちん・天野) → 意順(もとのぶ・天野あまの、商家/歌人) B 4 4 3 8
- 豊陳(ほうちん・朝倉) → 豊陳(とよのぶ・朝倉、幕臣/詩人) R 3 1 4 4
- 芳通(ほうつう・伊南) → 芳通(よしみち・伊南いなみ/佐藤・杉本、軍学者) H 4 7 3 6
- 房通(ほうつう・一条) → 房通(ふさみち・一条いちじょう、関白/歌) C 3 8 2 5
- 旁通(ほうつう・守田) → 旁通(まさみち・守田もりた、国学者/歌人) T 4 0 2 2
- C3933 方鼎(ほうてい・宍戸しど/修姓;宍、名;隆熹、宍戸昌賀男) 1772-1832 61 代々三河刈谷藩の侍医、
儒;秦滄浪門/詩文・歌・俳諧を嗜む、1817「新撰白詩集」著、
秋挙の一周忌追善句集「はなのわたり」序、
[方鼎(;号)の幼名/法号]幼名;弥次郎、法号;玉林院
- C3934 方亭(ほうてい・藤井ふじい、名;俊、周朔男) 1778-1845 68 伊勢の医者;父門、蘭方医;宇田川玄随門、
宇田川玄眞門/江戸浅草で開業医/1808金沢藩主治療のため師玄眞に随い金沢に行く、
1809金沢藩初の蘭方医;蘭書翻訳御用兼務、1805「医範規綱」編、「内科備要」著、「地震説」訳、
方朔・三郎[泉梁]の父、門人;飯沼慾斎/佐野柿園/吉雄忠次郎など、
[方亭(;号)の字/別号]字;士徳/子徳、通称;諏訪俊、別号;瓊陵/醉蘭、法号;瓊岡院
- C3935 方亭(ほうてい・富山とみやま、名;謹) 1830-70 41 伊賀柘植の医者;中尾東竜門/長崎で蘭学修学、
伊賀上野で開業医/諸儒と交流;儒詩を嗜む、「方亭詩文稿」、
[方亭(;号)の字/通称/別号]字;子温、通称;保定、別号;水哉堂
- 方定(ほうてい・佐藤) → 鶴城(かくじょう・佐藤、医者/国学) K 1 5 0 6
- 方亭(ほうてい・葛飾) → 北鷺(ほくが・葛飾かつしか/三田、絵師) C 3 9 9 5
- 法定(ほうてい;法諱) → 法定(ほうじょう;法諱、真宗高田派僧) B 3 9 7 7
- 芳貞(ほうてい・歌川) → 芳貞(よしさだ・歌川うたがわ、旅籠屋/絵師) D 4 7 3 8
- 蓬亭(ほうてい・佐竹) → 蓬平(ほうへい・佐竹さたけ/野口、絵師) C 3 9 4 9
- 豊庭(ほうてい・石上) → 豊庭(とよわ・石上朝臣いそのかみのあそみ、廷臣) S 3 1 5 7
- 豊亭(ほうてい・石塚) → 豊芥子(ほうかいし・石塚、商家/稀書収集) 3 9 5 2
- 暮雨亭(ほうてい) → 晧台(きやうたい・加藤/岸上、俳人) 1 6 3 6
- 卯亭(ほうてい・葛飾) → 北鳴(ほくめい・葛飾かつしか、絵師) D 3 9 9 7
- C3936 抱亭五清(ほうていごせい、姓;砂山/名;金蔵) ?-? 江後期江戸横山町三丁目の絵師;主に肉筆美人画、
絵本挿絵・摺物も描く、1811「狂歌画像作者部類」「狂歌評判記」「瀬川仙女追善集」画など、
[抱亭五清(;号)の通称/別号]通称;岸本庄七、別号;青々

- 茅停平魚(ぼうていへいぎよ) → 平魚(へいぎよ・茅停ちぬ、読本作者) 2722
- C3937 鳳天(ほうてん;道号・廓瑞かくずい;法諱)??-? 江前中期の曹洞僧:羽前米沢東源寺21世、1724「万用山東源禪寺興記」著
- C3938 法天(ほうてん;道号・竜雲りゅううん;法諱)1774-184168 江後期曹洞僧:瑞天喚応門、豊後天徳寺11世、1839「泉福禪寺記」著
- 法天(ほうてん;字) → 神竜(しんりゅう;法諱、真宗大谷派学僧) Q 2 2 0 9
- 邦典(ほうてん・堀) → 左山(さざん・堀ほり、儒者/詩) H 2 0 4 6
- 宝田窟(ほうてんくつ) → 普成(ふせい・服部はつとり、商家/俳人) C 3 8 8 7
- 豊田舎(ほうてんしゃ) → 紀耕(のりただ・辻つじ、農業/商家/歌人) J 3 5 1 7
- 蓬戸(ほうと・小林) → 延孝(のぶたか・小林こばやし/度会/出口、神職/国学) I 3 5 4 1
- 方努(ほうど・神波) → 船樹(せんじゅ、神波かななみ、医者) M 2 4 4 3
- 方度(ほうど・岡) → 方度(まさのり・岡おか、商家/歌人) O 4 0 5 1
- 芳藤(ほうとう・歌川) → 芳藤(よしふじ・歌川うたがわ/西村、絵師) G 4 7 7 8
- C3939 法幢(ほうどう;法諱、和尚)??-1781 江中期伊勢山田中地藏宗安寺の僧/歌人;堂上風、本居宣長(1730-1801)の今井田家の養子(1748-50)時代の師、宣長「栄貞詠草」に批点入(「石上稿」所収)
- F3968 法幢(ほうどう;法諱、俗姓;竜末)??-? 江中期真宗大谷派僧/美濃の妙円寺住職、1763「阿毘達磨俱舍論稽古」、「有宗七十五法記」「歩船鈔」著
- G3938 法道(ほうどう;法諱、初名;豊道)1787-183953 伊勢安芸郡豊津村生の天台律僧、1791(5歳)同郡久知村の天台律宗真福寺義豊門;豊道と命名/のち法道と改名、1796(寛政8/10歳)近江坂本の天台律宗本山西教寺入;真鳳大僧正門;受戒、1806伊勢真福寺住職;師の義豊を嗣/1809(文化6)伊勢松坂の木造つくり引接寺住職に転住、1810越前引接寺真鳳に[円戒国師往生伝]の本願念仏を教示;称名念仏を往生安心に決定、1812摂津近江諸寺に説法遊化;信仰確立(最澄の天台→法然の浄土→天台律の本願念仏)、1819津の西来寺(天台律宗中本山)で常念仏再興し説教教化;本山初め内外から誹謗、1821門弟法遵没;木造引接寺再住職;25本堂竣工、1828(文政11)西来寺真阿より[喚阿弥陀仏]の阿号下賜/教義の大系化;湖東諸寺へ布教、1834頃持病の痔疾悪化;37湖東諸寺布教;飢饉施行、38(天保9)本山西教寺が常行念仏再興、国学・歌人;本居春庭門、1812「相見記」14「片仮名往生捷徑集」31「宗略」「宗略引証」著、1832「千観極楽和讃」開板/34「粉引歌」「無能上人おろは和讃」「別願和讃」著、1835「ちよぼくれ」「恵心僧都念仏法語略解」/36「円戒国師念仏法語略解」著、1836「国師以呂波和讃」39「平仮名捷徑集」著、歌;家集「称名庵和歌集」、天保10(1839)没、[古は比叡より出でし法の水今は流を汲みて来にけり]
- C3940 法道(ほうどう;法諱、俗姓;村尾)1804-6360 長門萩の浄土僧;大日比西円寺の法洲門;得度、1817江戸芝増上寺の立誉弁信門/21空誉舜従より宗戒両脈を相承/24法洲命で西円寺住職、本堂伽藍の新改築/庶民教化・貧者救済に尽力;藩主毛利斉元より褒賞、1846「二祖国師褒賞辨」/58「御伝撮要講説」編、「法道和尚詠歌集」(;法龍編)、[法道の字/法名/号]字;円如えんによ、法名;徳蓮社元誉/信阿、号;蓮庵
- C3941 鳳堂(ほうどう・秋田あきた/津田つだ)??-? 江後期天保-嘉永1830-54頃江戸銀座の役人、和算家:長谷川寛門、1835「算法極形指南」37「算法地方大成」編、「算法極形辨疑」編、[鳳堂(;号)の名/字/通称/別号]名;義一/宜義/太義/義蕃、字;中和、通称;十七郎/七之助/信助、別号;景山
- F3991 葆堂(ほうどう・戸田とだ、名;光、義尚長男)1851-190858 美濃大垣藩士;1866祖父義賢を継嗣;御番頭、儒詩;小原鉄心門/1869昌平黌入学;病で帰郷/漢詩研究、1881鸚笑社あんしょうしゃを創設;月刊誌[鸚笑新詩]発刊、「過眼余影山水記」「葆堂漫筆」「葆堂漫草」著、「問鶴園遺稿」、[葆堂(;号)の字/通称/別号]字;修来、通称;鼎耳、別号;葆逸/葆真堂/問鶴園/十二洞天斎
- 葆雨堂(ほうどう) → 道忠(どうちゅう;法諱・無著、臨濟僧/詩) G 3 1 4 3
- 方道(ほうどう・茨城) → 多左衛門(2世たざえもん・小川、書肆小河屋) E 2 6 5 7
- 方堂(ほうどう・近江屋) → 冬映(3世とうえい・近江屋、俳人) B 3 1 3 1

方堂(ほうどう・長尾) → 全庵(ぜんあん・長尾/杉本、幕臣; 医者) L 2 4 6 1
 邦道(ほうどう・富島) → 邦道(くにみち・富島とみしま、商家/歌人) E 1 7 3 7
 峰堂(ほうどう・長坂) → 賢道(かたみち・長坂ながさか、儒医) V 1 5 2 6
 蓬堂(ほうどう) → 久米満(くめまる・大友おおとも、歌人) D 1 7 4 7
 蓬堂(ほうどう・石原) → 正明(まさあき/まさあきら・石原、国学者/歌) 4 0 0 4
 蓬堂(ほうどう・内海) → 貞規(さだのり・内海うつみ、名主/国学/歌) N 2 0 9 9
 豊道(ほうどう)すべて→ 豊道(とよみち)
 法灯院(ほうとういん; 諡号) → 了尊(りょうそん; 法諱、本願寺派僧/記録) I 4 9 7 4
 宝幢院和尚(ほうとういんのおしょう) → 惠亮(ゑいりょう; 法諱、天台僧) E 1 3 3 5
 訪導閣主(ほうどうかくしゅ) → 義教(ぎきょう; 法諱・了翁、真宗僧) J 1 6 9 4
 宝唐窟(ほうとうくつ) → 楮園(ちよえん・菅野かんの、藩士/書家) K 2 8 1 6
 法灯国師(ほうとうこくし) → 心地(しんち・覚心かくしん、禅僧) 2 2 6 0
 豊島処士(ほうとうしよし) → 愿求(いんきゅう・永井ながい、儒者) I 1 1 4 7
 蓬頭生(ほうとうせい) → 松陰(しょういん・吉田、藩士/軍学/教育) 2 1 6 7
 法灯禅師(ほうとうぜんじ) → 心地(しんち; 道号・覚心、無本/臨濟僧) 2 2 6 0

3957 望東尼(ほうとうに/もとに・野村、名; もと、浦野勝幸の三女) 1806-67 62 福岡生/藩士郡利貫の妻; 離婚、
 1829野村貞貫さだつらの後妻、歌人; 1832夫と共に大隈言道門、45夫隠居; 貞則(先妻子)が嗣、
 夫と福岡郊外平尾山荘に隠棲、1851貞則没/孫の貞省さだみ(1844-67)が野村家を嗣、
 1859夫に死別; 明光寺で出家、61上京途次言道に再会; 京で千種有功・太田垣蓮月と会見、
 帰郷後は勤王派志士の庇護; 山荘を開放、1865勤王派弾圧で捕縛; 姫島流罪
 1866高杉晋作に救助され防長を転住; 1867(慶応3)三田尻に没す、
 1861-2「上京日記」/63家集「向陵集」/67「防州日記」、「夢かぞへ」「月瀬紀行」「姫島日記」、
 「のこりぐさ」「望東詠草」「野村望東尼尺牘」「野村望東尼日記」「雑歌草稿」著、
 [冬深き雪のうちなる梅の花埋もれながらも香やはかくるる](高杉晋作を匿う時の詠)
 [望東尼(; 通称)の号] 号; 向陵/招月、法号; 向陵院招月望東禅尼、

宝幢坊(保童坊ほうとうぼう) → 貞徳(ていとく・松永、歌学者/俳人) 3 0 0 8
 宝幢坊(ほうとうぼう) → 慧巖(えいげん; 法諱、真宗大谷派僧) D 1 3 7 9
 蓬島隣(ほうとうりん) → 蝶羽(ちようう・下郷/千代倉、醸酒業/俳人) H 2 8 2 6
 包徳(ほうとく・夏目) → 諫圃(かんぼ・米津よねづ/夏目、俳人) R 1 5 6 3
 方得(ほうとく・伊東) → 華山(かざん・伊東いとう、儒/医者) L 1 5 7 1
 奉徳(ほうとく・田中/井上) → 琴水(きんすい・小野原おのはら、儒者) R 1 6 2 6
 彭徳(ほうとく・神河) → 眉山(びざん・神河かみかわ、医者/詩) C 3 7 2 7
 懋徳(ほうとく・岡) → 鳳鳴(ほうめい・岡おか、儒者/書) C 3 9 5 3
 懋徳(ほうとく・佐藤) → 懋徳(よしのり・佐藤さとう、藩儒) F 4 7 8 8
 懋徳(ほうとく・村沢) → 徳風(のりかぜ・村澤むらさわ/桜井、藩士/歌) G 3 5 7 4
 懋徳(ほうとく・山部) → 懋徳(よしのり・山部やまべ、国学者) P 4 7 9 2
 芳徳庵(ほうとくあん) → 為定女(ためさだのむすめ・二条にじよう、歌人) G 2 6 8 2
 豊徳院(ほうとくいん) → 忠民(ただもと・本多、藩主/老中/日記) R 2 6 0 1
 法曇(ほうどん; 法諱・呉雲) → 呉雲(ごうん; 道号・法曇、曹洞僧) L 1 9 6 9
 望楠軒(ぼうなんけん; 家塾) → 強斎(きょうさい・若林、儒/神道) C 1 6 5 0
 望楠軒(ぼうなんけん・講主) → 成斎(せいさい・西依にしより/西、儒者) B 2 4 5 5
 望南亭(ぼうなんてい) → 自休(じきゅう・中川/藤原、歌人) B 2 1 6 0
 望楠楼(ぼうなんろう) → 綱斎(つなさい・浅見、医/儒者) 1 8 0 3

C3943 法爾(ほうに; 法諱、俗姓; 佐伯) 1563-1640 78 相模小田原時宗僧; 智誉上人門/初常陸常永寺住、
 京七条道場の金光寺20世/1627遊行上人35代相続、
 1631美濃金蓮寺で制戒[時宗用心之事]提示、甲府一蓮寺にて没、「別願之註」著、
 [法爾の号] 持阿/他阿弥陀仏35世

法爾(ほうに; 法諱・無隠) → 無隠(むいん; 道号・法爾、臨濟僧) 4 2 2 0
 法入(ほうにゅう; 出家号) → 正朝(まさとも・新見しんみ/源/小栗、幕臣/随筆) E 4 0 6 9

- 方入齋道悦(ほうにゅうさいどうえつ)→治左衛門(じざえもん・出口でぐち、歌人/茶) T 2 1 5 2
 法如(ほうにょ) → 雅定(まささだ・源、蓮如、右大臣/歌人) C 4 0 5 2
 法如(ほうにょ;号) → 光闡(こうせん;法諱・法如、真宗西本願寺17世) K 1 9 1 8
 法忍(ほうにん;法諱) → 祖山(そざん;道号・法忍;法諱、臨濟僧) J 2 5 7 3
 法忍(ほうにん;字) → 淨業(じょうごう;法諱・法忍、律僧/戒律宣揚) I 2 2 8 3
 法忍大定禪師(ほうにんだいじょうぜんじ)→宗悦(そうえつ;法諱・怡溪;道号、臨濟僧/茶人) G 2 5 2 7
 芳年(ほうねん・村井) → 蘇山(そざん・村井むらい、医者) J 2 5 7 5
 法然(ほうねん;号) → 源空(げんくう;法諱、浄土宗開祖) 1 8 1 1
 豊年(ほうねん・賀陽) → 豊年(とよとし・賀陽かや、廷臣/詩人) R 3 1 3 4
 豊年(ほうねん・加藤) → 豊年(とよとし・加藤/長坂、国学/地誌) U 3 1 6 8
 豊年(ほうねん・飯田) → 無物(むぶつ・飯田いいた、俳人) C 4 2 9 7
 豊年(ほうねん・大田) → 豊年(とよとし・大田おおた、医者/国学者) R 3 1 3 5
 法然寺素白(ほうねんじそはく)→素白(そはく・法然寺、俳人) E 2 5 2 3
- C3944 **豊年雪丸**(ほうねんのゆきまる、松月庵、市橋助左衛門)?-1821 尾張藩士、名古屋狂歌;酔竹連、
 1815雅望「飲食狂歌合」参、「才蔵集」「狂歌部領使」「上段集」入、「吾妻曲狂歌文庫」入;
 [年の坂のぼる車のわがよはひ油断をしても跡へもどらず]
- C3945 **房能**(ぼうのう;法諱、初;法諱;光能、俗姓:中院/源)1374-1450/77 天台宗園城寺僧;普賢院房誉門、
 1398房誉僧正より秘密灌頂を受/園城寺勸学院学衆/法印朝円より天台三大部を修学、
 園城寺探題/1424園城寺別当:拜堂の儀を復興、再度諸寺御講奉行/大心院住/大僧正、
 「尊星王次第」著
 匏之丞(ほうのじょう・天野)→正識(まさつね・天野あまの、幕臣) E 4 0 1 7
 蓬之柚屋(ほうのそまや) → 紹完(しょうかん・木山きやま/源、社僧/連歌作者) H 2 2 8 2
 望廬舎(ぼうのや) → 秋良(あきよし・安岐良あきよし・白田うすだ、国学者) E 1 0 1 1
 鳳波(ほうは・永井) → 次芳(つぐよし・永井、俳人/郷土史家) 2 9 9 0
- C3946 **芳馬**(ほうば・高井たかい、几圭さけい[1687/9-1760/2]の兄)?-? 江中期京の俳人、几董きとうの伯父、
 几圭への追悼吟(;甥几董「続明烏」の巻尾入62);[諸ともに記念かみとしのぶ紙衣かみこ哉]
- C3947 **宝馬**(ほうば・吉成よしなり[;初姓]/小菅こすげ)1727-98/72 江戸の俳人:小菅蒼狐門、
 一日独吟五千句成就、師の号を継承、
 1786「狂六堂才麿追善権の親爺忌」84「誹諧花鳥合」88「銀世界」編、
 1772「誹諧雪まろめ」編/77「誹諧下毛のはな」「日光山道の記」著、
 [宝馬(;号)の別号] 五千堂2世/竹窓庵/万歳堂/連々舎/松窓
- C3948 **畝波**(ほうは・太中庵) ? - ? 越後高田の俳人:樗良門、
 1776「しぐれ笛」「きくのか」「仏の座」編
 芳梅(ほうばい・歌川) → 芳梅(よしうめ・歌川うたがわ、絵師) C 4 7 2 3
 芳博(ほうはく・朝山) → 芳博(慶博よしひろ・朝山あさやま/勝部かつべ、神職) L 4 7 2 0
 厩伯(ほうはく・吉田) → 臥龍(がりょう・吉田よしだ、藩士/漢学者) P 1 5 7 5
 豊坂(ほうはん) → 香実(こうじつ・深田ふかだ、藩士/儒/歌学) B 1 9 2 5
 房繁(ほうはん・八条) → 房繁(ふさしげ・八条はちじょう、馬術家) C 3 8 0 8
 方半居士(ほうはんこじ) → 京山(きょうざん・山東、合巻作者) 1 6 3 3
 邦美(ほうび/くによし・梁田)→ 蛻巖(ぜいがん・梁田やなだ、儒者/詩) 2 4 0 6
 方美(ほうび・まさよし・岩下)→ 方平(まさひら・岩下/藤原、藩家老/国学) G 4 0 8 6
 豊美(ほうび・宮古路) → 繁太夫(しげだゆう・宮古路、浄瑠璃太夫) C 2 1 3 9
 鳳尾(ほうび) → 芭蕉(はしゅう・松尾、俳人) 3 6 1 7
 鳳尾庵(ほうびあん) → 坡仄(はそく・野間のみ、俳人) E 3 6 7 7
 鳳尾院(ほうびいん) → 蟻洞(ぎとう・前田、僧/俳人) B 1 6 5 9
 鳳尾園(ほうびえん) → 東為坊(とういぼう・小野、俳人) B 3 1 0 3
 鳳尾館(ほうびかん) → 耒耜(らいし・中村なかむら、庄屋/俳人) 4 8 5 2
 鳳尾齋(ほうびさい) → 春信(はるのぶ・広瀬ひろせ、神職/歌/俳人) J 3 6 2 8
 放屁先生(ほうひせんせい) → 太乙(たいいつ/たいおつ・村瀬、藩士/儒者) B 2 6 0 3
 鳳尻居(ほうびんきよ) → 梅輦(ばいれん・鳳羽亭、俳人) C 3 6 3 4

豊敷(ほうふ・山内) → 豊敷(とよぶ・山内やまのうち、藩主/歌) R 3 1 4 3
 邦孚(ほうふ・中西) → 邦孚(くにさね・中西ななし、幕臣/天文家) C 1 7 7 5
 邦孚(ほうふ/くにたか・伊達) → 蕙園(けいえん・伊達だて、儒者/詩人) F 1 8 3 1
 邦孚(ほうふ・小花) → 作之助(さくのすけ、小花おはな、幕臣/小笠原開発) H 2 0 2 7
 豊阜(ほうふ:号) → 湖月(こげつ:道号・信鏡:法諱、臨濟僧) P 1 9 5 5
 豊敷(ほうふ・山内) → 豊敷(とよぶ・山内、藩主/学問奨励/歌) R 3 1 4 3
 邦武(ほうぶ・久米) → 邦武(くにたけ・久米、藩士/欧米視察) C 1 7 8 4
 豊武(ほうぶ・奥村) → 栄実(てるさね・奥村おくむら、藩士/和漢学) C 3 0 7 4
 房父(ほうふ・平賀) → 中南(ちゅうなん・平賀/木原/土生、儒者) G 2 8 7 8
 豊風(ほうふう・山口) → 豊風(とよかぜ・山口、歌人) R 3 1 1 0
 芳風舎(ほうふうしゃ・古梅) → 茂右衛門(もえもん・弭間はずま、俳人) 4 4 6 1
 方副(ほうふく・岡野/興津) → 湖山(こざん・興津おきつ、兵学/心学者) M 1 9 5 9
 方副(ほうふく・今井) → 方副(まさすけ・今井いまい、国学者) L 4 0 8 4
 鳳文(ほうぶん・奥田) → 桐園(とうえん・奥田、藩儒/詩) B 3 1 5 2
 豊文(ほうぶん・水谷) → 豊文(とよぶみ・水谷みずたに、藩士/本草学) R 3 1 5 7
 豊文(ほうぶん・吉田) → 豊文(とよぶみ・吉田よしだ、藩士/国学) W 3 1 9 5
 芳文(ほうぶん・松会) → 芳文(よしぶみ/よしぶみ・松会まつえ、書家) G 4 7 8 2
 芳文院(ほうぶんいん) → 日葆(にちほう;法諱・観測、日蓮僧) D 3 3 1 9

C3949 蓬平(ほうへい・佐竹さたけ、庄屋野口[佐竹]勘左衛門男) 1750-1807⁵⁸ 信州伊那郡大瀬木村の絵師、
 1770城仁木家の養子;離縁、漢文・書;寒山禅師門/画;江戸の宋紫石・京の池大雅門、
 1783長崎で明画を研究、熊本で村井琴山・藩儒高本紫溟と・博多で亀井南溟と交流、
 山水画・篆刻に長ず、歌を詠む、1785帰郷し結婚、画作に専念、
 1807(文化4)紫溟に再会のため妻同伴で熊本への途中熊野で罹病;帰郷後没、
 日記「崎屯行程之紀」著/「莊周胡蝶夢図」「武陵桃源図」「神農図」画/「亀文石神遊編」著、
 [蓬平(;号)の名/字/通称/別号]名;正夷(まさひら、字;子道/子衡/叔規、通称;佐蔵、
 別号;蓬平山人/竹溪/亀文石/亀文主人/岳溪/藍泉/志考/虚々斎/源臣/検里斎/椿寿園、
 竹裡館/信南山樵/蓬亭/駒岳樵者

☆伊賀良村鳩打峠裏の蓬平よぎだいらを・安倍川付近の屋敷の水盤の亀甲石を各号にす

方炳(ほうへい;法諱) → 独文(どくもん;道号・方炳、渡来黄檗僧) L 3 1 4 9
 方平(ほうへい・岩下) → 方平(まさひら・岩下/藤原、藩家老/国学) G 4 0 8 6
 方平(ほうへい・猪瀬) → 尚賢(なおかた・猪瀬いのせ、書家/歌/俳人) 3 2 9 9
 豊平(ほうへい) すべて → 豊平(とよひら)
 蓬平山人(ほうへいさんじん) → 蓬平(ほうへい・佐竹さたけ、絵師) C 3 9 4 9

C3950 鳳翻(ほうへん・片山かたやま、名;則) 1740-1808⁶⁹ 周防吉敷の儒者;吉敷毛利の儒臣田中蘆城門、
 徂徠学を信奉/山口で開塾;京に遊学後吉敷で教授/1787長門清末藩主毛利匡邦に登用;
 育英館学頭/1800長門萩藩主毛利斉房に出仕;儒員/侍講、1805忌諱に触れ免職、
 「職員考」「居民臆度」「齐家談」「虞書諺解」「正南篇正統」「周礼数目図」「鳳翻集」著、
 [鳳翻(;号)の字/通称/諡号]字;順甫、通称;順蔵、諡号;孝憲先生

ホーヘン(;蘭名) → 五右衛門(4代ごえもん・熊谷/熊屋くまや、商家/藩政) L 1 9 7 4

G3954 房遍(ほうへん;法諱・本姓;源)?-? 鎌倉期;僧/阿闍梨、歌;1209明恵上人歌集入、
 [大納言阿闍梨房遍 高雄の住房に来たらる 月の前にて閑談 この集[遣心和歌集]開き、
 秋の夜の月の光にながむれば身にしみわたる和歌の浦風]、
 (明恵歌集;遣心集;17/上蓮房上西じょうさいと共に明恵の房に訪問)

包輔(ほうほ・多田) → 包輔(かねすけ・多田ただ、占卜家) O 1 5 5 4
 包保(ほうほ・谷川) → 物外(ぶつがい・谷川たにがわ、心学者) D 3 8 2 7
 豊浦(ほうほ・船越) → 清蔵(せいぞう・船越ふなこし、藩士/勤王家) D 2 4 2 0
 房輔(ほうほ・鷹司) → 房輔(ふさすけ・鷹司たかつかさ、関白/歌人) C 3 8 1 0

G3904 匏方(ほうほう・幸松こうまつ) ?-? 江後期;豊後大分郡府内の国学者;本居大平門、
 大平撰「八十浦の玉」下巻入;
 [きぎす鳴く片山かげに白く咲く垣内の花はなしの花かも](八十浦;766梨花)

- 芳豊(初世ほうほう・歌川) → 芳豊(初世よしとよ・歌川うたがわ、絵師) F 4 7 0 9
 豊彭(ほうほう・古川) → 豊彭(とよちか・古川ふるかわ/前田、神職) W 3 1 2 8
 豊房(ほうぼう) すべて → 豊房(とよふさ)
 包房(ほうぼう・山口) → 包房(かねふさ・山口やまぐち、商家/歌人) W 1 5 0 9
 芳房(ほうぼう・勝部) → 芳房(よしふさ・勝部かつべ/朝山、神職/歌) G 4 7 7 4
 芳房(ほうぼう・歌川) → 芳房(よしふさ・歌川うたがわ、絵師) G 4 7 7 6
 房宝(ほうぼう・樋口) → 泉(いずみ・樋口ひぐち/岩佐、和算家/歌) K 1 1 5 8
 澎法庵(ほうぼうあん) → 慧皓(えこう;法諱、真宗大谷派僧) D 1 3 8 7
 彭蓬洲(ほうぼうしゅう) → 百川(ひやくせん・榊原さかきばら、絵師/俳人) E 3 7 6 4
 蜂房秋鯉(ほうぼうしゅうり) → 秋鯉(しゅうり・蜂房ほうぼう、絵師/狂歌) I 2 1 3 9
 邦房親王(ほうぼうしんのう) → 邦房親王(くにのぶしんのう、伏見宮9代) 1 7 8 5
 法宝房(ほうぼうぼう;号) → 行空(ぎょうくう;法諱、浄土僧) N 1 6 6 1
 G3935 **方僕**(ほうぼく;法諱・竹内) 1733-1800 68 筑前遠賀郡戸畑村の照養寺住職、歌人
 豊卜(ほうぼく・松本) → 川斎(せんさい・松本まつもと、神道家) F 2 4 4 0
 豊浦山樵(ほうぼうさんしゅう) → 清蔵(せいぞう・船越ふなこし、藩士/勤王家) D 2 4 2 0
 方本(ほうほん・近藤) → 芳樹(よしき・近藤/田中、国学者/歌) 4 7 0 9
 法本(ほうほん;法諱) → 大棟(だいたう;道号・法本、曹洞僧) K 2 6 8 0
 法本房(ほうほんぼう;号) → 行空(ぎょうくう;法諱、浄土僧) N 1 6 6 1
 [相実(;法諱)の通称] 無障金剛//法曼院、
 法曼院百寿百和尚(ほうまんいんのひやくじゅおしょう) → 相実(そうじつ;法諱、天台僧) H 2 5 6 9
 法曼院法印(ほうまんいんのほういん) → 相実(そうじつ・しょうじつ;法諱、天台僧) H 2 5 6 9
 C3951 **宝密**(宝蜜ほうみつ;法諱、通称;安富周防入道、俗姓;安富) ?-1433 室町幕府管領細川家の被官、
 僧/歌人:細川家被官層中で最も熱心;1414細川満元(道歆)催「頓証寺法楽一日千首」詠、
 公武僧歌人40余名結集し「頓証寺法楽百首」「当座三十首」奉納(宋雅・満元・正徹等参加)、
 1415「法華経和歌」勸進/21「細川満元家月次始歌会」「新玉津島社頭法楽和歌」参加、
 新続古集1718、連歌:1433「北野社一万句法楽連歌」参加、宝城ほうじょうの兄、
 [秋風の松吹く音もうらさびて神も心や住の江の月](新続古集;十七雑1718)
 法明(ほうみょう;字) → 恩覚(おんかく;法諱・法明、法相学僧) D 1 4 3 8
 法明(ほうみょう;字) → 慧鑑(えかん;法諱・法明、真言僧) D 1 3 5 7
 法明(ほうみょう;初法諱) → 義圭(ぎけい;字・諦住たいじゅう;法諱、真宗/唱導) 1 6 6 6
 豊民(ほうみん/とよたみ・中井) → 乾斎(けんさい・中井なかい、漢学者) E 1 8 1 2
 豊民(ほうみん・佐藤) → 鼎栄(ていえい・佐藤さとう、国学/歌人) F 3 0 1 0
 鵬民(ほうみん・田中/松山) → 玄中(げんちゅう・松山/田中、医者) L 1 8 2 5
 放無量光国師(ほうむりょうこくし) → 慧玄(えげん;法諱・関山、臨濟僧) 1 3 6 1
 C3952 **法命**(ほうめい;号・吉武よしたけ、名;義質/幼名;団四郎、九郎兵衛男) 1683-1759 77 父は唐津藩家老、
 唐津藩士;儒臣、儒:奥東江・三宅尚斎門、1714代官/20辞任/24呼子番役/30致仕;隠居、
 城外山田村住;各村に私塾を開き巡講、藩校盈科堂と対立;のち唐津藩学門の主流学統、
 「聖学明辨」「諸塾学談」「同志会談」
 C3953 **鳳鳴**(ほうめい・岡おか、名;懋徳/字;肅夫) ?-1781 京の儒者:小野鶴山門、書を嗜む、「詩学折臂」著、
 「女忠教操文庫」著、「大人賦」書、1715「熟字彙雋」67「唐明詩学解環」著、
 1773「詩林姓名略譜箋」校
 C3954 **鳳鳴**(ほうめい・荻生おぎゅう/本姓;物部/修姓;物、名;天祐、荻生金谷男) ?-1805 江戸儒者(家学);父門、
 徂徠の甥、父の後継;大和郡山藩儒、1789「荻生惣右衛門由緒書」著、「鳳鳴遺稿」、
 [鳳鳴(;号)の字/通称]字;順卿、通称;惣右衛門
 C3955 **方明**(ほうめい;号・阮) ? - 1822 江後期三河田原藩士/俳人:暁台・士朗門、
 1803士朗の紀行「秋風紀行」を五雄と共編
 C3956 **鳳鳴**(ほうめい・奥山おくやま、名;操) ?-? 江後期天保1830-44頃伊予の儒者;近藤篤山門、
 盛岡藩に出仕、1837「救荒瑣論」「松の一葉」、「四均総」「赤子問答」著、
 [鳳鳴(;号)の字/通称]字;存中、通称;弘平

- G3917 **鳳鳴**(ほうめい・海老名えびな) 1814-1878 65 因幡東伯郡宇谷村浄蓮寺の僧/鳥取の覚応寺8世、
歌人/勤王の士と交流
- 鳳鳴(ほうめい・武田/竜) → 公美(きんえ・竜りゅう、草廬、儒者/詩歌) E 1 6 8 7
 鳳鳴(ほうめい・保岡) → 嶺南(れいなん・保岡/安岡やすおか、藩儒官) 5 1 6 0
 鳳鳴(ほうめい・山路) → 重信(しげのぶ・山路やまち、国学/歌人) V 2 1 4 2
 方明(ほうめい・中井) → 方明(まさあき・中井、曆算家) B 4 0 0 3
 方明(ほうめい・細合) → 斗南(となん・細合ほそあい、儒/詩/書家) O 3 1 5 8
 豊明(ほうめい・朝倉) → 豊明(とよあきら・朝倉あさくら、幕臣) R 3 1 0 4
 豊明(ほうめい・小曾根) → 乾堂(けんどう・小曾根こそね、書/篆刻家) L 1 8 7 5
 鵬溟(ほうめい;号) → 履善(りぜん;法諱・信修;字、本願寺派僧) B 4 9 4 2
 鵬溟(ほうめい・菊池) → 半隠(はんいん・菊池、儒家) H 3 6 2 2
 房明(ほうめい・菱田) → 房明(ふさあき・菱田ひしだ、幕臣/儒者) I 3 8 6 7
- C3958 **鳳鳴閣思文**(ほうめいかくしぶん・字;大痴)?-? 日光天台僧/狂歌:日光山水連、
「菅原五百題狂歌集」共編、1837「興歌詞華集」「興歌二荒風流」編、「二荒風体興歌金玉集」著、
[鳳鳴閣思文の別号] 鳳鳴閣大人/鳳鳴閣主人/竜華庵/玄々庵/一釣翁
- C3959 **鳳毛**(ほうもう、別号;仙児)?-? 豊前小倉藩士/俳人:春波・春渚門、
1736「ともちから」-65「菊の真砂」、「俳諧私語」著
- C3960 **鳳毛**(ほうもう・青木あおき、名;重隆、藩儒広瀬蒙斎男) 1812-59 48 青木翠樹の養子/桑名藩儒者;
句読師/学頭/書院番/横目、1849「中馬紀行」著、和漢の史論数百編を著作したという、
[鳳毛(;字)の通称/号]通称;生三/旌蔵、号;遠碧/蘆洲
- 鳳毛(ほうもう・岡) → 正佐(まさすけ・岡おか、商家/国学) O 4 0 5 2
 包蒙(ほうもう・孫福) → 公裕(きみひろ・孫福まごぶく/度会、神職/詩) M 1 6 0 7
 邦茂王(ほうもおう/くにもちおう・伏見宮) → 惟実(これざね・安藤あんど、詩歌) O 1 9 3 6
 芳門(ほうもん;道号) → 持賢(もちかた・細川/源、道賢、武将/歌/連歌) B 4 4 3 5
 坊門(ほうもん;号) → 宗通(むねみち・藤原ふじわら、廷臣/歌人) C 4 2 5 1
 坊門大納言(ほうもんだいなごん) → 忠信(ただのぶ・藤原、歌人) F 2 6 5 4
 坊門殿(ほうもんだの) → 義詮(よしあきら・足利、2代将軍、歌人) C 4 7 0 3
 坊門三位(ほうもんのさんみ) → 頼基(よしもと・坊門ほうもん/藤原、廷臣/歌) 4 7 4 6
- C3961 **坊門局**(ほうもんのつばね、内大臣藤原信清の女)?-? 後醍醐天皇妃/道助どうじよ親王の母
 芳野(ほうや・榊原) → 芳野(よしの・榊原さかきばら、国学者) F 4 7 5 2
 謀野亭(ぼうやてい) → 重威(しげたけ・野村のむら、藩士/詩歌) R 2 1 2 8
- F3996 **法祐**(ほうゆう/ほうい;法師)?-? 平安後期僧;歌人、1054播磨守兼房歌合参加、
寂超「後葉集」入(128)、
[朝霧に道はまどひぬ竜田川いづれのほどか渡りなるらん](兼房歌合;秋霧四番右、
後葉集;秋霧に...)
- F3998 **豊由**(ほうゆう・安井やすい) ?-? 江前期;大阪の俳人、
1673西鶴「生玉万句」第七礎千句第三句等/第三花発句等入、
[秋立ちて相場飛脚や急ぐらん](生玉万句;礎第三/脇句未学;片肌脱ぎし月人男、
京・大阪・江戸三都間の金銀相場を急報する定飛脚が忙しくなる)
[花嫁や里まで送る折りも有り](生玉万句;花発句、
謡曲「山姥」;月もろともに山を出で里まで送る折もあり)
- C3962 **芳猷**(ほうゆう;法諱、号;良寛・観城)?-? 江中期真宗僧:1758「真宗勸化藻鏡編」
- 方由(ほうゆう・南) → 元順(げんじゅん・南、医/俳人) D 1 8 9 4
 方祐(ほうゆう・諏訪) → 方祐(まさすけ・諏訪すわ、神職/歌人) C 4 0 8 9
 方雄(ほうゆう・山田) → 方雄(まさお・山田やまだ/源、神職/歌人) T 4 0 4 7
 邦祐(ほうゆう・鴨) → 邦祐(くにすけ・鴨かも、神職/歌) B 1 7 5 2
 豊雄(ほうゆう・金子) → 豊雄(とよお・金子かねこ、神職/国学/歌) U 3 1 7 9
 忘憂斎(ぼうゆうさい) → 光豹(こうひょう・佐久間、藩儒/和算家) L 1 9 0 3
 忘憂草園主人(ぼうゆうそうえんしゅじん) → 茂世(しげつぐ・末永すえなが、藩士/歌) Z 2 1 0 0
- C3963 **奉養**(ほうよ・九蓮社) ?-? 天台僧、1595秀次の命「謡抄」注釈参加(;結誉と)

法興(ほうよ;字)	→	智穀(ちこく;法諱・法興、修験/真言)	E 2 8 1 9
法誉(ほうよ;法名)	→	知俊(ちしゅん;法諱、浄土僧)	E 2 8 3 5
宝誉(ほうよ;初法諱)	→	尋海(じんかい;法諱、真言僧)	N 2 2 6 5
宝誉(ほうよ;性蓮社)	→	顕了(けんりょう;法諱、浄土僧)	N 1 8 0 0
宝誉(ほうよ;法名)	→	任口(にんこう/如羊;号、真宗僧/俳人)	G 3 3 3 6
豊誉(ほうよ;法名)	→	靈応(れいおう;法諱・民阿、浄土僧)	5 1 1 4
鳳誉(ほうよ;翔蓮社)	→	鸞洲(らんしゅう;法諱、浄土僧/アイヌ教化)	C 4 8 6 1

C3964 **蓬陽**(ほうよう・前島まえじま) ? - 1856 尾張犬山城主成瀬家の家士/名古屋住吉町住、
俳人:士朗門、1835「見立舟」編、

[蓬陽(;号)の通称/別号]通称;丹下、別号;胎仙堂

方揚(ほうよう・原)	→	方揚(まさあき・原はら、国学/歌人)	R 4 0 9 3
蜂要(ほうよう・石川)	→	丈山(じょうざん・石川、儒者/詩人)	S 2 2 5 7
豊庸(ほうよう・吉井)	→	豊庸(とよつね・吉井よい、和田、商家/歌)	W 3 1 9 1
豊雍(ほうよう・山内)	→	豊雍(とよちか・山内やまのうち、藩主/歌)	R 3 1 2 6
芳庸(ほうよう・歌川)	→	芳庸(よしかど・歌川うたがわ、商家/絵師)	C 4 7 9 4
鳳陽(ほうよう・上杉)	→	治憲(はるのり・上杉、藩主/財政改革)	G 3 6 7 1
鳳陽(ほうよう・伊藤)	→	錦里(きんり・伊藤いとう、藩士/儒者)	E 1 6 9 1
鳳陽(ほうよう・棚谷)	→	桂陰(けいん・棚谷たなや、医者)	F 1 8 2 5
鳳陽(ほうよう;字)	→	羅城(らじょう;号・恵階;法諱、真宗僧/俳人)	B 4 8 3 9
鳳陽(ほうよう・大巻)	→	秀詮(ひであき/ひであきら・大巻、藩士/郷土史)	C 3 7 7 7
鳳陽(ほうよう・上田)	→	續明(つぐあき・上田/宮崎、藩士/教育)	2 9 6 5

C3965 **亡羊**(ほうよう・山本やまもと、名;世孺、封山男/本姓;多々良) 1778-1859⁸² 京の医者(家学):父門、
本草学:1794小野蘭山門/植物園を設置し有用植物を栽培/物産会を開催、家塾を開く、
医・本草・儒学を講義/勤王を主唱、1810「懐中食性」編/37「人参種植考」/39-53「百品考」、
1842「秘伝華鏡釈義」49「格致類編」、「亡羊歌集」、「救荒本草記聞」、「本草目録」外著多数、
鋤夫せきふ・秀夫・章夫しょうふ(あやを)・農夫の父、

[亡羊(;号)の字/通称/別号]字;仲直、通称;本三郎/永吉、別号;読書室

亡羊(ほうよう・三宅)	→	寄斎(きさい・三宅、儒者/茶)	I 1 6 4 9
望洋園一廬(ほうようえんいちろ)	→	謙蔵(けんぞう・中野なかの、浦年寄/俳人)	N 1 8 4 4
亡羊子(ほうようし)	→	達軒(たっけん・股野またの、儒儒/詩人)	G 2 6 1 9
彷徨主人(ほうようしゅじん)	→	高般(たかかず・藤堂とうどう、詩人)	L 2 6 7 1
萌陽亭(ほうようてい)	→	素英(そえい・酒井さかい、俳人)	J 2 5 3 1
鳳翼(ほうよく・寺田)	→	臨川(りんせん・寺田/源/田/寺、藩儒)	K 4 9 5 8
鳳翼(ほうよく・三宅)	→	蒼陽(しょう・三宅みやけ、漢学;道教普及)	G 2 2 4 5
鳳翼(ほうよく・高志)	→	玄登(げんと・高志たかし、整骨医)	L 1 8 6 5
鵬翼(ほうよく・林)	→	安平(やすひら・林はやし、武術家;柔術)	C 4 5 8 1
寶譽上人(ほうよしょうにん)	→	任口(にんこう、真宗僧/俳人)	G 3 3 3 6

C3966 **蓬萊**(ほうらい・木村きむら、名;貞貫) 1716-66⁵¹ 尾張中島郡荊安賀村の農家の生/儒者:
1726(11歳)江戸の荻生徂徠門/師没で帰郷;独学、詩;石島筑波門、京で講説業、
安房勝山藩主酒井忠大の招聘で勝山藩儒;藩政に参与、

「蓬萊詩稿」「木村貞貫詩集」著、

[蓬萊(;号)の字/通称/別号]字;君恕、通称;勝吉、別号;嶺南、法号;節山義文居士

F3979 **ほうらい**(蓬萊;組連) ? - ? 江戸牛込御納戸町の川柳の組連、

取次;1779-82「川柳評万句合」入;

取次例;[雪見に芭蕉ばせう式分持つて出たるなり](1779万句合/定め社こそすれ々々)、

(いざさらば雪見に転ぶ所まで[芭蕉])、

(実は芭蕉はころび芸者を買いに枕代金二分を持って行ったのだという穿ち)

1780-83蓬萊連月次例会句集「川傍柳かわぞひやなぎ」初-五篇(初世川柳評)刊

蓬萊(ほうらい・祇園)	→	南海(なんかい・祇園/祇/阮、儒/詩/画)	3 2 3 0
豊来(ほうらい)	→	蓼太(りょうた・大島/吉川、俳人)	4 9 2 0

- 朋来(鳳来ほうらい・並河)→ 寒泉(かんせん・並河なみかわ/なびかわ、儒者) G 1 5 4 7
 鳳来(ほうらい・山崎) → 宗運(そううん・山崎やまさき、幕臣/医者) G 2 5 0 8
 鳳来(ほうらい・毛) → 盛圭(せいけい・富川とみかわ、最後の三司官/歌) O 2 4 3 2
 蓬萊居(ほうらいきよ) → 三朝(さんちよう・高橋たかはし、俳人) M 2 0 6 2
 蓬萊居亀世(ほうらいきよきせい) → 千寛(ちひろ・茅舎かや、狂歌) F 2 8 2 5
 蓬萊軒(ほうらいけん・松井) → 賢盈(けんえい・松井まつい、書肆/雑俳集編) B 1 8 3 0
 蓬萊軒(ほうらいけん・鶴見) → 園女(そのめ/そのじよ・鶴見つるみ、俳人) K 2 5 3 0
 蓬萊山其山(ほうらいさんきざん) → 光丘(みつおか・本間ほんま、豪商/藩政参画) K 4 1 4 5
 泡来散人(ほうらいさんじん) → 巖雄(いわお・武田たけだ、藩士/神職) K 1 1 4 1
 蓬萊山人(ほうらいさんじん) → 篤(あつし・辻村つじむら、医者/歌人) E 1 0 6 0
 蓬萊山人(ほうらいさんじん) → 秀政(ひでまさ・吉野よしの、神職/地誌) D 3 7 8 1
 蓬萊山人帰橋(ほうらいさんじんききょう、狂歌) → 帰橋(ききょう、洒落本) 1 6 9 3
 蓬萊山人帰橋(2世ほうらいさんじんききょう、狂歌) → 焉馬(2世えんば・烏亭うてい、戯作) B 1 3 3 4
 蓬萊山人亀遊(ほうらいさんじんきゆう) → 蓬洲(ほうしゅう・神屋、戯作者) B 3 9 4 8
 蓬萊山人亀遊(ほうらいさんじんきゆう) → 亀遊(きゆう・蓬萊山人、黄表紙) M 1 6 1 8
 蓬萊舎(ほうらいしゃ) → 武敏(たけとし・岡おか、商家/国学) W 2 6 2 5
 蓬萊舎(ほうらいしゃ) → 光丘(みつおか・本間ほんま、豪商/藩政参画) K 4 1 4 5
 宝来舎(ほうらいしゃ) → 国貞(2世くにさだ・歌川、4世豊国/絵師) B 1 7 5 0
 蓬萊神仙楼(ほうらいしんせんろう) → 基君(もときみ・松本まつもと、本陣経営) L 4 4 4 0
 邦頼親王(ほうらいしんのう) → 邦頼親王(くによりしんのう、伏見宮/歌人) D 1 7 3 7
 蓬萊亭(ほうらいてい) → 蓬洲(ほうしゅう・神屋、読本戯作者) B 3 9 4 8
- C3968 **峯嵐**(ほうらん) ? - ? 伊賀上野の俳人; 1698「続猿蓑」1句入(少年時の句)、
 [巢の中や身を細うしておや燕つばめ](続猿蓑; 卷下)
 法蘭(ほうらん; 字) → 円門(えんもん; 法諱、真宗大谷派僧/詩) F 1 3 3 9
 鳳鸞子(ほうらんし) → 貞頼(さだより・河原かわはら、藩士/測量術) C 2 0 6 8
 朋理(ほうり・杉浦) → 朋理(ともあきら・杉浦すぎうら、国学) P 3 1 1 4
 放鯉翁(ほうりおう) → 松蔭(しょういん・島方しまかた/島、俳人/詩) G 2 2 8 2
 豊里舟(ほうりしゅう) → 里舟(りしゅう・豊川とよかわ、洒落本作者) B 4 9 2 0
- C3969 **豊流**(ほうりゅう; 号・岩橋いわはし、名; 豊春) ?-? 1696存 撰津天王寺村の俳人: 西山宗因門、
 西鶴大矢数に脇座を務める; 雑俳点にも参加、「天王子名所彼岸桜」編、
 1673西鶴「生玉万句」頭巾第三入、1681賀子「山海集」82春林「俳諧百人一句難波色紙」入、
 1691賀子「蓮実」/1693菊子「難波土産」入、1702轍士「花見車」で太夫に擬せられている、
 1705良弘「宝の市」「富の札」入、
 [住めばこそ拙者風情も難波なにはの春](花見車; 46)
- C3970 **芳竜**(ほうりゅう・上柿うえがき; 号) ?-? 江中期享保1716-36頃の絵師: 菱川系か?、
 肉筆美人風俗画、「遊郭図」画
- C3971 **法龍**(ほうりゅう; 法諱) ? - ? 1865存 天台僧: 法道門/近江坂本西教寺系、伊勢引接寺住、
 1835「法道和尚詠歌集」編/41「法道和尚法語集」「法道和尚行状記」編/62「両大師利生記」著、
 1863「元三大師利生記」66刊「恵心僧都絵詞伝」、「万代福業集」「称名庵雑記」著
 包竜(ほうりゅう・小野) → 栗野(りつや・小野おの、商家/漢学/詩歌) C 4 9 1 6
 包留(ほうりゅう → かねとめ・中原) → 兼留(かねとめ・中原なかはら、商家/歌人) V 1 5 2 1
 苞隆(ほうりゅう・幡鎌) → 幸雄(ゆきお・幡鎌はたかま/句坂さざさか、神職/歌) H 4 6 1 4
 邦隆(ほうりゅう・土佐) → 邦隆(くにたか・土佐とさ、鎌倉期絵師) C 1 7 8 0
 芳隆(ほうりゅう/よしたか・三宅) → 嘯山(しょうざん・三宅、商家/詩/俳人) S 2 2 5 0
 峯隆(ほうりゅう・栗木) → 峯隆(みねたか・栗木くりき、神職/国学者) F 4 1 4 8
 芳流居(ほうりゅうきよ) → 正宣(まさのぶ・山川やまかわ、商家/国学者) F 4 0 7 9
 法侶(ほうりよ; 字) → 文晔(ぶんげい; 法諱・法侶、真宗僧/俳人) F 3 8 0 4
- C3972 **法梁**(ほうりょう; 法諱・諡号; 遊泉院) 1788-1854 67 伊勢の真宗高田派撰取院住職: 本楽寺法霖門、
 撰取院に学寮を設置; 子弟教育、権少僧都/講師、1792「末燈鈔略述」/1849「真宗百題」編
 鳳陵(ほうりょう・井伊) → 仁山(じんざん・井伊い、藩士/詩人) O 2 2 6 5

- 宝梁(ほうりょう:号) → 大瀛(だいえい:法諱、真宗僧) J 2 6 1 8
 鵬鶴子(ほうりょうし) → 定清(さだきよ・服部、俳人) B 2 0 8 2
 邦良親王(ほうりょうしんのう) → 邦良親王(くにながしんのう、後二条天皇皇子) D 1 7 0 4
 G3946 法輪(ほうりん;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、
 1237刊[檜葉集]入、
 [寛喜二(1230)年九月十五日大神宮御遷宮に詣でてよみ侍りける、
 あまてらすかみぢの山のやへさかきたてそめしより色もかはらず](檜葉;神祇517)
 C3973 法霖(ほうりん;法諱、俗姓;雑賀さいが/佐竹忠蔵[休岸]男)1693-1741 49 紀伊関戸の真宗僧;1709得度、
 西本願寺能化の若霖門/近江蒲生郡日野の本願寺派正崇寺継承/1736第4代能化、
 学林に新制を設け学問奨励/毎年講師を務め宗学の体系確立、華嚴宗鳳潭と論争、
 「日溪詠録」「日溪学則」「日溪三書」「日溪独語」「日溪百問答」「日溪私記」「日溪鳥語」著、
 1729「方便法身義」/31「浄土折衝編」「笑螂臂」/36「含華未出辨」40「古数寄屋法語」外著多数、
 [法霖の別法諱/号]初法諱;慧琳/慧霖、号;日溪/松華子、諡号;演暢院
 C3974 鳳林(ほうりん・児島こじま、別号;貞石/百一)1778-1835 58 美濃揖斐郡富秋村の琴製作/琴曲家、
 経詩;祖父の正西門、琴百台製作し百一と号す/上京し書画・琴曲;浦上玉堂門、
 帰郷後は子弟教育、1827「琴譜」著
 鳳林(ほうりん;道号) → 承章(しょうしょう;法諱、鳳林、臨濟僧金閣修復) T 2 2 3 1
 鳳林(ほうりん・蒲生) → 貞固(さだかた・蒲生がもう、藩士/教育者) N 2 0 4 2
 方隣(ほうりん・植田) → 方隣(みちか・植田うえだ、商家/国学者) I 4 1 1 8
 法霖(ほうりん;法諱) → 梅叔(ばいしゆく;道号、臨濟僧) B 3 6 5 0
 法輪(ほうりん;初法諱) → 証道(しょうどう・上人、本願寺派僧/歌) T 2 2 7 6
 芳林(ほうりん・伴林) → 光雄(みつお・伴林ともばやし、国学者/勤王) J 4 1 8 8
 芳隣(ほうりん・近藤) → 眞琴(まこと・近藤こんどう、洋学/海軍) 4 0 8 0
 法林庵(ほうりんあん) → 成美(せいび・夏目、俳人) 2 4 1 2
 芳林庵(ほうりんあん・大口) → 樵翁(しょうおう・大口おおぐち、茶人/香道) H 2 2 3 7
 宝林院(ほうりんいん;法号) → 兼豊(かねとよ・水無瀬みなせ、廷臣/紀行) O 1 5 7 5
 法輪院(ほうりんいん) → 公範(こうはん;法諱、天台僧) K 1 9 9 4
 法輪院僧正(ほうりんいんそうじょう) → 覚猷(かくゆう;法諱、天台画僧) 1 5 0 9
 芳林園(ほうりんえん) → 南軒(なんけん・古市、藩士/儒/医者) J 3 2 9 1
 芳隣舎(ほうりんしゃ) → 鼓岳(こがく・西にし、儒者) F 1 9 4 9
 防林舎(ほうりんしゃ) → 右一(ゆういつ・荒木あらか、藩士/俳人) 4 6 5 6
 C3975 鳳嶺(ほうれい;法諱) 1748 - 1816 69 越前藤島の真宗大谷派僧;超勝寺の生、
 豊前正行寺住職/東本願寺高倉学寮の慧琳門/1794擬講/95嗣講、
 1805肥後光行寺法幢の異義事件で深励宣明らと教誡に当る、没後1821講師追贈、
 1800-05「教行信証報恩記」1802「安心決定鈔記」11「入出二門偈記」、「改悔文」外著多数、
 [鳳嶺の別法諱/諡号]別法諱;頓慧とんえ/頓恵、諡号;皆往院
 鳳嶺(ほうれい・神村) → 忠貞(たださだ・神村/鈴木、故実/国史) P 2 6 4 8
 鳳嶺(放齡ほうれい・石崎) → 融思(ゆうし・石崎/荒木、目利/絵師) C 4 6 1 3
 方嶺(ほうれい・野沢) → 公毅(きみよし・野沢のざわ、神職/教育) U 1 6 9 9
 法豊(ほうれい;法諱・天湫) → 天湫(てんしゅう;道号・法豊、曹洞僧) D 3 0 7 4
 芳烈公(ほうれつこう;諡号) → 光政(みつまさ・池田幸隆、藩主/儒者) E 4 1 8 7
 C3976 芳蓮(ほうれん;号・斎藤さいとう)?- ? 室町中期大坪流馬術家/備前守、
 斎藤伊豆守法連と同一か、1477「大坪流五十首」、「耑稗たんばい」著
 G3920 法蓮(ほうれん;法諱・姓;川崎かわさき)1796-1884 89 筑前糸島郡の浄土真宗本願寺派長楽寺住職、
 国学・神道を研究/復古神道による仏教排斥に抗し仏教保護に尽力、大講義、
 西本願寺学林の皇学助教、「羊狗弁」「皇国大道経緯考」著、
 [法蓮の号]非々道人/西岑舎興世(さいしんしゃこうよ?)
 宝蓮院(ほうれんいん) → 頼仲(らいちゅう;法諱、社僧/歌人) 4 8 8 3
 宝蓮院(ほうれんいん) → 森姫(もりひめ・田安/近衛、宗武室/歌) K 4 4 3 4
 芳隣舎(ほうれんしゃ) → 鼓岳(こがく・西村、詩人) F 1 9 4 9

宝蓮社薫誉香阿(ほうれんしゃくんこうあ)→ 在禪(ざいぜん;法諱、浄土僧/大僧正) G 2 0 8 8
 法蓮社性誉覚阿至道(ほうれんしゃしょうよくあしどう)→ 了碩(りょうせき・板倉/奥、浄土僧/歌) M 4 9 0 2
 宝蓮社善心(ほうれんしゃぜんしん)→ 炭興(きゅうこう;法諱、浄土僧) M 1 6 5 5
 法蓮坊(ほうれんぼう;号) → 信空(しんくう;法諱、浄土僧/歌) D 2 2 8 2
 法蓮房(ほうれんぼう) → 道三(どうさん・斎藤、武将/領主) E 3 1 6 8
 蓬廬(ほうろ、蓬廬舎よもぎのや)→ 忠順(ただまさ・村上、医者/国学/歌) F 2 6 8 6

3958 鳳朗(ほうろう・田川たがわ/永井、永井卯七兵衛[鼎石]男) 1762-1845⁸⁴ 肥後五町の惣庄屋の生、
 熊本藩に出仕;土地開拓に功績;1798致仕、俳人;藩士久武綺石門、致仕後諸国行脚、
 1810上方住/16江戸本所亀沢町に結庵、道彦・成美と交流;江戸俳壇に地歩を築く、
 1817「芭蕉葉ぶね」著;俳壇各派を批判;[真正蕉風]を宣揚、天保の三大家(蒼虬・梅室と)、
 晩年;二条家より[花本翁]の称を受、1820「於保呂物加堂梨」25「蕉門俳諧師説録」編、
 1830「俳諧舎芝集」35「自然堂千句」、41「髭誕生集」編、外編著多数、
 没後「鳳朗発句集」「鳳朗発句集二篇」(西馬さいば編)、
 [稻妻に追はるる瀬戸の夜舟かな](鳳朗発句集)/[からになる無常もありて蝸牛]、
 [鳳朗(;号)の幼名/名/通称/別号]幼名;午三郎、名;義長、通称;敵島源弥(;一時)、
 別号;京陵(;初号)/京陵山人/対竹たいちく/鶯笠、自然堂/藍蓼庵/芭蕉楼/芭蕉林

G3915 峰朗(ほうろう;法諱・稲城いなぎ/本姓;織田、名;峰明) 1827-99⁷³ 尾張春日井郡の僧;浄土真宗?、
 河内丹北郡の光蓮寺の寺主、歌;廷臣高松保実門

方朗(ほうろう・高林) → 方朗(みちあきら・高林たかばやし、神職/歌人) B 4 1 1 1
 鳳楼(ほうろう・阿部) → 正識(まさつね・阿部あべ、藩主/詩人) E 4 0 1 1
 苞楼(ほうろう) → 南溟(なんめい・亀井、儒医/詩人) 3 2 3 7
 芳浪(ほうろう・小原) → 清俊(きよとし・小原おはら、歌人) T 1 6 0 2
 芳滝(ほうろう・歌川) → 芳滝(よしたき・歌川うたがわ/中井、絵師) E 4 7 1 5
 蜂老(ほうろう・中村) → 至斎(しさい・8代中村宗哲、千家塗師) Q 2 1 4 5
 放浪子(ほうろうし) → 夕田(せきでん・千原ちはら、商家/画/書家) D 2 4 7 6
 芒老人(ほうろうじん) → 其残(きざん・山田/岩波、俳人/画) K 1 6 6 8
 豊蘆館(ほうろくかん) → 信礼(のぶひろ・中条ちゅうじょう、幕府高家/国学) D 3 5 1 4
 法六庵(ほうろくあん) → 船積(ふなづみ・田原/俵たわらの、商家/狂歌/戯作) D 3 8 5 5
 茅呂人(ほうろじん) → 吾鼠(五鼠ごそ・伊藤、商家/俳人) D 1 9 1 9
 歩雲子(ほうんし、可休「物見車」序) → 方山(ほうざん・滝、俳人) B 3 9 0 0
 暮雲堂(ほうんどう) → 嵐窓(らんそう・円城寺えんじょうじ、藩軍学師範/俳人) C 4 8 8 7
 保英(ほえい/やすひで・木津/服部) → 土芳(とほう・服部、俳人) 3 1 5 7
 保永(ほえい・賀茂/山本) → 保永(やすひさ・賀茂かも/山本、神職) C 4 5 7 2
 保永(ほえい・高橋) → 保永(やすなが・高橋たかはし、和算家) C 4 5 4 2
 甫益(ほえき・後藤) → 東庵(とうあん・後藤ごとう、漢学/教育者) I 3 1 9 5

C3977 吠若磨(ほえわかまろ) ? - ? 鎌倉期醍醐報恩院の稚児ちご、醍醐寺僧歌を選定:
 1305「続門葉和歌集」共編(;同僚の嘉宝磨かほうまると)

C3978 圃燕(ほえん) ? - ? 俳人;1698「続猿蓑」1句入、
 [おのづから草のしなへを野分のわか哉](続猿蓑;卷下/野分の非情さ)
 保遠(ほえん・平) → 保遠(やすとお・平たいら、廷臣/歌) C 4 5 1 8
 保遠(ほえん・岡本/賀茂) → 保遠(やすとお・賀茂/岡本、廷臣/神職) C 4 5 1 9
 保延(ほえん・賀茂) → 保敬(やすゆき・賀茂/幸徳井、陰陽/暦学者) D 4 5 3 8
 浦園(ほえん・芝原) → 音信(おとずれ・荻廼屋、国学/狂歌/歌) D 1 4 2 6
 蒲園(ほえん・木村) → 豊平(とよひら・木村、医/国学者) R 3 1 5 1
 蒲園(ほえん・山下) → 清臣(きよおみ・山下やました、国学者/歌人) V 1 6 5 3
 暮桜亭(ぼおうてい) → 布舟(ふしゅう・田中、酒造業/俳人) C 3 8 7 1
 穂音(ほおと) → 何声(かせい・風鈴庵、神風館7世/俳人) M 1 5 6 1

C3979 火遠理命(ほおりのみこと、彦火火出見ひこほほみ尊、山幸彦) ?-? 邇々藝命の男
 記紀歌謡:豊玉姫と贈答
 保可(ほか・岡本) → 保可(やすよし・岡本おかもと、神職) D 4 5 5 0

- 保阿(ほか・桜井) → 勝成(かつなり・桜井さくらい、陪臣/歌人) U 1 5 7 3
 秀穎(ほかい/ひでかい・伊庭) → 八郎(はちろう・伊庭いば、幕臣/剣術) F 3 6 0 2
- 3959 乞食者(ほかいびと) ? - ? 万葉十六の長歌2首3885-6(鹿・蟹を詠む)、
 乞食者は家々を巡って寿歌ほぎうたを唱え物乞をする芸能者
- C3980 圃角(ほかく) ? - ? 俳人;1698「続猿蓑」1句入、
 [虫ぼしのその日に似たり蔵びらき](続猿蓑;下/夏の虫干と新年の蔵開の共通の気持)
 甫学(ほかく・久保) → 善教(よしのり・久保くぼ、藩士/詩人) F 4 7 9 2
 莫過詩亭(ほかしてい) → 楽山(らくざん・奥田おくだ、藩士/儒者) B 4 8 1 6
 保雅楽(穂殻/保可良ほから・篠目) → 篠目保雅楽(しのめほから、狂歌) F 2 1 4 0
- F3993 保幹(ほかん) ? - ? 江中期俳人、1714月尋「伊丹発句合」入、
 [雉子の声解くや山居のむすほをれ](伊丹発句合;四季発句)
- C3981 甫寛(ほかん・近藤こんどう、名;雅家) 1766-1848 83 羽後院内の儒者、大山若狭配下の給人、
 郷校尚徳書院の教授、江戸で俳諧:談林7世谷素外門、帰郷後も佐竹百童らと俳諧を嗜む、
 「久保田領郡邑記」著、
 [甫寛(;字)の通称/号]通称;安左衛門/左司馬、号;風興/風興坊魯竹
- 輔幹(ほかん・岡田) → 輔幹(すけもと・岡田おかだ、藩士/儒者/詩) H 2 3 1 3
 輔貫(ほかん・世継) → 輔貫(すけつら・世継よつぎ、歌人) J 2 3 4 5
 暮閑(ほかん・服部慰安斎) → 身愛(ただちか・観世かんぜ、能楽大夫) F 2 6 2 6
 保季(ほき・藤原) → 保季(やすえ・藤原ふじわら、廷臣/歌人) B 4 5 7 0
 保喜(ほき・鷺見) → 安歎(安喜/保喜やすし・鷺見すみ、藩士/歌) D 4 5 5 8
 輔熙(ほき・鷹司) → 輔熙(すけひろ・鷹司/藤原、関白/攘夷論) C 2 3 6 1
 保義(ほぎ・桜井) → 保義(やすよし・桜井さくらい、藩士) D 4 5 5 4
- 3960 保己一(ほきいち・塙はなわ、寅之助、萩野宇兵衛長男) 1746-1821 76 武州児玉郡保木野村の農家、
 母;武洲賀美郡藤木戸村名主斎藤理右衛門女きよ、7歳のとき失明/12歳で母没、
 1760(15歳)江戸で雨富須賀一検校門;音曲・鍼医術修学/16歳で歌学修学;萩原宗固門、
 国学;1769賀茂真淵門;六国史読破、1775(安永4)勾当;雨富検校の本姓の塙に改姓、
 1779群書類従編纂を決意;天満宮に誓願;毎日般若心経百巻読誦、1783(9天明3)検校、
 歌学;日野資枝・閑院宮典仁親王門、1786群書類従の版を開始/1789水戸藩大日本史校正参画、
 1791(寛正3)盲人座中取締役就任;座法改正に当る/92火災により自宅焼失、
 1793(寛正5)和学講談所及び文庫を創設/林大学頭の支配で幕府の援助を受ける、
 1803一座総録職(関八州の盲人を総管)、1819(文政2)群書類従670冊刊行を完了/21総検校、
 続群書類従企画:目録、家集「松山集」、狂歌「和布刈めり」著、「群書類従」編、
 息子忠宝ただとみが続群書類従編纂継承、
 妻;紀伊藩医東条清民女;のち離縁/西文次郎女たせ子と再婚、とせ子・忠宝の父、
 [保己一の号] 千弥/保木野一ほぎのいち、水母子、狂名;早鞆和布刈はやともめり、家号:温古堂
 [おいらんにさう言ひんすよ過ぎんすよ酔なんしたらたゞおきんせん](万載;十一恋上)
 [松の火の木の間に見ゆる箱根山あけゆく峯ぞ猶はるかなる](春嶽[古今百人一首];95)
- 保吉(ほき→やすよし) → 保吉(やすよし・万屋よろづや、俳人) D 4 5 5 6
 保木野一(ほぎのいち) → 保己一(ほきいち・塙はなわ、検校/国学) 3 9 6 0
 保久(ほきゆう・賀茂) → 保久(やすひさ・賀茂/加茂、易学者) C 4 5 7 3
 保久(ほきゆう・木庭) → 保久(やすひさ・木庭きば、神職/敬神党) F 4 5 8 0
 保旧(ほきゆう・木内) → 保旧(やすひさ・木内きうち、神職/国学) C 4 5 7 4
 保救(ほきゆう・賀茂) → 保救(やすひら・賀茂/幸徳井、陰陽家) C 4 5 8 2
 保躬(ほきゆう・長尾) → 保躬(やすみ・長尾ながお、歌人) E 4 5 9 6
 保躬(ほきゆう・下沢) → 保躬(やすみ・下沢しもざわ、藩士/国学/歌) G 4 5 0 0
- C3982 歩牛(ほぎゆう・玉田/本姓;渡辺) 1755-1811 57 江戸の俳人:貞架門、「小夜衣句集」著、
 [歩牛(;号)の通称/別号]通称;久右衛門/文左衛門、別号;花石(;初号)/鵲庵(じやくあん)/月左亭、
 法号;鷺峯院
- C3983 暮牛(ほぎゆう・菅、別号;臨川亭) ? - ? 讃岐琴平の俳人;1772几董「其雪影」入、

[一渡しおくれた人にしぐれ哉](其雪影;卷尾422/日発句集には蕪村作/蕪村の代作?)

保居(ほきよ・玄々堂)	→	保居(やすおき・玄々堂、画家)	B 4 5 0 5
輔教(ほきょう;法諱)	→	祖山(そざん;道号・輔教;法諱、曹洞僧)	J 2 5 7 2
保教(ほきょう/やすり・田中)	→	其成(きせい・菊屋太兵衛、書肆)	B 1 6 3 7
保教(ほきょう/やすり・小尾)	→	鳳山(ほうざん・小尾おび、戸主/文筆家)	B 3 9 1 0
保教(ほきょう・桃井)	→	保教(やすり・桃井もものい、神職/和学)	G 4 5 8 8
保教(ほきょう・渡辺)	→	保教(やすり・渡辺わたなべ、商家/歌人)	C 4 5 6 6
保教(ほきょう・内池)	→	保教(やすり・内池うちいけ、商家/歌人)	F 4 5 4 2
保教(ほきょう・益岡)	→	広海(ひろみ・益岡ますおか、国学者)	K 3 7 9 9
保喬(ほきょう・伊藤)	→	保喬(やすたか・伊藤いとう、和算家)	B 4 5 8 6
輔堯(ほぎょう・鳥山)	→	輔堯(すけたか・鳥山とりやま、漢学者)	C 2 3 3 1

C3984 圃吟(ほぎん) ? - ? 俳人;1698「続猿蓑」1句入、

[片壁かたかべや雪降りかゝるすさ俵だわら](続猿蓑;下/すさは壁土に混ぜる藁切れ)

北(ほく;字・井手)	→	臥溪(がけい・井手いで、書家)	K 1 5 7 7
保具(ほく・鷹見)	→	保具(やすとも・鷹見たかみ、宿場本陣/歌)	C 4 5 3 2
木(ほく;一字名))	→	時慶(ときよし・西洞院/河鱒/平、廷臣/歌人)	3 1 3 8
朴(ほく・村井)	→	見樸(見朴けんぼく・村井、藩士/医者)	E 1 8 4 1
朴(ほく・渡辺)	→	閑哉(かんさい・渡辺わたなべ、名主/農村開発)	S 1 5 9 3
穆(ほく・奥平)	→	小太郎(こたろう・奥平、勤王家)	N 1 9 0 5
穆(ほく・益田/真下)	→	晩菘(ばんすう・真下ましも、幕臣/詩/書)	I 3 6 2 5
穆(ほく・宍戸/兼子)	→	天豊(てんりゅう・兼子かねこ/宍戸、儒者/医)	E 3 0 6 3
穆(ほく・牧)	→	東海(とうかい・牧/橘、儒者/兵学/歌)	B 3 1 9 1
穆(ほく・玉井)	→	養純(ようじゆん・玉井たまゐ、医者/儒者)	B 4 7 2 1
穆(ほく・一瀬)	→	序庵(じよあん・一瀬いちのせ、医者;古医方)	G 2 2 4 4
穆(ほく・藤井)	→	柳所(りゅうしょ・藤井ふじい、藩儒者)	E 4 9 6 0
穆(ほく・曾根)	→	清風(きよかぜ・曾根そね、医者/歌人)	U 1 6 5 5
樸(ほく/すなお・古賀)	→	精里(せいり・古賀こが/劉、幕府儒官)	2 4 1 5
樸(ほく・佐伯)	→	季麓(きわく・佐伯さえき、藩士/儒/詩人)	Q 1 6 6 0
樸(ほく・三谷)	→	笙洲(そうしゅう・三谷みたに、医者)	H 2 5 8 1
牧(ほく・清河)	→	黄山(こうざん・菊池さくち/増田、儒者)	J 1 9 2 1
牧(ほく・香川)	→	午谷(ごこく・香川かがわ、藩士/詩人)	M 1 9 4 5
睦篤(ぼくあつ→ちかあつ・徳川)	→	治興(はるおき・徳川とくがわ、歌)	G 3 6 0 8
朴阿仏(ぼくあぶつ)	→	鹿山(ろくざん、朴阿仏、俳人/詩歌)	5 2 8 5
北庵(ほくあん・三浦)	→	尚之(ひさゆき・三浦みづら、藩侍医/国学)	L 3 7 3 0

C3985 朴安(朴庵ほくあん・佐々城ささき、名;直知、善内男)?-? 江後期1804-44頃陸前中津山村の医者、1814仙台藩の医員/本草家、桃生郡太田村小池山に杉苗1万本を父と植樹し伊達家に献上、天保飢饉に救荒植物を選別し救民、1833「救荒略」「飢饉之節食料にする草木」、1849「避瘟方及瘟疫治方合解」、「救民単方」著、「朴庵叢書」編、[朴安の別通称/号]別通称;新作、号;省斎

C3986 朴庵(ほくあん・佐藤さとう)?-1837 信州善光寺東町の詩人/俳人、「独笑庵選集」、[朴庵(:号)の字/別号]字;如愚、別号;丹嶺/守一/独笑庵

墨庵(ぼくあん;号)	→	大任(だいにん;法諱・墨庵、浄土僧/詩)	K 2 6 8 8
卜庵(ぼくあん)	→	直温(なおあつ・丸山、医者)	3 2 6 7
卜庵(ぼくあん・百々)	→	糾照(ただてる・百々どど、藩士/医者/歌)	Y 2 6 3 8
木庵(ぼくあん→もくあん)	→	木庵(もくあん;道号・性瑠しょうとう、黄檗僧)	4 4 6 4
朴庵(ぼくあん→はくあん;初道号)	→	朴堂(はくどう;道号・祖淳、臨濟僧)	D 3 6 6 9
朴庵(ぼくあん・辛島)	→	古淵(こえん・辛島からしま、藩士/儒者)	L 1 9 7 5
朴庵(ぼくあん・筒井)	→	順一(じゆんいち・筒井つひ、医者)	M 2 1 4 3
朴庵(ぼくあん・井上)	→	経行(つねゆき・井上いのうえ、藩医/歌人)	F 2 9 1 7
朴庵(ぼくあん・井上)	→	子休(しきゅう・井上いのうえ、経行男/藩士/儒者)	Q 2 1 1 2

- 牧庵(ぼくあん/もくあん・伊能)→ 桐雨(とうう・伊能いゆう、俳人) U 3 1 1 2
 牧菴(ぼくあん・半井) → 瑞直(みずなお・半井なからい、医者/歌俳人) J 4 1 9 9
- C3987 **北為**(ほくい・葛飾かつしか/本姓;深尾)?-1893 江戸の絵師:葛飾北斎門/天保1830-以後に活動、
 錦絵・挿画・肉筆画・千代紙下絵、1846「菊のすかたみ」画、「延寿古状揃大成」画、
 [葛飾北為(;号)の別号] 白山人北為
- 北夷(ほくい・本多/本田)→ 利明(としあき・本多、天文/経世家) L 3 1 9 9
 ト一(ほくいち・吉良) → 義央(よしなか・吉良/源、幕臣・赤穂事件) F 4 7 2 3
 ト一山房(ほくいちさんぼう) → 中清(なかきよ・雛田ひなだ、神職/国学/歌) L 3 2 1 6
 支頤亭(ほくいてい) → 范孚(はんぷ・而已舎、俳人) I 3 6 4 6
- C3988 **北因**(ほくいん・小林こばやし、別号;星喜庵)?-? 江末期江戸の俳人:黒駒門、
 1852「諸国名所発句集」55「星喜庵北因評月次三句合」編、「俳諧百人一首集」編
- 3961 **木因**(ほくいん・谷たに、名;可信、谷正次男)1646-1725 80 美濃大垣船町の回船問屋、
 幼児期両親と死別、伯母の後見のもとに成長;1660(15歳)で家業継承、
 俳人:季吟門;1673初入集、のち談林系;1678西鶴「物種集」入、
 1680西鶴「大矢数」興業に列席/芭蕉と交流;
 1684「のざらし紀行」途上の芭蕉を自邸に向かえ桑名まで同道、美濃俳壇長老として活躍、
 1689細道旅を終えた芭蕉を自宅前から水門・揖斐川を下り伊勢に送る、
 1690言水「新撰都曲」3句入・1703轍士「花見車」入/04「かたはし」(支考「国の花」所収)、
 「桜下一日千句」参加、「おきなぐさ」編、俳文「桜下文集」、「木因翁紀行」「連俳秘事抄或問」、
 「谷木因配分」/「木因歳旦」編、[途中からなき出す空やほととぎす](花見車)、
 [木因(:号)の幼名/通称/別号]幼名:伊勢松、通称:九太夫、
 別号:木端/白桜下/観水軒/呂音堂/杭川翁/杭瀬川くわいの翁、法号:木因禅定門
- C3989 **ト胤**(ほくいん・児玉こだま、神主児玉次庸男)1741-1817 77 信州更級郡稲荷山の治田神社神主、
 安永1772-81頃家督継嗣、俳人:白雄門、1804一里山に芭蕉師走塚を建立:「師走塚句集」編、
 狂歌:鹿都部真顔門、「ひなの葉」、「落葉かさね」「言葉のしらべ」「治田永興録」著、
 [ト胤(;号)の名/通称/別号]名:喬明^{たかあき}、通称:弾正/内匠正たくみのしょう、
 別号:巨帆きよはん(;初号)/日々齋にちちさい/真空/一止窓
- ト隠(ほくいん・松田) → 道斎(どうさい・松田、医者/儒) E 3 1 3 9
 木陰(ほくいん・石村) → 諮道(しどう・石村いしむら、僧/歌人) N 2 1 3 5
 墨雨(ほくう・藤村) → 直弘(なおひろ・藤村、書画・俳諧) C 3 2 3 0
- C3990 **北雲**(ほくうん・葛飾かつしか) ? - ? 尾張名古屋の大工/絵師:春好齋北洲・葛飾北斎門、
 狂歌摺物・読本の挿画、1817「新編女水滸伝」25「五人振袖」26「会稽三浦誉」画、「北雲漫画」画、
 [葛飾北雲(;号)の通称/別号]通称:文五郎、別号:東南西北雲/戴賀
- 牧雲(ほくうん;号) → 寿戩(じゅせん;法諱・継天、臨濟僧;五山文学) M 2 1 8 6
 牧雲齋(ほくうんさい) → 貞助(さだすけ・伊勢/平、幕臣/故実家) I 2 0 2 9
 睦雲洞(ほくうんどう) → 信郷(のぶさと・清家せいけ、製造業/歌人) I 3 5 8 1
- C3991 **北英**(ほくえい・春梅齋しゅんばいさい)?-1837 江後期大阪の絵師:春好齋北洲[1804-30頃]門、
 大判役者絵・根本挿画、1834「滑稽高野詣」「敵討浦朝霧」/34「絵本いろは仮名四谷怪談」画、
 1837「敵討義恋柵」画、「江戸錦絵帖」画、
 [春梅齋北英(;号)の別号]春江齋/雪花楼/春江
- 北映(ほくえい) → 岱年(たいねん・花守/早川/森、俳人) K 2 6 9 2
 北栄子(ほくえいし) → 捨魚(すてな・至清堂せいどう、狂歌作者) D 2 3 8 3
 北越山人(ほくえつさんじん) → 三省(さんせい・鈴木、詩人) M 2 0 4 3
 北越塾士(ほくえつちゅうし) → 長嘯(ちやうしょう・北山、俳人) I 2 8 9 6
 北越の凌雲(ほくえつりょううん) → 凌雲(りょううん・関矢せきや、国学者) G 4 9 3 3
 墨園(ほくえん・原田) → 永寛(ながひろ・原田はらだ、神職/医者/詩歌) O 3 2 4 6
 斗円楼北泉(ほくえんろうほくせん) → 戴斗(2世たいと・葛飾、絵師) B 2 6 9 1
 北翁(ほくおう) → 筠庭(いんてい・喜多村、国学/随筆) C 1 1 0
 北翁(ほくおう・佐々木) → 政二(まさじ・佐々木ささき、藩士/俳人) C 4 0 6 4
- C3992 **朴翁**(ほくおう・松撫軒) ? - ? 江前期摂津尼崎の雑俳点者:西鶴門、

1694「俳諧蓮の花笠」編

- C3993 **木蓊**(ぼくおう・井村むら、神風館12世)1749-1814⁶⁶ 伊勢度会郡八日市場の俳、1803「歳旦」編、
[木蓊(；号)の通称]宮内くわい/伝太夫/清太夫
木王(ぼくおう) → 木王(もくおう、堺天神社俳人) I 4 4 7 2
木王(ぼくおう→もくおう・亀田)→綾瀬(りょうらい・亀田かめだ、儒者) 4 9 2 5
木翁(ぼくおう→もくおう・江左)→尚白(しょうはく・江左/塩川、医者/俳人) 2 2 0 3
穆応(ぼくおう;法諱) → 瑞谷(ずいこく;道号・穆応、曹洞僧) E 2 3 5 4
穆翁(ぼくおう;法名) → 治済(はるさだ・一橋、歌人) G 3 6 3 5
木翁(ぼくおう) → 尚白(しょうはく・江左、医/俳人) 2 2 0 3
墨翁(ぼくおう) → 徳馨(とくけい・平栗、庄屋/歌・俳人) K 3 1 6 0
ト翁(ぼくおう・鎌田) → 一窓(いつそう・鎌田かまた、心学者) D 1 1 7 8
ト翁(朴翁ぼくおう・藤野)→ 春淳(しゅんじゅん・藤野ふじの、香道家) K 2 1 9 8
朴翁(ぼくおう・大岡) → 春ト(しゅんぼく・大岡/藤原/狩野、絵師) K 2 1 4 9
朴翁(ぼくおう・安藤) → 定為(さだため・安藤あんど、歌人) I 2 0 4 9
朴翁(ぼくおう・柴田) → 風山(ふうざん・柴田しばた、儒者/書) 3 8 6
朴翁(ぼくおう・高水) → 眞井(まことい・高水たかみず/斎部、神職/歌) Q 4 0 7 3
朴翁(ぼくおう・松岡) → 時義(ときよし・松岡まつおか、藩奉行/国学) W 3 1 4 7
朴翁(ぼくおう・長塩) → 慈庵(じあん・長塩ながしお、奇書収集家) B 2 1 0 2
- G3921 **朴翁室**(ぼくおうしつ・北山きたやま、佐久間一学国善女)1808-71⁶⁴ 信濃松代の歌人、佐久間象山の姉、
- F3969 **ト可**(ぼくか) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」入
墨化(ぼくか;号) → 円祥(えんしょう;法諱、真宗高田派僧) E 1 3 9 9
- C3994 **北雅**(ほくが・葛飾かつしか/本姓;山寺、名;信之)?-? 文化-天保1804-44頃の江戸牛込川田窪の絵師、
富川房信[吟雪]門/のち葛飾北斎門、「狂歌佐々那美」画/「狂歌列仙画像集続編」著
[葛飾北雅(；号)の通称/別号]通称;妙之助、別号;花菱斎かりょうさい
- C3995 **北鷺**(ほくが・葛飾かつしか/本姓;三田)?-? 1859存 信州の絵師:葛飾北斎門、江戸京橋・本所常磐町住、
摺物・武者絵・美人画・読本挿画、1809「おとしはなし」「孝子嫩物語」画、「狂歌古川百首」画、
[葛飾北鷺(；号)の通称/別号]通称;小三郎、別号;抱亭/方亭/卍楼/東一、屋号;虎屋
ト賀(ほくが・柳川) → 忠蔵(ちゅうぞう・柳川やながわ、歌舞伎作者) G 2 8 5 8
墨河(ほくが・山田) → 平三(へいぞう・山田やまだ、歌舞伎作者) 2 7 6 6
墨河(ほくが・鈴木) → 棟上高見(むねあげのたかみ、狂歌) B 4 2 0 2
- C3996 **北涯**(ほくがい・鶴沼うぬま、名;家興)?-? 江中期秋田の儒者/詩人、1764「嚶鳴集」編、
[北涯(；号)の字/通称]字;維馨、通称;助四郎/伊市郎
朴艾(ほくがい;字) → 思淳(しじゅん;法諱・朴艾;字、律宗僧) T 2 1 7 1
- C3997 **北岳**(ほくがく・津島つしま、名;之篤)?-? 江後期越中高岡の文筆家、医者津島竹山の弟、
北溪(1813-62)の叔父、「麻我比考」「雑考」著、
[北岳(；号)の字/通称]字;子信、通称;元桂、
北岳(ほくがく・高内) → 松陰(しょういん・高内たかうち、和漢学/武芸) G 2 2 8 3
北華斎(ほくかさい) → 祇徳(ぎとく・仲、祇貞/初世男、俳人) B 1 6 6 1
輔寛(ほくかん・鳥山) → 芝軒(しばけん・鳥山とりやま、書家/詩人) D 2 1 4 5
- F3987 **北巖**(ほくがん;道号・寅嘯いんしょう;法諱、俗姓;原)?-1662 甲斐の曹洞僧;17歳で定慧門;得度、
参禅;勝光寺の天水門・天応寺の慧照門/武蔵宗関寺の豁州達翁門;嗣法/宗関寺住持、
晩年に雲光寺を開山、「牛頭弘宗伝」編/1642「随翁舜悦大和尚行実」著
- C3998 **北岸**(ほくがん・檜田かした、名;命貞、東巖[玄覚]男/本姓;平)1757-94³⁸ 母;檜田道覚女の千代、
加賀大聖寺藩儒医/折衷学、詩人;弟の大田錦城と共に父門、仏教を研究、瓶花に関心、
明の袁宏道(1568-1610)の詩風に私淑、1785「瓶花菴集付瓶話」/1829「旗山集」著、
「澄碧集」「鹿嶼集」「奥山紀行」「続大東世語」「本草余録」著、
[北岸(；号)の字/通称/別号]字;伯恒/君岷、通称;順格、別号;竹隠/瓶花庵へいかあん/澄碧堂
北岸(ほくがん・南里) → 有隣(ありちか・南里なんり、藩士/国学者) F 1 0 4 2
- C3914 **ト閑**(ぼくかん) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」4句入
[妹と背もおなじ姿の肥ふとり肉じ](前句;福ぶくしくも笑ひ聞ゆる、二葉之松29)

- C3957 **木嶺**(ぼくかん;道号・恵俣えけん;法諱)1664-1744⁸¹ 尾張知多郡大高の臨濟宗長寿寺2世住持
「看大成経辨」/1696「無量寿禅師日用小清規稗説」
- C3999 **朴巖**(ぼくがん・瓦礫舎がれきしゃ)1762?-1825?^{64?} 尾張の社僧;桜天神社別当/靈岳院住職、古瓦蒐集、
1791靈岳院で書画会催、以後名古屋の書画会・古物会盛行、「尾張府瓦礫舎珍藏古瓦譜」著、
没後;瓦礫舎和尚追善書画会(月樵・梅逸の主催)、柳下亭嵐翠の兄、
参考 → 嵐翠(らんすい・柳下亭、茶/翻訳) C 4 8 7 7
- D3900 **樸巖**(ぼくがん・恒川つねかわ、名;濟、織蔵男)1786-1845⁶⁰ 越中富山藩士/儒者;佐伯棠園・大野拙斎門、
書;市河米庵門/のち京の仁科白谷門、富山藩校訓導/教授、「樸巖遺稿」、
[樸巖(;号)の字/通称]字;君揖くんゆう、通称;泰蔵
睦九(ぼくきゅう・久志本) → 常庸(つねのぶ・久志本/度会、神職/歌) D 2 9 0 5
北丘野人(ほくきゅうやじん) → 徳雨(とくう、俳人) K 3 1 4 5
墨狂(ぼくきやう) → 鷗沙(おうしゃ・伊村、俳人/書) 1 4 4 8
- D3901 **卜琴**(ぼくきん・柴垣しばぎ、別号;一下/松風軒)?-? 江前中期山城山崎の俳人:季吟門、画も嗜む、
のち越前福井に移住、1677「玉江草」「越路草」編、「独言」編、1667貞室「玉海集追加」入、
1674安静「如意宝珠」82風黒「高名集」入、1691江水「元禄百人一句」目録入、
[地話ぢばなしもこれこそならぬ阿房銚あほうこ] (玉江草/高名集/阿房銚;祇園会の放下銚、
阿房律儀ゆえ内証話もならぬ)
- D3902 **北敬**(ほくけい・春陽斎しゅんようさい)?-? 江後期大阪の絵師:春好斎北洲門?、1813-30頃活動、
役者絵に長ず、1820「絵本黄金鱸」(;北洲と画)、
[春陽斎北敬(;号)の別号]謹多楼/春陽/山東閣
北溪(ほくけい・荻生) → 北溪(ほくけい・荻生、儒者) E 3 9 5 8
北莖(北莖ほくけい・小寺) → 北莖(ほくけい・小寺、俳人) E 3 9 5 9
北溪(ほくけい・魚屋) → 北溪(ほくけい・魚屋ととや、絵師) E 3 9 6 0
北溪(ほくけい・津島) → 北溪(ほくけい・津島、儒/医者) E 3 9 6 1
北溪(ほくけい・谷) → 真潮(まほ・谷たに/大神、神道/国学) 4 0 2 6
北卿(ほくけい) → 房前(総前ふささき・藤原、廷臣/詩人) 3 8 0 6
牧卿(ほくけい・小島/小嶋) → 濤山(とうざん・小島/小嶋、曆算家) E 3 1 5 9
穆卿(ほくけい・浅井) → 筋軒(せつけん・浅井、藩士/医者/詩文) E 2 4 2 0
穆卿(ほくけい・坂尾) → 清風(せいふう・坂尾/阪尾さかお、藩儒) J 2 4 5 4
墨卿(ほくけい・平栗) → 徳馨(とくけい・平栗、庄屋/歌・俳人) K 3 1 6 0
墨鷄(ほくけい・松林) → 了英(りやうえい;法諱・松林、真宗僧/教育) M 4 9 2 8
北軒(ほくけん・草鹿) → 玄仲(げんちゆう・草鹿くさか、藩士/医者) C 1 8 3 7
- D3903 **北元**(ほくげん・鴨かも) 1776 - 1838⁶³ 江戸の俳人:完来/午心門、国学、諸国行脚、
1816「俳諧恋の栞」、19午心遺稿「玉田集」「玉田後篇」「錦袋集」編、21「玉函集」26「眠虎集」編、
1829「北元句集」34「古学截断字論」36「樞之本月並集」、「紙ついえ」著、「北元遺稿」、
[御車の軋きしみよりたつ霞かな]、
[北元の別号] 馬寧/都喜丸つきまる[月丸]/葎雪庵2世/葎屠蘇/樞之本かしのもと
穆軒(ほくけん・加藤) → 桜老(おうろう・加藤、儒/国学/尊王派) C 1 4 7 3
- D3904 **卜原**(ぼくげん) ? - ? 江前期俳人;1666「阿波千句」百韻入
- D3905 **美言**(ほくげん・寺島/のち西尾、屋号;栴屋)1646-1736^{長寿91} 尾張愛知郡鳴海の本陣栴屋主人、
俳人:1687芭蕉を迎え自亭興行、鳴海六俳仙の1、「鳴海名所抄」著、永参尼(知足の母)の弟
[美言(;号)の名/通称]名;安規、通称;伊右衛門/四郎左衛門、法号;覚海浄円法師、
墨元(ト玄/朴元/樸玄ほくげん・平元) → 梅隣(ばいりん・平元、儒医/歌人) C 3 6 2 6
北固(ほくこ・波多) → 北固(ほくこ・波多、儒者) E 3 9 6 2
北湖(ほくこ・遠山) → 伊清(これきよ・遠山/藤原、歌研究) E 1 9 1 6
北阜(ほくこう・小林) → 北阜(ほくこう・小林、儒者) E 3 9 6 4
北閨(ほくこう・千坂) → 畿(みやこ・千坂ちさか/横山、幕臣/儒者) F 4 1 9 2
墨香(ほくこう・北尾) → 墨香(ほくこう・北尾、書肆) E 3 9 6 6
墨香(ほくこう・能美) → 隆庵(りゅうあん・能美、医者) C 4 9 6 9
墨江(ほくこう・岸/岸桜) → 吟香(ぎんこう・岸田きしだ、新聞/薬業家) S 1 6 5 2

- 穆公(ぼくこう;諡号) → 頼恭(よりたか・松平まつだいら、藩主/詩歌) I 4 7 9 0
北壺游(ぼくこゆう) → 武夷(ぶい・根本ねもと、儒者) 3 8 3 0
- D3906 **卜叡**(ぼくごん) ? - ? 室町期僧/歌人;1474道灌「武州江戸城歌合」参加;3首入、
[み山路やむすばぬ水もおのづからこぼるばかりの袖の松風](江戸歌合;九番左)
- 3962 **北斎**(ぼくさい・葛飾かつしか/姓;川村・中島/本姓;藤原)1760-1849⁹⁰ 江戸本所割下水の川村家の生、
母;吉良家臣小林平八郎の孫娘、幕府御用鏡磨師中島伊勢の養子、浮世絵師;葛飾派の祖、
初め木版彫刻?、画;1778初世勝川春章門、狩野派画;狩野融川門/漢画;3世堤等琳門、
土佐派;住吉広行門/琳派;初世俵屋宗理門/洋風画・銅版画;司馬江漢門、一大家風を形成、
版画の風景・花鳥画/肉筆の美人画・武者絵/挿画・絵手本等々、浅草聖天町遍照院の寓居没、
1780「驪比翼塚めぐりのひよくか」、挿画;1805-38「新編水滸伝」07-11「椿説弓張月」など、
絵本;1814-49「北斎漫画」/1835-6「富岳百景」、錦;「富岳三十六景」/肉筆;「雪中美人図」等、
川柳作者;女郎花連主宰、「誹風柳多留八五篇」序文、句も多数入、
[婚礼を蜆ですます急養子](柳多留;九一)、
[葛飾北斎(;号)の幼名/通称/別号]幼名;時太郎/鉄蔵、通称;八右衛門、
別号;勝川春朗(初世)/群馬亭/俵屋宗理2世/百琳宗理/北斎宗理/可候/辰政ときまさ/画狂人/
雷震/戴斗(1845「画本柳樽」7編以後画号)/為一/不染居北斎/錦袋舎為一/不染居為一/
前北斎為一/画狂老人/九々屋/月癡げっち老人/卍/時太郎可候/鏡裏庵梅年/天狗堂熱鉄/
三浦屋八右衛門、変名;土持仁三郎、法号;南臈院
- D3907 **北斎**(ぼくさい、別号;松隣)? - ? 大阪の俳人;三津人門、1814「木公集」編-16「われとわれ」
北斎(ぼくさい・佐藤) → 晩得(ばんとく・佐藤さとう、藩士/俳人) I 3 6 4 4
北斎(ぼくさい・神原) → 友子(ともゆき・神原かんばら、醸造家/歌人) U 3 1 9 0
- 3963 **卜斎**(ぼくさい・板坂いたさか、宗商[初代卜斎]男)1578-1655⁷⁸ 母;関口常庵女、甲斐の医者;
古田意庵門、さらに古田宗恂・施薬院宗伯門、江戸住;徳川家康・秀忠・紀州侯頼宣に出仕、
晩年浅草に閑居、蔵書公開:[浅草文庫]、
「甲斐身延山記」「紀伊巡見記」「諸薬重宝記」「駿府編年録」外著多数、
[卜斎(;通称)の幼名/別通称]幼名;長太郎、別通称;如春/東赤
- D3908 **木斎**(ぼくさい/もくさい・遊佐ゆさ、名;好生よしなり、清兵衛男)1658-1734⁷⁷ 陸前一迫清水村の農業、
1672(15歳)仙台で経書修学/74藩命で馬場蔵人に従い江戸に出仕/儒;大島半隠[良説]門、
1675上京;米川操軒・中村惕斎・山崎闇斎門、天和1681-84頃仙台藩主伊達綱村に近侍;
仙台藩儒;儒学・垂加神道を講義、藩史編纂に従事;その功績で番頭、他方家塾で子弟教育、
1686「読史筆録」97「神儒問答」1717「洪範全書発微」、「世嗣草」「草津紀行」「塩竈社記」著、
「人倫箴」「八陣機要」「本然気質性講説」「大学俗解」「木斎紀年録」、「木斎先生文集」外多数、
[木斎(;号)の幼名/通称]幼名;次郎助、通称;養順/次郎左衛門/清左衛門、毅斎の養父
[木門の四傑](ぼくものよんけつ):遊佐木斎の四人のすぐれた門弟/仙台藩儒
→ 洞巖(とうがん・佐久間)1653-1736 C 3 1 3 1
→ 玉斎(ぎよくさい・高橋)1686-1763 O 1 6 9 5
→ 悔愆(かいげん・国分)1701-82 C 1 5 6 3
→ 南山(なんざん・菅原すがわら)1702-82 J 3 2 0 3
- 参考 木門の十哲(ぼくものじゅうてつ)→ 順庵(じゅんあん・木下、儒家)2 1 5 4
- D3909 **樸斎**(ぼくさい・打越うちごえ、名;直正)1686-1740⁵⁵ 常陸水戸の儒者;大井友雄・三宅観瀾門、
1699彰考館入/大日本史編纂参加/1727彰考館総裁、「樸斎正義」著、「樸斎遺稿」、
[樸斎(;号)の字/通称]字;子中、通称;弥八郎
- D3910 **牧斎**(ぼくさい・田中たなか/本姓;源/初姓;富永、名;常沢)16867-1752⁸⁶ 肥前大村の儒医;
大阪の田中麗山門/養嗣子、儒学を講ず、1750「医方円機」著、
[牧斎(;号)の字/別号]字;素行、別号;得中堂
- D3912 **睦濟**(ぼくさい・須藤すどう)1732- 1802⁷¹ 伊予今治藩士/剣術家;山田吉寛門;
山田流・中川流試剣術を修得、ト伝流に達し[試剣術山田流別派]を興す;
幕府のお試し御用を務める、
1797「懐宝剣尺」「裏宝剣尺」編、「良工分品」、[睦濟(;名)の通称]五太夫
- D3913 **牧斎**(ぼくさい・上柳うやなぎ/修姓;柳、名;敬基、上柳四明男)1737-92⁵⁶ 京の儒者(家学):父門、経史、

詩を能くす、「上柳牧齋集」、

[牧齋(；号)の字/通称]字；公簡、通称；軫石/改焉

- D3914 **睦齋** (ほくさい・山口やまぐち、名；之謙/俊樹としき) 1784-1859?76 淡路三原郡福良浦の庄屋の家の生、儒；徳島藩洲本学問所の藤江石亭門、大阪で漢学；篠崎小竹・頼山陽門/国学；大江櫻園門、大阪で開塾；聞香舎塾；世間に認められず晩年帰郷、「神国紺珠」「淡路国名所旧跡考」著、「淡路廢帝山棧二所考」「淡路国風俗問状答」「神国紺珠成聞」「聞香舎文集」「観楓八奇」著、1835「淡路国生穂莊古事」47「隋高祖論」49「詠史和歌」著、後藤松陰「松陰詩稿」入、[睦齋(；号)の字/通称/別号]字；君亨、通称；吉十郎、別号；敏樹としき/聞香舎/寧楽園/南浦/南浦釣父/藻川/奈良曾能
- D3915 **朴齋** (ほくさい・松田まつだ、名；久雄/通称；勇之進、藩医松田五峰男) 1779-183052 越後新発田の儒者、儒；七里恭齋・佐藤槃澗門、1814新発田藩教授/22郡・寺社・町奉行兼任；120石、「朴齋詩稿」著、
- D3916 **樸齋** (朴齋ほくさい・門田もんでん、名；惟隣/重隣、山手重武男) 1797-187377 備後安那郡百谷村の儒者、伯父門田政周の養子/菅茶山の後妻の甥、1808菅茶山の廉塾入門/一時茶山の養子；菅蕉と称；塾の都講、離縁/師没後頼山陽門/1827門田に復姓/19福山藩儒、詩人、攘夷論による時務策を建白；藩主阿部正弘の怒りを買う；侍読を解任、のち藩校誠之館文学教官/藩主阿部正方の侍読・文学師範、1865「必読書目」67「朴齋詩抄初編」、「樸齋葦北詩抄」著、「樸齋遺稿」、[樸齋(朴齋；号)の字/通称/別号]字；堯佐、通称；小三郎/正三郎/一時；菅蕉かんしゅうりん、別号；百浚ひゃくかん/緑峯/千々齋
- D3917 **樸齋** (ほくさい・尾島おしま、名；温) ?- ? 江後期伊勢桑名藩士/書に通ず、1844「書則」著
- D3918 **穆齋** (ほくさい；号・八角やすみ、名；良温よしはる) 1802or07-6362or57 陸奥盛岡の医者；南部藩医、国学者・歌人、俳諧・文章・画・筆箒を嗜む/古陶器・茶器鑑定に通ず、書；細字に秀で古今集を扇面に記したと伝える、「明の螢」「岩の水」「筆の花」「塵袋」「老日記」「年々雑記」「穆齋雑話」「穆齋雑纂」著
- D3919 **朴齋** (ほくさい・藍沢あいざわ、名；美中/字；文暢、藍沢南城の養子) 1818-8063 越後刈羽郡中里村の儒者、養父の三余塾を継承/1873小学校令で閉塾/県社三島社祠官、1856「南城三余集抄注」著

牧齋 (ほくさい・奥田)	→ 鶯谷(おうこく・奥田、儒者)	C 1 4 1 0
牧齋 (ほくさい・長山)	→ 茂作彦(もさひこ・三条、絵師/狂歌)	B 4 4 1 9
牧齋 (ほくさい・糸永)	→ 茂昌(しげまさ・糸永いとなが、神職/国学)	N 2 1 4 0
卜齋 (ほくさい・衣笠)	→ 景延(かげのぶ・衣笠きぬがさ、武将/藩士/歌)	U 1 5 5 1
卜齋 (朴齋ほくさい・村崎)	→ 宗肅(むねかみ・村崎むらさき、茶人/歌人)	B 4 2 2 6
朴齋 (ほくさい・狩野)	→ 常信(つねのぶ・狩野かのう、絵師/鑑定/歌)	D 2 9 0 2
朴齋 (ほくさい・河村)	→ 再和坊(さいわぼう・河村、医者/俳人)	B 2 0 1 8
朴齋 (ほくさい・矢部)	→ 致知(むねとも・矢部/近藤、藩士/古文献調査)	B 4 2 9 0
朴齋 (ほくさい・神崎)	→ 小魯(しょうろ・神崎かんだき、儒者/易学)	M 2 2 0 9
朴齋 (ほくさい・勝屋)	→ 積(せき・勝屋しょうや/静間、国学者)	O 2 4 1 9
朴齋 (ほくさい・戸谷)	→ 栄(さかえ・戸谷とや/上野、神職/国学)	O 2 0 8 4
朴齋 (ほくさい・藤田)	→ 天洋(てんよう・藤田、蘭医/詩文)	E 3 0 5 1
樸齋 (ほくさい・小浜)	→ 清渚(せいしよ・小浜おばま、藩儒/詩人)	C 2 4 1 2
樸齋 (ほくさい・大滝)	→ 光憲(みつあきら・大滝/田中、商家/国学)	E 4 1 4 8
睦齋 (ほくさい・穂積)	→ 良平(とよひら・穂積ほずみ、国学者)	O 4 7 9 8
墨齋 (ほくさい・大原)	→ 呑響(どんきょう・大原おおはら、儒/経世家)	S 3 1 1 3
墨齋 (ほくさい・竹原)	→ 惟成(これなり・竹原、藩士/故実家；歌)	O 1 9 6 2
墨齋 (ほくさい・猿橋)	→ 義近(よしちか・猿橋さるはし、書家/狂歌)	E 4 7 5 0
墨齋 (ほくさい・正木)	→ 竜眠(りゅうみん・正木まさき、商/書家)	F 4 9 7 4
墨齋 (ほくさい・堀田)	→ 知之(ともゆき・堀田、酒造業/歌・俳人)	Q 3 1 8 1
墨齋 (ほくさい・里見)	→ 酔経(すいきょう・里見さとみ、儒者)	E 2 3 3 2
穆齋 (ほくさい・頼)	→ 支峯(しほう・頼らい、儒者)	F 2 1 7 0
穆齋 (ほくさい・岡おか・片岡)	→ 芸亭(うんてい・片岡、商家/儒者)	D 1 2 9 7

- 穆齋(ぼくさい・浦上) → 玉堂(ぎょくどう・浦上うらがみ、詩/画/琴) D 1 6 0 7
 穆齋(ぼくさい・高志/高) → 泉溟(せんめい・高志たかし/修姓;高、儒者) G 2 4 6 5
 穆齋(ぼくさい・頼) → 支峯(しほう・頼らい、名;復、漢学者) F 2 1 7 0
- D3920 **墨齋左右**(ぼくさいさゆう・本間ほんま、松江の孫)?-? 大垣藩士、俳人1772-1781「伊賀餞別」編
 北齋坊(ぼくさいぼう) → 喜兵衛(きへい・八尾屋やおや、金沢書肆) L 1 6 8 8
- D3921 **北山**(ほくざん・滝たき、名;正武/字;仲季)1710-1727夭逝18歳 江戸の儒者・入江南溟門?、
 「北山遺稿」(:1728南溟編)
- 3964 **北山**(ほくざん・山本やまもと、名;信有)1752-181261 幕府御家人の富裕な家の生、儒;山崎桃溪門、
 独学で四書五経を修得/井上錦峨の折衷学に共鳴/経学に秀でる/寛政異学の禁に反論;
 五鬼の1、1792秋田藩招請で儒臣;江戸藩邸日知館教授、大窪詩仏・大田錦城・朝川善庵の師、
 1771「神儒実学矩」/75「孝経集覧」編/79「作文志毅じう」83「作詩志毅じう」84「北山詩集」著、
 1803「笑堂福聚」07「孝経楼詩話」、「いては物語」「竹堤園詩話」「北山随筆」「北山漫抄」外多、
 [北山(;号)の字/通称/別号]字;天禧、通称;喜六、
 別号;孝経楼/奚疑堂主人/奚疑塾主人/奚疑翁/学半堂逸士/竹堤隠逸、諡号;述古先生
 [北山の門下の三才] → 大田錦城(きんじょう)・朝川善庵(ぜんあん)・館天籟(てんらい)
- D3922 **北山**(ほくざん;法諱・勸成院)1767-184579 加賀川北郡の真宗大谷派誓人寺住職;/宣明門、
 1804高倉学寮の擬寮司/寮司、深励門下との法論に関与;1825糾明を受ける、
 1839「安楽集侍講記」、「法宗原講録」「螻蟻辯」「改悔文聞記」著、
 [北山(;法諱)の別法諱/号]別法諱;慶縁、号;黙了/勸成院
 北山(ほくざん・心行;行名)→ 心行(しんぎょう・北山、富士講行者) N 2 2 8 9
 北山(ほくざん・芳村) → 恂益(じゆんえき・芳村よしむら、医者) M 2 1 4 7
 北山(ほくざん・斎藤) → 全門(ぜんもん・斎藤さいとう、心学者) N 2 4 1 5
 北山(ほくざん・加治) → 盈亮(えいりょう・加治かじ/平、武道家) D 1 3 4 1
 北山(ほくざん・荒木) → 李谿(りけい・荒木あき、字;儒者/詩/画) 4 9 8 8
 北山(ほくざん・宮北) → 直方(なおかた・宮北みやきた、藩士/漢学) P 3 2 0 0
- D3923 **卜山**(ほくざん・相良さがら、名;長英)?-1729 薩摩鹿兒島の儒者:山口治易門、詩人、
 「菊花百詠」「梅花百詠」著、
 [卜山(;号)の通称/法号]通称;清兵衛、法号;清寒院
- D3924 **卜山**(ほくざん) ? - ? 京の俳人;1683高政亭で三千風らと一座;
 三千風「日本行脚集」入
- D3925 **牧山**(ぼくざん) ? - ? 京の俳人;雑俳、1696円水「誹諧住吉おどり」入
- D3926 **墨山**(ぼくざん・西依にしより/修姓;西、西依長雄男)1726-180075 叔父西依成斎(せいさい)の養嗣子、
 肥後玉名郡の儒者:1747上京し成斎門、若林強斎の家塾望楠軒書院の講主、闇斎学を教授、
 1770若狭小浜藩の招聘で藩校順造館創設参画、「墨山文集」「講学日知録」著、
 1777「中庸師説」77-79「靖献遺言師説」78「詩経集伝師説」、「朱文公行状筆記」外著多数、
 [墨山(;号)の名/字/通称/法号]名;景翼、字;翼夫/翼甫、通称;丹右衛門、法号;伝習院
- D3927 **墨山**(ぼくざん・硯亭けんてい)? - ? 絵師;1806数学遊戯応用「御伽話仇目付絵」著
 喜多川月麿と同一? → 月麿(つきまる・喜多川、絵師) 2 9 5 9
- G3940 **牧山**(ぼくざん・三井みつい高就、7代当主、高祐(たかすけ)男)1786-185772 京油小路二条南の商家/文学者、
 詩歌・書画に精通;文雅人多数と交流、
 1845(弘化2)頼山陽が物集季雲に書き換えた[新居帖]四冊の跋文執筆、
 妻;列、高福(たかよし)の父、1857(安政4)没、
 [牧山(;号)の名/通称/別号]名;高就(たかすけ)、通称;宗六/三郎助、
 別号;桃花庵/宗雲/那辺斎/稜々軒/三十六鱗居士
- D3928 **牧山**(ぼくざん・油井ゆい、名;元雄)1799-186163 陸前仙台藩儒/儒:松井梅屋門、
 1815(17歳)藩校養賢堂指南見習、詩作に専念/1845養賢堂書学教授、角田邑主石川家侍講、
 1845「海獄詩囊」59「和易堂詩」、「海獄吟囊」「牧山詩集」「牧山文集」「油井元雄上書」著、
 [牧山(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;源五郎、字;飛卿、通称;太沖、別号;静斎、大壑の父
- D3929 **墨山**(ぼくざん、別号;北堂墨山)?-? 江後期化政1804-30頃の大坂の絵師;葛飾北斎門、
 挿絵師として活躍:1817「丹州鬼嬖伝」画

- D3930 **牧山**(ぼくざん・佐藤さとう、名;楚材)1801-9191 尾張中島郡山崎村の儒者;鷺津松隠門、名古屋の河村乾堂門/1819江戸に遊学;昌平黌で修学/25駒込で私塾を開く、招聘され尾張藩儒官/藩校明倫館督学、藩校廃止後は名古屋大津町で子弟教育、「木曾紀行」「東海紀行」「律書私記」「老子講義」「牧山楼詩抄」「牧山楼文抄」著、「牧山楼遺稿」、門人に近藤眞琴・石川素堂・川口江東ら
[牧山(;)号)の字/通称/別号]字;晋用、通称;三右衛門/惣右衛門/小十郎、別号;雪斎
法号;称名院
- ト山(ぼくざん;法号) → 光胤(みつね・烏丸、廷臣/歌人) D 4 1 8 2
木山(ぼくざん・宇井) → 可道(よしみち・宇井うい、庄屋/歌/民俗学) L 4 7 7 0
牧山(ぼくざん・城) → 竹窓(ちくそう・城じょう、藩士/儒者) D 2 8 3 8
朴山(ぼくざん・浅井) → 南溟(なんめい・浅井あさい、医者) J 3 2 5 8
朴山(ぼくざん・増田) → 正起(まさおき・増田ますだ、藩士/国学者) S 4 0 5 7
墨山(ぼくざん・山口) → 延年(えんねん・山口/余、篆刻/俳人) C 1 3 1 9
北山隠士(ぼくざんいんし) → 麟趾(りんし・佐藤/松本、儒者) K 4 9 3 9
北山翁(ぼくざんおう) → 正意(まさのり・佐野さの、藩士/国学者) P 4 0 9 1
北山樵客(ぼくざんしゅうきゃく) → 慈円(じえん;法諱、慈鎮、天台僧/歌人) 2 1 0 4
墨山樵者(ぼくざんしゅうしゃ) → 延年(えんねん・山口/余、篆刻/俳人) C 1 3 1 9
- 3965 **北枝**(ほくし・立花たちばな/土井)?-1718 加賀小松の生/金沢で兄牧童と研刀業、俳人;貞門/談林・1689ほそ道途中の芭蕉門;越前松岡まで同行、北陸俳壇の中心、1689「山中問答」/91楚常「卯辰うた集」増補編、95「俳諧八箇条問答」97「喪の名残」、「花月伝」「北枝考」「自作の枝折」「蕉門俳諧贅語抄」「蕉門俳談随門記」「附句秘伝」著、追善集;「けしの花」(覇充編)・「北枝会」(眉山編)、「北枝発句集」(1832北海編)、
[焼けにけりされども花は散りすまし]、
(猿蓑/北枝発句集/1690[元禄3]3月17-8日金沢の大火/すっかり焼けたが花見は出来た)、
[さびしさや一尺消えてゆく螢](卯辰集/北枝発句集)、
[北枝(;)号)の通称/別号]通称;研屋とぎや源四郎、別号;鳥翠台/趙翠台/壽天軒/趙子
法号;廓趙北枝信士
- D3931 **ト枝**(ほくし、別号;遠方)?-? 近江日野の俳人;貞門/のち蕉門、尾張津島の蓮花寺住、1689「あら野」15句入、
[柴舟しばふねの花咲きにけり宵ひの雨](あら野;一/柴を運ぶ舟の中で咲く桜の花)
- D3932 **木枝**(ほくし) ?-? 俳人;1698「続猿蓑」1句入;
[名月や里のにはほひの青手柴](続猿蓑;下)
- D3933 **ト枝**(ほくし) ?-? 俳人;1777江涯「仮日記」2句入;
[石垣のかどにすれあふ柳かな]
- F3989 **木之**(ほくし/もくし・斉藤さいとう、月下堂李橋男)?-? 江後期羽後秋田の商家/俳人;金山の羽長坊門、五明[1731-1803]門/木子の号を受ける、横手五明派を国谷金馬らと拡大に尽力、五明没後は長翠[1750-1813]門、「うしろ髪」「梅の清水」編
[木子(;)号)の別号] 千々巢
- D3934 **木之**(ほくし・落合おちあい) ?-? 江後期陸奥弘前藩士/江戸住、俳人:仙瓢門、「両国薬研堀不動尊奉燈月次句会」編、
[木之(;)号)の通称/別号]通称;鉄五郎、別号;曲直庵
- D3935 **牧之**(ほくし・鈴木すずき、牧水男)1770-184273 越後塩沢の縮仲買商・質商、画;快雲・狩野梅笑門、詩歌/俳諧;父牧水門(父の俳号から牧之と号す)、1788縮を持って江戸に行く;沢田東江門、雪の無い世界を知り雪の越後の著述を計画;京伝・馬琴らと文通、1796伊勢・西国88所行脚、18011苗場山登山/1818「北越雪譜」出版を馬琴らに斡旋依頼するも不実、雪の越後で取材、1828信越国境秋山郷を行脚、1830「北越雪譜」は山東京伝の手に移る;1837初編刊行;評判、多くの名士と交流/家業繁栄し裕福、1788「東遊記行集」96「西遊記行」1811「苗場山遊記」著、1819「北海雪見行脚集」21「永世記録帖」26「夜職草よなべぐさ」29「小説広大寺踊」著、1830「秋月庵発句集」31「秋山記行」、1835-40随筆「北越雪譜」(37初編刊)、「筆かいみ」外著多、母;とよ、妻は6人替える;うち4人は離婚、

[牧之(；号)の通称/別号]通称;弥太郎、別号;秋月庵、法号;金誉志剛性温居士

木子(ぼくし→もくし) → 中孚(ちゅうふ・加藤、久留米俳/詩人) G 2 8 8 1
睦之(ぼくし/むつゆき・賀来) → 飛霞(ひか・賀来かく、医者/本草家) 3 7 4 0
木而(ぼくじ) → 木而(もくじ、久留米浄土僧/俳人) 4 4 8 9
木児(ぼくじ) → 木児(もくじ・伊藤、俳人)
木耳(ぼくじ) → 木耳(もくじ、俳人)
木耳庵(ぼく→もくじあん) → 烏明(うめい・東海坊、俳人) 1 2 9 0
墨指生(ぼくしせい) → 思恭(しきょう・関せき/伊藤、書家/藩士) B 2 1 6 2
北室聖(ぼくしつせい→きたむろのひじり) → 良禪(りょうぜん;法諱・解脱房、真言僧/検校) I 4 9 5 8
北枝堂(ぼくしどう) → 眉山(初世びざん・中山なかやま、俳人) C 3 7 2 5
北枝堂(ぼくしどう) → 年風(としかぜ/ねんふう・梅田、絵師/俳人) M 3 1 1 5
北枝堂(ぼくしどう) → 江波(ごうは・梅田、年風男/絵師/俳人) K 1 9 9 3
墨指堂(ぼくしどう) → 思恭(しきょう・関せき/伊藤、書家/藩士) B 2 1 6 2
北市屋(ぼくしや) → 汀画(ていが・北市屋、俳人) 3 0 4 3

- D3937 **北寿**(ぼくじゅ・葛飾かつしか、名;一政) 1763-? 1824存 江戸両国薬研堀の浮世絵師:葛飾北斎門、1801-24頃活動:江戸名所の風景を遠近法・陰影法で描く、読本挿画、1805「白痴聞集」画、1809「孝子嫩物語」10「其昔矢口仇浪」13「狂歌道中記」17「狂歌玉笹集」、「閑都之可布理」画、[葛飾北寿(；号)の別号] 昇亭北寿/保久寿ぼくじゅ
- D3936 **北樹**(ぼくじゅ・葛飾かつしか) ? - ? 江後期1844-54頃絵師:晩年の葛飾北斎門、「北樹画譜」画
北寿(ぼくじゅ・早見) → 晋我(初世しんが・早見、酒造業/俳人) D 2 2 6 2
北寿(ぼくじゅ・俳名) → 南北(4世なんぼく・鶴屋、歌舞伎作者) 3 2 3 5
- D3938 **北周**(ぼくしゅう・葛飾かつしか、姓;金沢/通称;弥二郎) ?-? 江後期化政1804-30頃の絵師:葛飾北斎門、読本・黄表紙の挿画;1805「鬼武作説話」「返映八重之仇討」「化物世界夜半嵐」画、1805「金沢弥二郎回国奇談」06「躰討他力焼継」09「みになる金」画
- D3939 **北洲**(ぼくしゅう・吉益よします、名;順/正親、医者青沼雄安男) 1786-1857? 京の医者:吉益南涯門、1812南涯女と結婚;三条東洞院西の吉益家を継嗣、門生を教授/のち加賀金沢藩出仕、金沢住、1814「金匱要略精義」、「傷寒論記聞」「傷寒論三綱目」著、「北洲遺稿」、[北洲(；号)の字/通称/別号]字;修夫/信夫、通称;道立/周助、別号;鴨洲おうしゅう
- D3940 **北洲**(ぼくしゅう・春好斎しゅんこうさい) ?-? 江後期化政1804-30頃大阪榎木町の絵師:松好斎半兵衛門、上方大判役者絵;役者絵隆盛を主導/狂歌も嗜む、1802「青楼日記」11「三勝櫛赤根色指」画、1820「絵本黄金鱸」:(北敬と)、「絵本箱根の初花」「浪花詠戯場振芸」「文月恨切子」画、[春好斎北洲(；号)の通称/別号]通称;治兵衛、別号;雪花亭
- D3941 **北秀**(ぼくしゅう・葛飾かつしか、姓;貴島/名;経正) ?-? 江後期1818-44頃の絵師:葛飾北斎門、摺物・版元挿画;1821「東海探語」画、「養生はなし」画、[葛飾北秀(；号)の通称/別号]通称;成一/貴島北秀成一、別号;如柳軒/如柳/戴藻舎
木洲(ぼくしゅう・村上) → 代三郎(たいざぶろう・村上、医者/蘭学) K 2 6 0 1
- D3942 **朴什**(ぼくじゅう) ? - ? 俳人;1689「あら野」入:
[野の宮や年の旦あしたはいかならん](あら野;卷之二/謡曲「野宮」の詞を引く)
墨十庵喚我(ぼくじゅうあんかんが) → 文和(ぶんわ・川上かわかみ、医者/俳人) G 3 8 8 8
北州山人(ぼくしゅうさんじん) → 忠恕(ただひろ・土田つちた、歌人) Y 2 6 3 0
木種舎(ぼくしゅしゃ) → 広彦(ひろひこ・岩田いわた/大江、医者) G 3 7 9 7
- D3943 **卜純**(ぼくじゅん;号) ? - ? 室町後期の連歌作者、宗祇・肖柏・宗長と同時期、1515宗祇13回忌千句連歌の第7発句を詠む、「卜純句集」「卜純連歌」著、肥前の人か?
- D3944 **墨春亭梅麿**(ぼくしゅんていうめまる、姓;小川) ?-? 江後期江戸日本橋数寄屋町の絵師;肉筆画、画;雪麿門、戯作者、狂歌:鹿都部真顔門、神職or町人説、1832「娘曾我振袖日記」、1836「鶯袖花鎗梅」38「花楼閣高峯太鼓」39「手綱染余作春駒」42「天満宮実伝図会」外著多数、[墨春亭梅麿(；号)の通称/別号]通称;平吉/平七、別号;宇米麿/梅園/春廼舎はるのや/梅舎春鳥
- D3945 **北渚**(ぼくしよ・松島まつしま、儒医松島政長男) 1814-44? 信州諏訪の儒者:京の猪飼敬所門、江戸の塩屋宕陰とういん門/医を修得、佐藤柏堂と交流、帰郷し医業/1842昌平黌入学、

- 江戸で客死、「行雲楼文稿抄」「記中井履軒事」著、「行雲楼遺稿」、
 [北渚(；号)の名/字/通称/別号]名；政坦/坦、字；履郷、通称；元磧、別号；行雲楼
- D3946 **北渚**(ほくしょ・櫛田くしだ、名；駿)1815-7258 筑前福岡藩儒/儒；江戸の古賀侗庵門、
 長崎で華音を修学/1841福岡藩学問所指南加勢見習/65藩校修猷館督学/教授、
 「続通鑑綱目辨解」編、「朝鮮聞見録」著、
 [北渚(；号)の字/通称/別号]字；千里、通称；駿平、別号；北渚陳人
 北渚(ほくしょ・堀) → 元厚(げんこう・堀ほり、医者) B 1 8 7 8
 北渚(ほくしょ・橋) → 香(かおる・橋たしばな/山本、儒者) V 1 5 0 3
 北渚(ほくしょ・橋) → 泰樹(やすき・橋/山本、香の甥/里正/歌) G 4 5 2 4
 朴所(ほくしょ；号) → 韶光(あきみつ・勘解由小路かでのこうじ、儒/詩) D 1 0 9 7
 穆如(ほくしょ・ほくにょ・荒木田) → 嗣興(つぐおき・中西/荒木田/幸福、神職/本草) 2 9 6 8
 木昌(ほくしょう) → 木昌(もくしょう、俳人) 4 4 9 5
 墨松(ほくしょう・末永) → 茂世(しげつぐ・末永すえなが、藩士/歌人) Z 2 1 0 0
 墨樵(ほくしょう・岡田) → 南山(なんざん・岡田、儒者) J 3 2 0 8
 牧松軒(ほくしょうけん) → 宗頼(むねより・桑折こおり/くわおり、家老/歌) D 4 2 8 0
 瀧上漁史(ほくじょうりゅうし) → 柳北(りゅうほく・成島なるしま、幕臣/儒者) F 4 9 6 7
 北渚陳人(ほくしよちんじん) → 北渚(ほくしょ・櫛田くしだ、藩儒) D 3 9 4 6
- D3947 **牧心**(ほくしん) ? - ? 連歌；宗牧[?-1545]門、1553「牧心句集」自撰
 木心(ほくしん・加賀) → 兄彦(えひこ・加賀かが/加藤、藩士/神職) U 1 3 0 6
 木人(ほくじん・喜多山) → 永隆(ながたか・喜多山きたやま/吉江、国学/兵学) L 3 2 8 5
 牧心斎(ほくしんさい・狩野) → 安信(やすのぶ・狩野家八世/藤原、絵師) C 4 5 5 4
 朴真斎(ほくしんさい) → 中心(なかご・内藤、国学/歌人) D 3 2 6 3
- D3948 **北水**(ほくすい・朝野あさの) ? - ? 江後期幕臣/天文家；平賀源内門？、江戸隅田川畔住
 1812「天象話説」「天象話説記聞」/13「星図」、「九重天原図」「朝野北水雑録」外著多数、
 [北水(；名)の号] 墨川隠士/叢庵
 北水(ほくすい・葛飾) → 自惚(うぬぼれ・黄山きやま、絵師/戯作) D 1 2 2 2
 北水(北粹/北酔ほくすい) → 芳豊(初世よしとよ・歌川うたがわ、絵師) F 4 7 0 9
 北睡(ほくすい・山田) → 寄斎(きさい・山田やまだ、儒者/詩文) K 1 6 4 7
 北睡(ほくすい・藤木) → 実斎(じつさい・藤木ふじのき、儒者/詩人) U 2 1 7 0
- D3949 **朴水**(ほくすい) ? - ? 近江膳所の神職/俳人；1691「猿蓑」1句入、
 [椎の木をたがへて啼くや蟬の声](猿蓑；六/前書；訪とふに留主るすなり)
- D3950 **牧水**(ほくすい・鈴木すずき、周月庵)1737-180771 越後塩沢の縮仲買・質商/俳人、牧之ぼくしの父、
 1771其心亭曳尾より俳諧伝授を受、「奥羽行脚集」著、「周月庵発句集」(息牧之編；1821刊)
 木水(ほくすい・安田) → 千穎(ちかひ・安田やすだ、国学者/歌人) N 2 8 7 1
 墨水(ほくすい・河合) → 道臣(ひろおみ・河合、家老/殖産/詩歌) F 3 7 6 1
 墨水(ほくすい・黒川) → 真頼(まより・黒川/金子、国学者) K 4 0 1 8
 墨水庵(ほくすいあん) → 忠恒(ただつね・酒井さかい、藩主/茶人) P 2 6 8 8
 墨水翁(ほくすいおう) → 雀庵(じゃくあん・加藤/田中/加田、俳/随筆) G 2 1 0 5
 墨水漁翁(ほくすいぎょおう) → 述斎(じゅっさい・林/松平、幕府儒官) I 2 1 9 4
 墨随斎(ほくすいさい・片山) → 守春(もりはる・片山かたやま、絵師) K 4 4 3 0
 北粹亭(ほくすいせい) → 芳豊(初世よしとよ・歌川うたがわ、絵師) F 4 7 0 9
 北水浪士(ほくすいらうし) → 惟中(いちゅう・松永/岡西、俳人) 1 1 1 9
- D3951 **北嵩**(ほくすう・葛飾かつしか、姓；島しま、名；重宣/光義)?-? 江後期化政1804-30頃の挿絵；葛飾北斎門、
 江戸神田明神下伊勢屋佐兵衛宅に同居、草双紙・読本・狂歌本の挿画/肉筆画、晩年は漢画、
 1808「貞操小笹雪初篇」「長門本忠臣蔵」/09種彦「浅間嶽面影草紙」/10「伊吾物語」著、
 1811一九「串戯二日酔」/11「鱸庖丁青砥切味」/12「逢州執着譚」14「美濃旧衣八丈綺談」外多、
 [葛飾北嵩(；号)の別号] 蘭斎/酔醒斎/閑々楼かんかんろう/柳居/薺亭/東居(；漢画期の号)
- D3952 **北嵩**(ほくすう・小阪こさか、名；実信/斎、郷佐太郎男)1776-185277 美濃武儀郡上有知の儒者/詩人、
 1794小阪家の嗣子、緒芸に通ず；射的・囲碁など、「詩文集」著、三宅樞台の父、
 [北嵩(；号)の字/通称]字；実斎、通称；泰蔵/宗十郎

- 北鄒醉飽人(北鄒醉放人ほくすうすいほうじん)→重政(初世しげまさ・北尾きたお/中村、絵師) 2 1 1 5
 北鄒田夫(ほくすうでんぶ) → 重政(初世しげまさ・北尾きたお/中村、絵師) 2 1 1 5
 朴介(ほくすけ・赤穂屋) → 正晃(まさあきら・若林わかばやし、商家/詩人) T 4 0 7 7
 樸助(ほくすけ・小浜) → 清渚(せいしよ・小浜おばま、藩儒/詩人) C 2 4 1 2
 樸助(ほくすけ・大谷) → 実徳(さねのり・大谷おおたに、勤王過激派) O 2 0 1 3
- D3953 **北政**(ほくせい・葛飾かつしか、別号;雷英)?-? 江後期文化1804-18頃の絵師:葛飾北斎門、
 「狂歌国尽」画
 穆清(ほくせい・石谷) → 穆清(あつきよ・石谷いしがや、幕臣/奉行) G 1 0 6 2
 穆靖先生(ほくせいせんせい) → 誠之(まさゆき・幸田/藤原、幕臣/儒者) I 4 0 2 3
- D3954 **卜尺**(ほくせき・小沢おざわ) ? - 1695 江戸本船町の名主/俳人;北村季吟門/のち芭蕉門、
 1675宗因「談林十百韻」参加、沾涼「綾錦」に芭蕉東下の幹旋者で最初の立寄先とある、
 1680「桃青門弟独吟廿歌仙」入/82千春ちはる「武蔵曲」/83其角「虚栗」/85風瀑「一楼賦」入、
 [花見して狐は小哥こうたならひけり](一楼賦)、
 [卜尺(;号)の通称/別号]通称;太郎兵衛、別号;踞斎きよさい/孤吟
- D3955 **卜尺**(ほくせき) ? - ? 江戸の俳人;1725沾洲「百千万」入(:編纂補助)、
 1726貞佐「代々蚕」入
 木石居(ほくせききよ) → 精一(せいいち・深田ふかだ、儒者/茶道) H 2 4 3 5
 木石居(ほくせききよ) → 草雲(そううん・田崎たさき、藩士/絵師) 2 5 5 9
 北石斎(ほくせきさい) → 逸人(いつじん・加藤かとう、商家/俳人) B 1 1 5 1
 木積屋(ほくせきや→こずみのや) → 清蔭(きよかげ・杉本/池田屋、商家/歌人) O 1 6 6 8
- D3956 **木屑**(ほくせつ) ? - ? 詩人;1672重徳「俳諧塵塚」上巻漢和入:立圃と
- D3957 **木節**(ほくせつ/もくせつ・望月もちつき)?-1711? 近江大津の医者/俳人:幻住庵に芭蕉を訪ねる、
 1687尚白「孤松ひとつまつ」入(隠土木節の名)、1694. 6月自邸に芭蕉を迎え歌仙を巻く、
 1694. 10月医師として大坂の芭蕉を看護;芭蕉は最期まで木節調合の薬を服す、
 1698「糸瓜へちま集」編、1704若宮八幡奉納「奉納集」(貞普・陸之と共編);三吟百韻入、
 猿蓑5句・続猿蓑5句入集、[筏士いかだしの見かへる跡や駕をしの中](猿蓑;一冬)、
 [花咲くもむつかしげなる老木哉](続猿蓑、三宅嘯山「俳諧古選」に句意俱ニ妙とある)、
 [木節(;俳号)の別号]稽翁(;俳号)/是好(;医号)
- 朴節斎(ほくせつさい・矢部) → 致知(むねとも・矢部/近藤、藩士/古文献調査) B 4 2 9 0
- D3958 **北泉**(ほくせん・葛飾かつしか) ? - ? 江後期文政-天保1818-44頃の絵師:2世葛飾戴斗門、
 江戸溜池住/肉筆美人画・錦絵・読本挿画、「戴斗画譜」「小紋雛形」、1826「忠臣山賤伝」画、
 [葛飾北泉(;号)の別号]戴岳/溪斎/雲鶴/卍
- 北泉(ほくせん・斗円楼) → 戴斗(2世たいと・葛飾、絵師) B 2 6 9 1
 北川(ほくせん・堀池) → 久道(ひさみち・堀池、藩士/和算家) B 3 7 9 9
 北川(ほくせん・長谷川) → 弘(ひろむ・長谷川/佐藤、和算家) H 3 7 4 6
 北僊(ほくせん・牧) → 墨僊(墨仙ほくせん・牧まき、藩士/絵師) D 3 9 6 1
- D3959 **北禅**(ほくぜん;道号・禅秀ぜんしゅう;法諱、俗姓;市川) 1605-1678 伊勢長島の臨濟僧:
 1615総見寺塔頭陽岩院繁室門/繁室に従い美濃光国寺住/1620(16歳)剃髪;閩山びんざん門、
 1623美濃の陽南門/1634閩山に嗣法;光国寺住/45本山塔頭実相院住など八刹に歴住、
 尾張大慈寺・美濃大樹寺を建立/1663尾張熱田に自休庵を開く;65隠棲、「碧巖録抄」著、
 歌人;1670下河辺長流[林葉累塵集]34首入、
 [ふじの山をのぼりて、
 天原ふじの高嶺のあやしきは水なき空に鳴沢の水](林葉累塵/1302)
 [北禅禅秀の号]号;幽南、諡号;聖諦廓然禅師
 北禅(ほくぜん;号) → 周鳳(しゅうほう;法諱・瑞溪;道号、臨濟僧) 2 1 4 9
- D3960 **卜仙**(ほくせん;号) ? - ? 俳人;1725沾洲「百千万」入:編補助
- D3961 **墨僊**(墨仙ほくせん・牧まき、名;信盈、通称;新次郎/登/助左衛門) 1775-1824 名古屋藩士;寄合組、
 絵師:歌麿・北斎門、写生;人物鳥獸/銅版画、1801「女学林大全教鑑」06也有「小革籠こかわご」挿画、
 1809「狂画苑」、10「一宵話」編、15「写真学筆」/17「狂歌弄花集」画/21「玉照物語」画;外多数、

[墨僊(墨仙)の別号]北僊/北亭/百齋/月光亭/斗岡楼/慶遊齋/醉墨山人/喜多川歌政
月齋峨眉丸と同一説あり→ 峨眉丸(がびまる・月齋げっさい、絵師) P 1 5 2 1

- D3962 **墨僊**(ぼくせん・沼尻ぬまじり、名;一貞、中村治助男)1775-185682 町医沼尻石牛の養子/土浦の天文家、
天文・地理・和算に長じ家塾時習齋(のち天章堂)を開、1799地球儀・渾天儀を秘密に作成、
1855徳川斉昭に激賞され上方まで好評を博す、「土浦名所往来」1800「地球万国図説」著、
[墨僊(;号)の字/通称/別号]字;公幹、通称;完蔵/常治、
別号;時習齋/天章堂/無適散人/芦間山人/蠖齋、法号;静寿庵墨僊居士
- D3963 **墨僊**(墨僊ぼくせん・山県やまがた、名;慎、城村亘人男/1795山県鶴江かくこう養嗣子)1786-187388 萩藩士、
儒;藩校明倫館で修学/記録方/助講/侍講、書家、「山県墨僊隸書帖」著、紫溟の父、
[墨僊の字/通称/別号]字;貞父、通称;永蔵/慎平、別号;西溟/釣徒
- D3964 **卜仙**(ぼくせん・北川きたがわ) ? - ? 江戸中期江戸築地の狂歌作者;スキヤ連、
1782橋州「若葉集」入/85赤良「徳和歌後万載集」1首入、
[よる波に分け入志度のあまならでとりえてうれしあら玉の年](後万載;一15)、
(謡曲「海人」の玉取伝説;藤原不比等が讃岐志度の海女と契り竜神から珠を奪わせた)
- D3965 **樸仙**(朴仙ぼくせん・宇佐美うさみ、名;常善、良庵男)?-? 江後期天保1830-44頃江戸の医者/儒者、
「好蘇癖言」「水滸伝解説」「蘇家事類分記」「对此君漫録」著、
[樸仙(;号)の字/別号]字;克一、別号;樸々老人/对此君堂(此君は竹の別称)/笙齋けいさい、
卜仙(ぼくせん・大岡) → 元房(もとぶさ・大岡おおおか/杉本、国学/歌) J 4 4 5 1
木仙(木僊ぼくせん・五竹庵) → 駘岳(だいがく・竹下、2世八千坊はちばう、俳人) C 2 6 7 0
木仙(ぼくせん・比喜多) → 松齋(しょうさい・比喜多ひきた、茶人) I 2 2 9 7
墨川(ぼくせん) → 雪麿(ゆきまろ・墨川亭、藩士/絵師/戯作) 4 6 1 1
墨泉(ぼくせん・祝しゆく/岩井) → 玉洲(ぎよくしゆく・岩井、商家/儒者) P 1 6 0 6
朴仙(ぼくせん・多賀) → 如圭(じよけい・多賀/流光齋、絵師) C 2 2 3 6
- D3966 **卜全**(ぼくぜん;号) ? - ? 江中期上州吉井の俳人、
1774「多胡碑集」(;其蝶と共編)
- 墨川隠士(ぼくせんいんし) → 北水(ほくすい・朝野あさの、幕臣/天文家) D 3 9 4 8
北禅書院(ぼくぜんしよいん) → 大典(だいてん;号・梅莊頭常、臨濟僧) B 2 6 9 0
北川齋(ぼくせんさい) → 常雄(つねお・鈴木すずき、国学/歌人) F 2 9 4 0
卜先生(ぼくせんせい・鎌田) → 一窓(いつそう・鎌田かまた、心学者) D 1 1 7 8
墨川亭雪麿(ぼくせんていゆきまろ) → 雪麿(ゆきまろ・墨川亭、戯作、絵師) 4 6 1 1
木僊堂(ぼくせんどう) → 観覚(かんかく・松山/阪巻、天台僧/歌) Q 1 5 0 8
墨撰堂(墨千堂いせんどう) → 麿洞(ばいどう・湯川ゆかわ、儒者) E 1 8 9 3
牧潜道人(ぼくせんどうじん) → 通恕(つうじよ:法諱・惟忠:道号、臨濟僧) 2 9 3 9
- D3967 **北窓**(ほくそう) ? - ? 京の俳人;1690言水「新撰都曲」2句入、
[しのぶ夜や似せても似ざる鉢扣はちたき](新撰都曲;上120/忍んでも虫の真似は難しい)
- D3968 **北莊**(ほくそう・深町ふかまち、名;正信)1802-7069 上州佐波郡境町伊与久の商家;伊勢崎藩御用達、
文学;寺門静軒門/画;金井烏洲門、詩人、1819「随意漫録」26「農余詩稿」29「患疫談」、
1833「北莊詩集」、36「凶荒惻話」「日光紀行」/40「西遊記」44「甲辰集」62「越奥記」外著多数、
[北莊(;号)の字/通称/別号]字;良恭、通称;重右衛門、別号;甘草舎主人
北窓(ほくそう) → 梅好(ばいこう・2世鶴廼屋つるのや、狂歌作者) B 3 6 1 9
- D3969 **墨巢**(ぼくそう・高井たかい、通称;彦兵衛)?-1843 摂津兵庫小物屋町の岡方総代/俳人、
1816「みち草」著
- G3918 **木叟**(ぼくそう・加藤かとう、通称;真蔵/三右衛門)?-1863 近江膳所藩士、歌人;[鴉のうみ]入
木倉(ぼくそう・松崎) → 慊堂(こうどう・松崎まつざき、儒者) 1 9 1 7
北窓庵(ほくそうあん) → 竹阿(ちくあ・初世二六庵、俳人) C 2 8 4 5
北叟翁(ほくそうおう) → 季吟(きぎん・北村きたむら、俳人/古典学) 1 6 0 6
北窓翁(ほくそうおう) → 雄琴(ゆうきん・川田、藩儒/陽明・朱子学) B 4 6 2 6
朴蔵主(ぼくぞうしゅ:称) → 宗樸(そうぼく:法諱・玉質:道号、臨濟僧) I 2 5 9 0
北窓人(ほくそうじん) → 竹阿(ちくあ・小林/二六庵、俳人) C 2 8 4 5
木鼠翁(ぼくそおう) → 忠親(ただちか・上野、藩士/郷土史家) F 2 6 2 7

- 北村庵土鳥(ほくそんあんどちよう)→ 杜鷺(としゅう・北国きたぐに、俳人) O 3 1 0 7
 木邨々子(ほくそんそんし) → 探元(たんげん・木村/平、絵師) T 2 6 4 0
- D3970 **北岱**(ほくたい・葛飾かつしか、姓;森川)?-? 江後期1801-44頃江戸の絵師:葛飾北斎門、
 水道端石切橋前に住/浅草住?、美人画/草双紙・読本挿画、狂歌;琵琶連;「袖玉狂歌集」入、
 1803「忠臣蔵当振舞」04「報親讐小槌本望」06「袖玉狂歌集」08-09「神爰伝」画、
 1808種彦「家満安楽志やまあらし」画、12「皿屋敷」「黄金の駒」「十人揃皿之訳続」画、外多数、
 [葛飾北岱(;号)の別号] 盈斎/辰々子/雷斗2世
- 牧太(ほくたい・津田) → 伝兵衛(でんべゑ・津田、藩校学頭/海防) E 3 0 2 3
 牧太(ほくたい・朝倉) → 震陵(しんりょう・朝倉あさくら、絵師) Q 2 2 1 5
- D3971 **卜宅**(ほくたく・向井[向日]むかい、八太夫) 1654-1745長寿92歳 伊勢久居藩藤堂家家臣、俳人;芭蕉門、
 芭蕉の東下に同伴、1680「桃青門弟独吟廿歌仙」参加、88嵐雪「若水」参加、
 1690其角「花摘」歌仙参加、1694嵐雪「或時集あるときしゅう」入、1732沾涼「綾錦」跋、
 [恥しや柚味噌にこがす筆の軸](或時集)
- 木禊道人(ほくたつどうじん) → 慧鳳(えほう:法諱・翱之・臨濟僧) 1 3 8 4
- 3966 **木端**(ほくたん・栗柯亭りっかてい) 1710-7364 浄土真宗西本願寺派撰津尼崎の善行寺の僧、
 狂歌:油煙斎貞柳門/のち浪花狂歌栗派の祖、師没後貞柳門後継者として遺訓を伝える、
 年忌毎に狂歌会を催;カガミの付く狂歌集を多数刊行、「狂歌栗葉集」著、「狂歌栗置裏」編、
 1736「狂歌眞寸鏡」40「狂歌続眞寸鏡」46「狂歌月の鏡」編/52「絵本家賀御伽」著、
 1758「狂歌かゞみ山」66「狂歌訓」67「狂歌友かゞみ」編/外編著多数、林端・抗子の父
- 木端(ほくたん) → 木因(ぼくいん・谷、俳人) 3 9 6 1
 墨智(ぼくち・嶋) → 通虎(みちとら・嶋しま、藩士/医者/俳人) C 4 1 0 4
 墨癡(ぼくち・林) → 道栄(どうえい・林/官梅、通事/書家) B 3 1 3 5
- F3971 **木竹**(ぼくちく) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」入
- 北筑失明逸人(ほくちくしつめいいつじん) → 宇逸(ういつ・白水、俳人) 1 2 1 3
 朴中(ほくちゅう→はくちゅう;道号) → 朴中(はくちゅう・梵淳;法諱、臨濟僧) D 3 6 5 8
 穆中(ほくちゅう・牧) → 天穆(てんぼく・牧まき、蘭学者/翻訳) E 3 0 3 3
 穆仲(ほくちゅう・河口) → 静斎(せいさい・河口/河、儒者/詩人) B 2 4 5 6
- D3972 **北鳥**(ほくちよう) ? - ? 俳人;1776樗良「月の夜」入;
 [朝顔や露をかぞへる花のうへ](月の夜)
- 北頂(ほくちよう) → 春曙斎(しゅんしよさい・井上いのうえ、絵師) L 2 1 1 1
- D3973 **木長**(ほくちよう・津坂/津阪つさか、名;行簡、五郎右衛門男) 1809-6658 讃岐丸亀藩士、
 俳人;京の梅室門、父を継嗣;馬廻役/使番/大目付/普請奉行;160石、歌/画を嗜む、
 「玉藻日記」「袖濡野日記」著、
 [木長(;号)の字/通称/別号]字;居敬、通称;五郎太夫/勝蔵、別号;清風舎/俳禅堂/葭津堂
- ト兆(ほくちよう) → 瑞南(ずいなん:道号、臨濟僧) D 2 3 6 1
 木鎮(ほくちん) → 木鎮(もくちん、僧/連歌) B 4 4 0 1
- F3990 **北鼎**(ほくてい:号、別号;如連/如蓮)?-? 江後期文政1818-30頃の絵師;北斎or魚屋北溪門?、
 色紙判摺物/焼絵の美人図/肉筆の三美人図など、1823「狂歌萩のしをり」画、
 北昆と同一?
- 北亭(ほくてい) → 嵐外(らんがい・辻つじ/山本、商家/俳人) B 4 8 6 5
 北亭(ほくてい・牧) → 墨僊(墨仙ぼくせん・牧まき、藩士/絵師) D 3 9 6 1
 北亭(ほくてい) → 可侯(かこう・一筆庵、溪斎英泉、絵師/戯作) 1 5 1 3
- F3995 **木貞**(ほくてい) ? - ? 江前期俳人、1687一昌「丁卯ていぼう集」入、
 [鷺の毛もゆるがぬ陰や御山百合](丁卯集;夏日のさかり/朝菌と四季を詠む)
- 墨亭(ほくてい) → 月曆(つきまろ・喜多川、絵師) 2 9 5 9
- D3974 **牧亭駒人**(ほくていこまんど/-こまひと、姓;土屋つちや、名;佳雄) 1761-184989 信州佐久郡牧布施村の生、
 和学・漢学を習得/歌人/狂歌:鹿都部真顔門;高弟、1830二条家より宗匠号を贈与、
 1816「俳諧歌馳出百首」著、
 [牧亭駒人(;号)の通称/別号]通称;三右衛門/忠右衛門、別号;駒人/老駒
- D3975 **牧笛**(ほくてき) ? - ? 俳人;1690北枝「卯辰集」1句入、

[わすれめや胡葱膾あさつきなます浦小鯛うらこだい] (卯辰集; 一70/粟ヶ崎の漁家にて; 加賀石川郡)
法敵外道 (ほくてきげどう) → 重胤 (しげたね・鈴木/穂積/源、国学/歌) 2 1 1 2

- D3976 **北天** (ほくてん; 法諱) 1734 - 180471 越後頸城郡の真宗本願寺派領勝寺住職、
真宗学; 越中氷見の円満寺義教門/1773学林の看護/自坊にても講義、「四十八願講録」、
「帰三宝偈轍迹録」「文類聚鈔報恩録」「入出二門偈助講」/1800「阿弥陀経聞信決」著、
[北天の字/号] 字; 黙照もくしょう、号; 星聚閣、諡号; 金剛院、興隆・僧朗・黙耀らの師
- D3977 **木天** (ほくてん/もくてん・造化庵、通称; 花屋俊助) ?-? 尾張名古屋本町花屋町西南住の俳人:
「虫の音集」(天保年間1830-44刊)
- D3978 **卜伝** (ほくてん・塚原つかはら/本姓; 平、卜部[吉川]覚賢男) 1489?-1571?83? 常陸鹿島の剣術家、
塚原安幹の養子、父祖伝来の鹿島古流(; 実父門)修得・天真正伝香取神道流(; 義父門)修得、
さらに一の太刀修得/鹿島新当流を創始、諸国武者修行; 39度の合戦と19度の真剣勝負;
川越城下の梶原長門との対決は有名、歌; 「卜伝百首」(武辺叢書所収)、
[卜伝(;)号]の名/通称/諱]名; 高幹たかもと、通称; 新右衛門/土佐守/土佐入道、
木殿 (ほくてん・佐久間) → 東川 (とうせん・佐久間、幕臣/書/儒家) G 3 1 1 4
牧田 (ほくてん・宮原) → 牧太 (まきた・宮原みやはら、神職/歌人) T 4 0 0 3
北田中 (ほくてんちゅう; 号) → 超清 (ちようしやう、社僧/連歌) I 2 8 9 1
北斗庵 (ほくとあん) → 了仲 (りやうちゆう・古筆こひつ、鑑定家) I 4 9 9 0
木菟菴 (ほくとあん/みみずくあん・秋来) → 宣治 (のぶはる・堀越、藩士/俳人) C 3 5 8 4
木菟庵 (ほくとあん) → 素輪 (そりん・松井まつい、俳人) E 2 5 5 4
- D3979 **北斗庵一樹** (ほくとあんいちじゆ・松下まつした、通称; 一郎右衛門) ?-? 絵馬屋額輔がくすけの弟、
赤坂和泉屋主人、狂歌作者
北堂 (ほくどう) → ばく (・松田、雑俳/洒本/浄作) C 3 6 4 9
- D3980 **牧童** (ほくどう・立花たちばな、北枝の兄) ?-1716頃? 加賀小松の研刀業/金沢住; 加賀金沢の御用、
俳人; 宗因門/1680「白根草」81「加賀染」入集、のち1689ほそ道旅中の芭蕉に入門、
弟北枝と加賀蕉門の中心、1691「卯辰集」98「続猿蓑」入集、1703「草刈笛」(支考と共編)、
1705「しるしの竿」入集、 [月影や海の音聞く長廊下ながらうか] (続猿蓑; 下)、
[牧童(;)号]の通称/別号]通称; 研屋とぎや彦三郎、別号; 松葉(;)初号)/圃辛亭/帶藤軒
- D3981 **牧童** (ほくどう・素嶺牖それいゆう) ?- ? 江中期江戸の俳人; 湖十門、1755「俳諧百太郎」編
- D3982 **穆堂** (ほくどう・岡本おかもと、名; 茲奘/通称; 繁右衛門) ?-? 江後期伊勢桑名藩士/松平定信の侍臣、
のち藩の郡代、1841「聊敷余事文具武具之部」編/45「感徳録」、「御得替聞見録」著
- D3983 **樸堂** (ほくどう・中内なかうち、名; 惇、津藩士島川宗之男) 1822-8261 伊勢の儒者; 1833齋藤拙堂門、
中内家継嗣、1844伊勢津藩校有造館教師/48(嘉永元)伊賀上野の崇広堂講官; 伊賀に移住、
1870(明治3)津藩有造館督学参謀、1881師拙堂の遺文蒐集「拙堂文集」刊、「樸堂詩鈔」著、
[樸堂(;)号]の字/別号]字; 五惇、別号; 柳山
璞堂 (ほくどう・吉田) → 尚憲 (尚徳ひさのり・吉田、藩士/歌人) B 3 7 8 1
木導 (ほくどう・上松/奈越江) → 木導 (もくどう・上松/奈越江なおえ、俳人) B 4 4 0 4
樸堂 (ほくどう・西村) → 茂樹 (しげき・西村、儒/兵/洋学) C 2 1 1 6
朴堂 (ほくどう → はくどう) → 朴堂 (はくどう; 道号・祖淳そじゆん、臨濟僧) D 3 6 6 9
睦堂 (ほくどう・江沢) → 講修 (ときなが・江沢えざわ/源、国学/歌) J 3 1 6 0
北堂山人 (ほくどうさんじん) → 吉斎 (きっさい・奥山おくやま、儒者・易学) L 1 6 4 3
北堂墨山 (ほくどうぼくざん) → 墨山 (ぼくざん・北堂、絵師) D 3 9 2 9
木菟舎 (ほくとしゃ/みみづくのや) → 赤山 (せきざん・高橋、藩士/柔術/俳人) K 2 4 0 9
木訥叟 (ほくとつそう) → 疎石 (そせき; 法諱・夢窓; 道号、臨濟僧) 2 5 2 4
木兔坊 (ほくとぼう) → 風石 (ふうせき・宮地みやじ、藩士/俳人) 3 8 8 5
- G3924 **穂国** (ほくに・沢田さわだ、旧姓; 千葉) 1828-190275 陸奥一関藩士、国学/歌; 一関藩士佐々木親寛門、
国学・神道; 平田延胤門、維新後; 山目村蘭梅山麓の配志和はいわ神社の宮司/少教正、
[穂国(;)名]の通称/号]通称; 幹之助/純庵、号; 葛屋
北肉山人 (ほくにくさんじん) → 惺齋 (せいさ・藤原、儒者) 2 4 0 3
- D3985 **卜入** (ほくにゅう・梅原うめはら) ? - 1675 江前期江戸の俳人; 半井ト養門、
1671「菊乃え百韻」著、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、

[寒菊や秋なき時の酒あひて](手鑑/

新後拾遺;雑秋785;源本郷直頼;置く霜に残れる庭の白菊を秋なき時の形見とぞ見る)

- 墨如(ぼくにょ) → 家熙(いえひろ・近衛、廷臣/書画) 1 1 5 9
穆如(ぼくにょ) → 常夏(つねなつ・久志本/度会、医/国学) C 2 9 8 7
穆如(ぼくにょ) → 嗣興(つぐおき・中西/荒木田/幸福、神職/本草) 2 9 6 8
穆如(ぼくにょ・内山) → 眞弓(まゆみ・内山うちやま、歌人) 4 0 3 3
穆如齋(ぼくにょさい) → 常夏(つねなつ・久志本/度会、医/国学) C 2 9 8 7
穆如堂(ぼくにょどう) → 直躬(なおみ・前田、藩士/歌人) C 3 2 5 2
北年(ほくねん・一椿齋) → 芳輝(よしてる・一椿齋いっちゃんさい・歌川、絵師) E 4 7 8 1
北念翁(ほくねんおう) → 一蝶(いちちょう・英はなぶさ、絵師) C 1 1 0 8

D3986 **北馬**(ほくば・葛飾かつしか、姓;有坂/本姓;星野)1771-1844? 江戸の御家人/絵師:葛飾北齋門、初め神田住/下谷三筋町に転居/剃髪後下谷二長町住、狂歌本・読本の挿画/美人画、「狂歌風雅集」画/1802「狂歌幕之内」/1803-5「絵本三国妖婦伝」06-07「自来也説話」画、1806「狂歌花の筵」/07「翁丸物語」09-28「星月夜頭晦録」29「奇説著聞集」画、外多数、[葛飾北馬(;号)の名/通称/別号]名;光隆、通称;五郎八、別号;蹄齋ていさい北馬/駿々齋/駿々亭/秋園、源兵衛(2世葛飾北馬)の父

- 北梅戸(ほくばいこ) → 国貞(くにさだ・歌川、絵師) 1 7 2 9
木白(ほくはく) → 苔蘇(たいそ・岡本、俳人) B 2 6 7 9
木百年(ほくひゃくねん) → 百年(ひゃくねん・木ぼく・三枝/木舗、庄屋/詩人) I 3 7 1 2
穆夫(ぼくふ・村田) → 清風(せいふう・村田むらた、藩士/歌人) C 2 4 9 5

F3972 **卜風**(ぼくふう) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」入、[活き足らぬ世を兼好もすねたらん](二葉之松;384)、(徒然草の四十前に死ぬのがよいという説は思うままにならない世をすねたにすぎぬ)

- 北風軒(ほくふうけん) → 長時(ながとき・大塚おつか、藩士/儒/歌) L 3 2 4 4
北風舎(ほくふうしゃ) → 藤長(ふじなが・田口、藩士/絵師/狂歌) C 3 8 5 5

D3987 **北富舎**(ほくふしゃ、名;通達つたつ)?-? 江後期大阪の菱垣廻船業/北安治川住、真言宗に帰依/書:高野山の空居門;大師流書法習得、1824「光明帖」編、[北富舎通達の通称/別号]通称;与左衛門、別号;空観

D3988 **北文**(ほくぶん・中島なかじま) ? - ? 羽前新庄藩士/和算家、1803「新製和暦」著、大島景純の師

- 北平(ほくへい・佐原) → 鞠塙(きくう・佐原/北野、商家/俳人) J 1 6 9 9
牧平(ほくへい/まさへい・森島/永田) → 敏昌(としまさ・永田/森島、和算家) N 3 1 7 2
朴平(ほくへい・守屋) → 惟通(これみち・守屋もりや/石原、蘭医/種痘) R 1 9 4 2
北辺(ほくへん/きたのべ・富士谷) → 成章(なりあきら・富士谷、国学/歌) 3 2 2 7
北辺(ほくへん/きたのべ・富士谷) → 御杖(みつえ・富士谷、成章男、国学/歌) 4 1 2 3

D3989 **卜圃**(ぼくほ・関せき、名;昌房)?- ? 1677以前没 江前期京の俳人:立圃門、1666重徳「独吟集」入、1670「浜荻」編(;のち1672同門の林定親に「誹諧浜荻」がある)、1672戯文「うぐひす蛙ノ花見」著(重徳「俳諧塵塚」所収)、立圃「唐人踊」を編纂中病気(:1677友貞が完成)[卜圃(;号)の通称]利右衛門

- 穆甫(ぼくほ・広瀬) → 台山(たいざん・広瀬、画/詩歌) K 2 6 0 7
朴甫(ぼくほ・井沢) → 榛軒(しんけん・井沢いざわ、蘭軒男/医者) O 2 2 1 5
墨浦(ぼくほ・脇坂) → 義端(ぎたん;法諱、真宗仏光寺派僧/漢学) L 1 6 1 8

D3990 **墨芳**(ぼくほう・羽田はた/今井)1816-58? 信濃善光寺の俳人:宮沢武日門、諸国行脚、江戸忍岡に結庵/一茶の友人豊島由誓門/一茶に私淑;上総下総の足跡踏査中に客死、1844「今を昔集」編、1848嘉永版「一茶発句集」刊/54「一茶翁俳諧文集」編纂に貢献、1855「むすび文」/58「安政五百題」編、「まとまうし」著、[墨芳(;号)の通称/別号]通称;安兵衛/今井彦右衛門、別号;俳禅居/嗽芳庵そうほうあん(;同郷の先輩戸谷猿左の号を襲名)、書肆須原屋鉄二の兄

- 北方(ほくほう) → 之道(しどう・槐本、俳人) F 2 1 2 4
北峯(ほくほう) → 重政(初世しげまさ・北尾、絵師) 2 1 1 5
北峯(ほくほう) → 重政(初世しげまさ・北尾きたお/中村、絵師) 2 1 1 5
北峰(ほくほう) → 智達(ちたつ;法諱・義諦、本願寺派僧) E 2 8 7 0
北峰(ほくほう・山崎) → 美成(よししげ・山崎やまさき、商家/国学者) 4 7 1 2
北峰(ほくほう・島地) → 黙雷(もくらい;法諱・島地/清水、真宗僧) B 4 4 1 2
北鵬(ほくほう・岸) → 岸礼(がくれい;号、絵師) R 1 5 8 6
ト々斎(とくとくさい) → 鈍苦斎(どんくさい、戯作/談義本作者) S 3 1 1 4
樸々老人(ぼくぼくろいじん) → 樸仙(朴仙ほくせん・宇佐美うさみ、医者/儒) D 3 9 6 5
朴民(ほくみん・本多) → 朴民(なねたみ・本多ほんた/水沢、国学者) O 3 2 7 1
- D3991 **北溟**(ほくめい・阿部あべ、名;元秀) 1704-6562 越後村上の儒者;伊藤東涯門/医者:香川修庵門、
帰郷後;医業/1756富山藩侍医;58致仕隠居/詩文、「北溟詩草」著、「北溟先生遺稿」、
[北溟(;号)の通称]右膳、惟和これかず・惟虔の父
- D3992 **北溟**(ほくめい・西郡にしごり、別号;北溟散人/近青庵) ?-? 越後出雲崎の俳人、美濃派の宗匠、
涼袋・乙由の所説を論難、1749雲鈴の33回忌追善集「茶九蓮寺」編、1754「十二題」編、
1757「俳諧伝燈塚」60「雨夜稿」62「続雨夜稿」編/64「俳諧三玉抄」「俳諧三玉抄後篇」編
- D3993 **北溟**(ほくめい・加藤かとう/初姓;中川なかがわ、名;明) 1741-181979 先祖が尾張中川村の出身、
祖父以来武蔵金沢藩米倉家の儒臣、若くして金沢藩世子の傳兼侍読/世子没後に致仕、
江戸で古賀精里と交流/加藤家の養子/書に長ず、越後村松藩主堀直堯に招聘;藩儒/文学、
「北溟詩稿」、「北溟遺稿」、
[北溟(;号)の字/通称/別号]字;文卿、通称;小右衛門、別号;梅園
- D3994 **北溟**(ほくめい・藍沢あいざわ、名;仲明/字;子晋) 1756-9742 越後刈羽郡鯖石村の儒者:寺沢石城門、
のち江戸の片山兼山門、帰郷し講説業、「北溟詩文集」著、南城(儒者)の父
- D3995 **北溟**(ほくめい・沢辺さわべ、名;知統ちたん/知紘、侍医沢辺知信男) 1764-185289 丹後宮津藩儒、
経史:皆川淇園門、1789-1801頃藩主本庄氏の命で儒臣/享和1801-04頃目付・用人、
勝手頭取・城代格/1818宮津藩校礼讓館創設に参画;学頭、藩政にも参画;
1822藩財政窮乏し新税導入;農民蜂起・強訴を招き14年間謹慎/隠居、大田錦城と親交、
「論語鈎纂」「論語集詁」「坤義録」「北溟詩文集」著、
1823「老のくり言夕日の浦あまの捨草」著、
[北溟(;号)の字/通称]字;孟紘、通称;淡右衛門/談右衛門/隆介/隆内りゅうない
- D3996 **北明**(ほくめい・葛飾かつしか/姓;井上/名;政女) ?-? 江後期化政1804-30頃の絵師;葛飾北斎門、
肉筆美人画/読本挿画:1817「染揚桂川水」18「幸物語」「北明漫画」画/24鬼卯「月桂新話」画、
1830「北明画譜」画、「冠北明子画品」画、[葛飾北明(;号)の別号]九々屋/画狂人
- D3997 **北鳴**(ほくめい・葛飾かつしか、別号;卯亭) ?-? 江後期化政1804-30頃の絵師:葛飾北斎門、
肉筆美人画/狂歌本挿画、「狂歌国尽」画
- D3998 **北溟**(ほくめい・佐藤さとう、名;正持/通称;理三郎) 1809-5749 江戸麻布の絵師:春木南湖・谷文晁門、
備中倉敷の住/歴史画を得意/国学を修学し国史に精通、「皇朝画史」著
- D3999 **北溟**(ほくめい・児玉こだま、名;鯉) ?- ?暗殺 幕末期越後中蒲原郡小須戸の詩人:亀田綾瀬門、
医業修得/詩と医により諸国行脚/1868頃帰郷/古書画・名器を愛し販売;裕福になる、
菊池三溪・大沼枕山・小野湖山・成島柳北等交遊関係は広い、上毛に遊び酔つての帰途暗殺、
1865「古愚堂詩」、「古愚堂漫纂」著、
[北溟(;号)の字/通称/別号]字;大魚、通称;安蔵、別号;遂庵
- 北冥(ほくめい・内田) → 内新好(ないしんこう/うち-、俳人/戯作者) 3 2 5 3
北溟(ほくめい・松永) → 長鯉(ちようこん;法諱、儒学/真言僧) I 2 8 3 4
北溟(ほくめい・松本) → 尚綱(なおあや・松本、家老/儒者) 3 2 6 8
北溟(ほくめい・滑川) → 通則(みちのり・滑川なめかわ、藩士/儒者) C 4 1 2 7
北溟(ほくめい・馬島) → 春海(はるみ・馬島まじま、藩士/漢学/歌) K 3 6 7 9
北溟合浦(ほくめいごうほ) → 兎月(とげつ・手塚、読本/俳人) L 3 1 6 4
北溟散人(ほくめいさんじん) → 北溟(ほくめい・西郡にしごり、俳人) D 3 9 9 2
北冥舎(ほくめいしゃ) → 内新好(ないしんこう/うち-、俳人/戯作者) 3 2 5 3

- 北溟釣客(ほくめいちょうきやく)→ 一鳴(いちめい・鈴木すずき、藩士/儒者) G 1 1 4 4
 北門(ほくもん、北門子) → 保(たもつ・渤海ふかみ、商家/能楽) S 2 6 9 2
 木門の五先生(ほくもんのごせんせい)→ 順庵(じゅんあん・木下、儒家) 2 1 5 4
 木門の十哲(ほくもんじゅうてつ)→ 順庵(じゅんあん・木下、儒家) 2 1 5 4
 木門の四傑(ほくもんよんけつ)→ 木斎(ぼくさい・遊佐ゆさ、儒者) D 3 9 0 8
- E3900 **北野**(ほくや) ? - ? 伊勢久居の俳人/大阪住、
 1776几董「続明烏」1句/樗良「誹諧月の夜」1句入・
 [水の月秋の意ふかきながめかな](月の夜;184/秋の意は秋の風情・趣)
 北野(ほくや・富士谷) → 御杖(みつえ・富士谷、成章男、国学/歌) 4 1 2 3
- E3901 **ト也**(ほくや・水島みずしま、名;之成、川崎之信男?) 1607-9791 大坂落城の時豊臣家臣の父が戦死、
 植村土佐守に扶けられる;のち大和高取藩出仕、長じて礼法:齋藤久也門;豊前小倉藩出仕、
 のち小笠原流礼法;上原八左衛門定宣門;極伝を受、江戸で小笠原流水島流を指導;
 門弟多数、故実家として名声を得る、
 「小笠原流礼法」編、「水島記」「水島ト也秘書」「飛鳥井歌書」「胸明集」「女礼集」外著多数、
 [ト也の字/通称] 字;元也、通称;伝左[右]衛門、法号;竜賢院
- F3973 **ト也**(ほくや) ? - ? 江前期下野宇都宮の俳人;1691不角「二葉之松」3句入、
 [生れ出し宇宙よ釈迦と鬼の胞衣ぬ](二葉之松;598/この世は善と悪の同時存在)
 牧野老人(ほくやろうじん) → 養潜(ようせん・羽黒はぐろ/牧野まさの、儒者) B 4 7 3 5
 北雄(ほくゆう・江鏡園) → 雛群(ひなむら・3世弥生庵、茶亭/狂歌) E 3 7 3 1
- E3903 **ト幽**(ほくゆう) ? - ? 越中水橋の俳人;1691北枝「卯辰集」1句入、
 [ひとつ屋やは捨てもせぬ世の茂り哉](卯辰集;188/山中一軒家は浮世から隔てられる)
- E3904 **ト友**(ほくゆう・五大坊ごだいぼう・別号;和光庵)?-? 江後期京の華道家:是心軒一露門、松月堂古流、
 松月堂古流の半月体花型を理論化し発展に尽力、1783「生花稽古日割の伝奇」、
 1785「生花出生伝」「生花独稽古」/87「小篠二葉伝」89「生花小篠乃婦堂葉」99「東向雪月花」、
 1804「燕子花百瓶」「燕子花百瓶図式」、12「生花奥儀抄」著
 ト幽(ほくゆう・中村) → 西国(さいこく・中村、俳人) 2 0 7 6
 ト友(ト幽ほくゆう・人見)→ ト幽軒(ほくゆうけん・人見/小野/野、儒者) E 3 9 0 2
- E3902 **ト幽軒**(ほくゆうけん・人見ひとみ/本姓;小野/修姓;野、名;壺、友徳男) 1599-167072 京の儒者:菅得庵門、
 一時柏原家の養子;復姓、儒学;林羅山門、1628常陸水戸藩に出仕;藩主光圀の信頼を得る、
 書籍の調査・収集/1661致仕、後水尾天皇の命で「宋朝類苑」に訓点、林鷲峰・読耕斎と交流、
 晩年失明状態、「四書童子問」「莊子虜斎けんさい口義棧航」「土佐日記附註」「東見記」「林塘集」、
 「林塘筆記」「春秋備考」「井々堂雑録」「温泉記」「錦繡段詩人考」、1647-70「ト幽軒稿」外著多、
 [ト幽軒(;号)の字/通称/別号]字;道生、通称;ト友、
 別号;ト幽/友軒/林塘[庵]・白賁園はひえん/把茅亭、元徳の兄、養子;懋斎ほうさい
 ト遊斎(ほくゆうさい) → 泰運(たいうん・神馬じんば、儒/医/俳人) J 2 6 1 1
- E3905 **北洋**(ほくよう・葛飾かつしか) ? - ? 江後期大阪の絵師:葛飾北斎門、塩町心斎橋住、
 役者絵・美人画・挿画、1820「復讐美鳥林」-34「富貴の正夢」画、「かねかしまことふれ」著、
 [葛飾北洋(;号)の別号] 丹青堂/千鶴堂/扇鶴堂
 北陽(ほくよう;号) → 良超(りょうちょう;法諱・北陽、修験/和学) M 4 9 4 4
- 3967 **ト養**(ほくよう・半井なからい/和気わけ、宗松ト養、云也ト養男) 1607-7872 母;津田宗及女、
 古仙慶友の孫/堺の医者;1666幕府御番医、1673法眼/78致仕、
 俳人;貞徳門、1633重頼「犬子集」/66重徳「独吟集」;下巻に独吟百韻入、49「岩国下向記」著、
 狂歌:「ト養狂歌集」編/「ト養狂歌集拾遺」、「和薬物語」「酔笑庵之記并風景」著、
 古今夷曲集7首入、
 [西方の浄土へ今日や雪仏](独吟集;親友斎藤三友追善の百韻の発句)、
 [宗松ト養の別通称/号]別通称;玄也、号;慶友けいゆう、牧羊軒/奇雲/古仙、雪嶺/宗松そうしょう
 ☆ト養(ほくよう・半井/和気);牡丹花肖柏男の宗洙が京の和気(通称半井)菊女と婚し、
 堺半井家を興す、以後ト養と号し、医を家業としながら、俳諧を嗜む
 古仙慶友 → 慶友(けいゆう・古仙こせん、宗洙男、俳人) G 1 8 7 2
 云也ト養 → 云也(うんや・半井、慶友男、俳人) B 1 2 6 1

- 牧羊(ぼくよう・細野) → 要斎(ようさい・細野/藤原、藩士/儒/地誌) 4 7 9 8
 牧羊軒(ぼくようけん) → ト養(ぼくよう・半井、宗松、云也男、俳) 3 9 6 7
 ト養軒(ぼくようけん・半井) → 瑞直(みずなお・半井なからい、医者/歌俳) J 4 1 9 9
 ト養軒(ぼくようけん・半井) → 瑞成(よしなり・半井、瑞直男/医者/歌) O 4 7 2 7
 牧羊子(ぼくようし) → 栄重(よしげ・解良けら、国学者) D 4 7 6 7
 牧羊人(ぼくようじん) → 烏酔(ちようすい・白井、俳人) 2 8 2 4
 墨用廬(ぼくようろ) → 市人(いちんど・浅草、狂歌) 1 1 1 8
- E3906 **秀倉**(保具良ほぐら・高橋たかはし/大橋/高梯) ?-1759夭折 江戸の国学者:賀茂真淵門、
 古対の長歌を詠/律令格式に通ず「冠辞考大意」「考課考第図」著、
 本居大平「八十浦の玉」入、
 [あはと見し阿波の小島もかすむなり和田のいづくも春たちぬらん]、
 (八十浦;上14/1758[宝暦8]真淵家宴)
 [秀倉(;名)の通称] 源介/源助
- 北蘭堂(ほくらんどう) → 乗運(じょううん・松井/牧野、仏師/歌) V 2 2 2 3
 北里(ほくり) → 北里(きたさと・多治比部、万葉集中人物) B 1 6 4 4
- F3903 **卜柳**(ほくりゅう) ? - ? 狂歌作者;半井ト養門、大屋裏住の師、1785「後万載集」1首入、
 [やる文の返しもせねば田楽のくしくし胸をこがす我みそ](後万載;585)
 (詞書;寄田楽豆腐恋/串々と胸のくしくし/味噌を焦がすと我が身をこがすを掛る)
- 墨流斎(ぼくりゅうさい) → 宗範(むねのり・森本もりもと、国学/医者) C 4 2 2 1
- E3907 **北流山人**(ほくりゅうさんじん、江北の隠士) ?-? 大阪の俄にか師;
 1756「清神秘録」序/(編も?);(俄の最古の刊本)
- 北流亭(ほくりゅうてい) → 艶士(えんし・横田、壺谷軒、医者/俳人) C 1 3 2 3
 墨流亭(ぼくりゅうてい) → 御楯(みたて・川辺かわべ/古賀、藩士/絵師) I 4 1 7 2
- E3908 **北林**(ほくりん・武元たけもと、名;正恒/恒、正勝男/本姓;明石) 1769-1820⁵² 備前和気郡北方村の庄屋、
 学問:自宅滞在の長尾蘭洲・志村東洲門/閑谷巒入学/1791江戸遊学;95昌平巒の林述斎門、
 1796帰郷;家業を助け藩政に建言巒/1800兄病弱のため家督継嗣;庄屋/13閑谷巒教授、
 藩校授読師/世子侍講/致仕、頼山陽を頼り上京;私塾高林社開塾/1816書肆雲松書屋経営、
 1820帰郷、史学・農政に長ず/菅茶山・井上四明・佐藤一斎と親交、登々庵とあんの弟、
 1798「巖島紀行」/99「四君伝」編、「史鑑」「勸農策」「孝教勸農策」「南畝偶語」「足食論」著、
 「耕魚論」「閑谷学校課業規則」著、「北林遺稿」、
 [北林(;号)の字/通称/別号]字;君立、通称;勇次/与兵衛/立平、別号;高林こうりん
- E3909 **北林**(ほくりん・桑原くわばら/初姓;峰岸、名;灑しゃ) 1790-1844⁵⁵ 武州吉田林きたばやしの農家、
 江戸で書を修学、病のため帰郷/桑原家の養子/1804江戸で程朱学を修学/講説業;町儒、
 詩文を嗜む、1839「鴛鴦錦繡」編、「読余策套」「経義随載」著、
 「北林遺稿」(;号北林は出身地吉田林きたばやしの由来)、
 [北林(;号)の字/通称/別号]字;麗水、通称;嘉蔵、別号;蓼注りようちゅう
- E3910 **北林**(ほくりん・井上いとうえ、通称;源吾) ?-? 江後期松江藩士/鷹匠、1838「鷹相形目利」
- ト鱗(ほくりん) → 宗好(むねよし・間宮まみや、国学者) C 4 2 8 8
 墨林(ごくりん・飯川) → 定文(さだふみ・飯川いかわ、藩士/歌人) N 2 0 8 3
 北林禅尼(ほくりんぜんに) → 阿仏尼(あぶつに、歌人/日記作者) 1 0 2 7
 北林房(ほくりんぼう) → 泉恵(せんえ;法諱・北林房、天台学僧) L 2 4 6 8
 北蓮塘(ほくれんどう) → 尾谷(初世びこく・千足、盤谷門俳人) 3 7 5 4
 北蓮塘(2世ほくれんどう) → 尾谷(2世びこく、俳人) 3 7 5 5
 牧老人(ぼくろうじん) → 安任(やすとう・広沢ひろさわ、藩士/牧畜) C 4 5 2 0
- E3911 **蒲溪**(ほけい・小林こばやし/本姓;源、名;祚胤/是則、井上方敬男) 1775-1831⁵⁷ 近江蒲生郡の医者;
 寛政1789-1801頃京の小林順堂門/養嗣子、1819朝廷医員/従六上薩摩介、1822天皇を診察、
 1826正六下、「淵々斎夜話」「淵々斎方函」著、
 [蒲溪(;号)の字/別号]字;万年、別号;履端
- 保卿(ほけい・松平) → 乗佑(のりすけ・松平まつだいら、藩主/俳諧) E 3 5 7 4
 保卿(ほけい・加藤) → 米山(べいざん・加藤、藩士/儒者/教育) 2 7 4 4

- 保惠(ほけい・矢部) → 勝谷(とうこく・矢部やべ、儒者/幕府同心) E 3 1 1 2
 保敬(ほけい・賀茂) → 保敬(やすゆき・賀茂/幸徳井、陰陽/暦学者) D 4 5 3 8
 保敬(ほけい・長沢) → 棗庵(そうあん・長沢、医者/里正/救荒) F 2 5 9 4
 保敬(ほけい・坂上/小泉) → 保敬(やすたか・小泉/坂上、国学者) B 4 5 8 4
 保敬(ほけい・大江/並河) → 保敬(やすたか・小泉/坂上、国学者) B 4 5 8 4
 保慶(ほけい・仁科) → 保謙(やすかね・仁科にしな、庄屋/歌人) B 4 5 2 0
 輔卿(ほけい・川本) → 衡山(こうざん・川本かわもと、同心/詩人) J 1 9 3 6
 輔卿(ほけい・根岸) → 友山(ゆうざん・根岸、農業/儒者/武術) C 4 6 0 2
 輔景(ほけい・長尾) → 輔景(すけかげ・長尾ながお、平、武家/連歌) G 2 3 1 5
 慕景楼(ほけいろう) → 持資(もちすけ・太田、道灌/武将/歌人) 4 4 0 7
 保潔(ほけつ・中村) → 史邦(ふみくに・中村なかむら、医者/俳人) D 3 8 8 5
- E3912 歩月(ほげつ) ? - ? 江中期江戸の俳人:3世湖十門、
 1774「俳諧伝」編、「俳諧十七ヶ条抜書秘伝書」編、
 [歩月(;)号)の別号] 千載庵/師古庵
- F3999 蒲劔(ほけん:法諱/釈) ? - ? 江前期河内禁野さんやの僧/俳人、
 1676西鶴「古今俳諧師手鑑」/78西鶴「物種集」入、
 [闇に出る鼻や月の鼠取り](手鑑/仏説;日月を黒白二鼠に喩える)、
 [秀郷ひでとが取りて帰りし懸かけなれば](物種集、前句;久しうになる三井寺の鐘、
 三井寺の鐘は俵藤太秀郷が竜宮から持帰ったという/鐘を銀に付け売掛代金)
- 甫謙(ほけん・桂川) → 国訓(くにとき/くにのり・桂川/3世、蘭医) B 1 7 5 7
 甫謙(ほけん・桂川) → 甫周(ほしゅう・桂川かつらがわ/4世、蘭医) E 3 9 2 2
 甫賢(ほけん・桂川) 国寧(くにやす・桂川/6世、蘭医) D 1 7 3 1
 蒲軒(ほけん:号) → 勝剛(しょうごう:道号・長柔:法諱、臨濟僧) I 2 2 7 9
 保憲(ほけん・賀茂) → 保憲(やすのり・賀茂かも、廷臣/陰陽家) 4 5 2 7
 保堅(ほけん/やすかた?・住田) → 素鏡(そきょう・住田すみだ、農業/俳人) D 2 5 4 9
 保謙(ほけん・仁科) → 保謙(やすかね・仁科にしな、庄屋/歌人) B 4 5 2 0
 保権(ほけん・島地) → 保定(やすさだ・島地しまじ、藩士/歌人) F 4 5 9 9
 保源(ほげん・賀茂) → 保源(やすもと・賀茂/幸徳井、陰陽・暦学者) D 4 5 2 9
 甫元(ほげん・若村) → 貞彙(さだしげ・若村わかむら/小林、神職/歌) P 2 0 8 2
 保固(ほこ→やすもと・松本) → 勝雄(かつお・古瀬、狂歌) C 1 5 4 1
 保固(ほこ・根岸) → 涼宇(りょうう・根岸ねざし、商家/俳人) G 4 9 2 8
 保固(ほこ・長沢) → 保固(やすかた・長沢ながさわ、国学者) G 4 5 3 6
- G3912 保倍(ほご・ほうご・田中たなか) ? - ? 江後期;歌人、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [神無月雲は晴れても吹く風に音はしぐるる岡の笹原](大江戸倭歌;冬1072/岡時雨)
 [こよろぎの磯の松原汐ひても梢に波の音ぞ残れる](同;雑1774、
 小余綾[こゆるぎとも]の磯;相模大磯付近の浜;歌枕)
- 古庵(ほごあん・藤村) → 庸軒(ようけん・藤村/久田、商家/茶人) 4 7 7 3
 反古庵(ほごあん・ほうごあん) → 天来(てんらい・牧岡、俳人) E 3 0 5 3
- E3913 保高(ほこう;名・松野まつ、字;子山) ?-? 江初期京の儒者:林羅山門、「透関論」
- 3944 葆光(ほこう・徐じよ) ? - 1723 清国の廷臣/1719琉球への清国冊封使、
 詩;「奉使琉球詩」著、1720「贈言」著(順則「中山詩文集」所収)
- E3914 葆光(ほこう・大武おたけ、名;忠吾、儀右衛門男) 1738-1801⁶⁴ 越後中蒲原郡白根の儒者;
 新発田藩が家臣の子弟を京に留学させた時の1人、芥川丹邱門/詩人、江戸住/大水で帰郷、
 水原で講説業、市島岱山と親交、「葆光文集」「文房綺談」「詩学準繩」「学海通鑑」外著多数、
 [葆光(;)号)の字/別号]字;元朗、別号;東閣/東郭
- E3915 甫紅(ほこう・浅井あさい、屋号;仕足屋) 1756-1821⁶⁶ 越前府中の俳人:美濃派5世(五中の跡を継嗣)、
 1797「鶉の巢立」/1812「墨なほし」編/16「ゆめの葉桜」21「味間野」著、
 [甫紅(;)号)の通称/別号]通称;権兵衛、別号;鶯亭
 権兵衛(ほこう・仕足屋) → 甫紅(ほこう・浅井あさい、俳人) E 3 9 1 5

保光(ほこう・源) → 保光(やすみつ/やすてる・源、中納言/歌人) D 4 5 1 0
 保光(ほこう・柳原) → 保光(やすみつ・土御門/藤原/柳原、廷臣) D 4 5 1 4
 保光(ほこう・柳沢) → 保光(やすみつ・柳沢/源、藩主/諸芸) D 4 5 1 6
 保光(ほこう・市村) → 保光(やすみつ・市村いちむら、商家/国学) F 4 5 3 0
 保孝(ほこう・落合) → 重郷(しげさと・落合、剣術家/郷土史家) C 2 1 2 1
 保孝(ほこう・岡本) → 況斎(きょうさい・岡本、儒/国学者) I 1 6 7 9
 保孝(ほこう・井口) → 菊二(きくじ・井口、俳人) K 1 6 0 8
 保孝(ほこう・原田) → 保孝(やすたか・原田はらだ、和算家) B 4 5 8 8
 保考(ほこう・賀茂) → 保考(やすたか・賀茂/岡本、神職/書家) B 4 5 8 5
 保考(ほこう・内池) → 保考(やすとし・内池うちいけ、商家/歌人) F 4 5 4 1
 保行(ほこう・藤木/賀茂) → 保行(やすつら・藤木ふじき/賀茂、神職) C 4 5 1 2
 保行(ほこう・賀茂) → 保行(やすつら・賀茂/幸徳井、廷臣/陰陽家) C 4 5 1 3
 保行(ほこう・服部) → 保行(やすゆき・服部はっとり、菓子商/歌人) G 4 5 4 3
 保行(ほこう・内池) → 保行(やすゆき・内池うちいけ、商家/歌人) F 4 5 4 3
 保好(ほこう・近藤) → 保好(やすよし・近藤こんどう/藤原、幕臣/歌) E 4 5 8 4
 保高(ほこう・青木) → 保高(やすたか・青木あおき、商家/歌人) F 4 5 1 2
 保焯(ほこう・坂東/豊岡) → 荔墩(れいとん・豊岡とよおか/坂東、庄屋/儒) 5 1 5 6
 保綱(ほこう・林) → 保綱(やすつな・林はやし、酒造業/歌人) G 4 5 4 5
 保壽(ほこう・賀茂) → 保壽(やすあきら・賀茂/幸徳井、陰陽暦学) 4 5 8 7
 保興(ほこう・彦坂/北) → 保興(やすおき・北きた、幕臣/歌) B 4 5 0 6
 保興(ほこう・岡本) → 保興(やすおき・岡本おかもと、神職) F 4 5 5 6
 保興(ほこう・太田) → 保興(やすおき・太田おた/源、教育/歌人) F 4 5 5 4
 葆光(ほこう・三田) → 葆光(かねみつ・三田さんだ、幕臣/歌人) O 1 5 9 8
 葆光(ほこう・松波) → 葆光(やすみつ・松波まつなみ、官人) D 4 5 1 7
 葆光(ほこう・日尾) → 荊山(けいざん・日尾ひお、儒者/詩人) 1 8 0 5
 葆光(ほこう・重野) → 櫟軒(れいきげん・重野しげの、漢学者) 5 1 7 4
 葆光(ほこう・字) → 廓英(かくえい/法諱; 春山、僧/歌人) U 1 5 2 1
 葆光(ほこう・児玉) → 美穂(よしほ・児玉こだま、国学者) M 4 7 8 6
 葆光(ほこう・山村) → 葆光(やすみつ・山村やまむら、国学者) G 4 5 9 7
 鋪綱(ほこう・朽木くつき) → 鋪綱(のぶつな・朽木くつき、藩主/教育) C 3 5 1 1
 圃公(ほこう・中村) → 岩州(がんしゅう・中村なかむら、儒者) Q 1 5 9 8
 輔弘(ほこう・大中臣) → 輔弘(すけひろ・大中臣おおなかとみ、神職/歌) C 2 3 9 4
 蒲公英主(ほこうえいしゅ) → 滄洲(そうしゅう・津野つの、商家/詩歌人) B 2 5 8 5
 葆光園(ほこうえん) → 白崑(はくがん・稲垣いながき、藩士/儒者) C 3 6 8 8
 慕香園(ほこうえん) → 經亮(つねあきら・橋本/橋、神職/故実/歌) B 2 9 5 9
 葆光斎(ほこうさい) → 天府(てんぷ・葆光斎、松平、藩主/俳) E 3 0 1 7
 葆光斎(ほこうさい) → 宗先(そうせん・蜂谷はちや、香道家) I 2 5 2 6
 葆光斎(ほこうさい) → 三良(さんりょう・佐渡さど、医者/詩人) M 2 0 8 5
 保合斎(ほこうさい; 法号) → 連弘(つらひろ・長ちよう/本多、藩士/経済改革) E 2 9 4 7
 葆光室(ほこうしつ) → 音竺(おんじく; 法諱・晴蔭; 道号、臨濟僧) D 1 4 4 5
 保国(ほこく・橋) → 保国(やすくに・橋たちばな、絵師) B 4 5 3 3
 保国院(ほこくいん; 法号) → 継政(つぐまさ・池田いけだ、藩主/歌人) 2 9 8 5
 反古山人(ほごさんじん) → 鉄石(てつせき・藤本、勤王/天誅組) C 3 0 5 1
 銚杉廼屋(ほごすぎのや) → 光門(みつかど・矢内やない、国学者) K 4 1 8 5
 反古長者(ほごちようじゃ) → 呉逸(ごいつ・津田/四極田、俳人) 1 9 5 9
 歩斎(ほさい・平松) → 周家(ちかいえ・平松ひらまつ/大中臣/川端、神職) N 2 8 3 6
 甫斎(ほさい・桂川/森島) → 中良(ちゅうりょう・森島・竹杖為軽、蘭学/戯作) 2 8 1 9
 葆斎(ほさい) → 三良(さんりょう・佐渡さど、医者/詩人) M 2 0 8 5
 晡斎(ほさい) → 晡扇(ほせん/晡川ほせん、俳人) E 3 9 3 8
 秀富(ほさき・三輪) → 秀富(ひでとみ/ほさき・三輪、藩士/歌人) D 3 7 3 6

- 甫策(ほさく・桂川) → 国幹(くにもと・桂川/8世、蘭学;化学) D 1 7 2 7
 菩薩尼(ほさに) → 蓮月(れんげつ;法名、大田垣、歌人) B 5 1 0 4
 補三郎(ほさぶろう・土屋) → 老平(としひら・土屋つちや/武居、歌/史家) V 3 1 7 7
 輔佐丸(ほさまる・檜垣) → 貞董(さだのぶ・檜垣/度会/松本、神職) J 2 0 2 0
 E3916 甫三(甫参ぼさん・森田もりた、名;立)1767-1828⁶² 越後蒲原郡加茂の医者:幕医岡甫庵門、
 「楽山堂詩集草会」著、千庵(徳盛のりもり/蘭方医)の父、
 [甫三(;通称)の字/号]字;君柔、号;静斎/楽山堂
 甫三(ほさん・桂川) → 国華(くにてる・桂川/2世、幕府医師) C 1 7 9 3
 甫三(ほさん・桂川) → 国訓(くにとき/くにのり・桂川/3世、蘭医) B 1 7 5 7
 甫繁(ほさん・桂川/森島) → 中良(ちゅうりょう・森島、蘭学/戯作) 2 8 1 9
 補三(ほさん・すけぞう?・森) → 尚員(ひさかず・森もり、国学者) M 3 7 0 7
 E3917 甫山(ほざん・保井やすい、一知男)?-? 河内久宝寺の俳人:1720「花庚子」編
 歩山(ほざん・大黒) → 泰然(たいぜん・大黒おおくろ、医者/歌・俳) W 2 6 1 2
 蒲山(ほざん・縄/三縄) → 桂林(けいりん・三縄みなわ/縄じょう、儒/詩) E 1 8 9 4
 保山(ほざん・柳沢) → 吉保(よしやす・柳沢/源/松平、藩主/歌) H 4 7 7 5
 E3918 暮山(ほざん) ?-? 近江俳人;1691江水「柏原集」巻末に三吟漢和入;江水・洞哉と
 暮山(ほざん・本多) → 忠斎(ただひろ・本多ほんだ、藩主) Q 2 6 7 1
 歩山庵(ほざんあん) → 天姥(てんぼ・宮本みやもと、農業/俳人) E 3 0 2 5
 暮山老人(ほざんろうじん) → 太白(たいはく・眞玄、臨濟僧/詩文) K 2 6 9 6
 保之(ほし・奥村) → 保之(やすゆき・奥村おくむら、藩士/文筆家) D 4 5 3 7
 保之(ほし・木間) → 保之(やすゆき・木間このま/きま/藤原/源、歌) D 4 5 4 2
 保之(ほし・森川) → 保之(やすゆき・森川もりかわ、絵師) D 4 5 4 3
 甫子(ほし・押小路) → 甫子(なみこ・押小路、天皇乳母/日記) G 3 2 9 0
 輔之(ほし→すけゆき) → 輔之(すけゆき・船山ふなやま、藩士/和算家) D 2 3 5 3
 輔之(ほし→すけゆき) → 輔之(すけゆき・丹羽にわ、藩士/国学者) I 2 3 6 8
 保治(ほし・永瀬) → 保治(やすはる・永瀬ながせ、藩士/神職) G 4 5 3 5
 保時(ほし・古島) → 保時(やすとき・古島ふるしま、国学者) G 4 5 5 4
 輔時(ほし・紀) → 輔時(すけとき・紀き、廷臣/歌人) C 2 3 5 2
 E3919 暮四(ほし・石井いし、初号;亀林/別号;石壽庵/五橋翁)1666-1734⁶⁹ 京の俳人:和及/のち鞭石門、
 「夏をはな」「誹道伝意」「誹原義要抄」著、「春秋続二百韻」編、1696「俳諧高天鷲」入、
 1714湖十「二のきれ」其角追悼句入、1729隆志「俳諧草結」点句入
 甫識(ほしき・遠藤) → 初斎(じんさい・遠藤えんどう、儒者/詩文) O 2 2 5 5
 保七(ほしち/やすしち・桂/樋口) → 東里(とうり・樋口ひぐち、医/儒者) I 3 1 0 9
 保実(ほじつ→やすざね・藤原) → 友実(ともざね・藤原ふじわら、廷臣/詩人) P 3 1 5 2
 保実(ほじつ・高松) → 保実(やすざね・高松/藤原、廷臣/外交) B 4 5 5 9
 輔実(ほじつ・九条) → 輔実(すけざね・九条/藤原、撰関/記録) G 2 3 3 0
 保子内親王(ほしなしいんのう) → 保子内親王(やすこないしのう、女三宮、村上天皇皇女) C 4 5 3 7
 E3920 星岡住(ほしのおかずみ、通称;伊勢屋吉左衛門、別号;醉松亭)?-? 江戸芝口三丁目の狂歌師、
 1787南畝「狂歌才蔵集」3首入;
 「わが恋は土竜もぐらもちにぞ似たりけるあらはれてより地にも入たし」(才蔵集;十一恋418)
 星舎(ほしのや・恵川) → 景之(かげゆき・恵川えがわ、藩士/和算) L 1 5 4 4
 星舎(ほしのや・末松) → 房泰(ふさやす・末松すえまつ、国学者) I 3 8 3 6
 星舎(ほしのや・関) → 景之(かげゆき・関せき、国学者、歴算) U 1 5 8 2
 E3921 干則(ほしのみり・2世桑楊庵/真砂庵、浅草干則、三河屋友八/熊岡藤八)?-1819 浅草田原町足袋商、
 狂歌:頭光つむりのひかる門/1802桑楊庵襲名;伯楽側判者/のち壺側判者、1805「百轉」編
 保寂堂梅渚(ほしやくどうばいしよ) → 好之(よしゆき・桑山くわやま、製造業/郷土史) H 4 7 9 9
 3968 星屋光次(ほしやのみつづぐ/-みつじ、姓;山口/通称;治部之輔じぶのすけ)?-? 讃岐高松藩士、狂歌;四方連、
 1785「後万載」6首/1787「才蔵集」入;203、
 [舟にあき橋にもあきの月見んと栄耀えうにもちのかはむかひ行く](才蔵集;秋203)
 (贅沢になれて餅の皮まで剥く/秋と飽き・望と餅・川向ひと皮むくの掛詞)

- G3930 **保受**(ほじゅ・やすつぐ?・藤木ふじき、)?-1911 京の上賀茂神社神職/1873(明治6)丹波出雲神社禰宜、のち出雲神社宮司/1911高良大社宮司、奈島清良きよしの師
保樹(ほじゅ・長谷川) → 保樹(やすき・長谷川はせがわ/宇都宮、国学/歌) F 4 5 3 3
- E3922 **甫周**(ほしゅう・桂川かつらがわ、国訓くにのり男)1754-1809⁵⁶ 桂川家4世蘭医、森島中良の兄、蘭学;杉田玄白・前野良沢門/「解体新書」訳に参加、幕府奥医師;法眼/1794幕府医学館教授、1786「新製地球万国図説」訳、91「九腕摘英」92「蝦夷地初発記」93「伊勢漂民風説」著、1794「北槎聞略」、「環海異聞」「天工造物編」「魯西亞国漂民記」「雞林文訳」「自省編」著、[甫周(通称)の幼名/名/字/別通称/号]幼名小吉、名;国瑞くにあきら/くによし、字;世民/公鑑、別通称;甫謙/甫安、号;月池/無碍庵むけつあん/雷普/震庵/繕生室/迎旭書屋、法号;雷普日震、
甫周(ほしゅう・桂川) → 国興(くにおき・桂川かつらがわ/7世、幕府医官) B 1 7 4 7
保秀(ほしゅう・丸山) → 保秀(やすひで・丸山まるやま、庄屋/歌人) C 4 5 7 8
保秀(ほしゅう・牧野) → 保秀(やすひで・牧野まさの、神職/国学) G 4 5 6 4
保秋(ほしゅう・井上) → 保秋(やすあき・井上いのうえ、国学/歌人) F 4 5 2 6
- E3923 **浦十**(ほしゅう、別号;蓬窗ほうそう)?-? 1753迄に没 信州長野の俳人:鳥酔門?、鳥酔編の歳旦集等に入、1749「歳旦」編、1553元水「とはす艸」入(古人として入)
浦十(ほしゅう・柳沢) → 信鴻(のぶとき・柳沢、藩主/俳人) C 3 5 2 8
穂十郎(ほしゅうろう・松金屋) → 満慶(みつよし・田中たなか、商家/歌人) J 4 1 4 4
- E3924 **甫叔**(ほしゅく;法諱、号;知空/智空)1528-86⁵⁹ 浄土宗西山派僧;紀伊総持寺住、1564山城禅林寺36世;1583栗生光明寺27世兼務、隠退を望むが正親町天皇より引留倫旨、「雙卷経聞書抄」著
保叔(ほしゅく・入江) → 東阿(とうあ・入江いりえ、暦算/軍学者) 3 1 7 0
保寿堂(ほじゅどう) → 新兵衛(しんべゑ・伊丹屋いたみや、書肆) P 2 2 8 0
- E3925 **保俊**(ほしゅん/やすとし・武野たけの)?-? 江前期大阪の俳人;
1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、1677宗因「宗因七百韻」百韻入/78西鶴「物種集」入、1680自悦「花洛六百句」入、
[蹴上げあげては杉の下枝にとまりたり](物種集/鞠の蹴上げ;前句の鹿の革に付く、前句;三輪のおくにも見る鹿の革/謡曲「三輪」;此山本の神垣や杉の下枝に止りたり)
保春(ほしゅん・栗橋) → 保春(やすはる・栗橋くりはし、国学者) F 4 5 8 5
- E3926 **補準**(ほじゅん;道号・石天せきてん;法諱)1793-1865⁷³ 伊勢曹洞僧;1794多気郡陽珠院繩外祖準に入室、のち出家/1819同院仏海天竜門;嗣法、1823長門福昌寺住持、伊予竜泰寺・和泉梅溪寺住持、伊予極楽寺住持/1850加賀大乘寺58世/61退院;越中古鹿熊村神宮寺に隠棲、「補準石天語録」著
保順(ほじゅん・辻) → 守瓶(もりかめ・辻つじ/三枝/志村、医者) K 4 4 5 4
薄暮斎(ほしゅんさい) → 桂眉(けいび・服部はつとり、俳人) G 1 8 5 9
甫助(ほじょ→よしすけ・桜田) → 筋斎(かんのさい・桜田、儒者/勤王派) Q 1 5 6 1
保助(ほじょ・岡本) → 保助(やすすけ・岡本おかもと、神職/歌人) F 4 5 5 7
- E3927 **歩籥**(ほしゅう・加藤かとう、加藤小三郎玄俊男)1743-1827⁸⁵ 飛騨高山二之町の国学/俳人、
經典仏籍;京本禅寺目要上人門/書画;三熊海棠・谷文晁門、1772父の私塾を継承;門人多数、俳人:蝶夢門、国学;伴高蹊門、1773雲橋社を結社;宗匠として蕉風俳諧を鼓吹、李充の父、野沢凡兆を顕彰;句を遺詠地の岩面に彫刻[鷺の巢の樟の枯枝に日は入ぬ]、
図書1千冊蒐集;雲橋社文庫を開設公開、1802「ゆききのたびづと」08「素牛追善句集」、1816「鷺の古巢」編、16「くさくさ草稿」「蘭亭尚齒卷」/27「よしなし草」27「歩籥発句帖」、「紙魚のやどり」「何丸が大鏡の不審」著、没後百年祭に「蘭亭遺稿」刊(孫の千歩編刊)、
[機の音更けて師走の天の川]
[歩籥(号)の名/通称/別号]名;貴雄たかお、通称;小三郎(父の称)、
別号;里秋/蘭亭/志羅々/白翁/しらら(志羅々)老人、
保尚(ほしゅう・園村) → 保尚(やすなお・園村そのむら、藩士/国学者) G 4 5 1 5
保承(ほしゅう・内池) → 保承(やすつぐ・内池うちいけ、商家/歌人) F 4 5 4 0
保章(ほしゅう・橋爪) → 保章(やすあき・橋爪はしづめ、和算家) 4 5 8 1

- 保章(ほしょう/やすあき・沓掛)→ 菟乎(みんこ・沓掛くつかけ、農家/俳人) G 4 1 7 9
 保章(ほしょう・賀茂) → 保章(やすあき・賀茂かも/幸徳井、陰陽暦学) 4 5 8 4
 保昌(ほしょう・服部) → 保昌(やすまさ・服部はつとり、幕臣/和学者) G 4 5 4 2
 保敏(ほしょう・野口) → 保敏(やすすけ・野口のぐち、和算家) B 4 5 7 3
 保勝(ほしょう・武田) → 保勝(やすかつ・武田たけだ、暦算家) B 4 5 1 7
 保紹(ほしょう・服部) → 保紹(やすつぐ・服部はつとり、幕臣) C 4 5 0 6
 甫昌(ほしょう・松平) → 甫昌(やすまさ・松平まちだいら、幕臣/和学) G 4 5 7 0
 輔昭(ほしょう・菅原) → 輔昭(すけあき/すけあきら・菅原、廷臣/詩歌) B 2 3 7 5
- E3928 圃丈(ほしょう・松下まつした、名;伯周) 1759-1831 73 近江の医者/俳人:祇川門、「津梨竿つりざお」著、
 伏原宣条より加(賀)穀舎の号を受領、
 [圃丈(;号)の通称/別号]通称;友之進/斎宮、別号;加穀舎/賀穀舎/五老井3世
- E3929 蒲丈(ほしょう・豊津とよづ) ? - ? 江中期江戸の俳人;沾州門/大阪に移住;紹廉門、
 点者となる、1749「俳諧画賛輯乾」編、50「五百仙」撰、60「花得集」編、「蒲丈絵発句集」編、
 [蒲丈(;号)の別号] 午晴庵/午晴斎/鹿吼子
- 保常(ほしょう・服部) → 保常(やすつね・服部はつとり、国学者/歌) G 4 5 4 1
 保浄(ほしょう/やすきよ・高田)→ 松亭(しょうてい・高田たかだ、藩士/儒者) K 2 2 9 8
 歩常亭(ほしょうてい) → 秋麿(あきまる、俳人/国学) D 1 0 9 1
 暮松楼(ほしょうろう) → 景周(かげちか・富田とだ、儒者) E 1 5 9 6
 保次郎(ほじろう)すべて → 保次郎(やすじろう)
- 保臣(ほしん・真木) → 保臣(やすおみ・真木まき、神職/勤王家) B 4 5 0 9
 保臣(ほしん・浦) → 保臣(やすおみ・浦うら/後藤/羽山、藩士/神風連) F 4 5 4 5
 保親(ほしん・服部) → 保親(やすちか・服部はつとり、幕臣/歌人) E 4 5 8 3
 保親(ほしん・伊藤/宮永)→ 保親(やすちか・宮永/伊藤、神職/国学/歌) C 4 5 0 4
 保信(ほしん・紀) → 保信(やすのぶ・紀きの、神職/国学者) F 4 5 8 1
 保信(ほしん・栗原) → 保信(やすのぶ・栗原くりはら/源/長坂、名主/国学) F 4 5 8 6
 保信(ほしん・村山) → 保信(やすのぶ・村山/村、商業/和算家) C 4 5 6 1
 輔親(ほしん・大中臣) → 輔親(すけちか・すけむつ・大中臣、神職/歌) 2 3 0 8
 輔臣(ほしん・藤原) → 輔臣(すけおみ/すけおむ・藤原、廷臣/歌人) 2 3 0 9
 葆真(ほしん・廬) → 草拙(そうせつ・廬ろ、漢学/天文家) C 2 5 3 5
- F3997 浦人(ほじん・戸松とまつ) ? - ? 江前期上方の俳人、
 1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、
 [筒切りの瓜や川ぞひの水車みづぐるま](難波色紙;88、
 輪切の瓜を水車に見立てる/川沿と皮付を寓す)
- E3930 甫人(ほじん・橋本はしもと、別号;雨前亭/雨前斎/亀翁)?-? 江中期若狭小浜の俳人、
 1776「百盞」85「油花ト」編
- E3931 浦人(ほじん・桜井さくらい) 1763- 1831 69 上野藤岡の絹宿の主人、俳人;白雄門/書画も嗜む、
 「瀾亭雑記」、追善集「初夢」(:友人鹿太編/1832刊)、
 [浦人(;号)の通称/別号]通称;佐治右衛門、別号;瀾亭
- E3932 浦人(ほじん・玉藻ぎよくそう) ? - ? 読本作者・
 1856-7「繡像復讐えほんかたきうち岩見英雄録」第四・五編著(四;一鶯斎芳梅画/五;葛飾為斎画)、
 繡像復讐岩見英雄録の前・後編は水原玉藻作/三編は小沢東陽作/六・七編は乾坤亭東涯作
- 戊申(ほしん・鶴嶺) → 戊申(しげのぶ・鶴嶺つるみね、国学者/歌人) C 2 1 7 3
 葆真庵(ほしんあん) → 九臯(きゅうこう・春田はるた、藩士/儒者) I 1 6 7 3
 葆真院(ほしんいん) → 壺山(こざん・本多、忠如、藩主/詩人) G 1 9 6 0
 葆真斎(ほしんさい) → 良弼(よしすけ・松永まつなが、和算家/藩士) D 4 7 7 8
 圃辛亭(ほしんてい) → 牧童(ぼくどう・立花、研刀業/俳人) D 3 9 8 0
 圃辛亭(2世ほしんてい) → 甘谷(かんこく・坪田つばた、俳人) Q 1 5 4 8
 圃辛亭(5世ほしんてい) → 柳壺(りゅうこ・宇野うの、俳人) D 4 9 7 1
- E3933 圃水(ほすい;号) ? - ? 江前期俳人;1698「続猿蓑」3句入、
 [かげろふと共にちらつく小鮎哉](続猿蓑;巻下)

- E3934 **蒲水**(ほすい;号) ? - ? 筑前博多の俳人、
1857「冬こもり」編(石外の追善集)、1872「宇逸追善集」編
- E3935 **保水**(ほすい・広瀬ひろせ、名;満忠、北脇理三郎景瑞男)1828-1914⁸⁷ 近江野洲郡八夫村の生、
1838(11歳)伊予別子銅山勘定場勤務/55住友家友視の推挙で住友別家広瀬義泰の養嗣子、
1857家督/65住友伊代別子銅山支配本役;幕末維新の動乱期に事業拡大に尽力、
1877住友家総理、大阪商法会議所・大阪株式取引所・硫酸製造会社・大阪製鋼会社等設立、
1859「簿領余事」71「鍊石余響」、自伝「半生物語」著、
[保水(;)の字/通称]字;遠図、通称;駒之助/新右衛門/義右衛門/宰平、法号;広照院
甫水(ほすい・松井) → 晟時(あきとき・松井まつい、藩士/剣術) D 1 0 6 1
甫翠(ほすい・浦野) → 孝正(たかまさ・浦野うらの、国学/歌人) V 2 6 8 8
暮水(ほすい・歌号) → 也有(やゆう・横井、詩歌/俳/狂歌) 4 5 1 7
輔崇(ほすう・宇野) → 輔崇(すけたか・宇野うの、藩士/国学) I 2 3 1 1
- G3944 **穂末**(ほすえ・安田やすだ、長徳[1796-1856]3男)1838-62^{早世25} 母;さと子(国学/歌)、和歌山の商家、
国学者/歌人;父門、穂並ほなみ・千穎ちかひの弟、
[穂末(;)名)の字/通称/号]字;文英、通称;長兵衛、号;鶴汀
穂積朝臣(ほづみのあそみ) → 穂積朝臣(ほづみのあそみ)
穂積皇子(ほづみのみこ) → 穂積皇子(ほづみのみこ) 3 9 6 9
保政(ほせい・服部) → 保政(やすまさ・服部はつとり、武家/忍者) C 4 5 9 4
保成(ほせい・小島) → 保成(やすなり・小島こじま、藩士/国学者) F 4 5 8 8
保盛(ほせい・本所) → 保盛(やすもり・本所/木戸、陪臣/歌人) G 4 5 5 9
輔正(ほせい・菅原) → 輔正(すけまさ・菅原、廷臣/漢学/詩人) 2 3 1 2
輔世(ほせい・小槻) → 輔世(すけよ・小槻おぎ/壬生、廷臣/記録) D 2 3 6 5
輔政(ほせい・堀家) → 輔政(すけまさ・堀家ほりけ、神職/国学) J 2 3 2 1
輔政(ほせい・鷹司) → 輔政(すけまさ・鷹司/藤原、廷臣) D 2 3 0 2
甫政(ほせい・有元/大岡) → 春川(しゅんせん・大岡/藤原/有元、絵師) P 2 1 2 0
溥整(ほせい・ふせい・黒田) → 溥整(ひろなり・黒田/加藤、家老/連歌) G 3 7 7 5
保精庵(ほせいあん) → 竹瑞(ちくずい・大野、儒医) D 2 8 2 7
- E3936 **浦夕**(ほせき) ? - ? 江戸の俳人;1770「一座之華」(如畔・歌口と共編)
- E3937 **甫尺**(ほせき・吉田よしだ) ? - ? 丹後宮津の俳人;樗良門、芭蕉の細道跡を辿る、
兄の営む京蛸薬師通堀川の書肆玄化堂を兄没後に継承;樗良の俳書刊行に尽力、
1784「樗良発句集」編(兄の遺志)、「無名集」編、-94「梅園日記」著、跋「力りきずまふ」跋、
[甫尺(;)号)の通称/別号]通称;九郎右衛門、別号;玄化堂2世
補石軒(ほせきけん) → 青谷(せいこく・宮崎/宮、藩士/儒者/画) I 2 4 1 4
保節(ほせつ・橋本) → 伯寿(はくじゅ・橋本、蘭医) D 3 6 2 1
浦雪(ほせつ・吉田) → 清純(きよすみ・吉田よしだ、藩士/地誌) P 1 6 7 1
暮雪庵(ほせつあん) → 曾洛(そらく・照井てい、職人/俳人) E 2 5 4 5
暮雪亭(ほせつてい) → 而后(じこう・伊東[藤]、商人/俳人) T 2 1 4 2
補拙廬(ほせつろ) → 竹田(ちくでん・田能村たのむら、儒/詩/絵師) D 2 8 5 4
- F3974 **浦船**(ほせん) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」入
- E3938 **晡扇**(晡川ほせん) ? - 1713 筑前箱崎の俳人・野坡門、諷竹・支考と親交、
九州蕉門の先達とされる、1697「染川集そめかわしゅう」(上洛し大阪の諷竹の後見で刊行)、
1699来庵した去来から芭蕉遺吟の短冊を受け枯野塚を建立;1705記念集「枯野塚」編、
[染川の水ををしれ梅の照り](染川そめかわ集;巻頭夢想句)、
[晡扇(;)初号)の別号]晡川/松月庵/十里庵/晡斎
- E3939 **圃仙**(ほせん) ? - ? 俳人;1698「続猿蓑」入、
[霜ばしらおのがあげしや土竜うごもち](続猿蓑;巻下/もぐらへの呼びかけ)
- E3940 **甫僊**(ほせん・山口やまぐち) ? - ? 江後期文政1818-30頃下総小見川藩主内田家侍医;
外科に精通、「譜氏外科施術大全」訳、佐藤尚中たかなかの父
甫仙(ほせん・杉田) → 立卿(りゅうけい・杉田すぎた、玄白男/蘭医) B 4 9 6 8
甫仙(ほせん・馬島) → 光昭(みつあき・馬島まじま、藩士/歌人) K 4 1 4 9

- 逋僊(ほせん・高成田) → 琴台(きんだい・高成田たかなりた、藩士/経学) R 1 6 3 7
 保全(ほぜん・奥村) → 玉蘭(ぎょくらん奥村、醸造業/儒/画) P 1 6 4 2
 E3941 **保舛**(ほそう・花月庵) ? - ? 大阪の雑俳点者、1781刊折句集「秀詠評林」に点者名入、
 1783「名残の身勝手」編
 輔相(ほそう・藤原) → 輔相(すけみ・藤原ふじわら、廷臣/歌人) D 2 3 0 4
 細川阿波守入道(ほそかわあわのかみにゅうどう) → 常秀(じょうしゅう; 法諱、歌人) J 2 2 5 8
 甫則(ほそく・新居) → 百梅(ひやくばい・新居にい、藩医/詩人) E 3 7 7 6
 E3943 **細道**(ほそみち・浅竜庵せんりゅうあん、姓; 芳賀はが) 1765-1841 77 陸前仙台の医者; 父門、詩; 畑中荷沢門、
 狂歌; 江戸の浅草市人の点を受ける、晩年; 松島天竜庵に隠居、「美知乃久布理」編、
 [浅竜庵細道(;)号]の名/字/通称/別号]名; 猷之、字; 子徽、通称; 雄曹、別号; 奥細道
 細道庵(ほそみちあん) → 巳人(むつじん・遠藤/木村、藩士/俳人) 5 3 5 1
 保村(ほそん・狩野) → 保村(やすむら・狩野かのう、神職/国学者) F 4 5 7 1
 保泰(ほたい・柳沢) → 保泰(やすひろ・柳沢やなぎさわ/源、藩主) C 4 5 8 9
 保泰(ほたい・服戸) → 保泰(やすひろ・服戸ふくと、国学者) G 4 5 5 1
 E3944 **保大**(ほだい) ? - ? 俳人; 素外門、
 1801「史記滑稽伝通俗解」著(素外「俳諧根源集」所収)
 E3945 **菩提**(ぼだい・僊那せんな、通称; 婆羅門ばらもん僧正) 704-760 57 奈良期736渡来の天竺(インド)僧;
 南天竺より中国に、ベトナム僧仏哲と渡日; 日本に文殊託生と聞きその化身行基に会う為、
 渡来後悉曇したんを指導/勅により大安寺住; 751僧正、行基の推挙で東大寺大仏開眼導師、
 歌; 拾遺集1349(渡来し摂津海岸到着時に出迎えた行基の喜びの歌1348への返歌)、
 [迦毘羅衛かびらゑに共に契りしかひありて文殊の御顔みかほあひ見つるかな](拾遺集; 1349)、
 (婆羅門僧正名/迦毘羅衛は印度の釈迦誕生地)、
 参考; → 行基(ぎょうき; 法名、僧/歌人) C 1 6 3 4
 → 仏哲(ぶつてつ、悉曇学) D 3 8 3 9
 菩提庵敬雨(ぼだいいんけいう) → 祇空(ぎくう・稲津、俳人) 1 6 9 4
 菩提院(ぼだいいん) → 基房(もとふさ・藤原、摂政・関白/歌人) E 4 4 2 0
 菩提院(ぼだいいん) → 澄覚法親王(ちようかくほつしんのう、梶井宮門跡/歌人) H 2 8 6 8
 菩提院(ぼだいいん) → 泰巖(たいがん; 法諱、真宗僧) J 2 6 5 3
 菩提院上綱(ぼだいいんじょうこう) → 蔵俊(ぞうしゅん; 法諱、法相学僧) H 2 5 9 4
 菩提院入道前関白家別当(ぼだいいんにゅうどうさきのかんぱくけのべつとう) → 別当(べつとう、女房歌人) B 2 7 5 8
 菩提院入道前関白太政大臣(ぼだいいんにゅうどうさきのかんぱくだいじょうだいじん) → 基房(もとふさ・藤原) E 4 4 2 0
 G3948 **菩提院宰相**(ぼだいいんのさいしやう) ? - ? 鎌倉期; 興福寺菩提院の童/歌; 1237刊[檜葉集]入、
 [僧都覚弁の許に侍りける童に消息して侍るを所違へにやと申したりければかさねて、
 今さらにふみたがふべきかたぞなきあまたこひちをしらぬ身なれば]
 菩提院宮(ぼだいいんのみや) → 承覚法親王(しょうかくほうしんのう、天台門跡/歌人) F 2 2 8 8
 菩提華(ぼだいげ; 字) → 祥薬(しょうやく; 祥瑞しょうずい; 法諱、真言僧) K 2 2 1 5
 菩提山本願僧正(ぼだいさんほんがんそうじやう) → 信円(しんえん; 法諱、法相僧) N 2 2 4 4
 菩提寺大僧正(ぼだいいだいそうじやう) → 賢俊(けんしゅん、真言僧/歌/連歌) D 1 8 8 6
 菩提樹園(ぼだいじゅえん) → 月照(げつしょう; 字、法相僧/尊攘活動) B 1 8 0 6
 菩提心院(ぼだいしんいん) → 日覚(にちがく; 法諱・菩提心院、日蓮僧) B 3 3 0 1
 菩提心院(ぼだいしんいん) → 宗将(むねのぶ・徳川/松平/源、藩主) C 4 2 1 1
 G3933 **穂足**(ほたり・原はら、) 1805 - 1857 53 信濃慰安郡別所村庄屋、歌人; 飯田の福住清風門、
 国学; 市岡猛彦・森宏主・植松茂岳門、原光為(1738-1821/別所村庄屋/同門歌人)の一族、
 [穂足(;)名]の初名/通称/号]初名; 俊彦、通称; 啓吉、号; 篤蔭えんいん、屋号; 中島屋
 G3916 **穂足**(ほたり・江碕えさき、) 1824- 1901 78 尾張春日井郡小牧原新田の神明神社祠官、
 国学・歌人; 市岡猛彦たけひこ門、
 [穂足(;)名]の通称/号]通称; 伊左衛門、号; 蘆の舎
 G3941 **穂垂**(ほたり・宮下みやした、) 1826-1902 77 信濃伊那郡の国学者/歌人、
 歌; 片桐源栄門/国学; 平田鋏胤門、良文よしぶみの父、

- [穂垂(；名)の初名/通称]初名；良紀、通称；又七郎/平右衛門
 帆足(はたる・沢辺) → 沢辺帆足(さわべのはたる、信沢重二郎、藩士/狂歌) G 2 0 1 9
 牡丹庵(ぼたんあん) → 阿人(あじん江原えぼら、俳人) E 1 0 4 3
 牡丹花肖柏(ぼたんかしょうはく) → 肖柏(しょうはく・夢庵・牡丹花、連歌師) 2 2 0 2
- E3946 **牡丹花福成**(ぼたんかふくなり、牡丹楼福成、姓；毛利)?-? 江後期江戸湯島の狂歌作者；七宝連社中、
 1850「狂歌年浪草」編
 牡丹堂(ぼたんどう) → 青峨(初世せいが・鴛田、俳人) 2 4 8 2
- E3947 **蒲池**(ほち・赤石あかいし、赤石浄心の養子)1706-6459 羽後秋田藩士；1718出仕/小姓・納戸役・用人、
 勘定奉行/1756罪を得て水口村に隠棲、俳人；平元梅隣門、画を嗜む、
 「水口雑話」「水口夜話」「麓の塵」著、
 [蒲池(；号)の名/通称/法号]名；行保、通称；伊作/藤左衛門、法号；三阿授玄
 甫筑(甫竹ほちく・桂川) → 邦教(くにみち・桂川/家祖、幕府蘭医) D 1 7 2 1
 甫筑(ほちく・桂川) → 国華(くにてる・桂川/2世、幕府医師) C 1 7 9 3
 甫筑(ほちく・桂川) → 国訓(くにとき/くにのり・桂川/3世、蘭医) B 1 7 5 7
 哺竹庵(ほちくあん) → 俱占(ぐせん・哺竹庵、俳人) 1 7 5 2
 牡冲巢(ほちゅうそう) → 麦天(ばくてん・右江、渭北、俳人) 3 6 1 1
 保長(ほちよう・杉本) → 保長(やすなが・杉本すぎもと、武道家) C 4 5 3 9
 輔長(ほちよう・甘露寺) → 輔長(すけなが・甘露寺かんろじ、廷臣/記録) G 2 3 7 3
 輔長(ほちよう・谷田) → 輔長(すけなが・谷田、絵師) G 2 3 7 5
 暮鳥庵(ほちようあん) → 有琴(ゆうきん・林、俳人) B 4 6 2 7
 保直(ほちよく・百竹) → 保直(やすなお・百竹ももたけ、商家/紀行) C 4 5 3 5
- G3913 **秀枝**(ほつえ・青木あおき/本姓；丹治比)1833-64自刃32 加賀金沢藩の料理人、
 国学；橘守部・橘冬彦門/国史・律令；田中躬之門/歌；白川家門、
 1857(安政4)明倫堂国学内用/尊攘運動参加、世子前田慶寧よやすに随い上京；七卿支援、
 1864(元治元)禁門(蛤御門)変に連座したとして；自刃、
 [矢田の野を夕越え來ればあらち山峰の木蔭に鳴くほとゝぎす](山時鳥)
 [旅衣なれし袂に散る木の葉はゝそときくも恋しかりけり](羈中落葉)
 [秀枝(；名)の通称/号]通称；新三郎、号；薫庭
- G3919 **上枝**(ほつえ・桂かつら、通称；重輔)1840-191071 越後蒲原郡の国学者；鈴木重胤門、
 桂誉恕たかひろ(青海神社祠官)の弟、秋葉神社祠官、のち訓導職、
 1883「故実三礼作法俗解」85「祝詞訳解」著
 秀枝(ほつえ・橘/永野) → 秀枝(ひでえ/ほつえ・永野ながの/橘、国学) I 3 7 3 7
 末枝(ほつえ・源みなもと) → 末枝(すええだ・ほつえ・源みなもと、歌人) L 2 3 1 6
 末枝(ほつえ・糟谷) → 武文(たけふみ・糟谷かすや/加須屋、藩士/国学) W 2 6 4 6
 勃翁(ほつおう・半折房) → 良能(りょうのう・前田、俳人) J 4 9 2 2
- E3948 **北華**(ほっか・山崎やまさき/本姓；平、名；浚明/相如、山崎則之男)1700-4647 江戸の医者、
 1715(16歳)-1737(38歳)諸侯に仕官；浪人/江戸市中で医業、俳人；芭蕉の細道跡を辿る、
 諸国行脚後；1739(40歳)死没を偽装し日暮里養福寺に碑を建立、以後は[後の北華]と称す、
 戯作/狂歌/狂俳文/随筆など刊行；江戸戯作の魁、1744「風俗文集(風俗文選拾遺)」、
 1745「続奥の細道蝶之遊」編、「労四狂」「礪の枕」「節分夜話」「南北談笑」「俳諧正伝」外著多、
 [名計りや月花雪のそぼり滓]、
 [北華の字/通称/別号]字；桓、通称；三左衛門、
 別号；相如/不量軒/無思庵/十無居士/後の北華(1739以後)、戯号；捨楽斎/確蓮坊、
 狂名；自他楽斎/自墮落先生、法号；昭林院、一時朽木家の養子；朽木近治と称す？
- 3970 **北海**(ほっかい・江村えむら、福井藩儒伊藤竜洲男)1713-8876 京の生/9-18歳明石の河村家で養育、
 儒；明石藩儒梁田蛭巖門、1734帰京し父の代形で経史を講説/詩文に長じ賜杖堂詩社創設、
 1734宮津藩儒江村毅庵の養嗣；家督/42宮津藩京邸留守居役/藩主の美濃郡上移封で辞職、
 京室町に対梢館創設し教授/詩会催、三都の三北海(大阪片山北海・江戸入江北海)の1、
 1762「虫の諫」71「日本詩史」73「日本詩選」78「日本詩選続編」83「授業編」、「唐詩訓解刪注」、
 「日本文選」「日本史略」「日本経学考」「濃北紀遊」「楽府類解」「諸子擷英しよしけい」外著多数、

1767-82「北海先生詩鈔」(息;愚亭編)、兄伊藤錦里・弟清田儋叟^{たんそう}と三珠樹の称、
[北海(;)号)の名/字/通称]名;綬、字;君錫、通称;伝左衛門

- E3949 **北海**(ほっかい・入江いりえ、名;貞)1714-8976 出羽の生/江戸で儒者:入江南溟門/南溟の養嗣子、
徂徠学を修得/詩人、三都の三北海の1、のち伊賀上野藩儒/用人役上頭、「君道」著、
[北海(;)号)の字/通称]字;子実、通称;与右衛門
- 3971 **北海**(ほっかい・片山かたやま、名;徽猷/猷、黙齋男)1723-9068 越後新潟の生/儒者:京の宇野明霞門、
大阪に移住;1765混沌社を結成;盟主となる、三都の三北海の1、木村巽齋・平沢旭山らの師、
「北海文集」「北海詩集」「北海遊艸」「混沌社詩艸」「唐詩選金粉」、「孤雲館遺稿」外著多数、
[北海(;)号)の字/通称/別号]字;孝秩、通称;忠蔵、別号;孤雲館
- E3950 **北海**(ほっかい・大野おおの、名;通明みちあき)?-? 江中期明和1764-72頃の奥州の儒者:荻生徂徠門、
和漢の学に通ず、江戸住;兵学を講義、「北海文集」「通明みちあき独語」1765「素難評」編、
[北海(;)号)の字/通称]字;子哲、通称;忠右衛門
- E3951 **北海**(ほっかい・山田やまだ、名;時文/字;運平)1755-182066 長門萩の儒者;藩儒山根華陽門、
1809家老宍戸就年に招聘され郷校徳修館教授/のち萩藩校明倫館都講、
1808「北海集」著、「徳修館記」撰
- E3952 **北海**(ほっかい、別号;趙北海)?-? 加賀の俳人:北枝に私淑、1832「北枝発句集」編
- E3953 **北海**(ほっかい・青木あおき/改姓;殿岡・外岡とのおか、青木平馬男)1782-186584 富山藩士;藩主の近習役、
家督を子に譲り学問研究;江戸で講説、和漢学、国学;清水浜臣門、易経/歌/工芸/書に通ず、
「越中地誌」「松蔭深処鈔」「音韻原始論」「書学大概執筆」「神道文言」「玻璃製造記」、
1835「禹歩仙訣」51「易論私説」57「天運無窮録」58「周易外伝立象篇」外著多数、
[北海(;)号)の名/字/通称/別号]名;従/従瓊よりよし、字;復/復一/大体、
通称;鉄太郎/又一/又市/復一/越中富山玻璃蔵、
別号;海雲/神通/瓊華堂/黒顛/易翁/眞臣^{まおみ}/松陰/瓊華堂^{けいかどう}
- 北海(ほっかい・佐藤) → 竹塙(ちくお/ちくう・佐藤、儒者) C 2 8 6 2
北海(ほっかい・松浦) → 武四郎(たけしろう・松浦、探検家;北海道名付親) E 2 6 3 8
北海(ほっかい・入江) → 済民(さいみん・入江いりえ、藩士/詩文) H 2 0 0 5
北海(ほっかい・小川) → 心齋(しんさい・小川おがわ、儒者/治水) E 2 2 2 1
- E3954 **勃海**(ほっかい・伊東いとう、名;晃)1741-1803 江戸の儒者:赤松大庾^{たいい}門、磐城平藩主の侍読、
「乗余記聞」編/「阿勝伝」「風浴集」、1771「伝変録」著、
[勃海(;)号)の字/通称]字;元明、通称;良助
- E3955 **墨海**(ほっかい・探古堂/探古室)?-? 江後期大阪南久宝町の絵師/地誌家、
1811「阿波名所図絵」著・画
- 北海牙(ほっかいが) → 仏仙(ぶつせん、黒瀬屋、俳人) D 3 8 3 7
北海子(北海市ほっかいし) → 有佐(ゆうさ・富岡、俳人) B 4 6 6 8
北海荘(ほっかいそう) → 有佐(ゆうさ・富岡、俳人) B 4 6 6 8
北海道人(ほっかいどうじん) → 武四郎(たけしろう・松浦、探検家;北海道名付親) E 2 6 3 8
北海坊(ほっかいぼう) → 仏仙(ぶつせん・山叩、俳人) D 3 8 3 7
北海野史(ほっかいやし) → 心齋(しんさい・小川おがわ、儒者/治水) E 2 2 2 1
- E3956 **北郭**(ほっかい・藤田ふじた、名;貞正、総太夫貞陟男)1773-184674 母;大場景範女、水戸藩士;1781家督、
1788御前小姓/使番/小姓頭/書院番頭、1801寺社奉行/04大番頭/08免職/13書院番頭復帰、
1834大寄合頭上座・用達/藩主斉昭の改革に批判的のため1839隠居、書・篆刻;立原翠軒門、
1802「御国中古事記」、「広島紀談」「北郭見聞録」「収蓄待用」「唐本籤題集」「静観亭刻帳」著、
[北郭(;)号)の字/通称/別号]字;子師、通称;主書/将監、別号;晴軒
- 北華齋(ほっかさい) → 祇徳(2世ぎとく・仲、祇貞/初世男、俳人) B 1 6 6 1
墨花堂(ほっかどう) → 文山(ぶんざん・佐々木/佐/源、書家) F 3 8 4 0
北花坊(ほっかぼう) → 字中(うちゅう・和田わだ、俳人) B 1 2 4 2
発願院(ほっがんいん) → 力精(りきしょう;法諱、真宗本願寺派僧) 4 9 5 4
北丘野人(ほっきゅうやじん) → 徳雨(とくう・衛足堂、俳人) K 3 1 4 5
勃郷(ほっきょう・原田) → 能興(よしおき・原田/原、藩士/和算家) C 4 7 4 0
北京散人(ほっきょうさんじん) → 月尋(げつじん・藤岡ふじおか、俳/歌/浮世草子) B 1 8 0 8

ト琴(ほつきん・柴垣) → ト琴(ほつきん・柴垣しばがき、俳人) D 3 9 0 1

- E3958 **北溪**(ほっけい・荻生おぎゅう/本姓;物部/修姓;物、名;観・玄覧、荻生方庵男)1673-1754⁸² 徂徠の弟、儒者(家学);父門;1704父の後継/18聖堂学舎の講師、律学、幕府儒臣;将軍吉宗顧問役、1750致仕、1722「明律」、「明律訳」、「清朝官職」、「清朝探事」、「玄覧子」、「北溪文集」外著多数、[北溪(;号)の字/通称]字;叔達、通称;惣七郎
- E3959 **北垚**(北莖ほっけい・小寺こでら、後川男)?-? 加賀金沢の俳人;父後川ごせん門、希因の孫、1807「北国奇談巡杖記」著、[北垚(;号)の別号] 鳥翠台/翠台/百鶴園、屋号;綿屋
- E3960 **北溪**(ほっけい・魚屋ととや、姓;岩窪/吳、名;辰行)1781or80-1850⁷⁰⁻⁷¹ 江戸四谷鮫ヶ橋の魚商、絵師;狩野養川(惟信)門/葛飾北斎門、赤坂桐畑に転居し画業に専念;咄本・狂歌本挿画、1799「狂歌杓子栗」1800「南門鼠」02「鼠帰」04「白狐伝」11「狂歌評判記」23「女風俗鏡」画、1828-34「近世説美少年録」34「蒙求画像狂歌集」39「連環集」48「狂歌葦垣集」画、「北里狂歌集」、「北里ほり十二時とき」「狂歌万花集」「北溪漫画」「戊寅春興集」画外多数、[魚屋北溪(;号)の通称/別号]通称;初五郎/金右衛門、別号;拱斎きょうさい/葵園きえん/葵岡きこう
- E3961 **北溪**(ほっけい・津島つしま、名;佶、医者竹山男)1813-62⁵⁰ 越中高岡の医者;1831江戸で増島蘭園門、小島葆素門/儒学、詩文、帰郷後高岡で家業の医を継承、1855「天柱詩草」61「西山浴咏」、「高岡詩話」「英遠紀行」「河西遊記」「旭行小藁」「古今薬解」「読翼編」「批墨議」「薬能蒙求」著、[北溪(;号)の字/別号]字;叔間、別号;憲翁いおう/憲道人、津島北岳の甥
- 北溪(ほっけい・谷) → 真潮(まほ・谷/大神、神道/国学/歌) 4 0 2 6
- 北敬(ほっけい・春陽齋) → 北敬(ほっけい・春陽齋、絵師) D 3 9 0 2
- 北卿(ほっけい) → 房前(総前ふささき・藤原、廷臣/詩人) 3 8 0 6
- 木啓(ほっけい) → 木啓(もっけい、俳人) B 4 4 8 6
- 木鷄(ほっけい) → 木鷄(もっけい、俳人) B 4 4 8 5
- 木鷄(ほっけい・江幡) → 木鷄(もっけい・江幡えばた、儒者) B 4 4 8 7
- 墨鷄(ほっけい・松林) → 了英(りょうえい;法諱・松林、真宗僧/教育)M 4 9 2 8
- 法華院(ほっけいん) → 勝子(かつこ・増山ますやま、藩主室/歌) V 1 5 7 0
- 法華寺靈彦(ほっけいれいげん) → 桜男法師(あおほうし、僧) D 1 0 2 4
- 法華法印(ほっけほういん) → 陽翁(ようおう・日応、講釈/太平記読) 4 7 6 6
- 法賢(ほっけん) → 道章(どうしょう;法諱・悦峰、渡来黄檗僧) F 3 1 4 6
- 北軒(ほっけん・草鹿) → 玄仲(げんちゅう・草鹿くさか、藩士/医者) C 1 8 3 7
- E3962 **北固**(ほっこ・波多/波田はた/本姓;秦、名;守節)1726-1755³⁰ 長門阿武郡須佐の儒者;山県周南門、滝鶴台と親交、「北固文集」「酔余筆談」「孟子略説」著、[北固(;号)の字/通称]字;貞夫/貞父、通称;与一、嵩山すうざんの兄
- 北湖(ほっこ・遠山) → 伊清(これきよ・遠山とおやま、幕臣/歌研究) E 1 9 1 6
- 北湖(ほっこ・桃井) → 翠庵(すいあん・桃井/桃/坂根、藩儒/詩) 2 3 2 0
- E3963 **法興**(ほっこう;法諱・浄音じょうおん;字、参議唐橋[源]雅清男)1201-71⁷¹ 京浄土宗西谷派西谷流の祖、初め慈円門;出家/証空門;西山義を修学、11年間粟生光明寺住/1261仁和寺西谷に退院、新光明寺を創建;教化活動、「愚用抄」「往生論註刪補鈔」「観経疏定善義愚要鈔」著、「観経疏玄義分愚要抄」「観無量寿経序分義愚要鈔」「定善義愚要鈔」「註論刪補鈔」外著多数
- E3942 **北高**(ほっこう;道号・全祝ぜんしゅく;法諱、俗姓;源)1507-86⁸⁰ 父は北殿と号し北畠顕家の後裔とする、出羽の曹洞僧;出羽の広碩門;出家/越後雲洞庵の不点存可の法嗣、武田信玄の招請で信州竜雲寺を開山/1585長寿院に退院、「北高禅師詩集」「北高禅師法語」著
- E3964 **北阜**(ほっこう・小林こばやし、名;恭)1783-1827⁴⁵ 水戸藩儒;1810彰考館入、「松茂堂しょうもどう集」、[北阜(;号)の字/通称/別号]字;士敬、通称;丈衛門、別号;松茂堂
- E3965 **北江**(ほっこう・箕浦みのうら、名;貞吉/通称;乙三郎、正路男)1745-1819⁷⁵ 土佐藩士、儒;戸部愿山門、望南学派(若林強斎塾派)の学修得、1778馬廻末子/1784藩校教授役/86江戸住/99御納戸役、1803教授再任/13老年免職、杉田玄白頼春水と交流、「九経類聚」「玄水話録」「旅楽説」著、秦川・立斎の弟、耕雨の父
- 北開(ほっこう・千坂) → 畿(みやこ・千坂ちさか/横山、幕臣/儒者) F 4 1 9 2

- E3966 **墨香**(ほっこう・北尾きたお、名;禹、藤屋善七の弟)1809-5345 大阪心齋橋筋安土町の書肆、書家/画、1848「嘉永廿五家絶句」、1849「撰西六家詩鈔」「撰東七家詩鈔」編、
[墨香(;)の字/通称/別号]字;惜陰、通称;藤屋禹三郎、別号;墨香居/巢居、
法号;巢居墨香居士
墨江(ほっこう・岸田) → 作良(さくら・岸田、歌人)
墨香(ほっこう・能美) → 隆庵(りゅうあん・能美、医者)
墨香居(ほっこうきよ) → 墨香(ほっこう・北尾きたお、書肆/書家) E 3 9 6 6
北行鏡月(ほっこうきょうげつ) → 豊矩(とよのり・田辺、富士山御師) 3 1 4 5
北壺游(ほっこうゆう) → 武夷(ぶい・根本ねもと、儒者) 3 8 3 0
- E3967 **北鯤**(ほっこん・石川いしかわ、山店さんてんの兄)?-? 江戸の俳人:芭蕉門、1680「桃青門弟独吟廿歌仙」参加、1683其角「虚栗」/87「伊賀餞別」/88嵐雪「若水」/93洒堂「深川」/94「炭俵」/98「続猿蓑」2句入、
[初霜や犬の土かく爪の跡](続猿蓑;卷下)
法守親王(ほっしゅしんのう) → 法守親王(ほうしゅしんのう、門跡/歌人) B 3 9 6 3
- E3968 **法性**(ほっしょう;法諱・覚円;字)?-1245 真言宗高野山僧;明任/覚海/醍醐寺憲深門、
法性院開、1232以来の座主争に連座;42出雲配流、高野八傑の1、「顕密問答鈔」「理法身説法」
発星院(ほっしょういん) → 日眞(にっしん;法諱・東光院、日蓮僧) E 3 3 4 5
法性寺(ほっしょうじ) → 親長(ちかなが・藤原/法性寺、連歌) B 2 8 3 9
法性寺関白(ほっしょうじかんぱく) → 忠通(ただみち・藤原、撰関/歌人/書) 2 6 3 3
法性寺殿(ほっしょうじどの) → 忠通(ただみち・藤原、撰関/歌人/書) 2 6 3 3
法性寺入道(ほっしょうじにゅうどう) → 忠通(ただみち・藤原、撰関/歌人/書) 2 6 3 3
法成寺入道前太政大臣(ほっしょうじにゅうどうさきさきだいにいじん) → 忠道(ただみち・藤原) 2 6 3 3
法性寺入道前関白家三河(ほっしょうじにゅうどうさきさきのかんぱくけのみかわ) → 三河(みかわ・歌人)
法性寺中将(ほっしょうじちゅうじょう) → 親忠(ちかただ・藤原/法性寺、歌) J 2 8 2 8
- C3967 **法身**(法心ほっしん、俗名;真壁平四郎/初め高松福蔵)1189?-? 鎌倉期伝説的禅僧、常陸真壁郡生、23歳の時城主真壁氏家臣;真壁平四郎と改名/誤解を受け発奮し出家;妙心寺僧/渡宋、杭州径山寺で修業/9年後帰国;諸国行脚の末松島洞窟で修業、北条時頼の帰依で臨濟瑞巖円福寺開山/龜山天皇より法身国師の号、歌;沙石集(十ノ六)入、
[足なくて雲の走るもあやしきに何をふまへて霞立つらん](古今夷曲集;一)
発心院(ほっしんいん) → 日堯(にちぎょう;法諱・発心院、日蓮僧) B 3 3 3 7
法身院准后(ほっしんいんのじゅごう) → 満濟(まんさい/まんせい、真言僧/歌) 4 0 3 6
勃叟(ぼつそう・前田) → 良能(りょうのう・前田、俳人) J 4 9 2 2
勃窣(ぼつそく・松木) → 淡々(たんたん・松木/曲淵、渭北、俳人) 2 6 9 4
勃窣散人(ぼつそくさんじん) → 篁洲(こうしゅう・榊原さかきばら、漢学者/詩) 1 9 1 1
勃窣子(ぼつそくし) → 竺源(じくげん;道号・玄獅;法諱、臨濟僧) Q 2 1 3 9
- E3969 **発中**(ほつちゅう) ? - ? 俳人:1716沾徳点「豆腐百韻」参加
勃父(ぼつふ) → 良能(りょうのう・前田、俳人) J 4 9 2 2
北方(ほっぽう) → 之道(しどう・槐本、俳人) F 2 1 2 4
勃々庵(ぼつぼつあん) → 良能(りょうのう・前田、俳人) J 4 9 2 2
秀真(ほつま・会田/越谷) → 吾山(ござん・会田/越谷、農家/俳人) C 1 9 6 6
- G3903 **穂積**(ほづみ・久松ひさまつ) ? - ? 近江甲賀郡信楽代官多羅尾(氏純)家の家臣、
国学;本居大平門、大平撰「八十浦の玉」下巻;氏純の供に吉野山の詠歌入、
同家臣の加藤直良・吉住千茂・藤尾為徳と同行、
[吉野山けふのよき日にのぼり来て桜の花を見らくしよしも](八十浦;754)
- G3926 **穂積**(ほづみ・津田つた、正生まさなり男)?-1882 尾張海東郡の酒造業の家/国学・地誌;父門、
歌人;橋守部門、神職;海東郡の宇治手力雄命社祠官
[穂積(;)の通称/号]通称;三輪助(父の称)、号;水穂部
穂積(ほづみ・荻田;変名) → 直助(なおすけ・権田ごんだ、医/国学) B 3 2 3 7
- E3970 **穂積朝臣**(ほづみのあそみ、名不詳)?-? 万葉卷十六3843平群朝臣に和す嗤笑歌、
[いづくにそ眞朱まほ掘る岡薦畳こもたみ平群へぐりの朝臣が鼻の上を掘れ](万葉集;十六3843)、
(眞朱は辰砂しんしゃで朱色の顔料にする赤土/薦畳は平群の枕詞)、

穂積老人ほづみのおきな説あり〔老人=732以前に備中掾/737左京亮/746内蔵頭〕

穂積臣(ほづみのおみ・杉原/御巫)→清直(きよなお・御巫みかんなぎ、神職/歌) D 1 6 4 3

- 3969 穂積皇子(ほづみのみこ、天武天皇第5皇子) 643?-715 73? 母;蘇我赤兄女の大薙娘おおぬのいらつめ、692浄広式/702作殯宮司/705二品;知太政官事/706(慶雲3)右大臣に準じ季禄/715一品、坂上郎女の前夫、但馬皇女と恋/万葉二期歌人:万葉集4首203/1513/1514/3816、114-116題/528左注/624・694・3833題、

[降る雪はあはにな降りそ吉隠よなばりの猪養かひの岡の寒からまくに](万葉;203)、
(708但馬皇女の死を悼む/あはにはは数量の多いこと)

保定(ほてい)すべて → 保定(やすさだ)
布袋(ほてい) → 雲淙(うんそう・鷹羽たかのは、藩士/詩人) B 1 2 8 6
布袋庵(初世ほていあん) → 柳几(りゅうき・横田よこた、酒造業/俳人) D 4 9 3 0
布袋庵(2世ほていあん) → 柳也(りゅうや・横田よこた、柳几男/俳人) F 4 9 8 1
布袋庵(ほていあん・脇坂) → 義堂(ぎどう・脇坂わかさか、心学者) L 1 6 6 6
布袋庵(ほていあん) → 直入(ちよくにゅう・田能村たのむら、絵師) K 2 8 3 2

- E3971 慕哲(慕詰ほつてつ;道号・竜攀りゅうはん;法諱、遠藤[遠東]師氏男)?-? 千葉氏一族、室町前期臨濟僧;建仁寺の天祥一麟門、江西竜派の弟、兄弟共に詞藻に秀づ、横川景三の「百人一首」入、1406建仁寺知足院訪問の周建[一休宗純]に詩作の法を教授、1413頃讒により北方に配流、「新編集」編

- E3972 補天(ほてん) ? - ? 大阪俳人;来山門?、1690鬼貫「俳諧 大悟物狂たいごものぐるい」(鉄卵の命日の鬼貫興行歌仙に7句入)、1691賀子「蓮実」1句入、[水仙やせまくて広き花に勢せい](蓮実;380/葉と花の対照)

- E3973 甫天(ほてん;道号・俊昶しゅんちやう;法諱)?-? 江戸の曹洞僧;雲紫越璋門/法嗣/江戸保善寺15世、1808「金剛経和解不能語」の出版に尽力、1813「尊宿喪行式並中陰行事之次第」編

保腆(ほてん・浅田) → 保腆(やすよし・浅田あさだ、藩士/歌人) F 4 5 1 3
甫田(ほでん・長井) → 雅楽(うた・長井ながい、藩士/開国論) D 1 2 0 0
甫道(ほどう・坂本) → 純庵(じゅんあん・坂本、藩医者/本草) M 2 1 0 8
保道(ほどう・村井) → 白扇(はくせん・村井、商家/俳人) D 3 6 5 2
輔道(ほどう・大中臣) → 輔道(すけみち・大中臣おおなかとみ、廷臣) D 2 3 0 6
甫濤涯(ほとうがい) → 巴文(はぶん・松村、俳人) F 3 6 6 1
保童坊(ほどうぼう) → 貞徳(ていとく・松永、歌/俳人) 3 0 0 8
保篤(ほとく・賀茂) → 保篤(やすあつ・賀茂/加茂/幸徳井、天文暦学) 4 5 9 0
保徳(ほとく・竹内) → 保徳(やすのり・竹内たけうち、幕臣/外交) C 4 5 6 7
輔徳(ほとく・不破/新井) → 輔徳(すけのり・新井/不破、藩士/儒者) G 2 3 9 5
輔徳(ほとく・伊東) → 祐賢(すけかた・伊東いとう、藩士/教育) L 2 3 2 8

- E3974 恵(忠ほとこす・源みなもと、弼たすく男)?-931 平安前期廷臣;主殿助とのものすけ/信濃守/治部大輔、丹波守/正五下、歌;古今集463、歌人大輔たいふの兄弟、

[秋くれど月の桂の実やは成るひかりを花とちらすばかりを](古今;物名463/詞書;桂宮)

- F3978 時鳥(ほととぎす;組連) ? - ? 武蔵三田の雑俳の組連/取次;1748「筑丈評万句合」入、取次例:[先づ御慶ぎよけいそして日和を誉めて行く](万句合/前句;かはりがはりに々々)、(御慶は新年の挨拶/年始回りの決文句)

- G3943 穂並(ほなみ・安田やすだ、長穂[1796-1856]長男) 1826-79 54 紀伊和歌山の商家、国学者/歌人;父門、国学・歌;加納諸平・本居内遠門、千穎ちかひ・穂末ほづえの兄、妻;箕間梅女(1830-79;歌人)、妻の没(6/16)後20日で没[1879(明治12)7/5]、[穂並(;名)の初名/通称/号]初名;御年みとし、通称;庄次郎/長兵衛、号;鶴嶼、屋号;芳屋

- G3932 秀波(ほなみ・野口のぐち、通称;愛三郎) 1836-1920 85 土佐高知藩国老家の家臣、国学者

- G3925 穂波(ほなみ・田内たのうち、) 1844- 1868 早世 25 田内千町ちまちの養子;伊勢桑名藩士、「霽月随筆」著、[穂波(;名)の初名/字/通称/号]初名;親久、字;子大、通称;主税ちから、号;霽月せいげつ

秀波(ほなみ・三浦) → 清臣(きよおみ・佐藤/高橋/大関、国学) O 1 6 6 6
穂波(ほなみ・宮下) → 良文(よしふみ・宮下みやした、国学/歌) P 4 7 4 4

穂並庵のあるじ(ほなみあんのあるじ)→ 眞婆行(まぼゆき・山旭亭さんきよくてい、商家/戯作) K 4 0 0 3

E3975 帆南西太(ほなみにした) ? - ? 狂歌作者:小石川連、1785「後万載集」2首入;

[魚の名をむざと話すなけふの雪に身をあたゝむる種が島ぞや]

慕楠堂(ぼなんどう) → 清綱(きよつな・黒田くろだ/源、藩士/歌人) U 1 6 2 7

輔仁(ほにん・輔文・藤原) → 輔仁(すけひと・輔文すけふん・藤原、廷臣/歌) C 2 3 8 7

輔仁(ほにん・深根) → 輔仁(すけひと・深根/深江/源、医者) C 2 3 8 6

輔仁(ほにん/すけひと・坂尾) → 宗吾(そうご・坂尾/日向、藩士/武術家) H 2 5 2 8

輔仁親王(ほにしんのう) → 輔仁親王(すけひとしんのう、詩歌人) C 2 3 8 8

輔仁堂(ほにんどう) → 東門(とうもん・竹内たけうち、儒/医者) H 3 1 4 6

E3976 牡年(暮年ぼねん・久米くめ/高木、名;利文、向井元升男) 1658-1727 70 叔父久米利延の養子、

長崎の町年寄/俳人、「有磯海」1691「猿蓑」96「韻塞いんふたぎ」98「続猿蓑」1702「渡鳥集」入、

[豆腐屋やつとめて月の七つおき]

[牡年(;)号)の通称/号]通称;七郎左衛門、初号;暮年(「有磯海」以前)/(以後は;)牡年、

別号;万年/知焉/道敬、向井去来・魯町の弟、

保能(ほのう・星野) → 保能(やすよし・星野ほしの/藤原、武家/廷臣/歌) D 4 5 4 7

E3977 圃菴(ほく) ? - ? 美濃の俳人;1698「続猿蓑」2句入、

[蒲公英たんぽぽや葉にはそぐはぬ花ざかり](続猿蓑;卷下)

保美(ほび・安斎) → 保美(やすよし・安斎あんざい、名主/歌人) F 4 5 2 4

邦彪(ほびょう・阿保) → 邦彪(くにたけ・阿保あほ/中川、国学者) D 1 7 9 3

保武(ほぶ・藤林) → 保武(やすたけ・藤林、武芸者/忍術書編) B 4 5 8 9

保武(ほぶ・浅野) → 保武(やすたけ・浅野あさの、歌人/華/茶人) F 4 5 1 4

匍匐庵(ほふくあん) → 燕志(えんし・東とう、俳人) E 1 3 7 8

匍匐庵(ほふくあん) → 眠牛(初世めんぎゅう・増田、俳人) 4 3 5 2

匍匐庵(2世ほふくあん) → 敲石(こうせき・中村、眠牛門俳人) K 1 9 0 7

母不敬斎(ほふけいさい) → 沙山(しゃざん・土沢つちざわ、藩士/俳人) W 2 1 2 9

輔文(ほぶん・すけふん・藤原) → 輔仁(すけひと・輔文すけふん・藤原、廷臣/歌) C 2 3 8 7

輔文(ほぶん・藤原) → 輔文(すけふみ・岡田おかだ、家臣/歌人) I 2 3 2 4

甫平(ほへい・中台) → 惇(あつし・中台なかだい、藩士/儒者) E 1 0 6 2

輔平(ほへい・鷹司) → 輔平(すけひら・鷹司たかつかさ/藤原、関白) C 2 3 9 3

穂平次(ほへいじ・持田) → 近知(ちかとも・持田もちだ/平、国学者) N 2 8 6 7

保豊(ほほう・水野) → 保豊(やすとよ・水野みずの/藤原、神職/国学) G 4 5 8 2

保望(ほぼう・賀茂/岡本) → 保望(やすもち・賀茂かも/岡本、神職) D 4 5 2 2

保房(ほぼう・堀内) → 保房(やすふさ・堀内ほりうち、神職/国学) G 4 5 5 7

保宝葉園(ほほうようえん) → 政香(まさか・渡辺/源、神職/国学/歌) B 4 0 6 4

歩々斎(ほほさい) → 百堂(ひやくどう・田辺たなべ、商家/俳人) E 3 7 6 9

帆丸亭船栲縄(ほまるていせんこうじょう) → 好之(よしゆき・桑山くわやま、製造業/郷土史) H 4 7 9 9

帆丸屋清左衛門(ほまるやせいざえもん) → 好之(よしゆき・桑山くわやま、製造業/郷土史) H 4 7 9 9

誉(ほまれ・吉田) → 南涯(なんがい・吉田よしだ、医者) I 3 2 6 6

保万(ほまん・高橋) → 保万(やすたか・高橋たかはし、藩陪臣/和学) G 4 5 2 0

保民(ほみん/やすたみ・成島) → 柳北(りゅうほく・成島なるしま、幕臣/儒者) F 4 9 6 7

保民(ほみん・内池) → 保民(やすたみ・内池うちいけ/今村、歌人) F 4 5 3 9

輔民(ほみん・福島) → 輔民(すけたみ・福島ふくしま、歌人) H 2 3 8 5

穂向屋(ほむきのや) → 茂雄(しげお・竹村、農業/国学/歌) B 2 1 9 3

保命(ほめい・安倍) → 溪川(けいせん・安倍あべ、和算家) G 1 8 2 4

保命(ほめい・高橋) → 保命(やすよし・高橋たかはし/源、里正/和学) G 4 5 2 1

保命(ほめい・服部) → 栗斎(りつさい・服部はっとり、藩儒/教育) B 4 9 8 8

保明(ほめい・鷺見) → 休明(保明やすあきら・鷺見すみ、藩士/歌人) 4 5 8 8

保明(ほめい・柳沢) → 保光(やすみつ・柳沢/源、藩主/諸芸) D 4 5 1 6

保明(ほめい・田口) → 保明(やすあき・田口たぐち、国学者) 4 5 8 2

保明(ほめい・幸田/水原) → 保明(やすあきら・水原/幸田、幕臣) 4 5 8 6

- 保明親王(ほめいしんのう) → 保明親王(やすあきらしんのう、皇太子/歌合催) 4 5 8 9
 輔門(ほもん/すけかど・鳥山) → 香軒(こうけん・鳥山とりやま、詩人) G 1 9 2 6
 保弥太(ほやた・後藤) → 象二郎(しょうじろう・後藤、藩士/政治家) J 2 2 9 1
 梅干之助(ほやのすけ・歌川) → 国長(くになが・歌川うたがわ、絵師) D 1 7 0 3
- E3978 保友(ほゆう/やすとも・梶山かじやま) ?- 1703? 大坂天満榎屋町の塩問屋/鍋町住、俳人;重頼・貞徳門、
 狂歌も嗜む、初期大坂俳壇の古老、1654百韻興行、「大硯集」「根なし草」著、
 1666吉竹(可玖)「遠近えんきん集」/73「哥仙大坂誹諧師」/79?惟中「次郎五百韻」入、
 1682如扶「三ヶ津さんかのつ」97「国花万葉記」入、狂歌;1666行風「古今夷曲集」24首入、
 [法躰やわれもむかしは年男](遠近集/前書;法躰しける春に)、
 [見渡せば柳桜に都衆だてこきまぜて行ゆく東山](夷曲集;春51/華美な衣装で花見)、
 [保友(;名)の幼名/通称/号]幼名;多吉、通称;多吉郎/のち塩屋吉左衛門、
 号;宗吾居士(;剃髮号)/桃翁/海嶽菴無心子
- 保由(ほゆう・近藤) → 保好(やすよし・近藤こんどう/藤原、幕臣/歌) E 4 5 8 4
 保右(保友ほゆう・徳川/松平) → 義和(よしより・松平/徳川、藩主/日記) I 4 7 0 5
 保右(ほゆう → やすすけ・加藤) → 琵琶彦(びわひこ・便々館、商人/狂歌) 3 7 3 1
 保佑(ほゆう・戸板) → 保佑(やすすけ・戸板/多々良/多、和算/改暦) B 4 5 7 2
 保祐(保佑ほゆう・田中) → 保祐(保佑やすすけ・田中たなか、歌人) B 4 5 7 4
 甫祐(ほゆう・南小柿) → 寧一(やすかず・南小柿みながき/南、藩医) B 4 5 1 2
 保庸(ほよう・服部) → 寛斎(かんさい・服部はっとり、幕臣/儒) H 1 5 5 8
 慕庸軒(ぼようけん) → 観山(かんざん、茶人) Q 1 5 7 7
 保羅(ほら;受洗名) → 迂堂(うどう・眞山まやま、儒者/地理) D 1 2 2 0
 甫羅庵(ほらあん) → 五始(ごし・中島なかじま、俳人) C 1 9 7 5
- F3963 歩来(ほらい) ? - ? 備後の俳人;1769蝶夢「己丑墨直し」入
- E3979 暮来(ぼらい・岡崎おかざき) 1746- 181267 三河大島の俳人/名古屋住/1791岐阜に移住、
 南越奥羽行脚/美濃美江寺・黒野に移住:美濃派安田以哉坊門、以哉派8世(白寿坊の後継)、
 1795「枝折集」編/1801「さくら塚集」、「大垣鶏旦」編/「接穂の花」著、
 [暮来(;号)の別号] 風廬坊/以雪庵/無別仙/花外人/白哉/百哉はくさい/麓庵/蝸庵ちようあん
- E3980 浦里(ほり・高楊たかやなぎ/初姓;江口、名;栞) 1766-182055 肥前の儒者:古賀精里門、
 佐賀藩校弘道館教授/支藩小城藩賓師;藩侯・藩士を教育、「浦里詩文集」、
 [浦里(;号)の字/通称]字;子通、通称;庭次郎
- 保利(ほり・鷹見) → 保利(やすとし・鷹見たかみ/南条、商家/歌) G 4 5 2 2
 堀池僧正(ほりいけのそうじょう) → 信証(しんしょう;法諱、真言僧;僧正) O 2 2 8 6
- E3981 堀河(ほりかわ・摂政家せつしょうけの) ?- ? 平安後期摂政藤原忠通[1097-1164]家女房、
 1126「摂政左大臣家歌合」/28「西宮歌合」、金葉集470、
 [契りおきし人もこずゑの木の間にたのめぬ月の影ぞもりくる](金葉集;八恋470)、
 (詞書;暮れに必ずと約束した人は来ないで二十日の月が出た)
 待賢門院堀河と同一説あり → 堀河(ほりかわ・待賢門院) E 3 9 8 2
- E3982 堀河(堀川ほりかわ・待賢門院、前斎院[宮]六条、源頭仲女、伯卿女[伯女]) ?-? 平安後期;女房歌人、
 鳥羽皇妃璋子の女房、1142待賢門院璋子に従って出家、歌人;1150久安百首出詠、
 家集「待賢門院堀河集」、西行と交流、後葉集・続詞花集12首・山家集・今鏡・雲葉集に入、
 中古六歌仙の1、
 勅撰73首;金葉(6首119/187/218以下)詞花(63/314)千載(15首)新古(2首)新勅(5首)以下、
 [長からむ心もしらず黒髪の乱れて今朝はものをこそ思へ](千載802;久安百首より)
 [新院(崇徳院/1119-64) 人々に百首歌めしけるに、
 宿毎の妻にひかるるあやめ草たが夜殿よどのにかねはとまるらん]、
 (続詞花;夏134/久安百首1027)、
 [崇徳院くらみの御時(在位1123-41) 仁和寺に九月に行幸ありてくらべむまありけるに、
 菊契千秋といふ事を、
 雲の上の星かとみゆる菊なればそらにぞ千代の秋はしるらし](雲葉;賀894)
 ☆摂政家堀河(金葉歌人)と同一? → 堀河(ほりかわ・摂政家せつしょうけの) E 3 9 8 1

☆二条太皇太后宮堀河と同一? → 堀河(ほりかわ・二条太皇太后宮) E 3 9 8 3

☆伯女(はくのむすめ;重通妻)は姉? → 伯女(はくのむすめ;重通妻) D 3 6 7 9

- E3983 堀河(ほりかわ・二条太皇太后宮にじょうたいこうたいごうぐうの)?-? 平安後期女房/歌人、
二条太皇太后宮[白河皇女令子内親王]家女房、風雅集1965(上西門院兵衛と贈答)、
[かくばかりうつりゆく世の花なれど咲く宿からは色もかはらず](風雅;十七1965返歌)
待賢門院堀河と同一? → 堀河(ほりかわ・待賢門院) E 3 9 8 2
- E3984 堀河(ほりかわ・前太政大臣家さきのだいじょうだいじんけの)?-? 平安後期女房歌人;
前太政大臣平清盛[1118-81]家or藤原忠雅[1124-93]家女房、
歌;1170住吉社歌合参加(待宵の小侍従らと参加)、
[世を渡る道をたがへてまどふかないづれのかたにゆきかくれまし](住吉歌合;廿番140)
堀川(ほりかわ) → 宗輔(むねすけ・藤原、廷臣/舞・笛) B 4 2 4 4
堀川(ほりかわ;号) → 師継(もろつぐ・花山院/藤原、内大臣/歌) H 4 4 4 3
堀河院讚岐典侍(ほりかわいんのさぬきのすけ) → 讚岐典侍(さぬきのすけ、藤原長子、日記/歌人) 2 0 3 0
堀川院乳母(ほりかわいんのめのと) → 伊与三位(いよのさんみ・藤原兼子、歌人) B 1 1 9 2
堀河院中宮(ほりかわいんのちゅう、堀河中宮) → 皇子(こうし・藤原、円融天皇皇后/歌) B 1 9 2 3
堀河院中宮(ほりかわいんのちゅう、堀河中宮) → 篤子内親王(とくしないしんのう、歌) K 3 1 8 5
堀河院中宮上総(ほりかわいんのちゅうぐうのかずさ) → 上総(かずさ・篤子内親王家女房、歌人) C 1 5 2 2
堀河院中宮御匣殿(ほりかわいんのちゅうぐうのみくしげどの) → 御匣殿(みくしげどの・篤子内親王家女房/歌) 4 1 7 8
- E3985 堀河天皇(ほりかわてんのう、名;善仁、白河天皇皇子) 1079-1107早世²⁹ 母;皇后賢子(源頭房女)、
在位1086-1107、温厚で[末代の賢王]と称さる、管弦に長ず、
歌人;源国信・俊頼らを集め歌壇を形成:
「堀川院御時百首和歌」/1102「堀河院艶書けそらぶみ合」催、「堀河天皇御記」「兩帝百首御製」著、
郁芳門院の兄弟/鳥羽天皇の父、寂超「後葉ごよう集」入/清輔[続詞花集]入、
勅撰9首;金葉(43/305/314/560)千載(611)新古(383)続後撰(1139)続古(230/1405)、菟入
[よそにては岩こす滝と見ゆるかな峰の桜や盛りなるらむ](金葉集;一春43)
- E3986 堀河殿(ほりかわどの、右大臣藤原俊家[大宮右大臣]女)?-? 母;高階順業女、基俊と同母の姉妹、
平安後期歌人:1093郁芳門院根合参、1094(寛治8)白河上皇[鳥羽殿九月十三夜和歌]参加、
[ふたこゑとなどかきなかぬ時鳥さこそ短き夏の夜ならば](郁芳門院根合;二番左5、
続詞花集には藤原基俊とあり基俊が堀河殿の代詠をしたか)
[池水にこよひの月をやどしもて心のままにわがものとみる](鳥羽殿九月十三夜;御製、
実は堀河殿の作で秀逸として白河上皇が自分の歌とした逸話;袋草紙入)
堀河殿(ほりかわどの) → 基経(もとつね・藤原ふじわら、撰関) 4 4 1 6
堀河殿(ほりかわどの) → 兼通(かねみち・藤原、関白/歌) 1 5 7 6
堀河殿(ほりかわどの) → 経忠(つねただ・近衛/藤原、関白/左大臣/歌) C 2 9 4 1
堀河右大臣(ほりかわのうだいじん) → 頼宗(よりむね・藤原、右大臣/歌人) J 4 7 8 1
堀川関白(ほりかわのかんぱく) → 道嗣(みちつぐ・近衛このえ/藤原、関白) B 4 1 8 6
堀河関白太政大臣(ほりかわのかんぱくだいじょうだいじん) → 兼通(かねみち・藤原) 1 5 7 6
堀河宰相(ほりかわのさいしやう) → 家親(いえちか・中山、廷臣/歌人) 1 1 4 0
堀河前関白左大臣(ほりかわのさきのかんぱくさだいじん) → 経忠(つねただ・近衛/藤原、歌) C 2 9 4 1
堀河左大臣(ほりかわのさだいじん) → 俊房(としふさ・源/藤原、左大臣/詩歌) 3 1 4 9
堀河[堀川]左大臣(ほりかわのさだいじん) → 顕光(あきみつ・藤原、左大臣/歌) C 1 0 5 9
堀河太政大臣(ほりかわのだいじょうだいじん) → 基経(もとつね・藤原、撰関) 4 4 1 6
堀河太政大臣(ほりかわのだいじょうだいじん) → 兼通(かねみち・藤原、関白/歌) 1 5 7 6
堀川大納言(ほりかわのだいなごん) → 定房(さだふさ・源みなもと、廷臣/歌人) C 2 0 3 9
堀河大納言(ほりかわのだいなごん) → 通具(みちとも・源、廷臣/歌人) 4 1 1 2
堀河中宮(ほりかわのちゅうぐう) → 皇子(こうし・藤原、円融天皇皇后/歌) B 1 9 2 3
堀河中宮(ほりかわのちゅうぐう、堀河院中宮) → 篤子内親王(とくしないしんのう、歌) K 3 1 8 5
堀川中納言(ほりかわのちゅうなごん) → 朝光(あさみつ・藤原、歌人) 1 0 4 8
堀河中納言(ほりかわのちゅうなごん) → 経忠(つねただ・藤原ふじわら、廷臣/歌) C 2 9 4 0

堀河中納言(ほりかわのちゆうなごん)→光雅(みつまさ・葉室/堀河/藤原、廷臣/記録) E 4 1 8 2

E3987 **堀河女御**(ほりかわのによご、名;藤原延子えんし、藤原顕光女)?-1019 母;村上天皇皇女盛子内親王、
小一条院敦明あつあきら親王妃(御息所)、敦貞親王の母、1017道長を恐れ夫の親王が東宮退位、
その後夫の寵愛が道長女寛子に移り悲嘆して没/伝説;父顕光と共に悪霊として崇る、
歌人:勅撰3首;後拾遺990/991・続古今1315、承香殿女御元子げんし(一条天皇女御)の妹、
[雲居まで立ちのぼるべき煙けぶりかと思ひのほかにもあるかな](後拾遺;十七990)
(夫が東宮を退位した時の嘆きの歌/雲居は天皇の位を暗示)

父 → 顕光(あきみつ・藤原、兼通男/左大臣/歌) C 1 0 5 9

姉藤原元子 → 承香殿女御(じょうきやうでんのによご、一条天皇女御) G 2 2 1 0

小一条院 → 敦明親王(あつあきしんのう、三条天皇皇子) 1 0 1 9

堀池の僧正(ほりけのそうじょう:徒然草)→良覚(りやうかく、天台僧/歌人) G 4 9 8 5

F3975 **母笠**(ぼりゅう) ? - ? 江中期江戸俳人;沾洲座点者、

1754竹翁「誹諧童の的」点句入(185-192)

暮柳舎(初世ぼりゅうしゃ) → 希因(きいん・和田、俳人) 1 6 7 6

暮柳舎(2世ぼりゅうしゃ) → 後川(ごせん・小寺/和田、希因男、俳人) B 1 9 5 7

暮柳舎(3世ぼりゅうしゃ) → 車大(しゃだい・黄山舎、俳人) G 2 1 4 5

甫良(ぼりょう・山本) → 楽艾(らくがい・山本やまと、儒者;韻鏡学) B 4 8 0 8

E3988 **暮蓼**(ぼりょう・菱田ひしだ、通称;平右衛門、初号;季由) 1765-1811 47 丹波篠山の富豪/俳人;

1783維駒これこま「五車反古ごしゃほうぐ」1句入、

[水鳥の水にしたしき古江哉](五車反古;巻尾467)

保隣(ほりん・摂津) → 安隣(やすちか・摂津せつ、国学者/歌人) G 4 5 1 2

慕藺(ぼりん・狩野) → 光信(みつのぶ・狩野かのう、絵師) E 4 1 3 4

愧然主人(ほれほれしゅじん) → 雲水(うんすい・頭陀楽、滑稽本作者) B 1 2 8 5

愧然堂夢囈(ほれほれどうむげい) → 雲水(うんすい・頭陀楽、滑稽本作者) B 1 2 8 5

浦連斎(ほれんさい) → 巖包(いしかね・柳生やぎゅう、連也斎、剣客) J 3 1 4 6

蒲盧窩(ほろか) → 学古(がくこ・円山/丸山まるやま、医/儒者) J 1 5 7 7

暮露十蔵(ぼろじゅうぞう) → 南溪(なんけい・名越なごや、藩士/儒者) I 3 2 8 3

蒲盧亭(ほろてい) → 蚕臥(さんが・沢田さわだ、俳人) L 2 0 8 6

保和(ほわ・荒木) → 又衛門(またえもん・荒木あらし、剣客) J 4 0 3 2

凡(ぼん・蒔田) → 雲処(うんしょ・蒔田まきた、詩文/仏道) D 1 2 8 1

E3989 **本阿**(ほんあ、法師) ? - ? 僧、連歌;菟玖波集1句入、

[夢知らぬ旅寝幾夜になりぬらん](菟玖波;1672/前句;なれまさりては寒き松風)

本阿(ほんあ;字) → 徳円(とくえん:法諱、浄土僧) K 3 1 5 0

本阿(ほんあ・直蓮社) → 祐察(ゆうさつ;法諱、浄土僧) B 4 6 8 3

梵阿(ぼんあ) → 梵阿(ぼんあ、時宗僧/連歌師) F 3 9 5 6

梵阿(ぼんあ) → 快台(かいだい・太一庵、俳人) I 1 5 9 2

E3990 **笨庵**(ほんあん・内藤ないとう、名;公基、里正内藤栄久男) 1787-1853 67 越後三島郡西越村船橋の生、

父の命で1800(14歳)出家;のち還俗/1806江戸で儒者:亀田鵬斎門、1820帰郷;講説業、
門人多数、「笨庵詩稿」著、

[笨庵(;号)の字/通称/別号]字;伯温、通称;滋之丞しげのじょう/虎三郎/甚三郎/藤三郎、
別号;鍾山しやうざん

本庵(ほんあん・松田) → 竹里(ちくり・松田まつだ、藩医/詩文) D 2 8 9 2

梵意(ぼんい;法諱) → 柏堂(はくどう;道号・梵意、臨濟僧) D 3 6 6 8

E3991 **凡一**(ぼんいち・小池こいけ) ? - ? 平曲一方流音曲家;1634「当道式目」制定参画(;孝一と)

本一上人(ほんいつしやうにん) → 実顕(じつけん;法諱、天台園城寺僧) B 2 1 5 6

本蔭(ほんいん・黒川) → 春村(はるむら・黒川、商人/狂歌/国学) 3 6 3 8

本蔭(ほんいん・高橋) → 本蔭(もとかげ・高橋たかはし、国学/歌人) K 4 4 3 9

本院(ほんいん) → 時平(ときひら・藤原、廷臣左大臣) 3 1 3 6

本院右京(ほんいんのうきやう) → 右京(うきやう・本院、女房:歌人) 1 2 1 2

本院大臣(ほんいんのおとど) → 時平(ときひら・藤原) 3 1 3 6

本院北方(ほんいんのきたのかた)→ 敦忠母(あつただのはは・藤原、時平室) B 1 0 3 2
 本院蔵(ほんいんのくら、左近)→ くら(本院蔵、女房:歌人) B 1 7 0 7
 本院左大臣(ほんいんのさだいじん)→ 時平(ときひら・藤原) 3 1 3 6
 本院侍従(ほんいんのじじゅう)→ 侍従(じじゅう・本院、女房:歌人) D 2 1 9 0
 本院中納言(ほんいんのちゅうなごん)→ 敦忠(あつただ・藤原・枇杷中納言) 1 0 2 1

- E3992 **本院兵衛**(ほんいんのひょうえ) ? - ? 平安中期本院に出仕の女房、藤原師尹もろまさと恋/歌;後撰集738、本院左大臣藤原時平女の本院御息所(保明親王妃仁善子;945没)の女房か、一説に右大臣藤原顕忠家の女房(勅撰和歌作者目録)、[春をだに待たで鳴きぬる鶯はふるすばかりの心なりけり](後撰集;十一恋738)、(師尹のへの返歌/古巢と古す[古くする;捨てる]の掛詞)
- E3993 **本因坊元丈**(ほんいんぼうげんじょう、宮重八郎左衛門男)1775-1832⁵⁸ 江戸の棋士/1798跡目;御城碁に出仕、1809本因坊11世を継承、準名人、同年代の安井仙知と伯仲;共に名人位を望まず、1827隠居、1822「古碁枢機」、丈策の父、[本因坊元丈(;通称)の号]初号;楽山、法号;日眞
- E3994 **本因坊算砂**(ほんいんぼうさんさ、法諱;日海、俗名;加納与三郎)1559-1623⁶⁵ 京長者町の生、日蓮僧;寂光寺日淵門;剃髪/寂光寺塔頭の本因坊住、碁:仙也門、信長に出仕;名人の称、秀吉に出仕;扶持を受け碁打衆筆頭の朱印状を受領、家康に出仕;本因坊(初世)を名乗る、江戸で碁将棋所とされ終身3百石を受領、加賀藩主前田利常に出仕;金沢本行寺を開創、臨終に際し碁所を門弟中村道碩に託す/法印、1597「本因坊定石作物」編、1605「本因坊算砂大福帳」07「囲碁定石」「碁経」、秀次「謡抄」編纂参加、[碁なりせば劫こうを立てても生くべきに死ぬる道には手もなかりけり](古今夷曲集;九)(詞書「臨終に、碁打なりければ」、ただし醒睡笑四には美濃の野瀬の作とある)、[本因坊算砂(;通称)の号] 本行院ほんぎょういん/信行院
- E3995 **本因坊秀策**(ほんいんぼうしゅうさく、桑原輪三男)1829-62³⁴ 備後因島の棋士、本因坊14世跡目:12世本因坊丈和門、「耳赤の一手」で有名、1848御城碁;19勝無敗、碁聖の称を得る、「囲碁十訣」著、碁盤銘「慎始克終神明無惑」
- E3996 **本因坊秀和**(ほんいんぼうしゅうわ、姓;土屋、名;俊平/恒太郎)1820-73⁵⁴ 伊豆下田の棋士、1828(9歳)本因坊丈和門、40本因坊丈策の跡目継承;井上因碩11世との争碁第一局勝利、準名人/1847本因坊14世継嗣/59名人碁所願提出;幕府多難の時期で棚上、1854「棋醇」著、[本因坊算砂(;通称)の法号] 日悦果位、秀悦・秀栄・秀元(のち共に本因坊を継嗣)の父
- E3997 **本因坊丈策**(ほんいんぼうじょうさく、宮重岩之助、法号;日秀、本因坊元丈男)1803-47⁴⁵ 江戸の棋士、1834本因坊丈和の跡目継承/39本因坊13世継嗣、上手(7段)、因碩に対し秀和を立て争碁、1841「古今衆秤」著
- E3998 **本因坊丈和**(ほんいんぼうじょうわ、戸谷/葛野かどの、名;松之助、戸谷平蔵男)1787-1847⁶¹ 武蔵本庄の棋士、1819本因坊11世元丈の跡目継承/27本因坊12世継嗣/28準名人、井上因碩11世・安井仙知8世・林元美11世と名人碁所をめぐる暗闘;1831名人碁所就任、約束を果たさず3人より異議;1838寺社奉行より取調;碁所返上[天保の内証]、39隠居、「国技観光」「碁立四十番」/1834「収枰精思しゅうへいせいし」著、[本因坊丈和(;通称)の法号] 日竟悦果位、
- E3999 **本因坊道策**(ほんいんぼうどうさく、山崎三次郎、法号;日忠)1645-1702⁵⁸ 石見の棋士;江戸本因坊道悦門、1677道悦隠退により本因坊4世継嗣/名人碁所に就く、碁聖と称される、家元4家・段位を確立、「本因坊百番碁立」編、3世井上因碩の兄
- F3950 **本因坊道知**(ほんいんぼうどうち、法号;日深果位、神谷十郎右衛門男)1690-1727³⁸ 江戸の棋士;1699(10歳)本因坊道策門/師没後1702本因坊5世継嗣、師の遺言で井上因碩4世が後見、1710琉球棋士来朝時に因碩が碁所に就任(;道知に譲らず1719没)/1721名人碁所に就任、1706「伝心録」編、「碁経宝永十局抄」、「本因坊道知四拾番碁諺解」編
- F3926 **梵益**(ぼんえき;法諱・釈) ? - ? 江前期撰津山崎の僧/俳人;山崎宗鑑の跡を名乗、妙喜庵に住、1661道甘「へちま草」67貞室「玉海集追加」76西鶴「古今誹諧師手鑑」入、1678西鶴「物種集」82風黒「高名集」入、

[書初めや今年壽ことぶく犬筑波] (手鑑/宗鑑撰「誹諧連歌抄;犬筑波集」)
[うぐひすがうむだとも言はじほととぎす] (高名集;何の音沙汰もない)

F3927 **本円** (ほんえん;法諱) 1301 - ? 1377存 真言僧;山城の善法律寺7世の性心門/密教を修学、さらに東寺の賢宝門、善法律寺8世、1339「灌頂印明訣」58「薬師法」64「行法義記」著、1368「灌頂義記」77「両部曼荼羅義記」、「一法界口決」「菩提心論灌頂」「瑜祇秘要訣」外多数

本円 (ほんえん;字) → 覚遠 (かくおん;法諱・本円、江戸中期真言僧) J 1 5 6 1
本応院 (ほんおういん) → 日持 (にちじ;法諱、日蓮僧) C 3 3 0 2
本音坊 (ほんおんぼう) → 本因坊算砂 (ほんいんぼうさんさ・日蓮僧/棋士)
梵嘏 (ほんか;法諱・天祐) → 天祐 (てんゆう;道号・梵嘏、臨濟僧) E 3 0 4 1
本果院 (ほんかいん) → 日朝 (にちちよう;法諱・照運、日蓮僧) F 3 3 1 3
本覚 (ほんかく・小松) → 愚山 (ぐざん・小松こまつ、藩士/漢学) C 1 7 4 1

F3940 **梵鶴** (ほんかく;法諱・貫之/貫芝かんし;道号) ?-? 常陸の曹洞宗金竜寺7世、上州矢田堀瑞巖寺開山、桐生鳳仙寺開山、1571「真歇和尚劫外録抄」、「無門関鎖解」著、

[貫之梵鶴の諡号] 広照禪師

梵萼 (ぼんがく;法諱) → 竺華 (じくか;道号・梵萼ほんがく、臨濟僧) Q 2 1 3 6
本覚 (ほんかく;字) → 道範 (どうはん;法諱・本覚、真言僧) G 3 1 9 6
本覚院 (ほんがくいん) → 道潤 (どうじゆん、天台僧/歌人) F 3 1 1 2
本覚院 (ほんがくいん) → 日英 (にちえい;法諱・英琳、日蓮僧) 3 3 6 2
本覚院 (ほんがくいん) → 日陽 (にちよう;法諱、日蓮僧) D 3 3 4 3
本覚院僧正 (ほんがくいんのそうじよう) → 良快 (りようかい;法諱、天台大僧正) G 4 9 7 0
本覚広濟禪師 (ほんがくこうさいぜんじ) → 賢谷 (けんこく;道号・宗良、臨濟僧) I 1 8 8 6
本覚国師 (ほんがくこくし) → 虎関 (こかん;道号・師鍊;法諱、臨濟僧/五山学) 1 9 2 5
本覚大師 (ほんがくだいじ) → 益信 (やくしん;法諱、真言;広沢流祖) 4 5 4 9
本覚房 (ほんがくぼう) → 日伝 (にちでん;法諱・半年僧、日蓮僧) C 3 3 8 9
本覚坊英山 (ほんかくぼうえいざん) → 堯珉 (ぎょうみん・宇都宮うつのみや、修験者/国事) T 1 6 5 7
本覚房上人 (ほんがくぼうしやうにん) → 縁忍 (えんにん、天台僧) B 1 3 2 9
本覚法印 (ほんがくほういん) → 日大 (にちだい;法諱・上行院、日蓮僧) C 3 3 7 7
本願 (ほんがん;字) → 実範 (じつぱん/じちはん;法諱、法相・真言・天台僧) V 2 1 0 4
本願上綱 (ほんがんじようこう) → 朗澄 (ろうちよう;法諱・文泉房、真言僧) 5 2 3 9
本願律師 (ほんがんりっし) → 実巖 (じつごん/じつげん;法諱、真言権僧正) U 2 1 6 8
本義院 (ほんぎいん) → 日勇 (にちゆう;法諱・存道、日蓮僧) D 3 3 3 7
本久院 (ほんきゆういん) → 日教 (にちきよう;法諱・文孔、日蓮僧) B 3 3 2 8
本休院 (ほんきゆういん) → 雍通 (てるみち・稲葉いなば、藩主/歌人) C 3 0 9 5
本教 (ほんきよう・谷) → 本教 (もとのり・谷たに、能吏/記録) D 4 4 8 1
本教 (ほんきよう・馬田) → 本教 (もとのり・馬田うまだ、国学者) J 4 4 3 8
本行院 (ほんぎよういん) → 日堯 (にちぎよう;法諱、日蓮僧) B 3 3 3 3
本行院 (ほんぎよういん) → 本因坊算砂 (ほんいんぼうさんさ、初世本因坊、日蓮僧/棋士) E 3 9 9 4
本教々舎 (ほんきようきやうしゃ) → 鶯谷 (おうこく・亀田かめだ/鈴木、儒者) C 1 4 1 3
梵峯 (ぼんぽんざん;法諱) → 雪岑 (せつしん;道号・梵峯;法諱、臨濟僧/聯句) L 2 4 1 1
本空 (ほんくう;字) → 孝順 (こうじゆん;法諱・本空;字、真言僧) J 1 9 6 2
翻空 (ほんくう;号) → 俊鳳 (しゆんぼう;字・妙瑞;法諱、浄土僧) L 2 1 8 9

F3928 **凡化** (ほんげ・中沢なかざわ) ? - ? 江戸後期信濃長野の俳人:猿左の大門丁連に属す、1800「鬼やらひ」編、[凡化(;号)の通称]緑之助ろくのすけ/池田屋六右衛門

F3929 **梵桂** (ぼんけい;法諱・維馨いけい;道号、号;東蘆/泰雲) 1404-9087 京の臨濟僧;相国寺元容周頌門、等持寺住持/1462相国寺72世/67同寺再住:兵乱で伽藍焼失;復興に尽力/78同寺三住、1473-81相国寺鹿苑院主及び僧録職を兼任、相国寺三住後は北山鹿苑寺住持、1488相国寺大智院に隠棲、「東蘆吟稿」著

F3930 **梵珪** (ぼんけい;道号・元璋げんしよう;法諱) ?-1744 播磨飾磨郡野里村の黄檗宗雲松寺実伝道鈞門、1699嗣法/宝永1704-11頃雲松寺5世、須加印村常福寺住持、1713「姫路西国三拾三所観音巡之歌」、「播州西国三拾三所詠歌」著

- 本元(ほんげん;法諱) → 元翁(げんのう/げんおう;道号・本元、臨濟僧)M 1 8 1 1
 本源院(ほんげんいん) → 日然(にちねん;法諱・湛如、日蓮僧) D 3 3 1 0
 本源自性院(ほんげんじしやういん) → 信尋(のぶひろ・近衛、関白/書/連歌) D 3 5 0 9
 本源禪師(ほんげんぜんじ・勅諡) → 鉄庵(てつあん・道生、臨濟僧/詩) C 3 0 1 3
 本虎(ほんこ・ほんとら) → 金鴈堂本虎(きんがんどうほんこ、俄師) H 1 6 7 8
 F3931 **本孝**(ほんこう;法諱) ? - 1695 常陸の天台僧/江戸下谷養玉院・常陸勝玉寺住職、
 1689信濃善光寺別当兼大勸進;善光寺復興に尽力、法印/大僧都、「靈宝目錄」著
 F3932 **本光**(ほんこう;法諱・瞎道かつどう;道号、号;求寂、俗姓新井)1710-7364 武州曹洞僧;指月慧印門/法嗣、
 川崎養光寺・山形東林寺・武州安盛寺住持、師指月の著書編纂刊行、1743「以呂波」著、
 1746「野狐変」、「鳥飛魚行」、「三種墮」、「錯不錯」、「破木杓」、「本光和尚七種参註」外著多数
 F3933 **本高**(ほんこう;法諱・風外ふうがい;道号、号;好幽、俗姓;平)1779-184769 伊勢度会郡南島押淵村の生、
 曹洞僧;1787(9歳)伊勢円珠院の安山泰隠門;出家/宇治興聖寺の玄楼奥竜門;嗣法、
 1818大阪円通院を住持/34三河香積寺を住寺/41豪商川勝家別荘の鳥鵲楼に隠棲、
 絵師;月儼・池大雅門/[画僧風外]として活躍(落款筆形から[たこ風外]と称される)、
 1840「碧巖録耳林鈔」42「学道邪正明鑑」、「三法鼎足談」、「鉄笛倒吹講話」、「高閑録」著
 本光(ほんこう;字) → 瑞宝(ずいほう;法諱・幽篁;号、真言僧) F 2 3 0 1
 本江(ほんこう・深尾) → 独笑(どくしょう・深尾ふかお、領主/儒者) W 3 1 2 1
 本孝(ほんこう・磯野) → 本孝(もとたか・磯野いその、藩士/系譜制作) C 4 4 8 4
 本孝(ほんこう・田中) → 本孝(もとたか・田中たなか、商家/歌人) C 4 4 8 6
 本孝(ほんこう・飛鳥) → 本孝(もとたか・飛鳥あすか、国学・歌人) J 4 4 1 0
 G3914 **本光院**(ほんこういん、左大臣三条実治女)?-1708 母;今出川公規女、三条公兼・公充の姉妹、
 近江彦根藩主井伊直通なおみち(1689-1710)の正室、歌人
 本光院(ほんこういん) → 日如(にちにょ;法諱・本寂院、日蓮僧) D 3 3 0 3
 本光院(ほんこういん) → 温子(あつこ・伊達だて/渡辺、側室/歌) H 1 0 9 1
 本光院(ほんこういん) → 景通(かげみち・稲葉いなば、藩主/藩中興/歌) W 1 5 1 8
 本行院(ほんこういん) → 頼該(よりかね・松平、藩士/宗教家) I 4 7 5 4
 弄毫軒(ほんごうけん) → 常信(つねのぶ・狩野かのう、絵師/鑑定/歌) D 2 9 0 2
 本光国師(ほんこうこくし) → 崇伝(すうでん;法諱・以心;道号、臨濟僧/幕政参画) 2 3 0 5
 F3934 **本郷式部**(ほんごうしきぶ) ? - ? 江戸の悟道講説者;
 1811平田篤胤が詰問状送付;「悟道弁」下巻入
 本康親王(ほんこうしんのう) → 本康親王(もとやすしんのう、記録/歌人) E 4 4 5 1
 本昆(ほんこん・寺島) → 白也(はくや・寺島てらしま、大庄屋/俳人) D 3 6 9 8
 本斎(ほんさい・藤林) → 宗源(そうげん・藤林ふじばやし、家老/茶人) H 2 5 1 5
 笨斎(ほんさい・富樫) → 盛正(もりまさ・富樫とがし、藩医/国学) K 4 4 6 8
 梵材(ほんさい;法諱) → 用林(ようりん;道号・梵材、臨濟僧) K 4 7 2 6
 凡山(ほんざん → ほんざん・杏) → 凡山(ほんざん・杏きやう、儒者) H 3 6 8 3
 本三位中将(ほんさんみのちゆうじやう) → 重衡(しげひら・平たいら、武将/歌人) C 2 1 9 2
 本之(ほんし・建部) → 山比子(やまひこ・建部たけべ、書家/歌人) E 4 5 2 3
 本資(ほんし・橋本) → 本資(もとつぐ・橋本はしもと、神職/歌人) K 4 4 9 7
 F3992 **本実**(ほんじつ・黄文/黄書きみ、姓かばね;造みやつこ)?-? 大和飛鳥期廷臣;官吏、高句麗からの渡来人の裔、
 高句麗系絵師団に属し技術・絵師を家職とす、鑄銭司・殯宮司を歴任、
 671水臬みずかほ(建築用水準器)を献上、
 遣唐使人;唐の普光寺で仏足石図を写し平城右京の禪寺に納む(;薬師寺仏足石銘)、
 高松塚・キトラ古墳壁画に関与か、黄文造は684(天武12)黄文連に改姓
 F3936 **本実**(ほんじつ;法諱) ? - ? 1418存 日蓮僧;1418「連名起請文」を京の妙本寺の入
 本実坊(ほんじつぼう;号) → 亮桓(りやうかん;法諱・本実坊、天台僧) G 4 9 9 1
 F3937 **本寂**(ほんじやく;法諱・慧等えとう;字、誠空道意男)1682-173453 和泉広瀬郡五々所村の真言僧、
 幼児期に河内教興寺慈妙門/1693(12歳)胎蔵界の灌頂を受/1694浄厳より金剛界灌頂を受、
 1720久留米東林寺2世(;慈妙より付嘱)、「密軌問辨啓迪発探」著、[本寂の初法諱]智寂
 本寂(ほんじやく;字) → 無等(むとう;法諱・本寂;字、真言僧) 4 2 9 5

- 本寂(ほんじやく;字・華園)→ 撰信(せつしん・華園はなぞの、真宗僧) L 2 4 1 2
 本寂院(ほんじやくいん) → 日如(にちにょ;法諱・本光院、日蓮僧) D 3 3 0 3
 本種(ほんしゅ) → 日從(にちじゅう;法諱、茂蘭、日蓮僧) C 3 3 2 0
 本樹(ほんじゅ・佐藤) → 鶴城(かくじょう・佐藤、医者/国学) K 1 5 0 6
 本種院(ほんしゅいん) → 日陽(にちよう;法諱、日蓮僧) D 3 3 4 4
 本寿院(ほんじゅいん) → 日悦(にちえつ;法諱、日蓮僧) 3 3 6 9
 本寿院(ほんじゅいん) → 歌(うた・大森おおもり、松平不昧母/歌人) E 1 2 6 0
- F3938 **本秋**(ほんしゅう・杉岡すぎおか)? - ? 江前期大阪談林の俳人、
 1673西鶴「生玉万句」第七・月の発句入、1677以仙(益翁)「難波千句」梅百韻入、
 1678友雪「大坂檀林桜千句」参加、80以仙「大坂八百韻」4吟百韻(益翁/益友/素敬と)入、
 [須弥山の南の坊の月見かな](生玉万句;月発句、日本は須弥山南の南瞻部州にある、
 生玉の社僧「南の坊」に言掛る)
- F3939 **本宗**(ほんしゅう;道号・祖陳そちん;初法諱、丸高屋八左衛門男) 1673-174775 阿波徳島臨濟僧;
 1684観潮院春谷温公門;出家/経録を修学/1687慈光寺の梁巖門、1693観潮院住持、
 のち伊勢長寿寺転住/1698京妙心寺入、晩年は空華庵に隠棲、七条寿庵と親交、詩人、
 「雲臥紀譚輯略」著、
 [本宗祖陳の別法諱]珍公/慈峰じほう
- F3944 **本秀**(ほんしゅう;道号・幽蘭ゆうらん;法諱、俗姓;木村)?-1847 但馬出石郡の曹洞僧:10歳で智嶽門、
 出石郡楽音寺で出家、同郡見性寺の元暁門;嗣法/のち見性寺住持、
 1839「洞上正宗訣」編/41「永平正宗訓」、「教授戒文略解」
 本秀(ほんしゅう・佐々木) → 露秀(ろしゅう・佐々木、妓楼主人/俳人) B 5 2 6 7
 本修(ほんしゅう・谷) → 麓谷(ろくこく・谷たに、儒者/詩人) 5 2 8 0
 本洲(ほんしゅう;法諱) → 鸞洲(らんしゅう;法諱、浄土僧/アイヌ教化) C 4 8 6 1
- F3941 **本重**(ほんじゅう) ? - ? 江戸狂歌;1782「狂歌若葉集」入
 本住(ほんじゅう・正木) → 本住(もとずみ・正木まさき/平、歌人) I 4 4 8 9
- F3942 **凡十**(ほんじゅう・串田くじだ、名;定頼、定敬男) 1748-183184 安藝広島藩士;1767勘定所見習/侍士、
 俳人:風律門、一時期大阪住/多賀庵十哲の1、1787「つかのま日記」/1825「老悟句叢」、
 肥前の若翁と交遊、1774二柳「氷餅集」88車蓋「桃の白み」入、
 [元日や我がとしを人に誉らるる] («老悟句叢」/喜寿)
 [凡十(;号)の別号] 悟亭・大吉庵、法号;老悟院
 本住院(ほんじゅういん) → 日選(にっせん;法諱・文夙、日蓮僧) E 3 3 7 6
- F3943 **本純**(ほんじゆん;法諱・守篤しゅとく;字/号;庵園、本姓;滝) 1702-6968 駿河府中の天台学僧、
 1713(12歳)駿河智満寺純庸門;出家、比叡山で修行/天台学;安楽律院の光謙[靈空]門、
 武蔵入間郡仙波の喜多院で学徒を教導、「母溪集」「大部四教儀籤録」「二界増減辯」、
 「起信裂網疏籤録」「山家式論逃責」「大部四教儀籤録」「維摩経玄疏籤録」外著多数
- G3922 **本淳**(ほんじゆん;法諱・佐々木まさき、)?-? 江後期;越前福井の真宗本願寺派真宗寺住職、
 国学・歌;橘曙覧(1812-68)門
- 3972 **梵舜**(ほんしゆん;法諱、吉田兼右かねみぎ男) 1553-163280 吉田神道家/出家;臨濟僧、
 豊国神社創建に関与、創建後は神宮寺別当として運営に当る、家康に招聘され神道を講ず、
 家康を吉田神道葬法で久能山に葬る、神道書・古典文学・歴史書の書写・校合、歌を詠む、
 日記「梵舜旧記」/「宗源妙行」「日本書紀神詠歌集」「日本書紀神代卷抄」「八雲口決抄」著、
 [梵舜の号]神龍院/龍玄、吉田兼見かねみの弟
 梵淳(ほんしゆん;法諱) → 朴中(はくちゅう;道号・梵淳、臨濟僧) D 3 6 5 8
- F3945 **本初**(ほんしょ/ほんじょ;法諱・密門;字、俗姓;篠原) 1719-8870 阿波那賀郡真言僧:神応寺宥寛門;出家、
 1740高野入山/北室院住;安祥寺流・幸心流・中院流等を伝受、1756高野山円通寺10世、
 1760大和吉祥寺・68大和久米寺東塔院を兼務、「七曜凌逼考」「護摩正行表白」「笑醉論」、
 「曼荼羅鈔随聞記」「真言宗持物図釈」「広沢西院流由来備忘鈔」「胎蔵界正行表白」外著多数
 本如(ほんじょ;法諱) → 本如(ほんじょ/ほんじょ;法諱、法師/歌人) 3 9 7 4
- F3946 **梵初**(ほんしょ;法諱) ? - ? 室町中期曹洞僧:入宋、
 長門大寧寺創建の智応永宗の伝を編纂;「智翁和尚行状」著

- F3947 **梵怒**(ほんじょ;法諱、幼名;弥一丸、小槻[壬生]晴富男)?-? 戦国期1469-1528頃臨濟僧:惟久聖松門、南禪寺で修学、1508「梵怒記」著
- F3948 **本照**(ほんしょう;法諱) ? - ? 南北期京祇園社の社僧?
連歌:1343頭詮けんせん「祇園社法楽百韻」参加、菟玖波集2句入、
[月かすむ小夜の半の鐘きゝて](菟玖波;一49/前句;春も末なる東路の山)
- F3949 **本照**(ほんしょう;法諱、幼名;田鶴丸、広幡忠壽男)1804-7774 京の真宗僧、
1819(文政2)越前足羽郡市波村の本向寺16世、
歌人:「わかたつ杣」著、1861松平春嶽[古今百人一首]入、
[我が身も今朝迎へてはいとけなき心に似たる千代の初春](古今百人一首;70)
- 本照(ほんしょう;号) → 性瑜(しょうゆ;法諱、真言律僧) B 2 2 7 4
 本浄(ほんじょう;法諱) → 業海(ごうかい;道号・本浄、臨濟入元僧) H 1 9 8 9
 本浄(ほんじょう;字) → 蓮体(れんたい;字、真言僧/説話集) B 5 1 2 6
 本荘(ほんじょう・鶴殿) → 士寧(しねい・鶴殿うどの/村尾、幕臣/儒者) F 2 1 3 9
 本常(ほんじょう/もつね・内藤) → 丈草(じょうそう・内藤なとう、藩士/俳人) 2 2 2 5
- F3951 **梵韶**(ほんしょう;法諱) ? - ? 江中期美濃の天台僧:美濃神戸の善学院住、
敬雄(けいゆう・きょうおう、金竜道人)の侍僧を勤める、1778「張城人物誌」著
- 本昌院(ほんしょういん) → 日達(にちだつ;法諱・智閑、日蓮僧) C 3 3 8 6
 本正院(ほんしょういん) → 日妙(にちみょう;法諱・宜順、日蓮僧) D 3 3 2 6
 本定院(ほんじょういん) → 智幢(ちどう;法諱、真宗僧/詩文) E 2 8 9 5
 本乗院(ほんじょういん;号) → 慶遇(きょうぐう;法諱・眞弁、真宗僧) N 1 6 6 0
 本庄馬助(ほんじょううますけ) → 焉馬(初世えんば・烏亭うてい、落語/戯作) B 1 3 3 3
 本章閣(ほんしょうかく) → 治憲(はるのり・上杉、藩主/財政改革) G 3 6 7 1
 本松齋(ほんしょうさい) → 一得(いっとく・本松齋、華道家) B 1 1 1 6
 本性寺昭儀坊(ほんじょうししょうぎぼう) → 了意(りょうい・浅井、唱導家/仮名草子) 4 9 1 6
 本荘先生(ほんじょうせんせい) → 士寧(しねい・鶴殿うどの/村尾、幕臣/儒者) F 2 1 3 9
 本成房(ほんじょうぼう) → 日実(にちじつ;法諱、日蓮僧) C 3 3 0 6
 本乗坊(ほんじょうぼう、本乗阿闍梨) → 日澄(にっしょう;法諱、日蓮僧) F 3 3 1 0
 本水(ほんすい;号) → 宗臣(むねしげ・桑折こおり、藩家老/歌/俳人) B 4 2 4 2
 本瑞(ほんずい;字・等空) → 等空(とうくう;法諱、真言僧) C 3 1 9 2
 本生(ほんせい・松田) → 本生(もとなり・松田まつだ、藩医/歌人) L 4 4 3 9
 本成(ほんせい・岡内) → 幸盛(ゆきもり・岡内おかうち/平、医者/歌) G 4 6 7 0
 本清(ほんせい・天野) → 御民(みたみ・天野/藤原/冷泉、藩士) B 4 1 0 2
 梵清(ほんせい;法諱) → 太容(たいよう;道号・梵清、曹洞僧) L 2 6 1 5
 本清院(ほんせいいん) → 日生(にっしょう;法諱・三妙院、日蓮僧) E 3 3 3 5
 本誠院(ほんせいいん;法号) → 幾通(ちかみち・稲葉いなば、藩主/日記) B 2 8 8 7
 本是院(ほんぜいん) → 日教(にっきょう;法諱、日蓮僧) D 3 3 8 1
 本是院(ほんぜいん) → 日審(にっしん;法諱・玄諦、日蓮僧) E 3 3 5 2
 本是院(ほんぜいん) → 日貞(にってい;法諱・順我、日蓮僧) F 3 3 3 3
- F3952 **本節**(ほんせつ;通称・吉田よしだ、名;尚春)?-1767 常陸水戸藩医:1757医師、1746「痘疹諸論」、
「人參俗説辨」「麻疹俗説辨」「医々論」「服地黄論」著
- 本然(ほんぜん→ほんねん;字) → 眞源(しんげん;法諱・本然ほんねん、真言僧) O 2 2 1 9
- F3953 **梵僊**(ほんせん;法諱・竺仙じくせん;道号、徐じよ応男)1292-134857 元の明洲象山県の臨濟僧、
1329明極楚俊と渡来、北条・足利氏の帰依;1334鎌倉浄智寺住持/41南禪寺16世、
1346建長寺28世、48浄智寺楞伽院退院;没、雪村友梅・中巖円月らと「金剛幢下」結成、
五山文学興隆に尽力、「天柱集」「来々禅子文編」「来々禅子東渡集」「竺仙和尚語録」、
「続叢林公論」「梵僊尺牘」「宗門千字文」「碧巖集楞伽抄」「円覚経注」外多数、
[竺仙梵僊の号] 来々禅子/思帰叟/最勝幢
- 梵千(ほんせん;法諱) → 大顛(だいてん;道号・梵千;法諱、臨濟僧) K 2 6 7 2
 汶川(ほんせん/ぶんせん) → 梅仏(ばいぶつ・玉華亭/湊屋、俳人) C 3 6 0 5
 本膳亭坪平(ほんぜんていひら) → 坪平(つひら・本膳亭、戯作者) E 2 9 3 2

- 本惣(ほんそう) → 惣吉(そうきち・本屋ほんや、茶道具鑑定) G 2 5 7 6
 本蔵(ほんぞう・西野) → 常菴(じょうりゅう・西野/小森、儒者) L 2 2 9 3
 犇蔵(ほんぞう・市岡) → 和雄(にぎお・市岡、儒者/歌人) 3 3 1 3
 品太天皇(ほんだのすめらみこと:播磨風土記主人公)→ 応神天皇(おうじんてんのう) 1 4 2 8
 誉田屋藤吉(ほんだやとうきち)→ 藤吉(とうきち・誉田屋、書家) C 3 1 6 0
 本太郎(ほんたろう・小野) → 務(つとむ・小野、豪農/藩政改革/歌人) 2 9 9 8
 本太郎(ほんたろう・小原) → 鉄心(てっしん・小原おはら、藩士/儒詩) C 3 0 4 8
 本田原勝栗(ほんだわらのかちぐり)→ 定丸(さだまる・紀、幕臣/戯作/狂歌) C 2 0 4 4
 本地院(ほんちいん) → 日性(にっしょう;法諱・円智院、日蓮僧) E 3 3 1 9
 本地院(ほんちいん) → 日匠(にっしょう;法諱・温故、日蓮僧) E 3 3 2 3
 本智院(ほんちいん) → 日智(にっち;法諱・通本院、日蓮僧) F 3 3 0 6
 本智房(ほんちぼう) → 長覚(ちようかく;法諱、真言僧) H 2 8 6 3
 本町(ほんちよう) → 幸三(初世こうぞう・松井、歌舞伎作者) B 1 9 6 1
- 3973 凡兆(ほんちよう・野沢のざわ/宮城/越野/宮部、名;允昌/允霄)?-1714 70余歳 加賀金沢の医者、
 上京し医業/俳諧:1688頃芭蕉門、91「猿蓑」を共編(自作41句入)、師と疎遠、
 1693-1700?事に連座投獄;出獄後京払いとなり大阪住;同地没、「凡兆句集」著、
 格調清秀の句風、妻とめ(羽紅)も俳人、
 [花散るや伽藍の枢くるる落し行く](猿蓑/枢は落し戸の棧さん/夕暮寺の番僧が枢を落す)
 [市中は物のにほひや夏の月](猿蓑/芭蕉・去来との三吟歌仙の発句)、
 (脇句;あつしあつしと門々の声/芭蕉)、
 [凡兆(;号)の通称/別号]通称;長次郎、別号;加生(;初号)/阿圭(;晩年号)
 妻 → 羽紅(うこう・とめ、俳人) B 1 2 6 8
- F3954 梵丁(ほんちよう:道号・竺洲じくしゅう:法諱、号;閑拙)?-? 曹洞僧;全苗月湛門/嗣法、
 1798江戸旃檀林の選抜により牛込鳳林寺主座、「大智禅師伝」著、「禅林偈頌礎」編、
 1809「洞水和尚語録」編/21「禅偈三仄礎」34「従容録筆削」編
 凡兆(凡鳥ほんちよう・春花園)→ 忠徳(ただのり/ただあり)・酒井、藩主/歌/俳;1755-1812) F 2 6 6 2
 (野沢凡兆と混同され易い)
- 凡鳥(ほんちよう・青木) → 宗鳳(初世そうほう・青木あおき、茶人) I 2 5 8 8
 本町庵(ほんちようあん) → 三馬(さんば・式亭、戯作者) 2 0 5 5
 本町庵(ほんちようあん) → 小三馬(こさんば・式亭、三馬男/合巻) C 1 9 7 2
 翻蝶庵(ほんちようあん) → 国丸(くにまる・歌川、浮世絵師) 1 7 9 3
 本蝶山人(ほんちようさんじん)→ 寿助(寿輔じゆすけ・宝田、歌舞伎作者) I 2 1 7 6
 「本朝四家絶句」(ほんちようしかぜっく);五卷;編者不詳、次の絶句を所収、
 藤原惺窩の惺窩絶句・石川丈山の北山絶句・僧元政の草山絶句・僧玄光の独庵絶句
- 梵通(ほんつう;法諱) → 大顛(だいてん;道号・梵千ほんせん;法諱、臨濟僧) K 2 6 7 2
- F3955 本貞(ほんてい;通称・関口せきぐち、名;備明/字;子道)?-? 江末期常陸行方郡玉造村の医:塩田嘉祐門、
 医業、「医門闡観」「傷寒論大流」著
- 梵哲(ほんてつ;法諱) → 唯浄(ゆいじよう;法諱、真宗本願寺派僧) 4 6 3 7
 本典(ほんてん・真川) → 本雄(もとお・真川まがわ/藤原、国学/神道) L 4 4 2 5
 凡島(ほんとう;道号) → 善来(ぜんらい;法諱・儀山;道号、臨濟僧) N 2 4 2 3
 梵燈(ほんとう・朝山) → 師綱(もろつな・朝山、幕臣/連歌) 4 4 3 4
 梵燈庵主(ほんとうあんしゅ) → 師綱(もろつな・朝山、連歌) 4 4 3 4
 本道坊(ほんどうぼう;号) → 尊空(そんくう;法諱、上人、浄土僧/歌) E 2 5 7 4
 本虎(ほんとら・金鴈堂) → 金鴈堂本虎(きんがんどうほんとら、中島、落語/俄) H 1 6 7 8
- F3956 梵阿(ほんあ) ? - ? 室町期永享-文安1429-48頃の時宗四条道場金蓮寺の僧、
 歌;1387(至徳4)浄阿5代奉納[隠岐高田明神百首和歌]2首出詠、
 連歌師、1423伏見宮貞成親王「何人百韻」合点入、「初心求詠集」入、
 [露ふかき小野の浅茅の下草も同じ緑にしげる比かな](高田明神歌;30野夏草)
- 3974 本如(ほんによ/ほんじよ;法諱)? - ? 鎌倉末期僧(法師)/歌人:続千載1763/風雅918、
 [夕まぐれまよふ山路は越え過ぎて宿とふりにいづる月影](風雅集;九旅918)

- 本如(ほんによ;号) → 湛睿(たんえい;法諱・本如、鎌倉末期真言律/華嚴教学) H 2 6 9 2
 本如(ほんによ;号) → 光撰(こうせつ;法諱・本如:号、西本願寺19世) K 1 9 1 4
 本如実性禅師(ほんによじっしょうぜんじ) → 景川(けいせん;道号・宗隆、臨濟僧) G 1 8 2 3
 本然(ほんねん;字) → 眞源(しんげん;法諱・本然、真言僧) O 2 2 1 9
 煩惱斎(ぼんのうさい) → 東里(とうり・煩惱斎、俳人) I 3 1 1 8
- 3975 凡夫(ほんぶ・俄庵/仏庵) ? - ? 江中期加賀小松の俳人、加賀来遊の樗良ちよらと交流、
 1780「雪の声」編(;樗良7書の1)、1776樗良「月の夜」入;[眼にふれて雲さへ悲し秋の暮]
 凡夫庵(ほんぶあん) → 可因(かいはん・大葦原/司馬、俳人) J 1 5 1 7
 汶巴(ほんば) → 汶巴(ぶんば、俳人)
 本毘(ほんび・寺島) → 白也(はくや・寺島てらしま、代官/俳人) D 3 6 9 8
 本房(ほんぼう/もとふさ・岡田) → 鶴鳴(かくめい・岡田おかだ、神職/儒者) H 1 5 3 9
- F3957 梵芳(ほんぼう;法諱・玉腕ぎよくえん/玉桂;道号、号;知足軒) 1348-? 1420存(73歳) 臨濟僧:
 春屋妙葩/寂室元光門、詩文;義堂周信門、建仁寺78世、1413南禅寺81世、投老庵建設;退隱、
 1420將軍足利義持と衝突/五山を出て林下(五山に属さない寺院)に隠棲、「古尊宿讃語」著
 本法院(ほんぼういん) → 日俊(にっしゅん;法諱・松園、日蓮僧) E 3 3 1 4
 本法院(ほんぼういん) → 義讓(ぎじょう;法諱・了淳、真宗僧) K 1 6 9 5
- F3958 鉄炮堂主人(ほんぽんどうしゅじん) ?- ? 滑稽本;1804「楽屋方言」
 西村定雅の偽号? → 定雅(ていが・西村、俳/狂歌/戯作) 3 0 4 1
 本間主馬(ほんましゅめ) → 丹野(たんや・本間、能太夫/俳人) 2 6 9 8
 本町庵(ほんまちあん) → 三馬(さんば・式亭しまてい、戯作者) 2 0 5 5
- F3959 本明(ほんみょう;法諱・慧実;道号、俗姓入山) ?-1758 下野足利曹洞僧;北源門/万山汰掇の法嗣、
 上野妙英寺住持/1728足利長林寺16世、「大祥復古記」著
 本妙(ほんみょう;字、本妙律師) → 日臨(にちりん;法諱/日旨、日蓮僧) D 3 3 6 9
 本妙院(ほんみょういん) → 日幸(にちこう;法諱・超秀、日蓮僧) B 3 3 9 0
 本妙院(ほんみょういん) → 日珠(にっしゅ;法諱・了本、日蓮僧) D 3 3 9 4
 本妙院(ほんみょういん) → 日進(にっしん;法諱・周遍院、日蓮僧) E 3 3 4 9
 本妙院(ほんみょういん) → 日相(にっそう;法諱・本妙院、日蓮僧) E 3 3 9 4
 本妙院(ほんみょういん) → 普寛(ふかん・本明院ほんみょういん、修験僧) B 3 8 3 7
 本妙広鑑禅師(ほんみょうこうかんぜんじ) → 古月(こげつ;道号・禅材;法諱、臨濟僧) M 1 9 3 4
 本牧(ほんもく・寫) → 晚翠(ばんすい・寫しま、文筆家) I 3 6 1 8
- F3960 本也(ほんや) ? - ? 大阪俳人;1672梅盛「山水」入
 本屋幸七(ほんやこうしち) → 鳥吟(ちようぎん、俳人) H 2 8 8 9
 本屋治助(ほんやじすけ) → 治助(じすけ・本屋、書肆) U 2 1 0 0
 本屋庄太郎(ほんやしやうたろう) → 庄太郎(しやうたろう・毛利田/森田、書肆) U 2 2 1 1
 本屋藤吉(ほんやとうきち) → 藤吉(とうきち・本屋ほんや、道具商/茶器鑑定) C 3 1 6 1
 本雄(ほんゆう・真川) → 本雄(もとお・真川まがわ/藤原、国学/神道) L 4 4 2 5
 奔雄(ほんゆう・梅津) → 忠宴(ただよし・梅津うめづ、家老/兵法家) R 2 6 2 6
 本有院(ほんゆういん) → 日相(にっそう;法諱・光円、日蓮僧) E 3 3 8 8
 本有円成国師(ほんゆうえんせいこくし) → 慧玄(えげん;法諱・関山、臨濟僧) 1 3 6 1
- F3961 梵揚(ほんよう) ? - ? 連歌;1472紹永「美濃千句」連衆
 本用院(ほんよういん) → 日就(にちじゅ;法諱・栄遠院、日蓮僧) C 3 3 1 2
 本立(ほんりつ・山崎) → 半蔵(はんぞう・山崎やまざき、藩士/日記) I 3 6 8 2
 本立(ほんりつ・ほんりゅう・難波) → 立愿(りゅうげん・難波なんば/篠野、医者) D 4 9 6 7
 本立(ほんりつ・加藤) → 肩吾(けんご・加藤かとう、藩医者/魯語) I 1 8 5 9
 本立(ほんりつ・児島) → 八尋(やひろ・児島こじま、国学者) F 4 5 9 0
 本立軒(ほんりつけん) → 成資(しげすけ・香西こうさい、兵学/軍記) C 2 1 2 6
 本立院(ほんりゅういん;諡号) → 道粹(どうすい;法諱、真宗本願寺派僧) F 3 1 8 3
- G3909 本隆尼(ほんりゅうに、佐竹きたけ) ?- ? 江後期;尼僧、歌人、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [宵のまに聞きつる鹿の声なれどなどふけ行けばさびしかるらん]、

(大江戸倭歌;秋771/深夜鹿)、

[有りし世の秋をやともにしのぶらん草木も露にしをれはつるは](同;雑1887)

本柳坊(ほんりゅうぼう;号) → 宗比(そうひ・本柳坊、俳人) I 2 5 7 6
本了(ほんりょう;法諱) → 光沢(こうたく;法諱・広如、西本願寺20世) K 1 9 5 0
本了(ほんりょう・もとよし・寺村) → 泰壽(やすひさ・寺村てらむら、医者/歌人) G 4 5 2 9
本亮院(ほんりょういん) → 日進(にっしん;法諱・玄海、日蓮僧) E 3 3 5 4
梵林(ぼんりん・菅原) → 元道(もとみち・菅原すがわら、修験/絵師) K 4 4 1 5
本輪院(ほんりんいん) → 恒通(つねみち・稲葉いなば、藩主/記録) D 2 9 8 6
本林亭(ほんりんてい) → 定伝(さだただ・大塚おおつか、藩士/詩歌) O 2 0 1 4
梵玲(ぼんれい;初法諱) → 大蘇(たいそ;道号・智玲;法諱、臨濟僧) K 2 6 5 2

F3962 本蓮(ほんれん;初法諱/法師)?- ? 南北期僧/地下連歌:花下連歌?、菟玖波集1句入、

[いとはれし風あへ花になりにけり](菟玖波集;発句2069)

本蓮社眞誉玄阿(ほんれんしゃしんよげんあ) → 懐音(えおん、浄土僧) D 1 3 4 8
梵蓮社潮誉(ぼんれんしゃちようよ;法名) → 賢洲(けんしゅう;法諱、浄土僧) J 1 8 5 1
本蓮社白誉直至(ほんれんしゃはくよじきし) → 秀道(しゅうどう;法諱、浄土僧) Y 2 1 0 9